

# 史跡出雲国府跡

- 10 -

2019年3月

島根県教育委員会



# 史跡出雲国府跡

- 10 -

2019年3月

島根県教育委員会

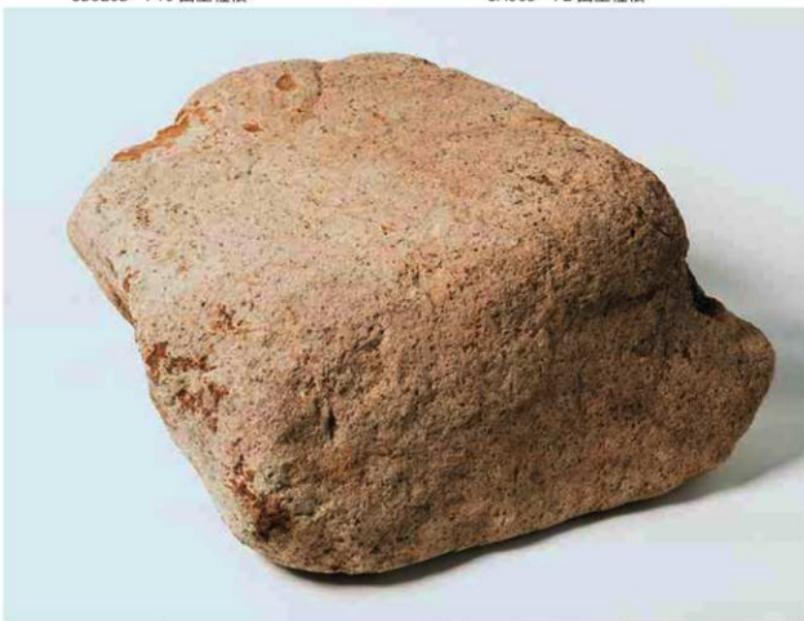
題字：史跡出雲國府発掘調査委員会委員 勝部 昭



SB020B P10 出土柱根



SA003 P2 出土柱根



SB020C P1 出土礎石



T67、T68 と史跡公園（南から撮影）



T67 第2遺構面検出状況（南から撮影）



T66 と史跡公園（南から撮影）



T66 第3構造面検出状況（南から撮影）



T68 1号池状施設（南東から撮影）



T63 1号石組遺構（北から撮影）



緑釉陶器



大型高台付壺と皿

卷頭図版 6



墨書土器

## 序

出雲国府跡は、昭和 43～45（1968～1970）年の松江市教育委員会、奈良国立文化財研究所及び島根県教育委員会による発掘調査で所在地が確定されました。昭和 46(1971) 年には約 42 万 m<sup>2</sup> におよぶ広大な範囲が国史跡に指定されています。この一部が史跡公園として整備され、今日まで市民の憩いの場として親しまれています。また、出雲国府跡のある意宇平野には条里制を残した美しい水田地帯が広がっています。古代・中世から現代まで、ひとびとの営みの中で残されてきた全国的にも貴重な景観といえます。

島根県教育委員会では、この史跡出雲国府跡を保存・活用するため、平成 11（1999）年度から継続的に発掘調査を実施しています。

平成 27（2015）年度からは、出雲国府の中心部である国庁周辺の発掘調査を実施しています。本書はこのうち平成 27～29（2015～2017）年度に実施した発掘調査の成果を取りまとめたものです。

調査では、国庁正殿が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認し、政庁の変遷を検討するうえで貴重な成果が得られました。また、国庁の北側では池状の施設を確認するなど、新たな発見もありました。こうした成果を積み上げていくことで、国庁の変遷が徐々に明らかになっていくものと考えています。

本書が、今後の出雲国府跡に関する研究はもとより、当地域の歴史像を解明する上で一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたって多大な御支援と御協力を賜りました地元の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 31（2019）年 3 月

島根県教育委員会  
教育長 新田英夫



## 例言

1. 本書は島根県教育委員会が2015(平成27)年度から2017(平成29)年度に国庫補助事業として実施した風土記の丘地内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

史跡出雲国府跡 松江市大草町501番地外  
2015(平成27)年度 第56~58トレンチ、第61~65トレンチ  
2016(平成28)年度 第66トレンチ  
2017(平成29)年度 第67・68トレンチ

※2015(平成27)年度に発掘調査を実施した第59トレンチ、第60トレンチの調査成果については、2018(平成30)年度に両トレンチの再発掘調査及び周辺の発掘調査を第69トレンチとして実施していることから、本報告書には掲載せず、第69トレンチの発掘調査報告書に掲載する。
3. 採図中のX・Y座標は平面直角座標第III系(世界測地系)により、採図中の北は座標北を示す。レベルは海拔高を示す。
4. 本報告書に掲載した第2図と第4図は国土地理院発行の1:25,000(松江)を使用した。第5図は島根県教育委員会で作製した風土記の丘地内の1:1,000地形図をもとに作製した。
5. 自然科学分析は文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、その成果は第4章に掲載した。
6. 本報告書に掲載した写真は、遺構は是田敦が撮影し、遺物は廣江耕史が撮影した。遺構・遺物の実測図の作成は、調査員・調査補助員が行い、遺構・遺物実測図の処理は整理作業員が行った。
7. 本報告書の執筆は、第1~3章、第5章の瓦以外を是田が行い、第5章の瓦については間野大丞が行い、第4章は渡辺正巳(文化財調査コンサルタント株式会社)が行った。編集は是田が行った。
8. 本書の編集にあたってはDTP方式を採用し、Adobe社のIllustrator CS6、Photoshop CS6を用いてトレース・画像処理を行い、InDesign CC2017で編集を行った。
9. 訂は各節ごとに連番を振り節末にまとめて示した。参考文献は各章末にまとめて示した。写真、挿図、表の番号は全体の通し番号により表示した。
10. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(島根県松江市打出町33番地)で保管している。

## 凡例

1. 遺構名は、1968~1972(昭和43~45)年度の調査で検出された遺構は下記の略号を付した通し番号とし、1999(平成11)年度以降の調査で検出された遺構は略号を使用せず新たな通し番号とした。

SA: 柵列跡 SB: 建物跡 SD: 溝跡
2. 本書で用いた土器の分類及び年代観は『史跡出雲国府跡9-総括編-』(島根県教育委員会2013)の編年案に従った。また、この編年案に記載されていない遺物は下記の論文・報告書を参考とした。

(土師器) 松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相・大東式の再検討」『島根考古学会誌』第8集 島根考古学会  
(須恵器) 大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集 島根考古学会  
大谷晃二 2001「上石堂平古墳と出雲西部の横穴式石室」『上石堂平古墳群』平田市教育委員会  
(瓦) 島根県教育委員会 2009『史跡出雲国府跡6』  
(陶磁器) 太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV』
3. 本報告書に記載する土層と土器の色調は、「新版 標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に従って表記した
4. 遺物実測図で底部回転系切り調整の遺物には採図番号の横に○印を付した。

## 調査組織

### 史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会

金田章裕（京都府立京都学・歴彩館館長）、井上寛司（島根大学名誉教授）、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、  
勝部昭（元島根県文化財保護審議会委員）、佐藤信（人間文化研究機構理事）、箱崎和久（奈良文化財研究所遺  
構研究室室長）、花谷浩（出雲弥生の森博物館館長）

### 指導助言

2015（平成27）年度 森先一貴（文化庁文化財部記念物課 文部科学技官）  
2016（平成28）年度 川畠純（文化庁文化財部記念物課 文部科学技官）  
2017（平成29）年度 浅野啓介（文化庁文化財部記念物課 文化財調査官）  
2018（平成30）年度 藤井幸司（文化庁文化財部文化財第二課 文化財調査官）

### 事務局

2015（平成27）年度 野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、深田浩（同主幹）、  
守岡利栄（同企画員）、廣江耕史（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池澤俊一（同管理課長）、大庭俊次（調  
査第三課長）  
2016（平成28）年度 野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、深田浩（同主幹）、  
守岡利栄（同企画員）、萩雅人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池澤俊一（同管理課長）、林健亮（同  
調査第三課長）  
2017（平成29）年度 野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、勝部智明（同  
主幹）、人見麻生（同主任主事）、萩雅人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池澤俊一（同管理課長）、  
間野大丞（同調査第三課長）  
2018（平成30）年度 丹羽野裕（教育庁参事）、萩雅人（同文化財課長）、池澤俊一（同調整監）、勝部智明（同  
主幹）、渡部（人見）麻生（同主任主事）、椿真治（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、守岡正司（同管  
理課長）、間野大丞（同調査第三課長）

### 調査員

2015（平成27）年度 是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩本真実（同調査補助員）  
2016（平成28）年度 是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、伊藤徳広（同企画員）、  
岩本真実（同調査補助員）、柿田愛子（同調査補助員）、小川一樹（同調査補助員）  
2017（平成29）年度 是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩本真実（同調査補助員）、  
樋野千晴（同調査補助員）  
2018（平成30）年度  
【報告書作成】是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩橋康子（同調査補助員）  
【発掘調査】吉松優希（教育庁埋蔵文化財調査センター主任主事）樋野千晴（同調査補助員）

### 調査指導、協力機関、協力者

文化庁、奈良文化財研究所、松江市教育委員会、松江市大庭公民館、松江市竹矢公民館、六所神社、小野健吉  
(和歌山大学観光学部教授)

# 本文目次

## 第1章 位置と環境

第1節 出雲国府跡の位置	1
第2節 地理的環境	2
第3節 出雲国府跡周辺の歴史的環境	3

## 第2章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯	7
第2節 調査の経過	8

## 第3章 2015～2017（平成27～29）年度の発掘調査

第1節 調査の方法	14
第2節 基本層序	17
第3節 調査区の概要	18
第4節 第3遺構面に伴う遺構と遺物	35
第5節 第2遺構面に伴う遺構と遺物	37
第6節 第1遺構面に伴う遺構と遺物	58

## 第4章 自然科学分析

第1節 出雲国府跡T68調査で検出された池状施設に関する自然科学分析	65
第2節 出雲国府跡発掘調査に伴うAMS年代測定及び樹種同定	73

## 第5章 総括

第1節 出土遺物	83
第2節 遺構の変遷	105
第3節 今後の課題	112

# 挿図目次

第1図	史跡出雲國府跡の位置	1	第61図	1号池状施設（T58北区）出土遺物実測図	53
第2図	史跡出雲國府跡の立地	2	第62図	黒色土（T68）出土遺物実測図	54
第3図	意宇平野周辺の地質図	3	第63図	黒色土（T58北区）出土遺物実測図	55
第4図	史跡出雲國府跡周辺の遺跡位置図	4	第64図	8号桶列実測図	56
第5図	史跡出雲國府跡の史跡範囲と調査区配置図	7	第65図	67号土坑・68号土坑・95号溝実測図	56
第6図	2015～2017年度の調査区配置図	15	第66図	67号土坑出土遺物実測図	57
第7図	基本層序模式図	17	第67図	68号土坑出土遺物実測図	57
第8図	T56実測図	18	第68図	95号溝出土遺物実測図	57
第9図	T56出土遺物実測図	19	第69図	T66・T67第1遺構面検出遺構平面図	58
第10図	T57実測図	20	第70図	32号建物跡実測図	58
第11図	T57出土遺物実測図	21	第71図	33号建物跡実測図	59
第12図	T58実測図	22	第72図	34号建物跡実測図	59
第13図	T58南北区出土遺物実測図	23	第73図	84号溝・85号溝・88号溝実測図	60
第14図	T58北区出土遺物実測図	23	第74図	84号溝出土遺物実測図	60
第15図	T61実測図	24	第75図	88号溝出土遺物実測図	61
第16図	T61出土遺物実測図	24	第76図	89号溝実測図	61
第17図	T62実測図	25	第77図	89号溝出土遺物実測図	62
第18図	T63・T64・T65配置図	26	第78図	15号井戸出土遺物実測図	63
第19図	T63実測図	27	第79図	16号井戸出土遺物実測図	63
第20図	T63出土遺物実測図	27	第80図	9号桶列実測図	63
第21図	T66・67・68実測図	29	第81図	10号桶列実測図	63
第22図	T66・T67土層図	30	第82図	11号桶列実測図	64
第23図	T58・T68土層図	31	第83図	試料採取地点	65
第24図	T66土層図	32	第84図	試料採取位置	65
第25図	T66出土遺物実測図	33	第85図	軟X線写真観察結果	67
第26図	T67出土遺物実測図	34	第86図	花粉ダイアグラム	68.69
第27図	T68出土遺物実測図	34	第87図	珪藻ダイアグラム	70.71
第28図	7号豎穴建物跡・8号豎穴建物跡実測図	35	第88図	珪藻総合ダイアグラム	70
第29図	7号豎穴建物跡・8号豎穴建物跡出土遺物実測図	35	第89図	暦年較正図	71
第30図	SD054実測図	36	第90図	試料採取地点	73
第31図	SD054出土遺物実測図	36	第91図	試料採取位置	74
第32図	91号溝実測図	36	第92図	暦年較正結果(1)	76
第33図	91号溝出土遺物実測図	36	第93図	暦年較正結果(2)	77
第34図	SB019・26号建物跡実測図	37	第94図	推定期と較正年代	78
第35図	SB019実測図	38	第95図	較正年代と遺構	79
第36図	SB019出土遺物実測図	38	第96図	軒丸瓦実測図①	87
第37図	29号建物跡実測図	39	第97図	軒丸瓦実測図③	88
第38図	29号建物跡出土遺物実測図	39	第98図	平瓦実測図①	89
第39図	26号建物跡実測図	40	第99図	平瓦実測図②	90
第40図	26号建物跡出土遺物実測図	40	第100図	平瓦実測図③	91
第41図	T67中央区 第2遺構面検出遺構実測図	41	第101図	平瓦実測図④	92
第42図	S8020A実測図	42	第102図	平瓦実測図⑤	93
第43図	S8020B実測図	43	第103図	丸瓦実測図①	94
第44図	S8020出土遺物実測図	43	第104図	丸瓦実測図②	95
第45図	S8020C実測図	44	第105図	丸瓦実測図③	96
第46図	礎石の出土状況と実測図	44	第106図	道具瓦実測図	97
第47図	27号建物跡・28号建物跡実測図	45	第107図	鬼瓦実測図	98
第48図	27号建物跡出土遺物実測図	46	第108図	大型高台付坏実測図	99
第49図	30号建物跡実測図	46	第109図	墨書き土器実測図	100
第50図	31号建物跡実測図	46	第110図	綠釉陶器、灰釉陶器実測図	104
第51図	79号溝出土遺物実測図	47	第111図	遺構変遷図〔古墳時代〕	106
第52図	80号溝実測図	47	第112図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅰ期〕	107
第53図	80号溝出土遺物実測図	48	第113図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅱ-1期〕	107
第54図	82号溝・83号溝実測図	49	第114図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅱ-2期〕	108
第55図	82号溝出土遺物実測図	49	第115図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅲ-1期〕	108
第56図	83号溝出土遺物実測図	49	第116図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅲ-2期〕	109
第57図	SD010・SA003、1号池状施設実測図	50	第117図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅳ期〕	109
第58図	SD010出土遺物実測図	51	第118図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅴ期〕	110
第59図	SA003出土柱根実測図	51	第119図	遺構変遷図〔出雲國府Ⅵ期〕	110
第60図	1号池状施設（T68）出土遺物実測図	52	第120図	遺構変遷図〔13世紀以降〕	111

# 表 目 次

第1表	史跡出土雲国府跡発掘調査年表	13	第12表	平瓦のタタキ分類表	98
第2表	微化石概査結果	67	第13表	出土墨書き器一覧	100
第3表	花粉化石組成表	68	第14表	出土硬一覧	101
第4表	珪藻化石組成表	69	第15表	出土漆付土器一覧	103
第5表	AMS年代測定結果	71	第16表	出土綠釉陶器・灰釉陶器一覧	104
第6表	試料一覧(分析結果)	75	第17表	出雲國府跡変遷一覧表	105
第7表	出土瓦類集計表	85	第18表	土層観察表	113
第8表	六所脇地区・宮の後地区的丸瓦・平瓦の比率	86	第19表	出雲國府跡出土土器観察表	121
第9表	地区別の瓦変遷	86	第20表	出雲國府跡出土石製品観察表	129
第10表	六所脇地区的瓦変遷	86	第21表	出雲國府跡出土金属器類観察表	129
第11表	瓦の区分指標	98	第22表	出雲國府跡出土瓦観察表	130

# 写 真 図 版 目 次

卷頭図版 1	S80208 P10 出土柱根 SA003 P2 出土柱根 SB020C P1 出土礎石		図版 16	T66 西区東壁北側
卷頭図版 2	T67、T68 と史跡公園 T67 第2遺構面検出状況		図版 17	T66 西区北壁 T66 西区東壁南側 T66 西区南壁 T66 北区西壁
卷頭図版 3	T66 と史跡公園 T66 第3遺構面検出状況		図版 18	T66 北区北壁 T66 北区東壁 SB019・26号建物跡 P7・P8
卷頭図版 4	T68 1号池状施設 T63 1号石組遺構		図版 19	SB019・26号建物跡 P8
卷頭図版 5	綠釉陶器 大型高台付坏と皿		図版 20	SB019・26号建物跡 P7 26号建物跡 P1 27号建物跡 P7
卷頭図版 6	墨書き土器			67号土坑セクションベルト西壁 68号土坑セクションベルト北壁
図版 1	T56 段下け状況 T56 南壁		図版 21	T67 中央区第1遺構面完掘状況
図版 2	T57 段下け状況 T57 東側段下け状況		図版 22	T67 中央区第1遺構面完掘状況 T67 中央区第2遺構面検出状況 T67 北区第2遺構面検出状況
図版 3	T57 中央拡張部 T57 西側拡張部 T57 北壁		図版 23	T67 中央区西壁 T67 中央区北壁 T67 南西区北壁西側 T67 南西区北壁東側
図版 4	T57 東側北壁 T57 東側東壁 T57 東側南壁		図版 24	T66 西区西壁南側 T66 西区西壁北側 T67 北区西壁 T67 北区北壁
図版 5	T58 南区完掘状況 T58 南区西壁		図版 25	SB020 P1 検出状況 SB020 P2 検出状況 SB020 P3 検出状況
図版 6	礫層検出状況 T58 北区黒色土検出状況 T58 北区黒色土除去状況 T58 北区完掘状況		図版 26	SB020 P1 墓石検出状況 SB020 P1 セクション
図版 7	T58 北区 82号溝、83号溝削削状況 T58 北区 西壁南側		図版 27	SB020 P8 検出状況 SB020 P9 検出状況
図版 8	T61 2号護岸施設検出状況 T61 東壁		図版 28	SB020 P10 検出状況 SB020 P10 1/4截状況
図版 9	T62 完掘状況 T62 西壁		図版 29	SB020 P10 セクション
図版 10	T63 1号石組遺構		図版 30	SB020 P10 柱根検出状況 95号溝 遺物出土状況
図版 11	T63 1号石組遺構 T63 東壁		図版 31	T68 磐層検出状況 T68 1号池状施設検出状況 T68 黒色土検出状況
図版 12	T64 調査状況 T65 調査状況		図版 32	T68 1号池状施設検出状況 T68SD010 完掘状況
図版 13	T66 東区第1遺構面完掘状況		図版 33	T68 西壁南側 T68 西壁土手状盛土付近 T68 西壁土手状盛土 T68 東壁土手状盛土付近
図版 14	T66 東区第3遺構面完構検出状況			
図版 15	T66 北区第2遺構面検出状況 T66 北区第3遺構面検出状況			
図版 16	T66 東区北壁 T66 東区東壁 T66 東区南壁			

図版 34 T68 西壁 SD010  
T68 西側拡張部第 2 碓層検出状況  
SA003 P2 柱根検出状況

図版 35～67 出土遺物（土器、土製品、石製品）  
図版 68～80 出土遺物（瓦類）

## 既 報 告 一 覧

- 『出雲国庁跡発掘調査外報』松江市教育委員会 1971  
『史跡出雲国府跡 - 1-』島根県教育委員会 2003  
『史跡出雲国府跡 - 2-』島根県教育委員会 2004  
『史跡出雲国府跡 - 3-』島根県教育委員会 2005  
『史跡出雲国府跡 - 4-』島根県教育委員会 2006  
『史跡出雲国府跡 - 5-』島根県教育委員会 2008  
『史跡出雲国府跡 - 6-』島根県教育委員会 2009  
『史跡出雲国府跡 - 7-』島根県教育委員会 2011  
『史跡出雲国府跡 - 8-』島根県教育委員会 2013  
『史跡出雲国府跡 - 9 総括編 -』島根県教育委員会 2013

# 第1章 位置と環境

## 第1節 出雲国府跡の位置

史跡出雲国府跡は島根県松江市大草町・山代町地内に所在する。当地は、律令時代には出雲国東端の意宇郡に所属しており、その中でも大草郷及び山代郷に位置している（第1図）。『出雲國風土記』によれば、出雲国府は山陰道（正西道）と枉北道の交点である十字街より南へ下った位置にあったとされ、近くには意宇郡家も併設されていたようだ。現在の出雲国府跡は、松江市南東部にある意宇平野南端の微高地に立地し（第2図）、史跡公園として約10,480m<sup>2</sup>が整備されている。公園の南側には出雲国総社である六所神社が鎮座し、さらにその南には一級河川意宇川が流れる。



第1図 史跡出雲国府跡の位置 (S = 1/500,000)

北を望むと、そこには精緻な条里を残す水田地帯が広がっており、その先には『出雲国風土記』に「神名樋野」と記載された標高 171m の茶臼山がそびえる。茶臼山を越えると宍道湖と中海を繋ぐ大橋川が東流し、矢田の渡しを介して北へ進む。東に目を向けると条里の向こうに中海が見え、真冬の晴れた日には国引き神話で有名な大山の雄姿を仰ぐことができる。

出雲國府跡の周辺は、平野と台地を中心構成される地形的環境や、宍道湖・中海の結節点であるという立地環境が相まって、古墳時代より出雲の中核地として重要な位置を占めてきた。南側の丘陵には東百塚山古墳群や安部谷横穴墓群、最古の石棺式石室を有する古天神古墳などが分布し、平野北西の乃木段丘上には、山代二子塚古墳や大庭鶴塚古墳などの大型の後期古墳が築かれている。また、北東約 800m には出雲國分寺跡が史跡公園として整備されている他、さらに東へ 150m 行くと出雲國分寺瓦窯跡が保存されている。茶臼山の周囲には、山代郷北新造院跡（来美庵寺）や山代郷南新造院跡（四王寺跡）に比定される寺院跡や、多量の炭化米を出土した山代郷正倉跡が知られている。このうち、山代郷南新造院跡（四王寺跡）の西側 100m には、同遺跡に瓦を供給したとされる山代郷南新造院瓦窯跡（小無田 II 遺跡）が一部保存されている。

## 第2節 地理的環境

出雲國府跡の立地する意宇平野は、意宇川の下流に発達する小規模な冲積平野である（第3図）。平野の西側半分は意宇川扇状地の緩斜面で、中海岸には沿岸砂州として形成された砂堆が微高地を形成している。扇状地と砂堆の間には平坦な低地面（三角洲面）が広がり、その西側には標高 25m 前後の乃木段丘が南北に延びている。平野面には、旧河道にともなう小崖や自然堤防列が認められ、自然堤防の微高地に中島・春日・今宮などの集落が形成されている。出雲國府跡も中島の微高地上に立地しており、その南側には意宇川が東流している。意宇川は松江市八雲町熊野の山間部に源を発する一級河川で、平野の南端を東へ向けて流れて中海へと注いでいる。



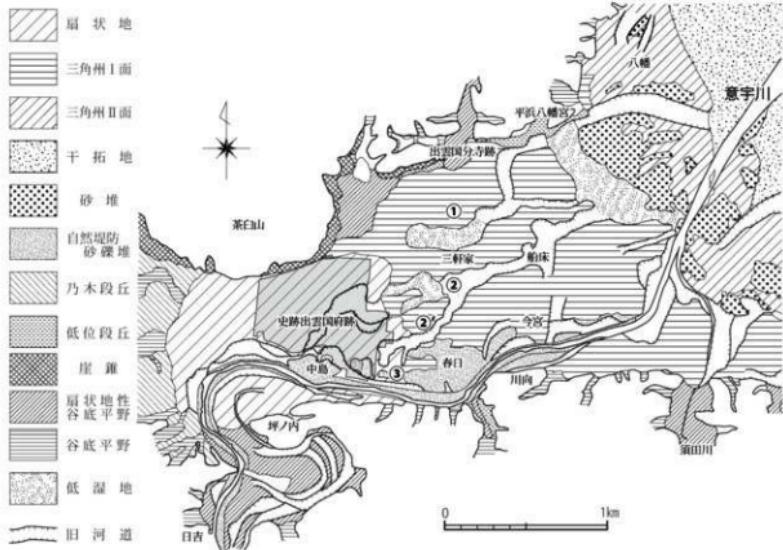
第2図 史跡出雲國府跡の立地 ( $S = 1/25,000$ )

意宇平野には3つの旧河道が認められる。第3図①の旧河道は空中写真より判読され、三角州面状には認められるものの西側の扇状地部への連続は判然としない。水田の区割りにも影響しておらず、北側の丘陵地から流れ出る小河川の流路と推測される。ただし、ずっと古い時期には意宇川の旧河道であった可能性はある。②の旧河道は、攻撃面にあたる小崖が現地形に残っており、水田の区画に大きく影響を与えている。中島付近から北東へ伸びる様子が明瞭で、比較的新しい時期に意宇川がこの河道を流れていたことが窺える。③の旧河道は現河道にほぼ沿っている。③を河川改修によって直線的流路にしたものが現河道とみられ、よって③が最も新しい時期の意宇川旧河道と推測される。この河道は、国府と南側の丘陵地との狭い部分を流れ、国府域の南西端を削っている。

### 第3節 出雲国府跡周辺の歴史的環境

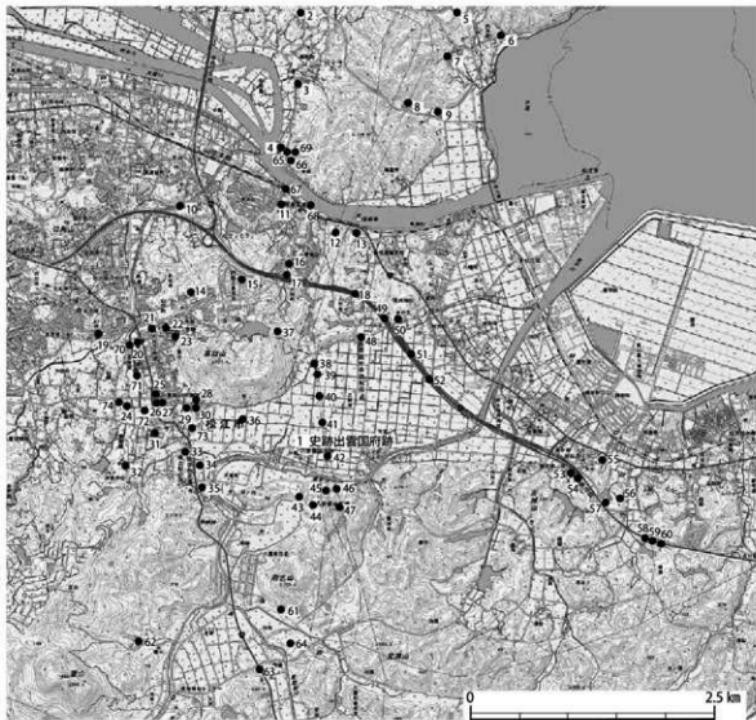
#### 1. 古代以前の遺跡

出雲国府跡周辺の歴史は、旧石器時代にまで遡る(第4図)。現在までに、意宇平野内で旧石器時代の良好な遺跡は知られておらず、下黒田遺跡(島根県教育委員会1989a)で玉髓製剥片のブロックが検出されているほか、山代郷北新造院跡(來美廃寺)(島根県教育委員会2004)の造成土中より玉髓製ナイフ形石器が出土しているにすぎない。縄文時代に入ても遺跡は少なく、土器や石器がわずかに確認されているのみである。才塚遺跡(島根県教育委員会1968)では縄文時代後期中葉の土器と石斧類が、法華寺前遺跡(島根県教育委員会1968)では前期と思われる土器が採取されている。弥生時代になると、意宇平野の遺跡数は急増する。上小紋遺跡(島根県教育委員会1987)では建築材と考えられる木製品が多数出土しており、夫敷遺跡(島根県教育委員会



第3図 意宇平野周辺の地質図 ( $S = 1/30,000$  成瀬 1975 に一部加筆・変更)

1989b) では水田跡が検出されている。古墳時代の遺跡は、大橋川沿いから大庭町にかけて多く分布している。特に茶白山西麓には山代二子塚古墳(島根県教育委員会2001)や山代方墳(島根県教育委員会1993a)、永久宅後古墳(出雲考古学研究会編1987)といった出雲を代表する後期古墳が立地している。出雲國府跡の周辺には、東百塚山古墳群(島根県教育委員会1975)、古天神古墳(出雲考古学研究会編1987)、大草岩船古墳(島根県教育委員会1975)、安部谷横穴墓群(島根県教育委員会1968)などが見られる。集落としては、夫敷遺跡(島根県教育委員会1989)が知られている。夫敷遺跡からは朝鮮系の土器が出土しており、渡来人との関係が指摘されている。出雲國府跡では前期末葉から集落が形成される。特に大倉原地区では渡来系遺物が大量に出土し注目される。



1. 史跡出雲國府跡
2. 琴原道跡
3. 新約岩屋古墳
4. 豊見塚古墳
5. 池ノ奥跡
6. 山津宮跡
7. 寺尾宮跡
8. 岩沙宮跡
9. バイタケ宮跡
10. 石台道跡
11. 石屏古墳
12. 手闇古墳
13. 竹矢舟古墳
14. 山代郡北新道院跡
15. 来美墳墓
16. 間内越塙墓群
17. 平所道跡
18. ナリ門道跡
19. 向山1号墳
20. 大船跡
21. 山代二子塚古墳
22. 山代方墳
23. 永久宅後古墳
24. 東御寺古墳
25. 山代郡正跡
26. 下黒田道跡
27. 黒田道跡
28. 山代郡南新道院跡
29. 山代郡南新道院瓦塚跡
30. 小無田II道跡
31. 寺の前道跡
32. 黒田耕跡
33. 出雲国造龍跡
34. 岩屋後古墳
35. 頭廻山古墳
36. 大字道跡
37. 道田古墳群
38. 上小牧道跡
39. 向小牧道跡
40. 四配田道跡
41. 神田道跡
42. 才塔坂大屋敷道跡
43. 西百塚山古墳群
44. 東百塚山古墳群
45. 古天神古墳
46. 天通谷道跡
47. 安部谷横穴墓群
48. 出雲国分寺跡
49. 中竹矢失跡
50. 出雲国分尼寺跡
51. 布田道跡
52. 夫敷道跡
53. 岸尾道跡
54. 畠田池道跡
55. 大木稚現山塙墓群
56. 寺床古墳群
57. 畠田道跡
58. 津山池古墳群
59. 津山池道跡
60. 京の前道跡
61. 南之山道跡
62. 青木道跡
63. 前田道跡
64. 増福寺古墳群
65. 魚見寺道跡
66. 朝の森谷道跡
67. 宮道下道跡
68. 渡道跡
69. 朝駒橋/谷道跡
70. 柳道跡
71. 茶臼道跡
72. 川原宮II道跡
73. 団原古跡
74. 外屋敷道跡

第4図 史跡出雲國府跡周辺の遺跡位置図 (S = 1/50,000)

## 2. 古代の遺跡

意宇平野周辺の古代の遺跡は、大きく官衙、寺院、窯跡、居館、集落、墳墓、古道に分けられる。官衙遺跡としては出雲国府跡以外には、山代郷正倉跡（島根県教育委員会 1981）、下黒田遺跡（松江市教育委員会 1984）、黒田館跡（松江市教育委員会 1988）があげられる。山代郷正倉跡では多量の炭化米とともに整然と配置された総柱建物群が、下黒田遺跡と黒田館跡では大溝と大型掘立柱建物跡がそれぞれ検出されており、両者は一体の官衙遺跡と推定されている。

寺院としては、「出雲國風土記」に日置臣目烈が建立したと記載される山代郷北新造院跡（来美庵寺）（島根県教育委員会 2002・2007）と出雲臣弟山が建立したと記載される山代郷南新造院跡（四王寺跡）（島根県教育委員会 1985・1988・1994・2011）や、出雲国分寺跡（島根県教育委員会 1975、松江市教育委員会 1995・2009・2011）、出雲国分尼寺跡（島根県教育委員会 1976）が著名である。付近には、これらの寺院に瓦を供給した窯跡も見つかっている。山代郷南新造院の瓦を製作した山代郷南新造院瓦窯跡〔小無田Ⅱ遺跡〕（松江市教育委員会 1997）では瓦窯 3 基が、出雲国分寺の瓦生産を行った出雲国分寺瓦窯跡（岡崎 1979）では瓦窯 2 基、中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）で平窯 1 基が検出されている。

居館に比定される遺跡は台地や微高地上に立地することが多い。中西遺跡（島根県古代文化センター編 2009）では、2 間 × 2 間の総柱建物や、1 辻 1m を超える大型方形柱穴で構成された廂付建物が見つかっており、出雲国造家との関連が指摘されている。これに対して一般的な集落遺跡は、丘陵裾に立地する傾向がある。中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）、才ノ峠遺跡（島根県教育委員会 1993b）、岸尾遺跡（島根県教育委員会 1997a）、島田遺跡（島根県教育委員会 1997a）、渋山池遺跡（島根県教育委員会 1997b）、原ノ前遺跡（島根県教育委員会 1997b）では、掘立柱建物跡や加工段が見つかっている。

出雲国府跡周辺の墳墓関係遺跡はあまり知られていない。わずかに意宇平野周縁で、八稜鏡を収めた火葬骨壺が検出された社日古墳群（島根県教育委員会 1998）が確認されている。古代道路跡としては、出雲国府跡堂田地区（島根県教育委員会 2008）で確認した平安時代の硬化面がある。現在の市道に平行して南北に走り、推定十字街から国庁へ至る進入路と推定されている。大坪遺跡（松江市教育委員会 2002）の発掘調査では、山陰道（正西道）の検出が期待されたものの遺構の確認には至っておらず、木簡の出土による間接的な推測に留まっている。出雲国府跡の史跡範囲内にあたる上ノ免・水垣地区及び石ヶ坪・横枕地区（島根県教育委員会 2009）では時期不明の東西溝を検出しておらず、山陰道（正西道）の可能性が想定されている。意宇平野以外では、時期不明ながら松本古墳群（島根県教育委員会 1997c）、杉沢遺跡（出雲市教育委員会 2016）、長原遺跡（出雲市教育委員会 2017）、魚見塚遺跡（松江市教育委員会道 2018）などで道路遺構を確認しており、古代山陰道や枉北道を復元する重要な手掛かりとなっている。

## 3. 中世以降の遺跡

出雲国府跡以外で中世以降の遺跡は、意宇平野を縦断する送電線鉄塔建設に伴う調査で多く発見されている。このうち意宇平野対岸の天満谷遺跡（島根県教育委員会 1987）では、谷間を造成して建てられた掘立柱建物跡を検出し、古代末から中世の土器や陶磁器が伴出している。出雲国分尼寺跡に隣接する中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）でも、白磁類を伴う集落の調査を行っている。意宇川河口に近い鶴貫遺跡（島根県教育委員会 1997d）では少量の陶磁器が出土し、付近に中世

の有力施設が存在していたことが推定されている。黒田館跡（松江市教育委員会 1984）では掘立柱建物跡、井戸、溝跡が検出され、遺物では白磁、青磁、朝鮮半島の陶器である粉青沙器が出土している。これらの遺跡の調査成果から中世の出雲府中の様子が窺える。

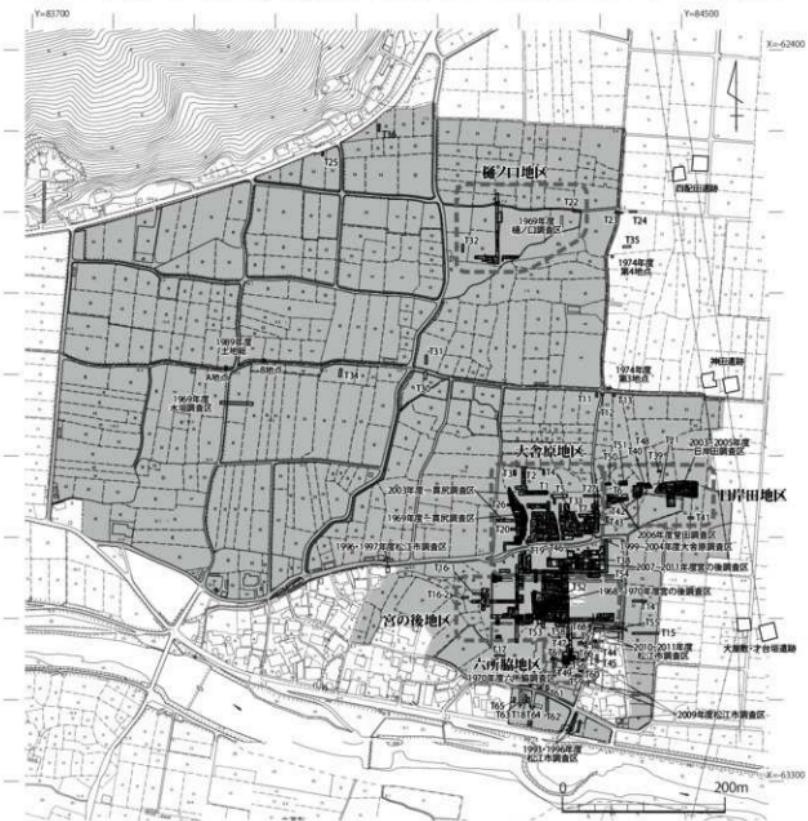
#### 【参考文献】

- 成瀬敏郎 1975『意宇平野—その形成について—』『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会  
出雲考古学研究会 1987『石棺式石室の研究』
- 出雲市教育委員会 2016『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』出雲斐川中央工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 出雲市の文化財 30
- 出雲市教育委員会 2017『出雲国古代山陰道発掘調査報告書・出雲市三井Ⅱ・杉沢・長原遺跡の調査』出雲市の文化財 33
- 岡崎雄二郎 1979『出雲国分寺瓦窯について』『八雲立つ風土記の丘』No.35、島根県八雲立つ風土記の丘  
島根県教育委員会 1968『島根県文化財調査報告書』第5集
- 島根県教育委員会 1975『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』
- 島根県教育委員会 1976『出雲國分尼寺第3次発掘調査概報』
- 島根県教育委員会 1981『史跡出雲國山代郷正倉跡』
- 島根県教育委員会 1985『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書IV—島根県松江市山代町所在・四王寺跡一』
- 島根県教育委員会 1987『北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 島根県教育委員会 1988『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書V—島根県松江市山代町所在・四王寺跡一』
- 島根県教育委員会 1989a『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書IV』
- 島根県教育委員会 1989b『国道9号線松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書VI〔夫敷遺跡〕』
- 島根県教育委員会 1992『一般国道9号松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書X〔中竹矢遺跡〕』
- 島根県教育委員会 1993a『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書IX』
- 島根県教育委員会 1993b『一般国道9号松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書X I〔才ノ峠遺跡〕』
- 島根県教育委員会 1994『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書X 山代郷南新造院跡』
- 島根県教育委員会 1997a『岸尾遺跡・島田遺跡』
- 島根県教育委員会 1997b『汽山池遺跡・原ノ前遺跡』
- 島根県教育委員会 1997c『松本古墳群・大角山遺跡・すべりざこ古墳群』
- 島根県教育委員会 1997d『島田池跡・鶴貫遺跡』
- 島根県教育委員会 1998『社日古墳』
- 島根県教育委員会 2001『山代二子塚古墳整備事業報告書』
- 島根県教育委員会 2002『来美魔寺「山代郷新造院」推定地発掘調査報告書』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 13
- 島根県教育委員会 2004『史跡出雲國府跡－2－』
- 島根県教育委員会 2007『山代郷北新造院跡』
- 島根県教育委員会 2008『史跡出雲國府跡－5－』
- 島根県教育委員会 2009『史跡出雲國府跡－6－』
- 島根県教育委員会 2011『史跡出雲國府跡－7－ 附編 山代郷南新造院跡』
- 島根県教育委員会 2013『史跡出雲國府跡－9－ 総括編－』
- 島根県古代文化センター 2009『出雲國府周辺の復元研究—古代八雲立つ風土記の丘復元の記録ー』
- 松江市教育委員会 1984『黒田館跡』
- 松江市教育委員会 1988『下黒田遺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 1995『出雲國分寺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 1997『小無田II遺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 2002『市道真名井神社線整備事業に伴う大坪遺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 2009『出雲國分寺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 2011『出雲國分寺跡発掘調査報告書』
- 松江市教育委員会 2018『魚見塚遺跡・朝駒菖蒲谷遺跡』市道西尾大井線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 松江市文化財調査報告書 第181集

## 第2章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

昭和40年代に入ると、意宇平野にも高度経済成長に伴う土地開発や住宅建設の波が押し寄せ、平野の様相を大きく変えようとしていた。これを憂慮した松江市教育委員会・島根県教育委員会では、出雲国府跡の有力な候補地である大草町字宮の後付近一帯の遺跡、および次第に消滅しつつある条里遺構の実態を明らかにし、適切な保存処理を図る目的で発掘調査を実施することになった。調査は1968（昭和43）年度から3年間の継続事業とし、国庫補助事業で松江市教育委員会が実施した（第1期調査）。調査の結果、整然と並んだ建物跡、文書行政が行われたことを示す木簡、墨書き土器、硯が出土し、これらの資料を根拠として出雲国府跡と特定された。これを受け、1971（昭和46）年12月13日付け文部省告示第213号で約420,000m<sup>2</sup>が国史跡として指定された。1972（昭和47）年度には、公有化された土地10,480m<sup>2</sup>を対象として3ヶ年にわたり環境整



第5図 史跡出雲国府跡の史跡範囲と調査区配置図 (S = 1 / 6,000)

備事業を行った。1973(昭和48)年度には、SD005とSD004の復元工事中にまとまった量の遺物を採集したため、1974(昭和49)年度に工事と平行して発掘調査を実施した。1974(昭和49)年度に完成した史跡出雲國府跡の史跡公園は、八雲立つ風土記の丘の中核施設として活用を図ることとした。

環境整備事業後は、史跡の現状変更に伴う小規模な調査を断続的に行っていた。1974(昭和49)年度に島根県文化財愛護協会による水道管理設工事に伴う発掘調査、1985～1990(昭和60～平成2)年度に島根県教育委員会による水路・農道改良などの農業基盤整備に伴う発掘調査を行ったほか、1993(平成5)年度、1996(平成8)年度、1997(平成9)年度に松江市教育委員会で道路拡幅および個人住宅改築に伴う調査を行っている。このうち1993(平成5)年度の調査では、六所脇地区的南東で南北2間以上、東西1間以上の掘立柱建物が柱材の残存した状態で検出された。

島根県では1991(平成3)年度に「八雲立つ風土記の丘整備構想」、1997(平成9)年度に「古代文化の郷“出雲”整備構想」を策定した。いずれも八雲立つ風土記の丘を中心とした遺跡整備の必要性を唱えている。1997(平成9年)年には風土記の丘資料館において「古代出雲文化展」を開催し、史跡山代二子塚の復元整備などが平行して行われ、風土記の丘地内の史跡整備が具体的に進められた。こうした中で、その中心となる史跡出雲國府跡の再整備も計画に盛り込まれ、1999(平成11)年度より発掘調査が再開され(第2期調査)、2001(平成13)年度には、「八雲立つ風土記の丘整備基本計画」により国府跡の整備案が示された。第2期調査の成果については、2013(平成25)年に刊行された『史跡出雲國府跡9-総括編-』(以下、『総括報告書』)にまとめられており、詳細は割愛するが、国司館跡の発見や、付属工房に関連する玉、漆、金属製品等の生産関係遺物が多数出土するなど、貴重な成果が得られている。

『総括報告書』は、1968～2011(昭和43～平成23)年度までの全ての発掘調査の成果をまとめたもので、調査区を整理し、出土品を検討して総括的な編年を行い、出雲國府跡の全体像を示した。一方で、今後解決すべき課題として、①建物変遷など未解明な点が多い六所脇地区、宮の後地区、樋ノ口地区といった昭和の調査の再検証、②『出雲國風土記』に書かれる諸施設の探索および条里制や周辺遺跡との関係、③中世出雲府中とその終焉についての分析を提示し、さらに今後の史跡の保護や活用のために、大半が未指定となっている政庁域南側の保護と調査の必要性が指摘された。

この未指定地部分については、文化庁や松江市教育委員会、地元関係者との協議が進み、2014～2017(平成26～28)年度にかけて史跡指定と公有地化が進み、2017(平成28)年度には家屋等の移転が完了したことから、長年の懸案であった政庁域の発掘調査が可能となる諸条件が整った。併せて2015(平成27)年度から、①史跡出雲國府跡の活用(史跡整備リニューアル等)のための基礎資料を得ることと、②『総括報告書』における課題の解決を目指すことを目的として、第3期調査を開始した。

## 第2節 調査の経過

### 1. 2015(平成27)年度

第3期調査の初年度となる2015(平成27)年度は政庁周辺全体の遺構の分布状況を把握するためのトレンチ調査を実施した。①脇殿の確認、②政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認、③家屋

移転候補地の遺構・遺物の有無の確認、④政庁の南側を区画する南門・築地塀の確認を調査目的として、六所脇地区、宮の後地区、六所脇地区的南側で合計 10 か所の発掘調査を行った。掘削は基本的に人力で行ったが、人力による掘削が困難な場合はバックホーで掘削した。トレンチの埋め戻しは、遺構面に真砂土を 5 ~ 10cm 敷き、トレンチの掘削土と同じトレンチに埋め戻した。検出遺構は、9世紀前葉以前と考えられる遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘し記録した。9世紀中葉以降に帰属すると考えられる遺構は段下げの後に半截して記録した。

7月 27 日に史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会（以下、指導委員会）を開催し、調査方法と調査個所についての指導を受けた。8月 18 日に六所脇地区に第 56 トレンチと第 57 トレンチ（以下、T56 と T57）を設定し、六所脇地区と宮の後地区に第 58 トレンチ（以下、T57、T58）を設定し、掘削を開始した。9月 10 日に六所脇地区的南東に第 59 トレンチと第 60 トレンチ（以下、T59 と T60）を設定した。宅地跡で地表面にコンクリートの基礎が施工されていたため、コンクリートが無い部分にトレンチを設定した。そのためトレンチの各辺は正方位に平行する形とはならず、幅も 3m 以下となった。同日、T57 で古代の柱穴と考えられるピット（T57-P1）を検出した。9月 29 日、T58 南区で 80 号溝を検出し、T58 北区で黒色土層を検出した。10月 6 日に勝部委員、大橋委員、花谷委員の調査指導を受け、遺構面の検出方法や T57 の拡張について指導を受けた。10月 13 日に六所脇地区的南側に第 61 トレンチと第 62 トレンチ（以下、T61 と T62）を設定し発掘を開始した。両トレンチとも旧は資材置き場や駐車場で地表面が硬化しており人力での掘削が困難であったため、造成土と造成土の下の旧耕作土の掘削はバックホーで行った。10月 14 日に六所脇地区的南側に第 63 トレンチ（以下、T63）を設定した。T63 と同じ区画の田圃では 2000（平成 12）年度に第 18 トレンチ（以下、T18）の調査を行っており、砂礫層より上では遺構が無いことが確認されていたため、砂礫層上面までバックホーで掘削した。T57 の拡張した北西隅まで 80 号溝が延びないことを確認した。10月 28 日に指導委員会を開催し、2015（平成 27）年度の調査状況の報告し指導を受けた。また、2016（平成 28）年度以降の調査計画案を審議し、2016（平成 28）年度・2017（平成 29）年度は六所脇地区的北側の調査を実施し、2018（平成 30）年度から 2020 年度は六所脇地区的南側を調査を実施することを決定した。10月 29 日、T63 の砂礫層下で 1 号石組遺構を検出した。1 号石組遺構については、構造材の一部を採取し、現地調査終了後に自然科学分析を行った。11月 5 日の午前に渡辺正己氏から、各トレンチの堆積状況について指導を受けた。同日の午後、勝部委員、大橋委員、花谷委員から、1 号石組遺構の性格についての見解や指導を受けた。11月 23 日に、T63 の両側に第 64 トレンチと第 65 トレンチ（以下、T64 と T65）を設定し掘削した。バックホーで掘削し、T64 と T65 でも 1 号石組遺構を検出した。12月 7 日に、T59 で古代に帰属すると考えられる大型の方形掘方を検出した。同日、勝部委員、大橋委員、花谷委員から、検出遺構について指導を受けた。12月 16 日に全トレンチの埋め戻し作業が完了し、現地調査を終えた。

発掘調査現場の一般公開は 10 月 18 日に開催された「国府まつり」と、11 月 21 日の現地説明会で実施した。また、2016（平成 28）年 3 月 30 日～5 月 15 日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催し、同年 4 月 23 日に風土記の丘教室で 2015（平成 27）年度の発掘調査成果の報告を行った。

## 2. 2016（平成28）年度の調査

2016（平成28）年度は、①2015（平成27）年度で確認した土層と、第1期調査で確認された土層との対応関係の検討、②第1期調査の平面図の誤差の修正、③SB020の未調査部分と周辺の遺構を確認、④T58で確認した黒色土層の広がりを確認することを目的として調査を計画した。『総括報告書』を参考に①・②・③を調査目的として、第66トレンチ（以下、T66）を設定し、①・②・④を目的として第68トレンチ（以下、T68）を設定した。また、調査区の各辺は世界測地系第3系の正方位に平行するようにした。しかし、T66で予想を超える多数の遺構を検出し、これら遺構の調査に業務が集中したため、T68の調査は実施できなかった。

掘削は公園造成土はバックホーで行い、旧耕作土以下は人力で行った。埋め戻しは遺構面に真砂土を5～10cm敷き、その上に調査区の掘削土を埋め戻した。遺構検出は上層に9世紀中葉以降の遺構面があり下層に9世紀前葉以前の遺構面があるため、9世紀中葉以降の遺構は完掘して記録した後に遺構の基盤層を掘削し、9世紀前葉以前の遺構の検出を行った。9世紀前葉以前の遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘して記録した。

6月20日に、佐藤委員の調査指導を受け、調査範囲の拡張を検討するよう指導を受けた。7月11日に開催した指導委員会では、2015（平成27）年度の調査成果を報告し、2016（平成28）年度の調査についてはT66の調査を優先して実施し、T68の調査はT66の調査状況を考慮して着手するよう指導を受けた。7月19日に、T66の範囲内にあるSB020の復元柱、復元基壇の縁石、説明板の撤去を人力とバックホーで行った。7月20日から21日にかけて、調査区内の碎石や真砂土といった史跡公園の造成土をバックホーで掘削し、7月27日から人力による掘削を開始した。掘削は史跡公園の造成土下に堆積する耕作土、第1期調査の埋め戻し土、第2期調査の第47トレンチと第49トレンチ（以下、T47とT49）の埋め戻し土の除去から行った。これらの作業を進めるなかで、当初想定した第1期調査のI区の位置に誤差があることが判明した。調査区を再検証した結果、T66を設定する際に参考とした『総括報告書』の図面を拡大した際に生じた誤差が原因だと判明した。8月31日には、調査区全面で9世紀中葉以降の遺構を検出した。9月13日に勝部委員、大橋委員、花谷委員からSB020とSB019の重複関係の確認や、中近世の建物の推定復元について指導を受けた。10月12日に指導委員会を開催した。調査状況を報告し、SB019の柱掘方の土層断面を記録するため、一部を掘削するよう指導があった。また、2017（平成29）年度以降の調査計画について審議し、隣接する遺構の関係を確認するためにT66の一部を再発掘することが決定した。10月17日から9世紀中葉以降の基盤層の掘削を開始した。11月16日に勝部委員、大橋委員、花谷委員から検出遺構について指導を受けた。12月21日に勝部委員、佐藤委員から検出遺構について指導を受けた。12月22日に埋め戻しを開始し、12月28日に埋め戻しが完了した。

発掘調査現場の一般公開は10月23日に開催された「国府まつり」と11月27日に開催した現地説明会で実施した。また、2017（平成29）年3月25日～5月14日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催した。

### 3. 2017（平成29）年度の調査

2017（平成29）年度は、①六所脇地区北側での国庁の変遷の確認と、②宮の後地区での土地利用の変遷の確認を目的として調査を計画した。①を調査目的として、SB020の未調査部分と、26号建物の西側に第67トレンチ（以下、T67）を設定し、②については、2016（平成28）年度に発掘調査を実施できなかったT68を北側の調査範囲を広げて再設定した。両トレンチの各辺は世界測地系第3系の正方位に平行するよう設定した。

掘削は公園造成土と、過去の調査区の埋め戻し土の上層はバックホーで行い、旧耕作土以下と遺構面から10cmまでの埋め戻し土の掘削は人力で行った。調査区の埋め戻しは、遺構面に真砂土を5～10cm敷き、その上に調査区の掘削土を埋め戻した。遺構検出は2016（平成28）年度と同様に、9世紀中葉以降の遺構は完掘して記録した後に遺構の基盤層を掘削し、9世紀前葉以前の遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘して記録した。

6月5日に指導委員会を開催し、2016（平成28）年度の調査成果を報告し、2017（平成29）年度の調査方法と調査箇所について審議した。T67の南側への拡張と、第1期の一部の再発掘と、SB020の再検出を決定した。また、T67の調査を優先して実施し、T68の調査はT67の調査状況を考慮して着手することを決定した。

6月7日に、T67にあるSB020の復元柱、復元基壇の縁石、説明板の撤去を人力やバックホーで行い、公園造成土と調査区の埋め戻し土の掘削をバックホーで行った。6月15日から人力による掘削を開始した。掘削は第1期調査とT66の西側の埋め戻し土の除去から行った。また、未発掘箇所で遺構面を検出するまでは、過去の調査での遺構面を保護する必要があるため、第1期調査の調査区については遺構面の10cm程度まで埋め戻し土を残し、2016（平成28）年度の再発掘箇所については遺構面保護のため敷いた真砂土の上面までを掘削した。6月19日から未発掘箇所の掘削を開始した。6月23日に、T67北区で礫層を除去し、遺構検出を行った。当初、この遺構面は9世紀中葉以降の遺構面と考えていたが、26号建物跡の続きと考えられる遺構を検出したことから、既に9世紀前葉以前の遺構面を検出していたことが判明した。6月27日にT67中央区で、耕作土を除去し、9世紀中葉以降の遺構面を検出した。7月25日に勝部委員、大橋委員、花谷委員から、SB020の礎石建物への建て替えや、基壇の有無について検討するよう指導を受けた。7月28日にT68の掘削に着手した。8月3日にT67の9世紀中葉以降の遺構の掘削を完了し、8月21日にT67中央区の9世紀中葉以降の遺構の記録を完了した。8月28日からT67で9世紀中葉以降の基盤層の掘削を開始した。9月4日にT68で礫層を除去し、黒色土層を検出した。9月11日にT67中央区でSB020の柱掘方を検出した。9月20日に、大橋委員からSB020の柱穴の重複関係や基壇についての指導を受けた。10月4日、大橋委員、花谷委員からSB020の調査方法について指導を受けた。10月11日に指導委員会を開催し、調査状況の報告を行い、T67中央区については、十字に設定したセクションベルトを撤去して遺構検出を行うこと、南側のセクションベルトの幅を狭くし、遺構検出を行うこと、T67北区については、柱穴の精査について指導を受けた。また、2018（平成30）年度の調査箇所について審議し、脇殿の検出を目的とした調査区を設定するよう決定した。10月17日にT67中央区のSB020Cで礎石を検出し、勝部委員、大橋委員から礎石の調査方法について指導を受けた。10月26日に、T68で1号池状施設を検出した。11月1日に大橋委員から1号池状施設の調査方法について指導を受けた。同日、第1期調査での

調査区が推定より西に位置していたため、T68 の北西を西側に拡張し、第1期調査の調査区の西端を確認した。11月2日に花谷委員から1号池状施設の土手状盛土とSB020の調査方法について指導を受けた。同日、渡辺正己氏の調査指導を受け、1号池状施設の堆積状況と底面の疊層について指導を受けた。11月21日にSB020のP1とP10（第41図）で遺構の重複関係を確認するため一部を掘削し、SB020BのP10で柱根を検出した。11月28日に大橋委員から柱根の取り扱いについて指導を受けた。11月29日に花谷委員から遺構の検出方法について指導を受けた。同日、SB020BのP10の柱根を取り上げた。12月4日に大橋委員から遺構面や基盤層の確認について指導を受けた。同日、現地調査を完了し、埋め戻し作業と復元柱の再設置作業を開始した。埋め戻し作業は天候不順により遅延し、2018（平成30）年3月15日に完了した。

発掘調査現場の一般公開は10月22日に開催された「国府まつり」と、11月11日に開催した現地説明会で実施した。2018（平成30）年2月24日に埋蔵文化財調査センターで2015～2017（平成27～29）年度までの調査成果の報告会を開催した。また、2018（平成30）年3月24日～5月13日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催した。

#### 4. 2018（平成30）年度の調査（報告書作成）

2018（平成30）年度は、2班体制とし、1班は現地での発掘調査を実施し、1班は2015（平成27）年度から2017（平成29）年度までの調査成果の報告書作成を行った。6月6日と10月日に指導委員会を開催し、2017（平成29）年度の調査成果、報告書の作成状況、遺構変遷についての報告を行い指導を受けた。また9月18日に勝部委員、花谷委員、小野健吉教授から、9月21日に勝部委員、大橋委員から、12月10日に大橋委員、花谷委員から指導を受けた。

第1表 史跡出雲國府跡発掘調査年表

調査年度	調査主体	調査目的	主な調査地区	主な調査成果	報告書
昭和43年 1968年	松江市教育委員会	学術調査	宮の後	大型の建物や溝 (SD004、SD005) を検出	松江市教育委員会 1971 鳥根県教育委員会 2008, 2009
昭和44年 1969年	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・一貫院 水堀・横川	宮の後で建物や溝 (SD010)、一貫院で石敷道構を検出	松江市教育委員会 1971 鳥根県教育委員会 2008, 2009
昭和45年 1970年	松江市教育委員会	学術調査	六所脇・宮の後	六所脇古河行後殿と推定される 西面廻廊建物 (SB020) を検出	松江市教育委員会 1971 鳥根県教育委員会 2008, 2009
昭和49年 1974年	鳥根県教育委員会	史跡整備	宮の後		鳥根県教育委員会 1975, 2009
昭和49年 1974年	鳥根県文化財愛護協会	水道管理設	—	第1～第4地点。推定十字街・ 枉北道	鳥根県教育委員会 2009
昭和60年 1985年	鳥根県教育委員会	土地改良総合整備事業	—		鳥根県教育委員会 1988
昭和61年 1986年	鳥根県教育委員会	土地改良総合整備事業	—		鳥根県教育委員会 1988
昭和62年 1987年	鳥根県教育委員会	土地改良総合整備事業	—	21号水路。推定枉北道	鳥根県教育委員会 1988
平成元年 1989年	鳥根県教育委員会	土地改良総合整備事業	水堀・横川	A地点・B地点。推定真西道	鳥根県教育委員会 2009
平成2年 1990年	鳥根県教育委員会	土地改良総合整備事業	松葉山地		鳥根県教育委員会 2009
平成5年 1993年	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前	輪郭の可能性の柱列を検出	
平成8年 1996年	松江市教育委員会	個人住宅改築	箭川原		
平成8年 1996年	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前		
平成9年 1997年	松江市教育委員会	個人住宅改築	箭川原		
平成11年 1999年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原	範囲確認調査	鳥根県教育委員会 2003
平成12年 2000年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原	廻付きの建物跡 (1号建物跡) を検出	鳥根県教育委員会 2003
平成13年 2001年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原	司馬跡と推定される建物群を検出	鳥根県教育委員会 2003
平成14年 2002年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原	八脚門の可能性のある建物 (9号建物跡) を検出	鳥根県教育委員会 2004
平成15年 2003年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原・一貫院・ 日早田	一貫院で石敷道構・溝岸状施設 を検出	鳥根県教育委員会 2004, 2005
平成16年 2004年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	大倉原・日早田	大倉原の56号溝より橋の部材 と思われる木製品が出土	鳥根県教育委員会 2005, 2006
平成17年 2005年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	日早田	多量の漆關係遺物が出土	鳥根県教育委員会 2006
平成18年 2006年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇・宮の後・ 堂上	中世の町内進入路の可能性がある 硬化面を検出	鳥根県教育委員会 2008, 2009
平成19年 2007年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇・宮の後・ 堂上	六所脇・宮の後 并行状遺構を検出	鳥根県教育委員会 2009
平成20年 2008年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	宮の後	73号溝を検出	鳥根県教育委員会 2010
平成21年 2009年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	宮の後	40号土坑より漆紙文書を検出	鳥根県教育委員会 2010
平成21年 2009年	松江市教育委員会	下水道工事	六所脇		
平成22年 2010年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	宮の後	并析状遺構を検出	鳥根県教育委員会 2013
平成22年 2010年	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇		
平成23年 2011年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	宮の後	74号・75号溝を検出	鳥根県教育委員会 2013
平成23年 2011年	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇	中世の南北溝を検出	
平成27年 2015年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇・宮の後	80号溝、1号池状施設、1号石 組遺構などを検出	本報告書
平成28年 2016年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇	SB019、26号建物、27号建物、 29号建物跡などを検出	本報告書
平成29年 2017年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇・宮の後	SB020、28号建物跡、95号溝、 1号池状施設などを検出	本報告書
平成30年 2018年	鳥根県教育委員会	風土記の丘内地跡調査	六所脇	35号建物跡、96号溝などを検 出	

## 第3章 2015~2017（平成 27~29）年度の発掘調査

### 第1節 調査の方法

#### 1. 調査区の設定（第6図）

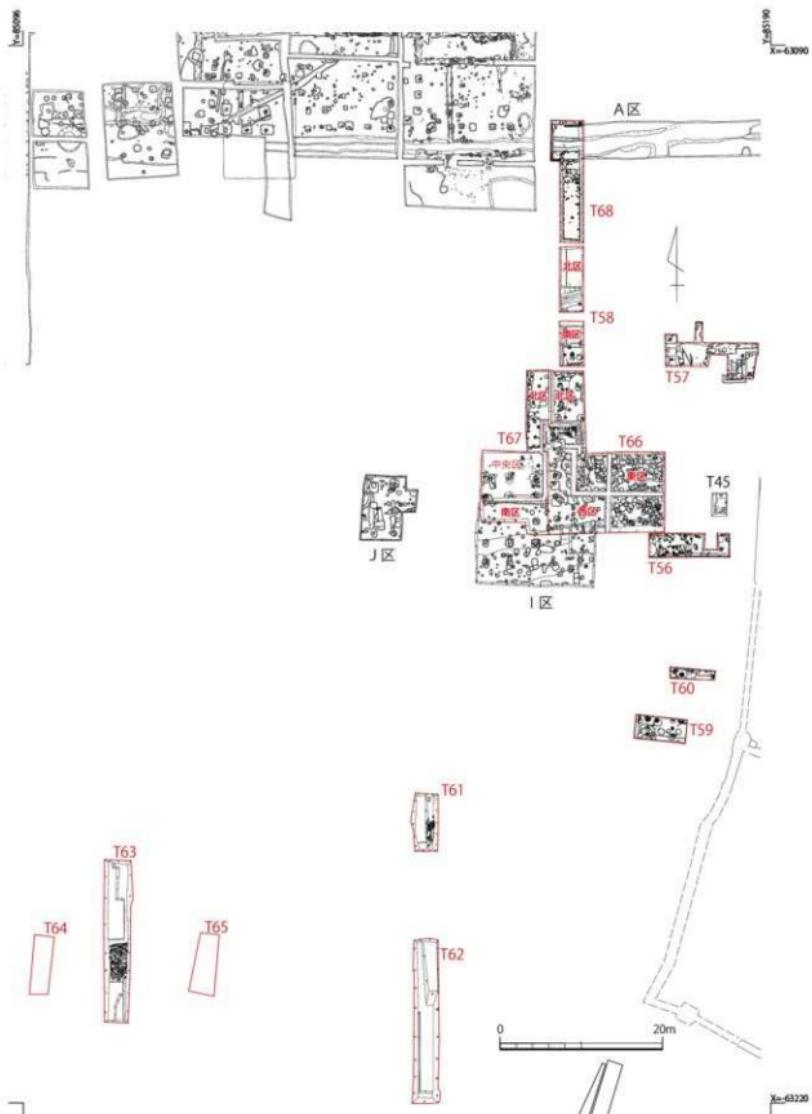
2015（平成 27）年度は、脇殿の確認、政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認、家屋移転候補地の遺構・遺物の有無の確認、政庁の南側を区画する南門・築地塀の確認を調査目的として、合計10か所（311m<sup>2</sup>）でトレンチ調査を実施した。トレンチの名称はこれまで島根県が実施したトレンチからの連番とした。T56は東脇殿の検出を目的として、出雲国庁正殿跡と推定されるSB020の東側に設定した。T57は政庁北辺部の確認を目的として、推定政庁域の北東隅に設定した。T58は政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認として目的として、SB020の北側に設定した。T59とT60は東脇殿の検出を目的として推定政庁域の南東に設定した。T61とT62は政庁の南側を区画する南門・築地塀の確認を目的として、推定政庁域の南に設定した。T63は家屋移転候補地の遺構・遺物の有無の確認を目的として、推定政庁域の南西に設定した。T64とT65はT63で検出した1号石組遺構の有無を確認するために、1号石組遺構の西側の延長線上にT64を設定し、東側の延長線上にT65を設定した。各トレンチは、各辺が世界測地系第3系の正方位に平行し、且つ幅が3mにならぬよう設定した。ただし、T59とT60は調査予定地の大半がコンクリートで固められており掘削可能な場所が限られていたため、各辺は正方位に平行する形にはならず、幅も3m以下となった。また、T64とT65も現地形に合わせ掘削したため、各辺は正方位に平行する形にはならず、幅も3m以下となった。

2016（平成 28）年度の調査は、2015（平成 27）年度で確認した土層と第1期調査で確認された土層の対応関係の検討、第1期調査の平面図の誤差の修正、SB020と周辺遺構の確認を目的として実施した。調査区の名称はT66とし、第1期調査のI区東側と前年度調査したT56とT58に接する場所に調査区を設定した。調査区は北側に突出した部分を北区、第1期調査の再発掘部分を西区、西区の東側を東区とした。また、東区はセクションベルトで3区画に分け、各区画の名称は北側、南側、西側とした。調査区は各辺が世界測地系第3系の正方位に平行するように設置した。

2017（平成 29）年度の調査は、六所脇地区北側での出雲国庁の変遷を確認と、宮の後地区での土地利用の変遷の確認を目的として実施した。出雲国庁の変遷を確認する調査区としてT67を設定し、宮の後地区での土地利用変遷を確認する調査区はT68とした。T67は新規調査箇所のほか、第1期調査I区の北側とT66西区と北区の西側の再発掘箇所からなる。新規調査箇所は北側に突出した箇所をT67北西区、南側をT67中央区とし、再発掘箇所のうちI区北側をT67南西区、T66西区をT67南東区、T66北区をT67北東区として調査した。本書では混乱を避けるため、以後はT67北西区をT67北区、T67南西区をT67南区、T67南東区をT66西区、T67北东区をT66北区と呼称する。T68は第1期調査のA区南端からT58北区北端までの区間に設定した。T67とT68の各辺は世界測地系第3系の正方位に平行するようにした。

#### 2. 表土と遺構の掘削

T56～T60、T68の掘削は人力のみで行った。T61～T62は地表が固く造成されており、人力による掘削が困難であったため表土はバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。T63は



第6図 2015～2017（平成27～29）年度の調査区配置図（S=1/600）

同じ区画の田圃で 2000（平成 12）年度に実施した T18 の調査成果から、砂礫層より上面では遺構が無いことが確認されていたため、砂礫層上面までバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。T64 と T65 は T63 の調査成果から、1 号石組遺構上面までバックホーで掘削した。T66 と T67 は新規調査箇所については史跡公園の造成土をバックホーで掘削し、再発掘箇所については埋め戻し土を遺構面から 10cmまで残してバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。

検出遺構については、T56 ~ T65 については、9 世紀中葉以降と考えられる遺構は段下げの後に半截し、9 世紀前葉以前と考えられる遺構は段下げのみ行った。溝は段下げの後に完掘した。T66 ~ T68 については、9 世紀中葉以降と考えられる遺構は段下げの後に半截し、土層を記録して完掘した。9 世紀前葉以前と考えられる遺構は溝は段下げの後に完掘した。溝と池状施設は段下げの後に完掘した。

調査区の埋め戻しは、遺構面に真砂土を 5 ~ 10cm 敷き、掘削土を掘削したトレーニチに埋め戻した。

### 3. 記録の作成

遺構の平面図は、2015(平成 27)年度はトーワエンジニアリング株式会社の遺構調査システム「遺構くん」を用いて測量し、2016・2017(平成 28・29)年度はコンピュータ・システム株式会社の遺構調査システム「SITE」を用いて測量し、いずれも出力後補正を行った。礎石や根石等は必要に応じて手測りで平面図・立面図を作成した。また、報告書掲載が見込まれる遺物等は遺跡調査システムで出土位置を記録した後に取り上げを行った。遺構の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは 6 × 7 版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はフルサイズ一眼レフのデジタルカメラで撮影した。

### 4. 自然科学分析

自然科学分析のうち花粉分析については、分析担当者と現地で協議した上で、採取からの作業を委託した。それ以外の放射性炭素年代測定、樹種同定、酸素同位体年輪年代測定の資料は発掘作業終了後に、分析担当者と協議した上で作業を委託した。

### 5. 整理作業

検出遺構は内容を検討し、遺構の種類ごとに現地での仮番号から出雲国府跡での通し番号に変更した。ただし、出雲国府跡では、遺構の表記について第 1 期調査では SB 等の略号を使用し、第 2 期調査では略号を使用しておらず、且つそれが通し番号を付けている。指導委員会で、再度の総括報告書を刊行するまでは第 1 期調査で既に確認されていた遺構については第 1 期調査での名称をそのまま使用し、新たに検出した遺構については略号を使用せずに第 2 期調査からの通し番号を付けることに決定した。

出土遺物については、遺構から出土したもの優先して選択し実測と撮影を実施し、遺物包含層から出土したものについては、土層の時期を示すものや特殊な遺物を選択して実測と撮影を実施した。また、瓦については全点の分類作業を行った上で重量と破片数を記録し、道具瓦や軒瓦などを優先して実測及び撮影を実施した。

## 第2節 基本層序（第7図）

基本層序は、六所脇地区北側と宮の後地区（T57、T58、T66北区、T67北区、T68）、六所脇地区南側（T56、T66東区と西区、T67中央区と南東区と南東区）、六所脇地区的南側（T61～T65）で異なる。

六所脇地区北側と宮の後地区では地表より、史跡公園造成土、旧耕作土（田圃）、礫層、暗オリーブ灰色粘質土、にぶい黄褐色粘質土の順に堆積する。このうち礫層は13世紀の洪水によるものと考えられている。暗オリーブ灰色粘質土の上面では7世紀後葉以降の遺構を検出している。にぶい黄褐色土の上面では古墳時代中期以降の遺構を検出した。

六所脇地区南側では地表より、史跡公園造成土、旧耕作土（畠地）、にぶい黄褐色土、褐灰色粘質土、にぶい黄褐色粘質土の順に堆積する。六所脇地区南側には礫層がなく、13世紀の洪水による直接的な被害は受けなかったと考えられる。六所脇地区南側は他の地区よりも標高が高いが、この地形的な特徴は13世紀の洪水に起因するのか、13世紀以前に地形の改変があったのかは不明である。T66東区では、にぶい黄褐色土の上面で9世紀中葉以降の遺構を検出し、褐灰色粘質土の上面では7世紀後葉～9世紀前葉の遺構を検出した。一方、T67中央区では、にぶい黄褐色土から第9～10型式の遺物が出土しており、T66東区とT67西区ではにぶい黄褐色土の形成時期が異なると考えられる。

六所脇地区的南側では地表より、耕作土（田圃）、砂層や砂礫層、粘土層の順で堆積する。砂層や砂礫層は意宇川による堆積層で、弥生時代から近世までの遺物が出土する。この地区は、意宇川とその川岸で、部分的に中世の護岸施設が残るもの、出雲国府に関係するような古代の遺構は流失している。

以上のように、六所脇地区南側では、近現代の耕作土の下に、9世紀中葉以降（T67中央区では12世紀後葉以降）の基盤層（にぶい黄褐色土）、7世紀後葉から9世紀前葉までの基盤層（褐灰色粘質土）、古墳時代の基盤層（にぶい黄褐色粘質土）の順で堆積し、六所脇地区北側と宮の後地区では、13世紀の礫層、7世紀後葉から9世紀前葉までの基盤層（褐灰色粘質土）、古墳時代の基盤層（にぶい黄褐色粘質土）の順で堆積し、六所脇地区的南側では中世以前の遺構は失われている。

以下、本書ではにぶい黄褐色土を「第1基盤層」、褐灰色粘質土を「第2基盤層」、にぶい黄褐色粘質土を「第3基盤層」と呼称する。また、各基盤層の上面を「第1遺構面」、「第2遺構面」、「第3遺構面」と呼称する。

### 六所脇地区南側の基本層序

公園造成土：史跡公園整備時の盛土。 碎石と真砂土。
耕 作 土：公園造成前の耕作土。古墳時代 から現代までの遺物が出土。
第1基盤層：T66東区 第6型式までの遺物が出土。 T67中央区 第10型式までの遺物が出土。
第2基盤層：古墳時代から第1型式までの 遺物が出土。
第3基盤層：古墳時代中期の遺物が出土。

### 六所脇地区北側と宮の後地区的基本層序

公園造成土：史跡公園整備時の盛土。 碎石と真砂土。
耕 作 土：公園造成前の耕作土。古墳時代 から現代までの遺物が出土。
礫 層：13世紀の洪水による。第10型式までの 遺物が出土。
第2基盤層：古墳時代から第1型式までの 遺物が出土。
第3基盤層：古墳時代中期の遺物が出土。

第7図 基本層序模式図

### 第3節 調査区の概要

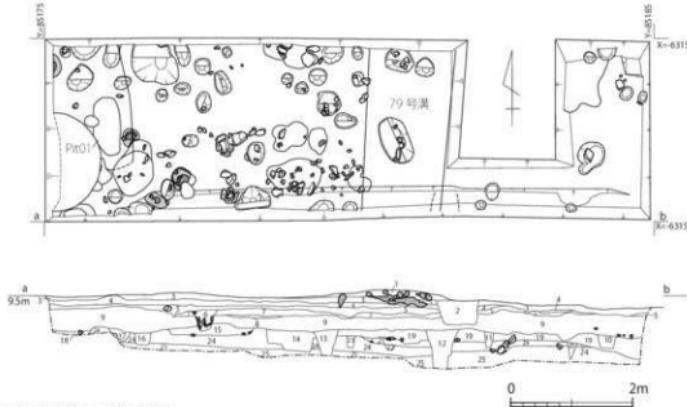
#### 1. T56(第8図、第9図)

東脇殿の検出を目的としてSB020の南東に設定した南北3m、東西10m、面積27m<sup>2</sup>のトレンチである。調査区の中ほどに株があり、その箇所は発掘することができなかった。現在は史跡公園として整備されている。史跡公園の整備以前は畜舎が建てられていた。発掘作業は第2遺構面まで行い、南側のサブトレンチのみ第2基盤層を掘削した。

地表から腐植土(1層)、公園造成土(2層、3層、5層)近現代の造成土(7層、8層、9層)、第1基盤層(19層)、第2基盤層(24層、25層)の順で堆積する。標高9.0m前後で第1遺構面に達する。標高8.8m前後で第2基盤層に達する。第2基盤層は東側で傾斜しているが自然地形か溝等の遺構かの判断はできなかった。

遺構は、ピット60基、溝1条、焼土面5か所を検出した。大半は9世紀中葉以降の遺構で、東脇殿に関する遺構は確認できなかった。第2遺構面の検出作業を第2基盤層の直上で行ったため、上手く9世紀前葉以前の遺構を検出できなかった可能性がある。主な遺構には、9世紀中葉から10世紀前半の79号溝と、近世の33号建物跡の柱穴(P1)がある。

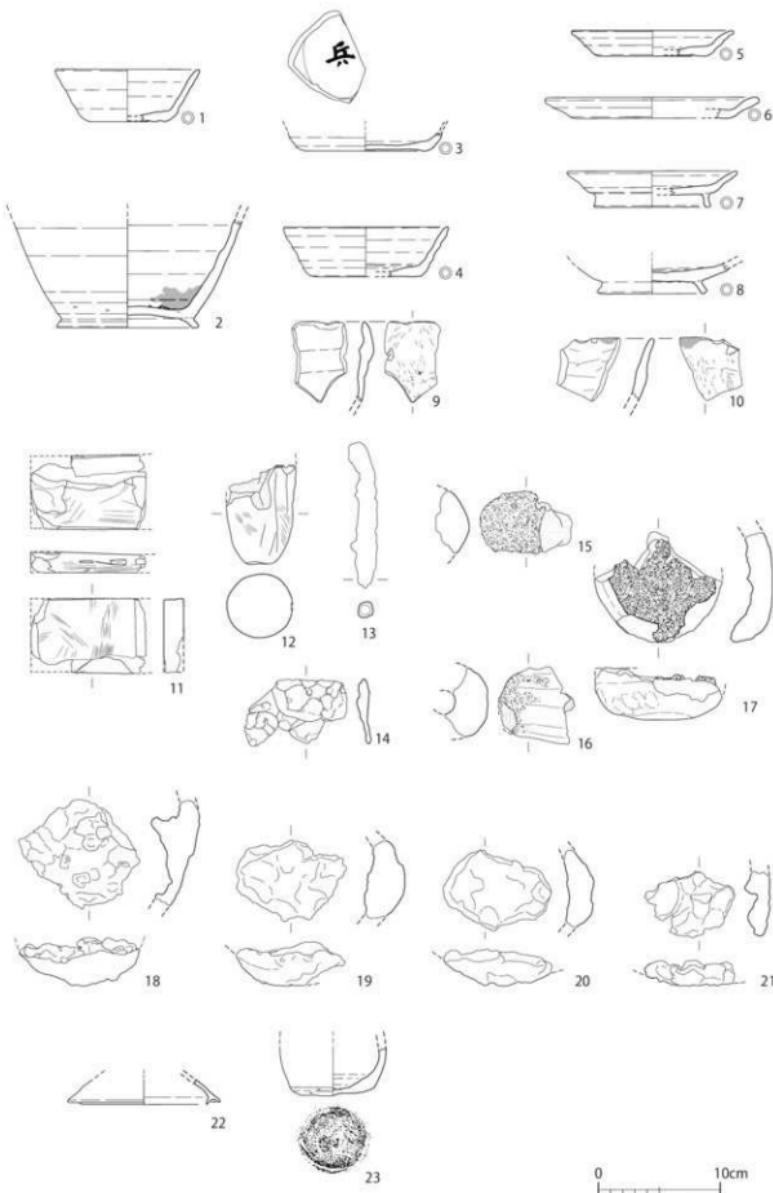
遺物は近現代の造成土からは古墳時代から現代までの遺物が出土し、第1基盤層からは第4~5型式の須恵器と土師器が多く出土した。その他、羽口や鉄滓、8世紀代の瓦が少量出土した。第2基盤層からは出雲6b.c式や第1型式の須恵器が出土した。出雲6b.c式の須恵器の出土数が多く、第1型式の須恵器の出土数は少ない。その他に土師器の甕や移動式窓の破片が多く出土した。また、玉作り用の砥石が1点出土した。



第8図 T56 実測図 (S=1/80)

#### 2. T57(第10図、第11図)

東脇殿及び政庁北辺部の検出を目的にSB020の北東に設定した南北3m~4.4m、東西11m、面積39m<sup>2</sup>のトレンチである。調査区の中ほどに株があり、その箇所は発掘できなかった。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園の整備前は耕作地であった。T58南区で検出した80号溝を検出するため、北西隅と北側中央部を部分的に北側に拡張した。また、P1に関連する遺構を



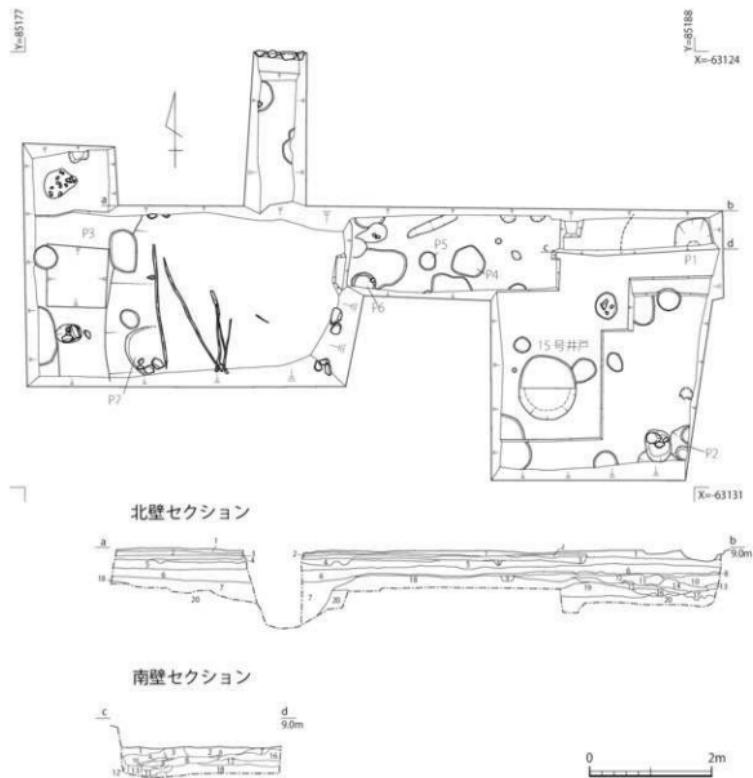
1.2は9層、3～21は19層（第1基盤層）、22.23は24層（第2基盤層）出土  
第9図 T56出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

確認するため、調査区の南西隅を南側に拡張した。調査区の中央には近現代の池跡があり、近世以前の遺構は失われていた。

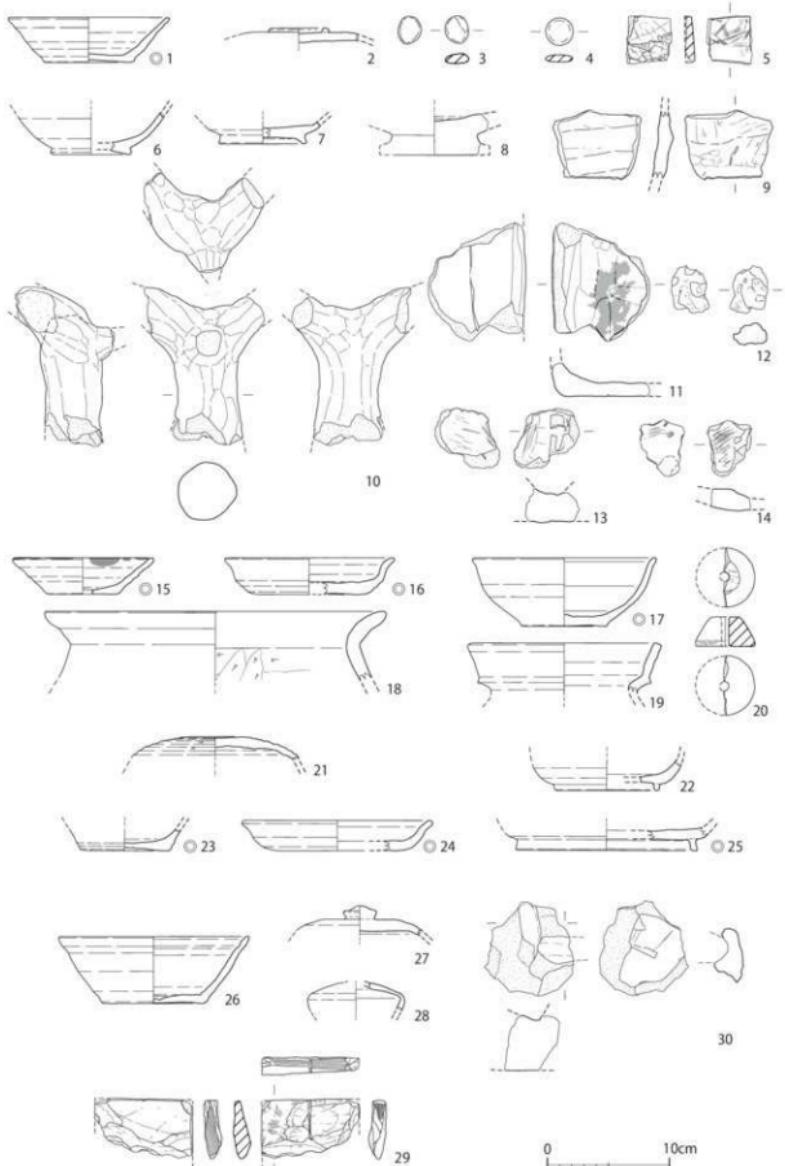
地表から腐植土層（1層）、史跡公園造成土（2層、3層、5層）、旧耕作土（6層）、礫層（8層）、第1基盤層（10層、11層、12層、13層、14層、15層、18層）、第2基盤層（19層）、第3基盤層（20層）の順で堆積する。

遺構は、ピット44基、溝1条、井戸1基を検出した。P1～7は遺構埋土が灰色系であることから9世紀前葉以前の遺構と考えられる。P1では柱痕を検出しており、使用された柱は直径20cm以上であったと考えられる。P1～3は掘立柱建物か掘立柱塀の柱穴の可能性が考えられる。また、P1の柱抜き取り埋土（16層、17層）の上に堆積する土層は炭化物を多く含んでおり、火災の後、その上を平坦に造成した可能性が考えられる。この他に15号井戸がある。

遺物は礫層からは須恵器が出土したほか、平玉や石帶が出土した。第1基盤層からは古墳時代前期から第6型式までの土器や、製塩土器、壁材、紡錘車、石帶の未成品などが出土した。



第10図 T57 実測図 (S= 1/80)



2~5は北壁8層(縦層)、1.6~14.26.27は北壁10層、15~20は北壁11層、28は北壁13層、  
21~25.30は北壁18層出土。29は排土から採取

第11図 T57出土遺物実測図 (S= 1/4)

### 3. T58(第12図)

T58は政府北辺部の確認を目的として、六所脇地区から宮の後地区のうち、SB20の北東に位置する場所に設定したトレンチである。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園整備前は耕作地(田圃)であった。六所脇地区と宮の後地区的境界には復元水路が設置されており、その箇所は発掘調査ができなかった。また、復元水路を挟んで六所脇地区に含まれる箇所を南区、宮の後地区に含まれる箇所を北区とした。

### T58 南区(第13図)

南区は幅3m、長さ5.6mのトレンチで、面積は16.8m<sup>2</sup>である。発掘作業は第3遺構面まで行い、西側のサブトレンチのみ第3基盤層を掘削した。

地表から史跡公園造成土(1層~9層)、旧耕作土(10層)、礫層(11層)、第2基盤層(33層)、第3基盤層(34層、35層、36層)の順で堆積する。旧耕作土は史跡公園整備前にあった田圃の耕作土である。礫層は13世紀代の洪水による堆積層である。

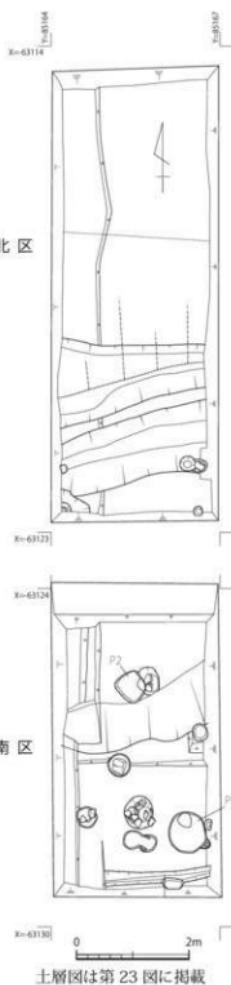
遺構はピット10基、溝3条を検出した。P1は遺構埋土が灰色系であることから9世紀前葉以前の遺構と考えられる。P2は80号溝に先行する遺構で、8世紀第2四半期以前の遺構である。主な遺構には68号土坑、80号溝がある。

遺物は礫層から柱状高台(13-2.3)が出土し、第2基盤層上面やP1から壁材(13-5.6)が出土した。また、第3基盤層からは古墳時代中期の甕(13-7)が出土した。

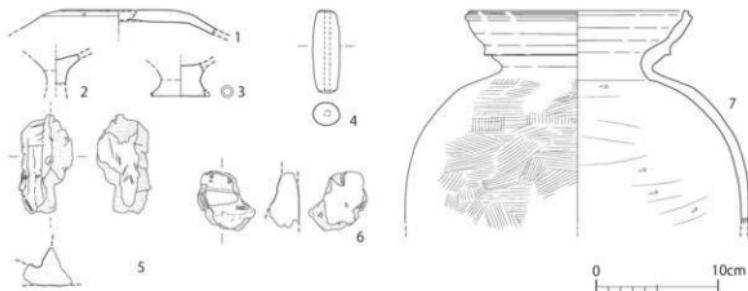
### T58 北区(第14図)

T58北区は幅3m、長さ8m、面積24m<sup>2</sup>のトレンチである。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園整備前は耕作地(田圃)であった。発掘作業は第2遺構面まで行い、西側のサブトレンチのみ第2基盤層と第3基盤層を掘削した。

地表から史跡公園造成土(1層、2層)、旧耕作土(3層)、礫層(4層)、1号池状施設埋め立て土(7層、8層)、1号池状施設堆積土(9層、10層)第3基盤層(20層、21層)の順で堆



第12図 T58 実測図 (S= 1/80)



1～3は10層、4は11層（礫層）、5.6は33層上面、7は36層出土

第13図 T58南区出土遺物実測図 (S= 1/4)

積する。旧耕作土は史跡公園整備前にあった田圃の耕作土である。礫層は13世紀の洪水による堆積層である。1号池状施設の埋め立て土である7層（黒色土）からは第8～10型式の遺物が大量に出土した。底部を集計し、個体数を算定したところ約1000点を数えた。大半は土師器の壺や皿であった。1号池状施設堆積土は水性の自然

堆積層と考えられ、第6～10型式の土師器と第3～7型式の須恵器が出土した。第3基盤層は、粘土と砂層で、意宇川の旧河道と考えられる。遺物は確認できなかった。

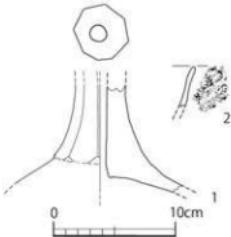
遺構はピット6基、溝3条、1号池状施設1か所を検出した。このうち、1号池状施設と溝2条（82号溝、83号溝）は9世紀前葉以前の遺構と考えられ、その他は9世紀中葉から13世紀までの遺構と考えられる。

#### 4. T61（第15図、第16図）

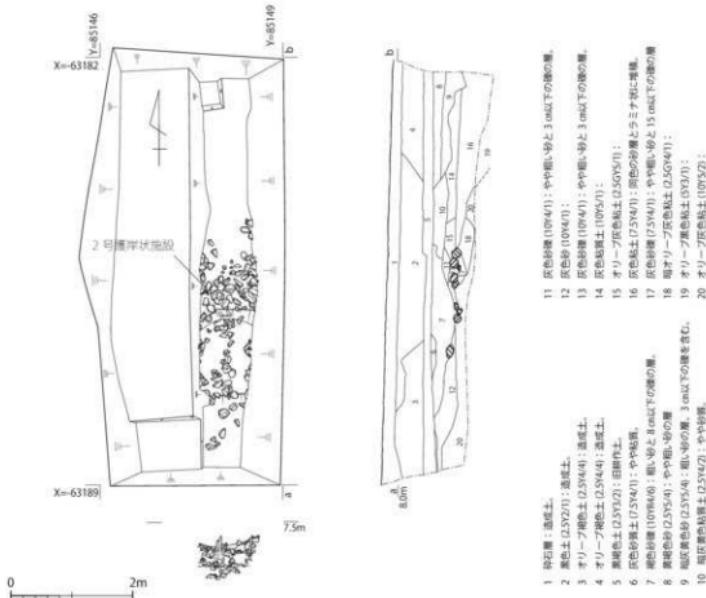
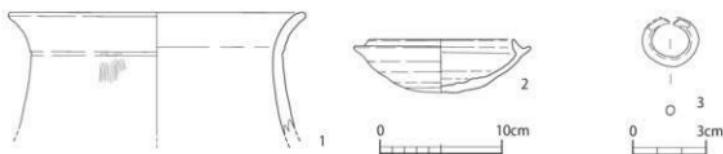
政府の南側を区画する南門と築地塀の検出を目的として、六所脇地区の南側でSB020の南側に位置する場所に設定した、幅3m、長さ7m、面積21mのトレーンチである。調査前は資材置き場であった。発掘作業は第3基盤層上面までを行い、東側のサブトレーンチのみ第3基盤層を掘削した。

地表から資材置き場の造成土（1層～4層）、資材置き場造成前の耕作土（5層）、意宇川による堆積層（6層～17層）、第3基盤層（20層）の順で堆積する。意宇川の堆積土は、砂層（6層、8層、9層、12層）、粘土層（10層、14層～17層）、砂礫層（7層、11層、13層、17層）からなる。7層からは古墳時代～近世の遺物が出土し、16層からは弥生時代前期の壺（16-1）や、7世紀後半の須恵器（16-2）や耳環（16-3）などが出土した。

遺構は15世紀中葉～16世紀前半の2号護岸状施設を検出した。それ以前の遺構や遺物包含層は意宇川により削平されており、出雲国府跡に関連する遺構は確認できなかった。



第14図 T58北区出土遺物実測図 (S= 1/4)

第15図 T61 実測図 ( $S=1/80$ )第16図 T61 出土遺物実測図 (1・2は  $S=1/4$ 、3は  $S=1/2$ )

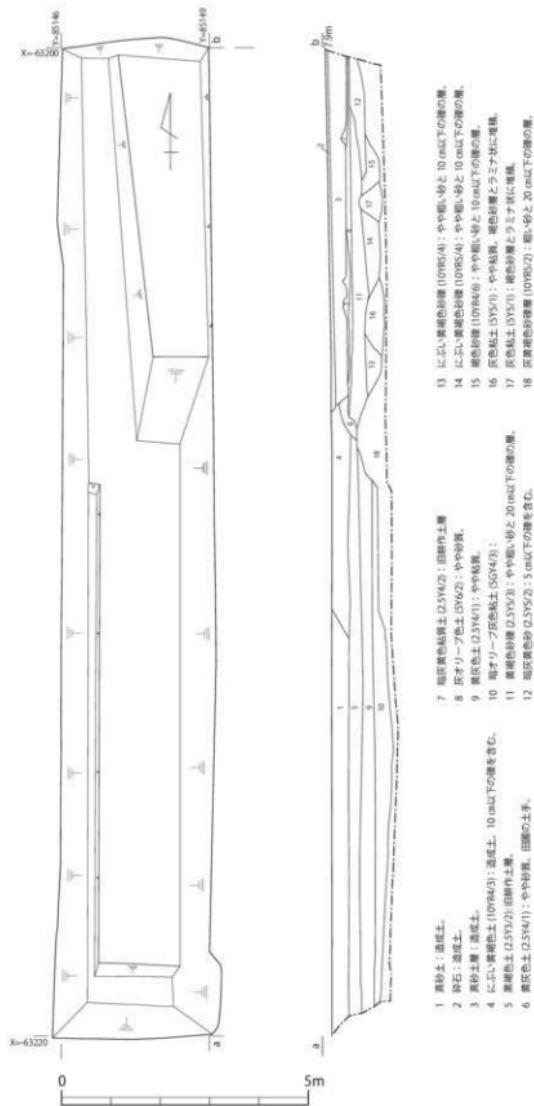
## 5. T62（第17図）

政庁の南側を区画する築地塀の確認を目的として、六所脇地区の南側でSB020の南東に設定した幅3m、長さ20m、面積60m<sup>2</sup>のトレントである。調査前は駐車場であった。発掘作業は11層まで掘削し、西側のサブトレントのみ12層～18層を掘削した。

地表から駐車場の造成土（1層～4層）、駐車状造成前の耕作土（5層、7層）、意宇川による堆積層（8層～18層）の順で堆積する。

遺物は9層からは古墳時代～近世の遺物が出土し、10層からは9世紀前葉以前の瓦が多く出土し、11層からは12世紀代の遺物が出土した。

近世以降は意宇川の河床で、それ以前の遺構や遺物包含層は意宇川により削平されており、出雲国府跡に関連する遺構は確認できなかった。



第17図 T62 実測図 (S= 1/100)

## 6. T63（第18図、第19図、第20図）

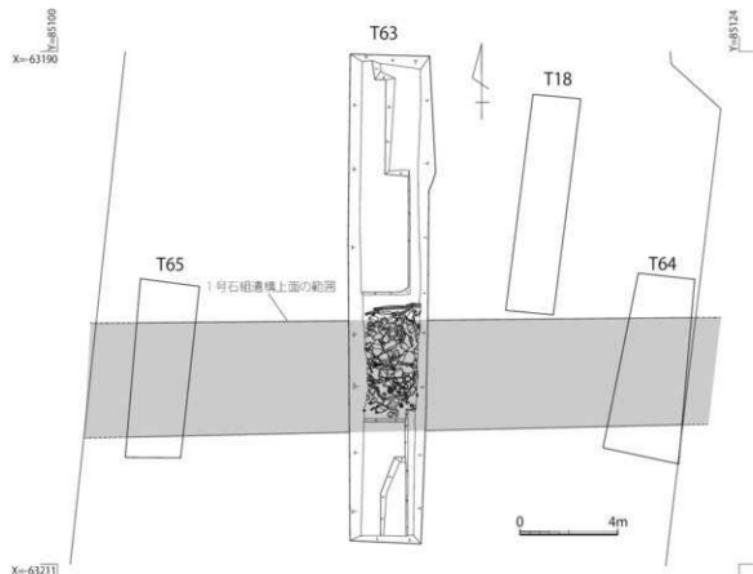
家屋移転候補地の遺構・遺物の有無の確認を目的として六所脇地区の南側の南西に設定した、幅3m、長さ20m、面積60m<sup>2</sup>のトレンチである。現状は田圃で、同じ区画の東側には2000（平成12）年度に発掘調査したT18が位置する。発掘作業は9層の上面まで掘削し、西側のサブトレンチのみ9層を掘削した。

地表から耕作土と田圃の床土（1層、2層）、意宇川による堆積層1（3層～8層）、意宇川による堆積層2（9層、10層）の順で堆積する。堆積層1は砂層と砂礫層からなり、堆積層2は粘土層からなる。堆積層1のうち、6層と7層からは古墳時代～近世の土器が出土し、8層からは古墳時代の須恵器の破片、11世紀後葉～12世紀の白磁（20-1）や、12世紀後葉～13世紀の青磁（20-2）、18世紀代の陶器（20-3）が出土した。堆積層2からは遺物が出土しなかった。

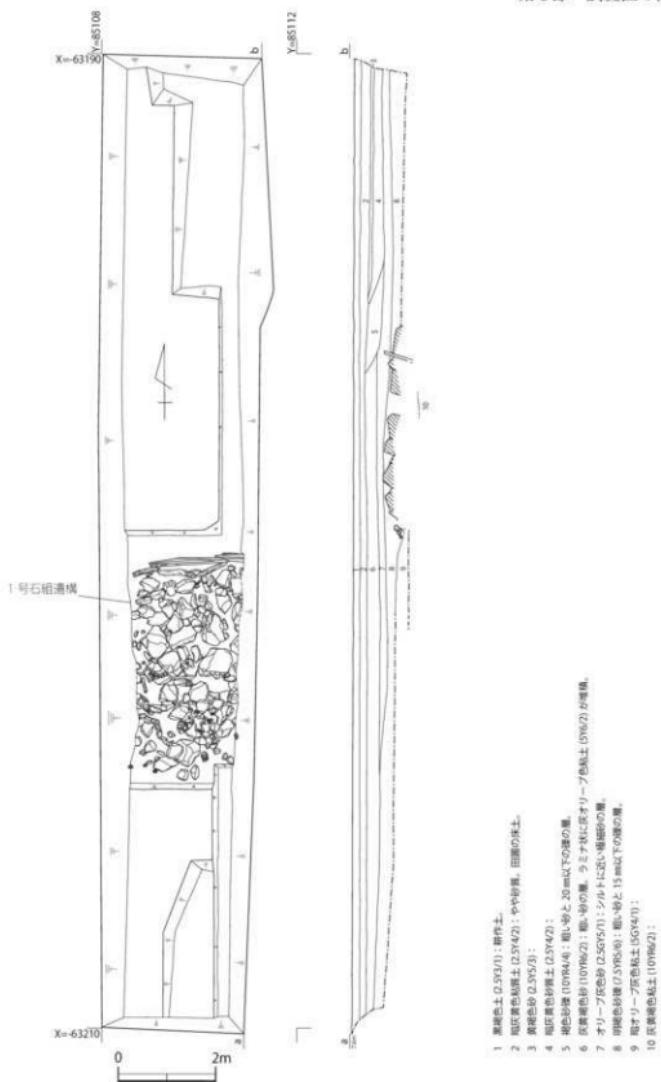
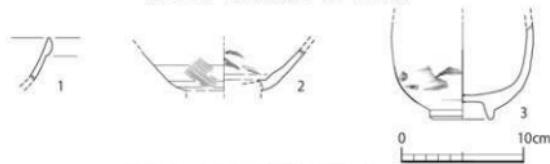
遺構は調査区の中程で東西に延びる15世紀中頃～17世紀前半の1号石組遺構を検出した。1号石組遺構は堆積層2の上面に構築されている。

## 7. T64・T65（第18図）

T64とT65は、1号石組遺構の範囲確認を目的として、T63と同じ区画の田圃に設置した。T64は区画の東端に設置した、幅2.7m、長さ7.4m、面積約20m<sup>2</sup>のトレンチである。T65は区画の西端に設置した、幅2.4m、長さ7.2m、面積約17m<sup>2</sup>のトレンチである。両トレンチとも発掘作業はT63の埋め戻し作業に併せて、地表より60cm～70cmの深さまでバックホーで行った。その結果、両トレンチで1号石組遺構の上面を検出した。遺物は確認できなかった。



第18図 T63・T64・T65配置図 (S= 1/200)

第19図 T63 実測図 ( $S=1/100$ )第20図 T63出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

## 8. T66(第6図、第21図、第22図、第24図)

T66は2015(平成27)年度調査の土層と第1期調査の土層との対応関係の確認、第1期調査の平面図の修正、SB020周辺の遺構の確認を目的として、SB020の東側から北東側にかけて設定した、面積180m<sup>2</sup>の調査区である。当初は幅3mのトレンチをT56の北端からSB020に向かって延ばし、SB020の東端で北に直角に曲がりT58の南端に接するL字状のトレンチを設定していたが、指導委員会での指導を受け、SB020の東側の状況を確認できるように拡張した。

T66東区の堆積状況は六所脇地区南側の基本層序のとおりである。T66北区の北側は六所脇地区北側と宮の後地区の基本層序となる。T66東区では第2遺構面での遺構検出が上手くいかず、第3遺構面まで掘削して遺構検出を行った。T66北側では第3遺構面を第2遺構面と誤認したため、第3遺構面まで掘削して遺構検出を行った。T66西区は第1期調査で第3遺構面まで掘削されていた。結果として、全調査区で第3遺構面まで掘削することとなった。

検出遺構は、第1遺構面では、ピット164基、溝7条、土坑2基、焼土面6か所と検出し、第3遺構面では竪穴建物跡2か所、ピット351基、溝7条、焼土面1か所を検出した。主な遺構には7号竪穴建物跡、8号竪穴建物跡、SD054、88号溝、89号溝、SB019、26号建物跡、27号建物跡、28号建物跡、33号建物跡、34号建物跡、67号土坑、68号土坑がある。

遺物は耕作土からは古墳時代から近世までの遺物が出土した。9世紀中葉～11世紀前葉の土師器が多く、大型高台付坏(25-5～8)など特異な遺物も出土した。T66北区の礫層からは白磁の碗(25-9)が出土した。第1基盤層からは古墳時代～9世紀中葉の遺物が出土し、第2基盤層からは古墳時代～第1型式の遺物が出土した。

## 9. T67(第6図、第21図、第22図、第26図)

T67は出雲国庁の変遷を確認する目的で、SB020周辺に設置した。調査区の面積は170m<sup>2</sup>である。当初はSB020の未発掘箇所と27号建物跡の西側を予定していたが、指導委員会での指導を受け、SB020の第1期調査での調査箇所の再発掘も併せて実施した。

T67中央区の堆積状況は六所脇地区南側の基本層序のとおりである。T67北区の北側は六所脇地区北側と宮の後地区の基本層序となる。T67中央区と北区では第2遺構面まで掘削した。T67南区は第1期調査で第3遺構面まで掘削されていた。

検出遺構は、第1遺構面では、ピット83基、溝3条、土坑2基、焼土面2か所と検出し、第2遺構面ではピット82基、溝1条、土坑1基を検出した。主な遺構にはSB020、28号建物跡、32号建物跡がある。

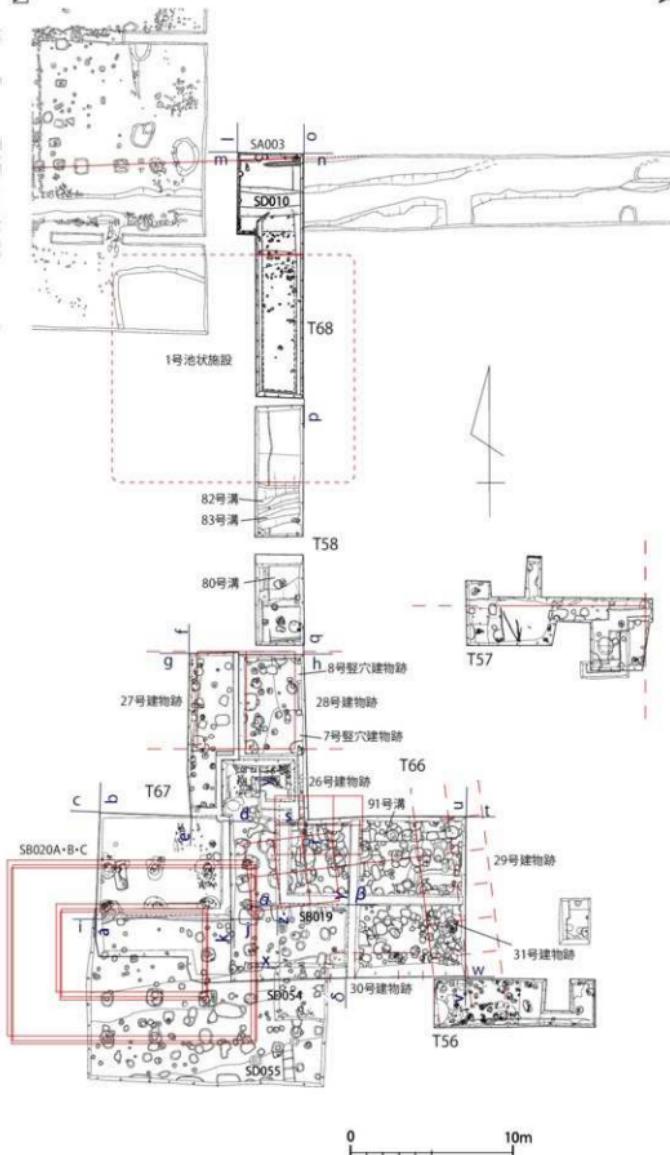
遺物は第1基盤層からは第1型式の須恵器、第9～10型式の土師器、石製紡錘車、鉄滓が出土した。第2基盤層からは古墳時代の須恵器や鉄滓が出土した。

## 10. T68(第6図、第21図、第23図、第27図)

宮の後地区での土地利用の変遷を確認する目的で、T58の北側に設置した。調査区の面積は50m<sup>2</sup>である。堆積状況は宮の後地区の基本層序のとおりである。掘削は第2遺構面まで行った。T58で確認した黒色土が中ほどまで広がる。

主な検出遺構にはT58から続く1号池状施設、第1期調査で検出されていたSA003のピットやSD010がある。

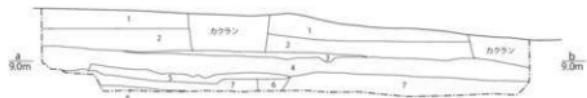
Y=85150

Y=85190  
X=-63090

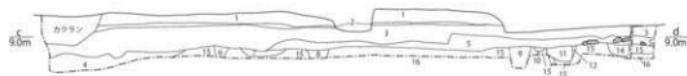
第2造構面と第3造構面に伴う造構のみ記載

第21図 T66・67・68実測図 (S= 1/300)

T67 中央区西壁セクション



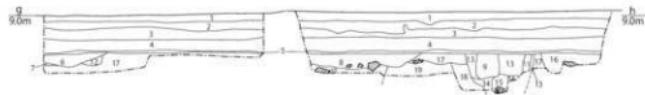
T67 中央区北壁セクション



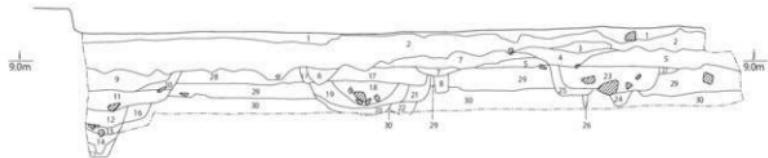
T67 北区西壁セクション



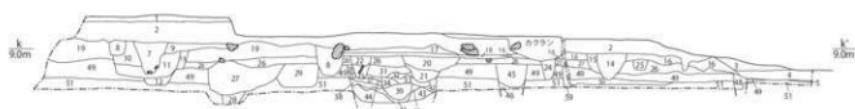
T66・T67 北区北壁セクション



T67 南区北壁セクション



T66 西区西壁セクション

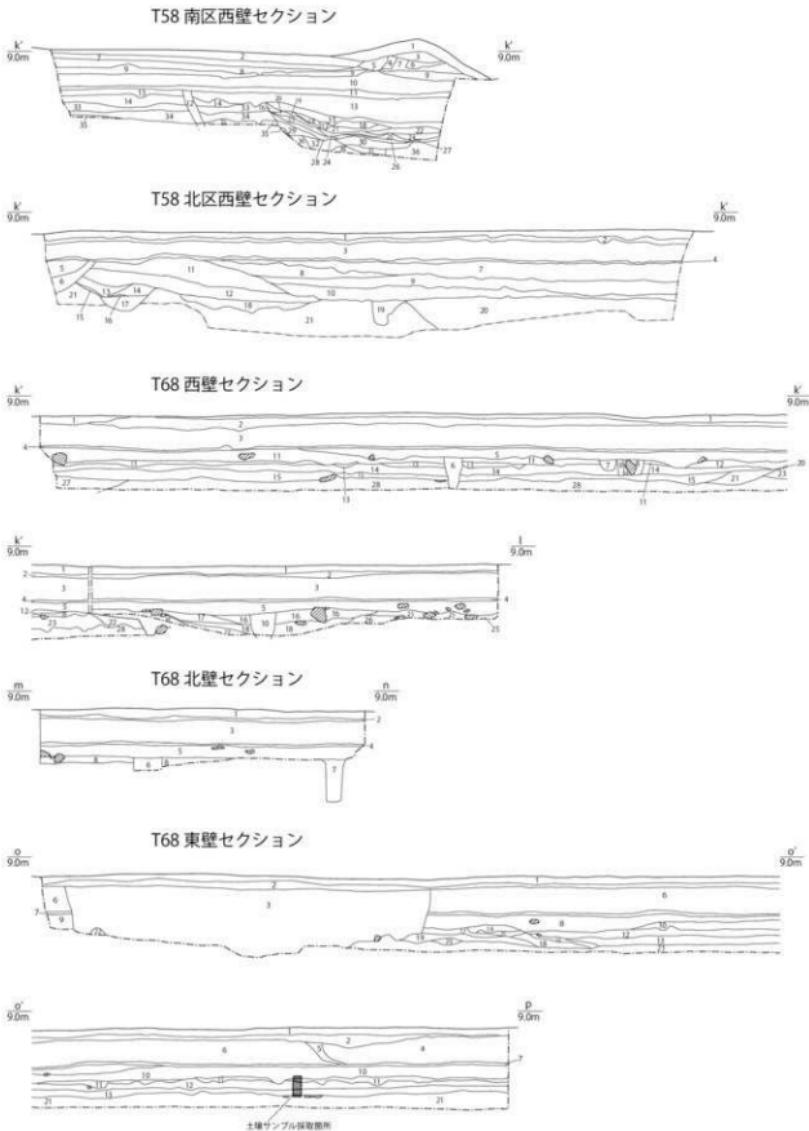


T66 北区西壁セクション



土層の説明は第18表に掲載

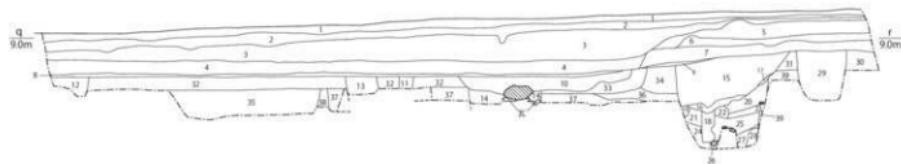
第22図 T66・T67 土層図 (S= 1/60)



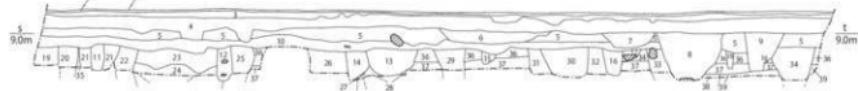
土層の説明は第 18 表に掲載

第 23 図 T58・T68 土層図 ( $S = 1/60$ )

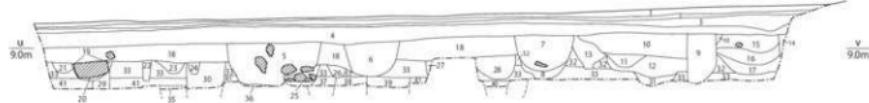
T66 北区東壁セクション



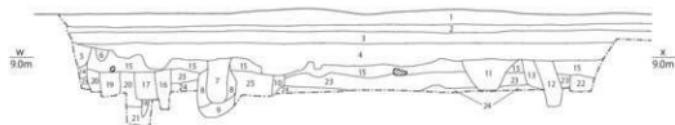
T66 東区北壁セクション



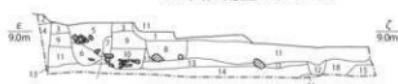
T66 東区東壁セクション



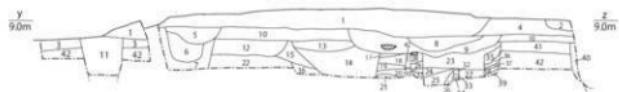
T66 東区南壁セクション



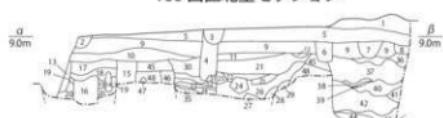
T66 西区南壁セクション



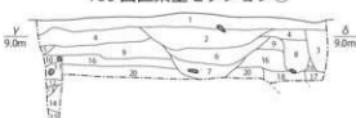
T66 西区東壁セクション①



T66 西区北壁セクション

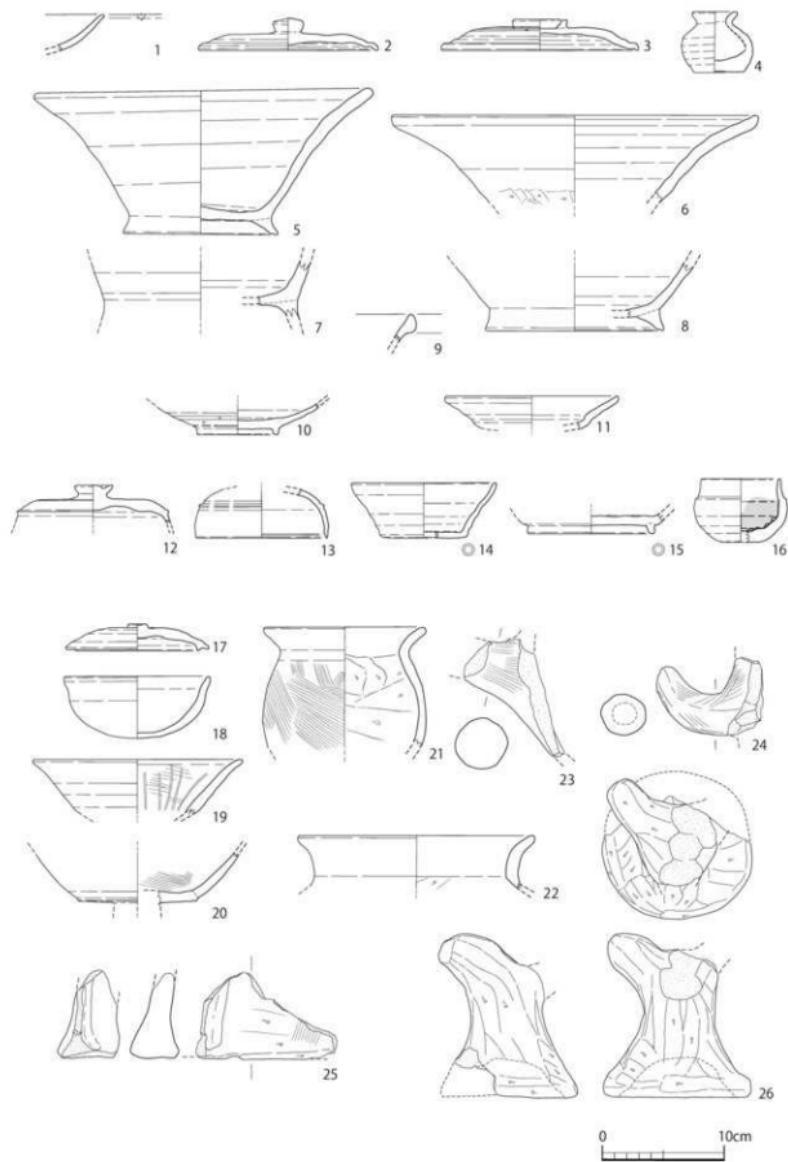


T66 西区東壁セクション②



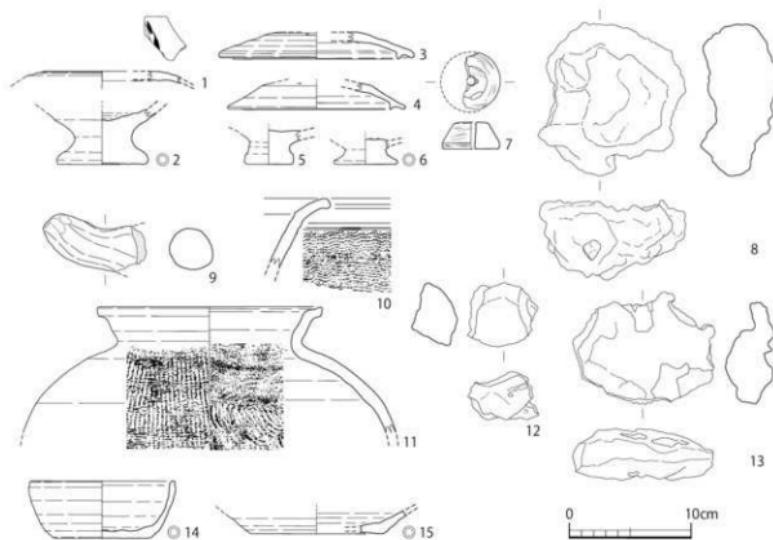
土層の説明は第18表に掲載

第24図 T66 土層図 (S=1/60)



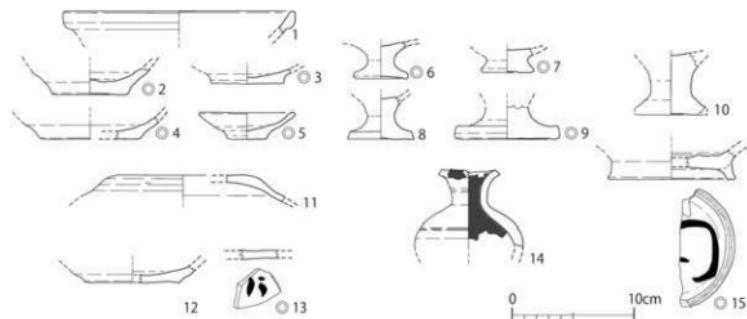
1～8は東区東壁4層（耕作土）、9は北区東壁8層（疊層）、10～12は東区東壁18層上面（第1遺構面）、13～17は東区東壁18層（第1基盤層）、18～26は東区東壁33層（第2基盤層）出土

第25図 T66出土遺物実測図 (S= 1/4)



1は南区北壁2層(耕作土)、2は北区西12層(礫層)、3～8.13は南区北壁5層(第1基盤層)、  
9～12は南区北壁29層(第2基盤層)、14は10号柵列P4から出土

第26図 T67出土遺物実測図 (S=1/4)



1～10は西壁4層(礫層)、11～13は西壁24層上面、14はSA003Pit01、  
15は第1期調査埋め戻し土出土

第27図 T68出土遺物実測図 (S=1/4)

#### 第4節 第3遺構面に伴う遺構と遺物

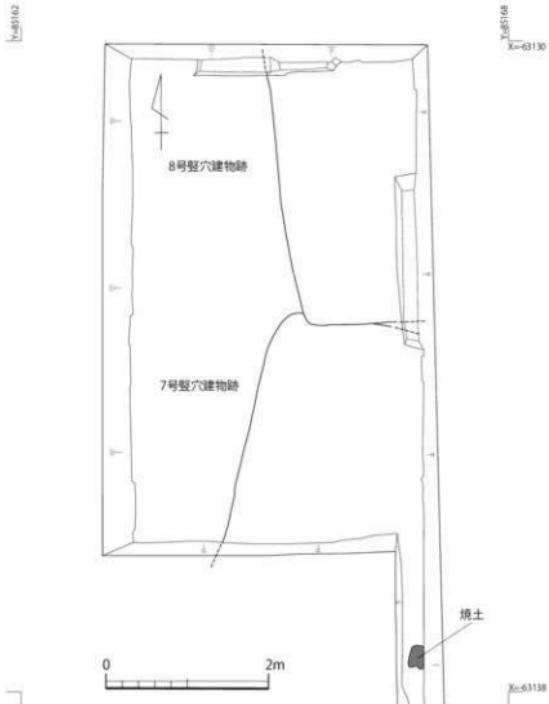
第3遺構面には古墳時代の遺構が伴う。今回の調査では竪穴建物跡2棟と溝2条を検出した。

##### 7号竪穴建物跡（第28図、第29図）

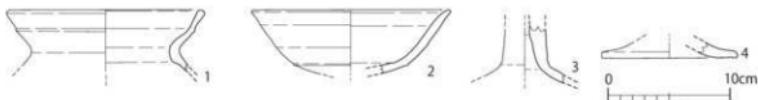
T66北区で検出した隅丸方形の竪穴建物跡で、一辺2.9m以上である。北側の壁はサブレンチで確認したが、南側は26号建物跡の柱穴が重複し確認できなかった。第3遺構面から0.3m掘り込んでいる。南側の焼土は7号竪穴建物跡に伴う可能性がある。8号竪穴建物跡と重複し、7号竪穴建物跡が先行する。出雲1期併行の土師器が出土しており、6世紀前葉の遺構と考えられる。

##### 8号竪穴建物跡（第28図、第29図）

T66北区で検出した隅丸方形の竪穴建物跡で、一辺3.3m以上である。サブレンチで壁を確認した。第3遺構面から0.3m掘り込んでいる。古墳時代中期の土師器が出土している。



第28図 7号竪穴建物跡・8号竪穴建物跡実測図 (S= 1/60)

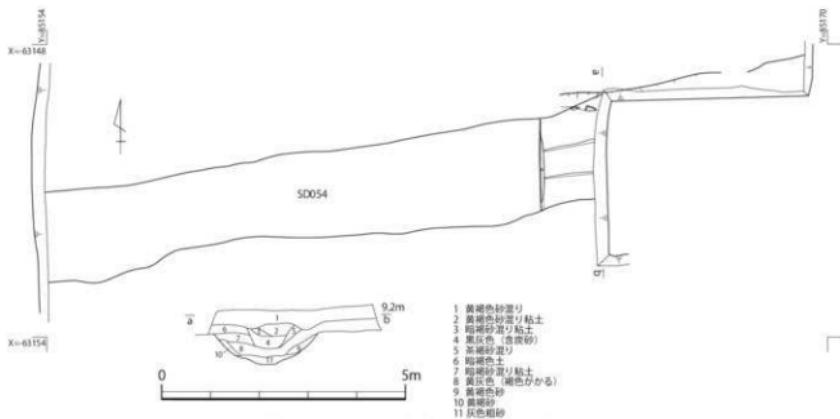


1は7号竪穴建物跡、2～4は8号竪穴建物跡出土

第29図 7号竪穴建物跡・8号竪穴建物跡出土遺物実測図 (S= 1/4)

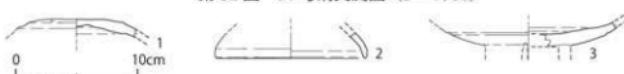
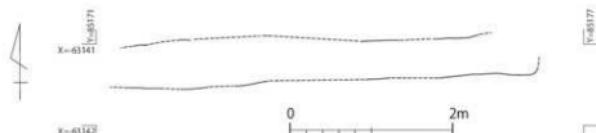
## SD054（第30図、第31図）

T66 西区の南端で検出した溝である。第1期調査で確認されており、主軸は西に傾く。幅は2.8m以上で、深さ0.6～0.7mを測り、断面は逆台形状を呈する。古墳時代前末葉から中期前葉とされる遺構で、今回の調査では東側の続きを検出し、北側の上端を確認した。T66 東区では続きを検出できなかった。松山二期（新）の土師器の直口壺が出土した。



## 91号溝（第32図、第33図）

T66 東区北側で検出した東西に延びる溝で、主軸は正方位を向き、幅は0.4～0.6mで、長さは5.1m以上である。34号建物跡の柱掘方と重複し、91号溝が先行する。出雲5期の須恵器が出土したことから、7世紀前葉の遺構と考えられる。

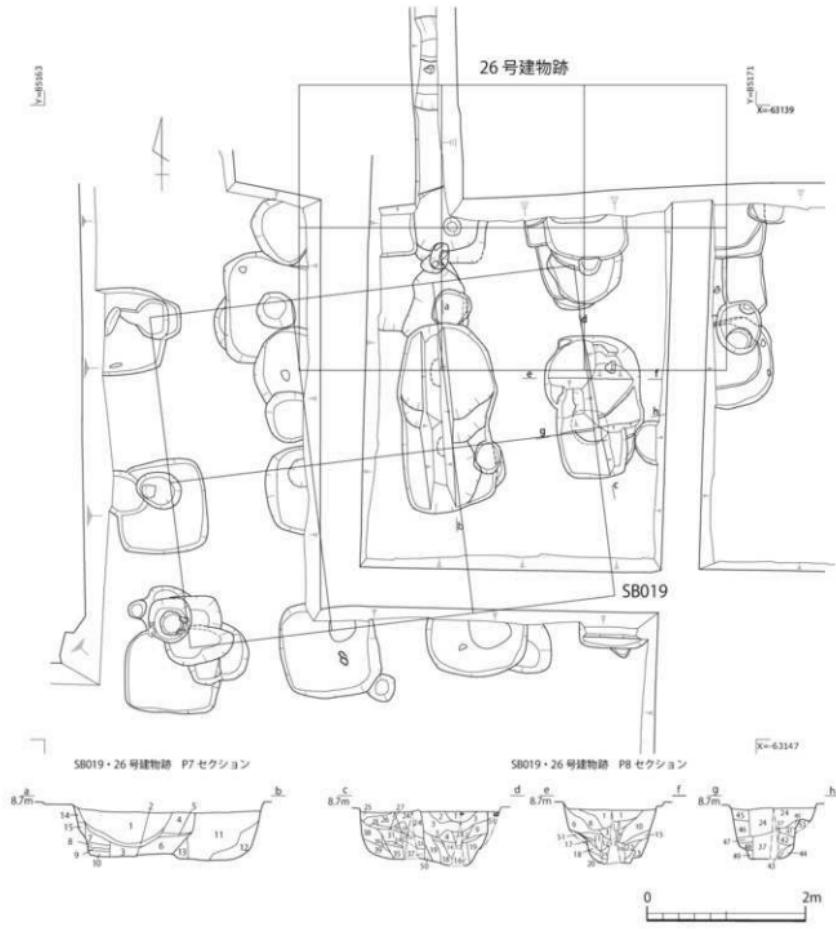


## 第5節 第2遺構面に伴う遺構と遺物

第2遺構面では建物跡8棟、溝6条、柵列跡2列、池状施設1箇所、土坑2基を検出した。第2遺構面には概ね7世紀後葉～9世紀前葉までの遺構が伴うが、T58南区、T66北区、T67北区では、第1基盤層がないため、9世紀中葉以降の遺構も第2遺構面で検出した。

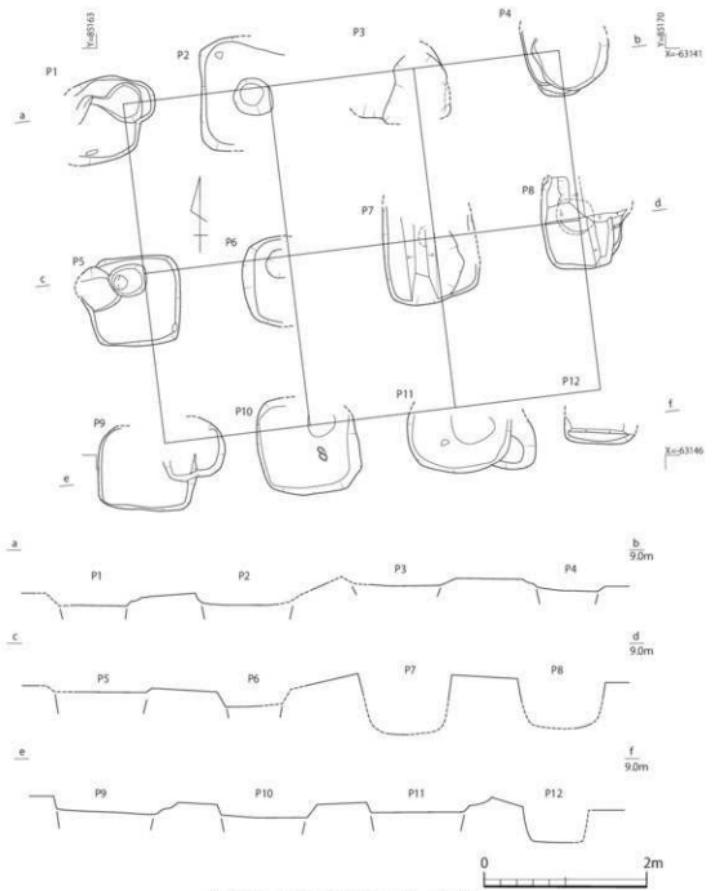
## SB019（第34図、第35図、第36図）

T66東区と西区で検出した、桁行3間×梁行2間の総柱の掘立柱建物跡である。第1期調査で南西側が検出されていた。主軸は西へ傾く。規模は5.4m×4.2m、柱間は桁行1.8m(6尺)、梁行2.1m(7尺)である。P7、P8、P10、P11で柱痕跡や柱の当たりを検出し、『総括報告書』で想定され

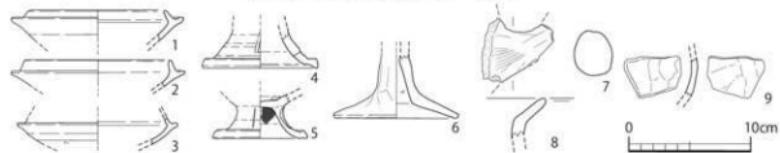


第34図 SB019・26号建物跡実測図 (S=1/60)

た梁行の柱間を修正した。柱掘方は1辺1m前後で、第2造構面から深さ0.7~0.8m掘られ、掘方の底面は標高8.0m前後となる。SB020や26号建物跡と重複する。先後関係はいずれもSB019が先行する。26号建物跡との重複関係等を確認するため、P7は中心をトレンチ掘削し、P8は2か所1/4截した。またP12は柱掘方の状況確認のため検出部分を底面まで掘削した。遺物は柱掘方から出雲4期や5期の須恵器の环身や、出雲6b.c期の須恵器が出土した。またP11から採取し



第35図 SB019実測図 (S=1/60)



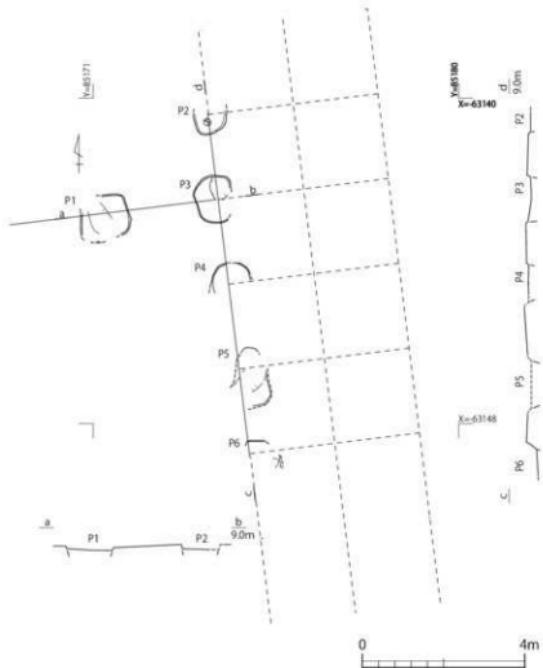
第36図 SB019出土遺物実測図 (S=1/4)

た炭化物は年代測定で 346 ~ 425 年の年代値を示した。これらの遺物は柱掘を埋め戻す際に第 2 基盤層や第 3 基盤層の遺物が混入したものと考えられる。

### 29号建物跡（第37図、第38図）

T66 東区の SB019 から 5.4m 西側に位置する。桁行 4 間以上の掘立柱建物跡と判断したが、調査区内では東側に対応する柱列を確認しておらず、掘立柱塀の可能性もある。SB019 と主軸を同じくし西に傾く。規模は桁行 9.6m 以上である。柱間は桁行 2.4m (8 尺) である。SB019 との間に位置する P1 は、SB019 と 29 号建物跡を繋ぐ掘立柱塀の柱穴の可能性が考えられる。SB019 の P8 と 29 号建物跡の P1 と P3 の柱間は 2.7m (9 尺) である。

遺物は段下げの際、出雲 4 期の須恵器などが出土した。また、P2、P3、P5 から採取した炭化物は年代測定で 5 世紀前葉～7 世紀中葉までの年代値を示した。P1 からも炭化物を採取し年代測定を行ったが、134 年～318 年という年代値が示された。大幅に年代が遡ることから、この炭化物は混入品と考えられる。



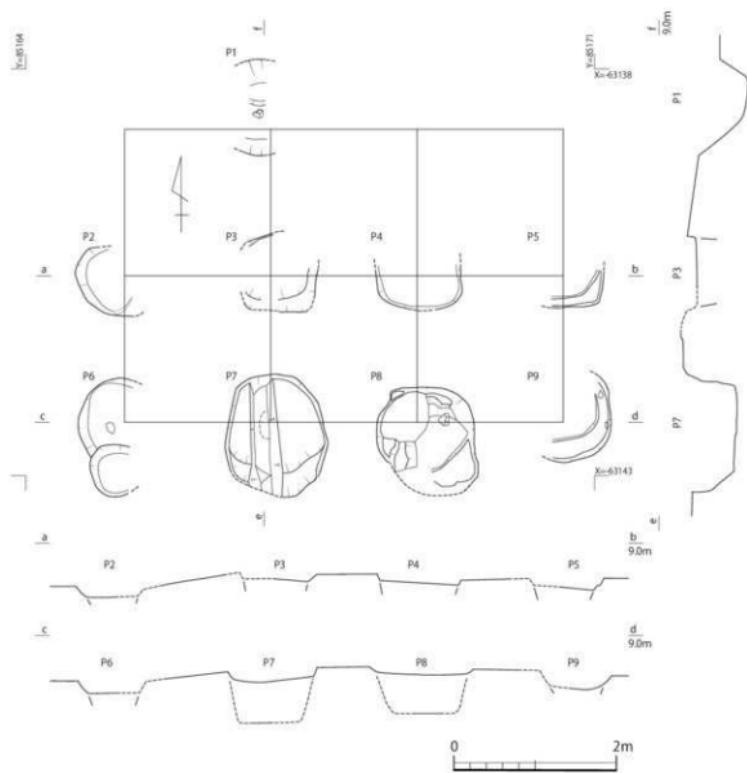
第37図 29号建物跡実測図 (S= 1/120)



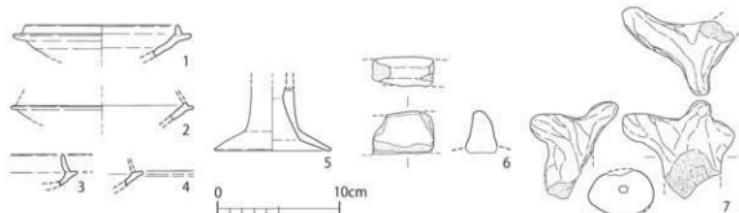
第38図 29号建物跡出土遺物実測図 (S= 1/4)

## 26号建物跡(第34図、第39図、第40図)

T66東区と西区で検出した、桁行3間×梁行2間の総柱の掘立柱建物跡である。主軸は正方位を向く。SBO19の北東に位置し、規模は5.4m × 3.6m、柱間は桁行1.8m(6尺)、梁行1.8m(6尺)である。柱掘方は一辺1m前後で、第2遺構面から深さ0.7m程度掘られている。SBO19とは南西側が重複し、先後関係は26号建物跡が新しい。26号建物跡との重複関係等を確認するため、



第39図 26号建物跡実測図 (S=1/60)

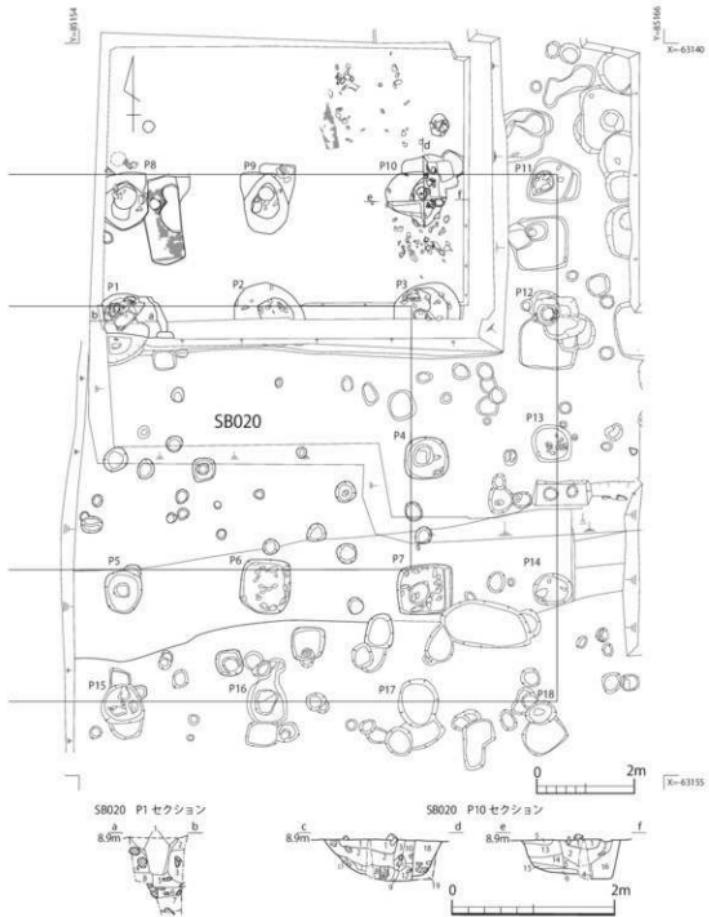


第40図 26号建物跡出土遺物実測図 (S=1/4)

P7は2か所1/4截し、P8は中心をトレンチ掘削した。柱掘方から出雲3～5期の須恵器などが出土した。また、P5から採取した炭化物は年代測定で426～545年の年代値を示した。

#### SB020（第41図）

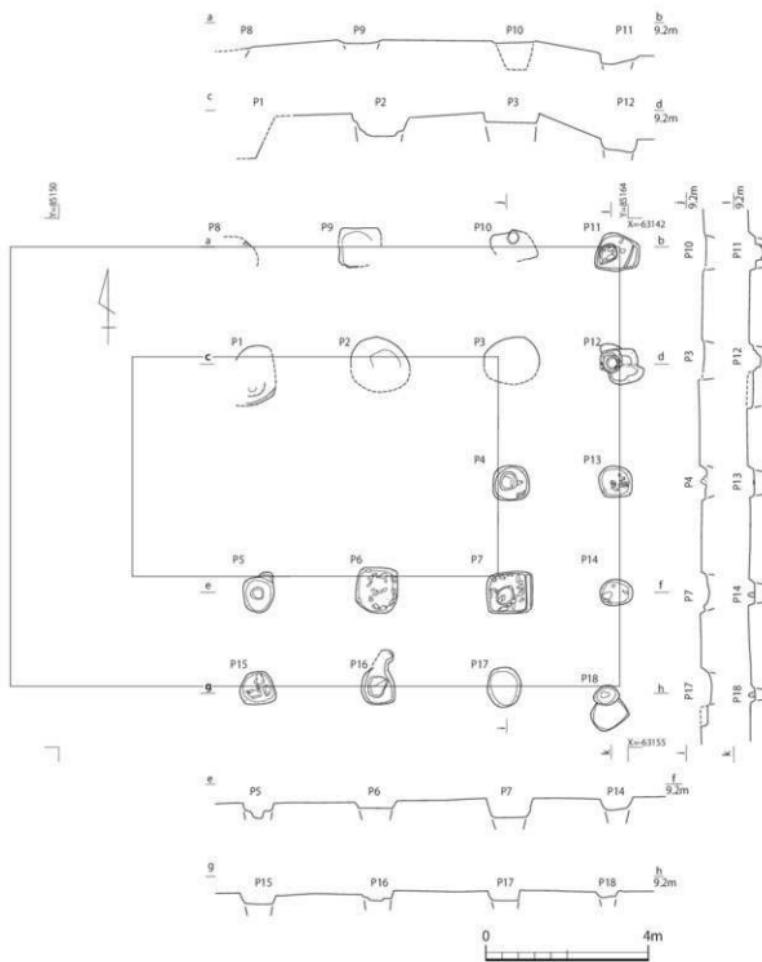
T67中央区と南区、T66西区で検出した四面廻付建物跡である。第1期調査で南側と西側が検出されていた。掘立柱建物から掘立柱建物への建て替え1回が想定されていたが、今回の調査で掘立柱建物から礎石建物への建て替えも行われたことを確認した。それぞれSB020A（掘立柱建物跡）、SB020B（掘立柱建物跡）、SB020C（礎石建物跡）と呼称する。検出した遺構のうち、P1は北側を1/4截して南側を半截し、P10は2か所1/4截した。



土層の説明は第18表に掲載

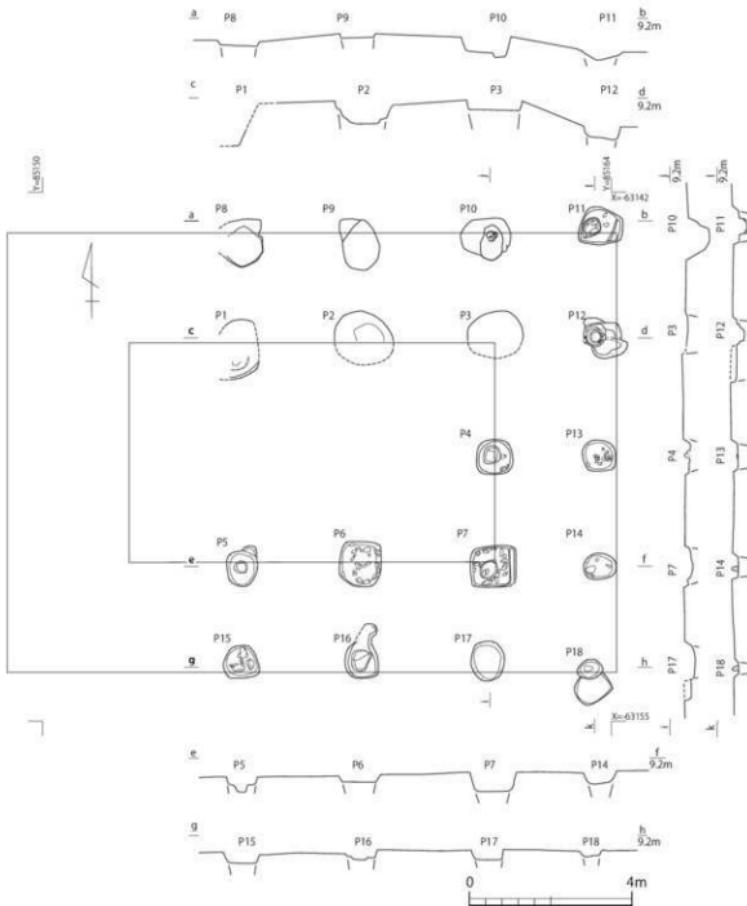
第41図 T67中央区 第2遺構面検出遺構実測図（平面図はS=1/100、土層図はS=1/60）

SB020A(第42図):掘立柱建物で主軸は正方位を向く。身倉が3間×2間で、規模は9.0m×6.0m、柱間は桁梁とともに3.0m(10尺)である。廂の出について『総括報告書』では2.85m(9.5尺)としたが、T67中央区での検出状況から2.7m(9尺)と判断した。柱掘方は検出できたが、抜き取り穴はSB020Bの柱掘方や抜き取り穴により失われたと考えられる。



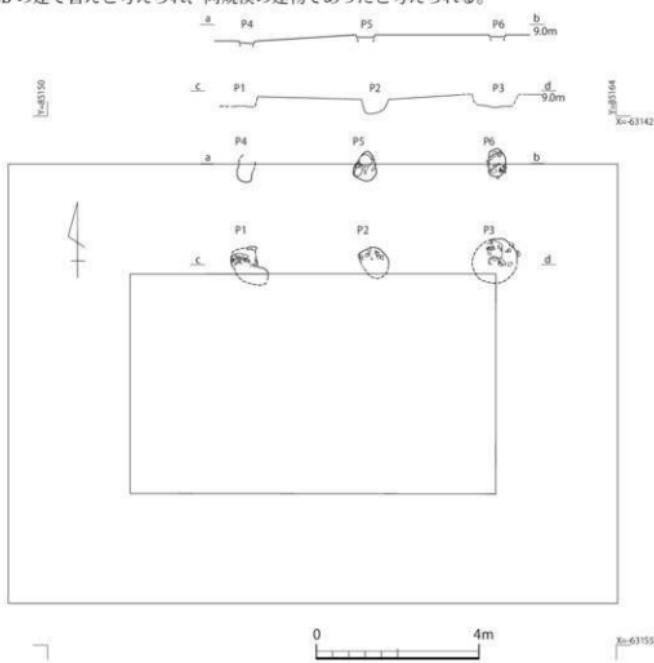
第42図 SB020A 実測図 (S= 1/120)

SB020(第43図、第44図)：掘立柱建物跡で、身舎は3間×2間で、規模は9.0m×6.0m、柱間は桁梁とともに3.0m(10尺)である。『総括報告書』の記載どおり、身舎の規模や柱間は同じで、廂の出については南北に2.4m(8尺)、東西に2.7m(9尺)となる。P10でヒノキ材の柱根が出土した。年代測定を実施したところ、427～567年の年代が示された。遺物はP1とP11から須恵器が出土した。第2基盤層からの混入と考えられる。

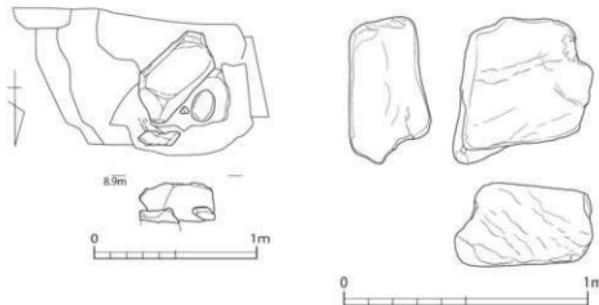
第43図 SB020B 実測図 ( $S=1/120$ )第44図 SB020 出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

1はP1、2はP10出土

SB020C(第45図、第46図)：礎石建物跡で主軸は正方位を向く。T67中央区でのみ検出しており、建物跡の北側しか確認できていない。P1では礎石と考えられる流紋岩(大きさは70cm×70cm×30cm、重さが91.76kg)が落とし込まれた状況で出土し、P1、2～6では根石の一部か地盤強化の造作と考えられる礎が出土していることから、SB020Cを礎石建物跡と判断した。身舎は桁行2間以上で、規模は6.0m以上、柱間は3.0m(10尺)である。廟は北に2.4m(8尺)出ている。SB020Bの建て替えと考えられ、同規模の建物であったと考えられる。



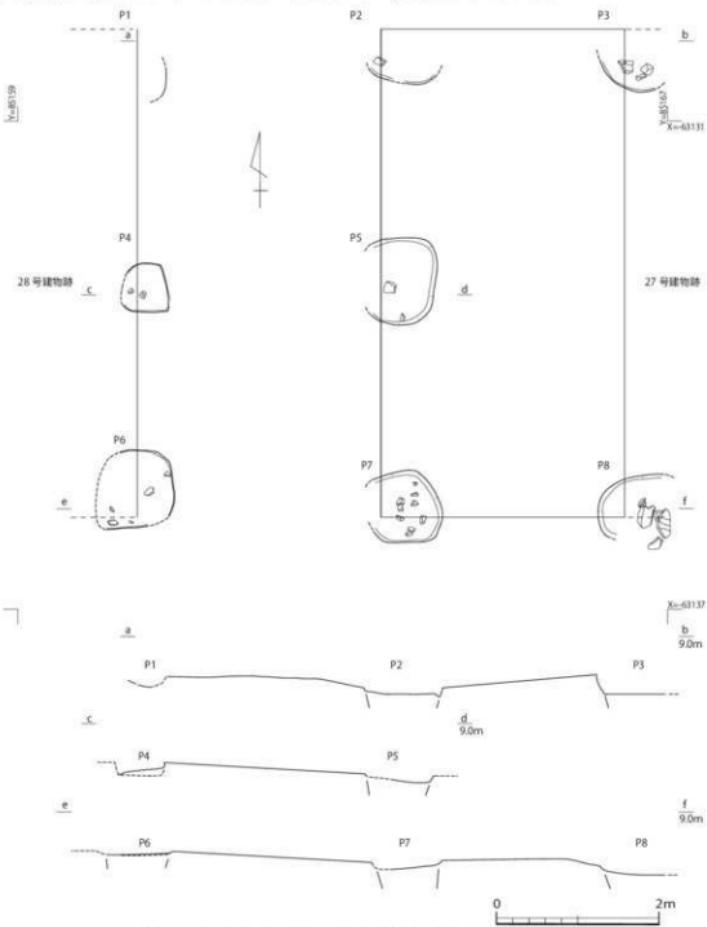
第45図 SB020C 実測図 (S=1/120)



第46図 磚石の出土状況と実測図(出土状況はS=1/30、実測図はS=1/20)

## 27号建物跡・28号建物跡（第47図、第48図）

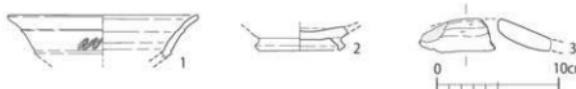
27号建物跡はT66北区で検出した2間以上×2間の礎石建物跡で、主軸は正方位を向く。SB020の東側の廻の柱列と27号建物の東側の柱列は同一線上にある。67号土坑、68号土坑と重複関係にあり、27号建物跡が先行する。各ピットには直径が10～30cmの礎が含まれており、礎石建物の地盤強化と判断した。規模は3m以上×6mで、柱間は桁行3m(10尺)、梁行3m(10尺)である。P7を1/4截し、第2遺構から65cmまで掘削していることと、掘立柱建物からの建て替えがないことを確認した。P5から出雲国分寺3型式の軒丸瓦が出土しており、8世紀後葉以降に築造されたと考えられる。581年～649年という年代値が示された炭化物や、古墳時代や第1型式の須恵器が出土したが、これらは第2基盤層からの混入品と考えられる。



第47図 27号建物跡・28号建物跡実測図 (S=1/60)

28号建物跡は27号建物跡の西側に位置する1間以上×2間の礎石建物跡で、主軸は正方位を向く。95号溝と重複関係にあり、28号建物跡が先行する。27号建物跡と同様に各ピットには直径が10~15cmの礫が含まれており、礎石建物の地盤強化と判断した。規模は3m以上×6mで、柱間は桁行3m(10尺)、梁行3m(10尺)である。95号溝で各ピットの断面が観察でき、第2遣構から深さ16cmまで掘削していることを確認した。

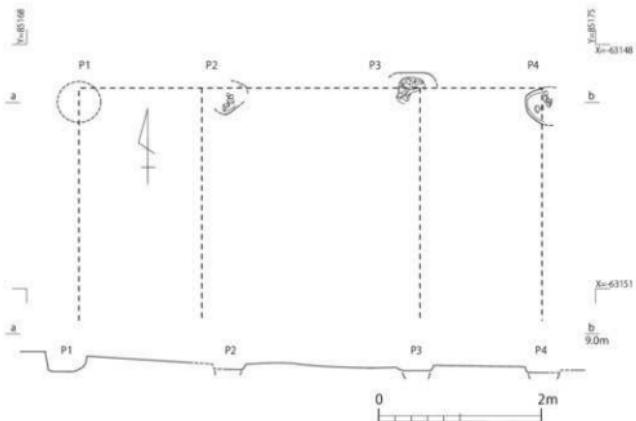
27号建物跡と28号建物跡は遺構底面の標高に50cmの差があることから、別の遣構と判断した。しかし、両遣構は3m(10尺)の離れた位置で、南北の柱列は揃えて東西に並ぶことから、同一の建物跡の可能性も考えられる。その場合、4間以上×2間以上の礎石建物跡となる。



第48図 27号建物跡出土物実測図 (S=1/4)

### 30号建物跡 (第49図)

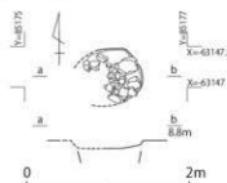
T66東区の南端で検出した礎石建物跡である。主軸は正方位を向く。各ピットで礎石は確認できなかったが、根石を検出した。P1の根石についてはT66西区の西壁土層で確認した。東西に廂を持つ建物の可能性が考えられる。その場合、身舎は梁行1間で、柱間は3.0m(10尺)で、廂の出は1.5m(5尺)と想定される。



第49図 30号建物跡実測図 (S=1/60)

### 31号建物跡 (第50図)

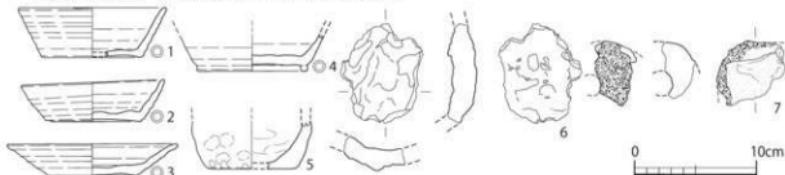
T66東区の南東側で検出した礎石建物跡である。一辺0.6m前後の歪な隅丸方形のピットに根石が充填された遺構が1箇所のみで、調査区内で関連する遺構は検出できなかった。



第50図 31号建物跡実測図 (S=1/60)

## 79号溝（第8図、第51図）

T56で検出した南北に延びる溝で正方位を向く。幅は1.3m、長さは3m以上、第2遺構面からの深さは0.18mで、底面の標高8.65mを測る。遺物は第6型式の須恵器や第6～7型式の土師器が出土した。この他に鉄滓や羽口が出土した。



第51図 79号溝出土遺物実測図 (S= 1/4)

## 80号溝（第52図、第53図）

T58南区で検出した溝跡である。調査区内では主軸は正方位を向く。南側の上端は検出できたが、北側の上端は史跡公園の復元水路が設置されているため検出できなかった。幅は2.2m以上、第2遺構面からの深さは0.7mを測る。西側が69号土坑と重複し、先後関係は80号溝が先行する。東側に位置するT57では検出できなかったため、T57とT58の中間に止まるか屈曲するものと考えられる。

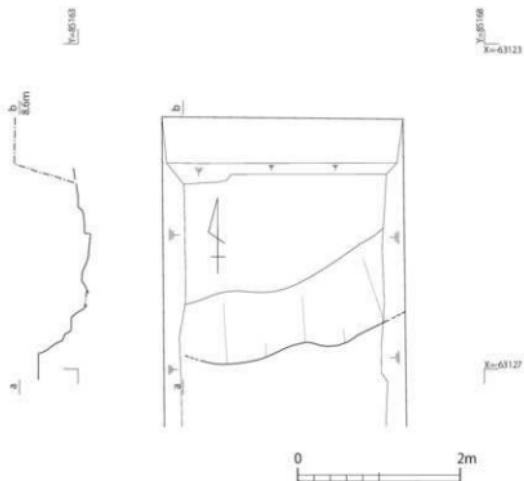
遺構埋土のうち、22層からは第5～6型式の須恵器や土師器、鉄滓や羽口が出土した。28層からは第5型式の須恵器が出土し、26層からは第5型式の土師器と須恵器が出土し、30層からは第3型式の須恵器の長頸壺が出土した。また、25層と26層からは、焦げ跡のある木片が大量に出土した。木片の年代

測定を行ったところ 775

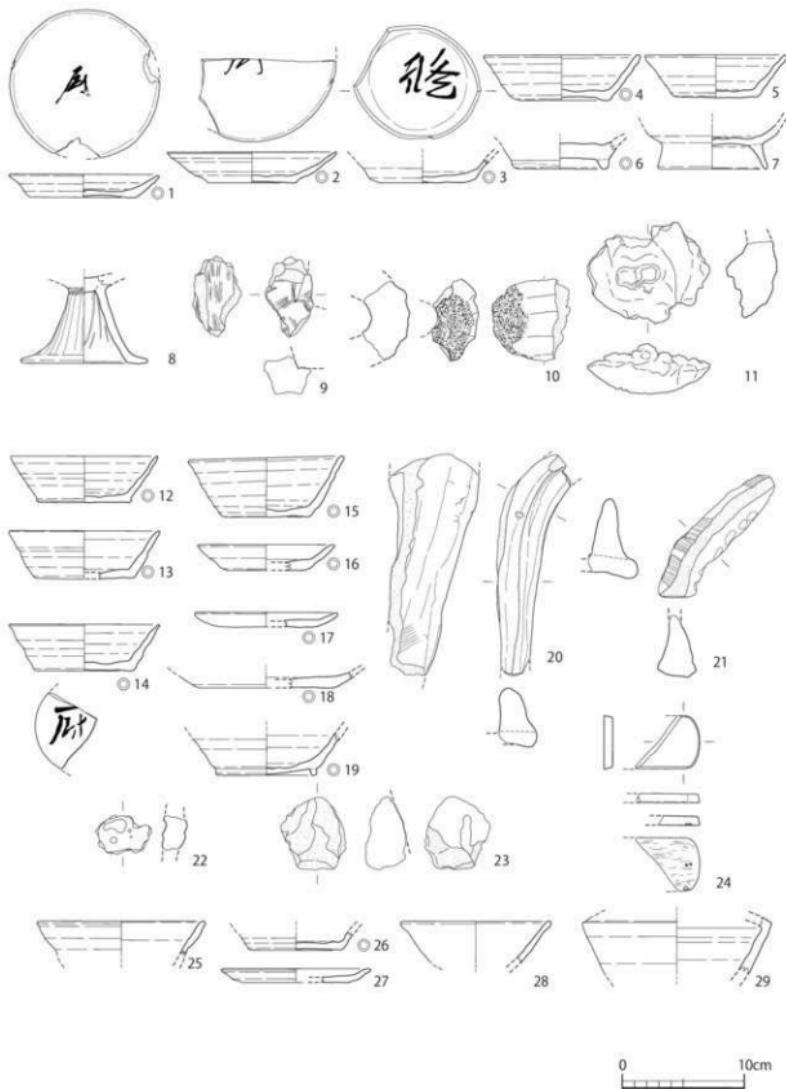
～887年という年代が示

された。

出土遺物と69号土坑に先行することから、8世紀第2四半期には機能しており、8世紀第4四半期～9世紀前葉にはほぼ埋まった状態にあり大量の木片が廃棄され、9世紀中葉には埋められていたと考えられる。



第52図 80号溝実測図 (S= 1/60)

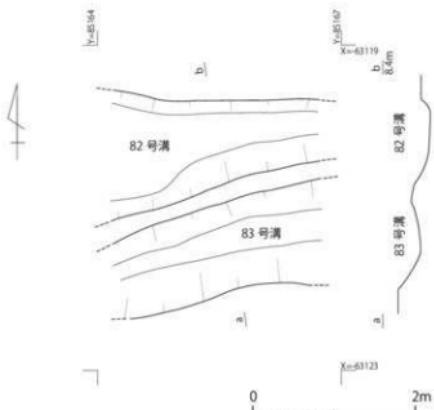
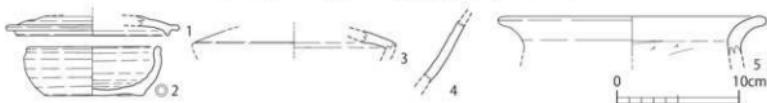


1~11は22層、12~24は26層、25~28は28層、29は30層出土

第53図 80号溝出土遺物実測図 (S=1/4)

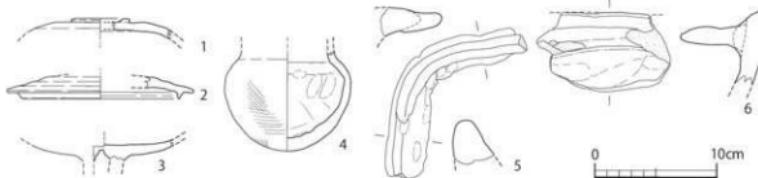
## 82号溝（第54図、第55図）

T58北区の南側で検出した溝跡である。1号池状施設と重複しており、先後関係は82号溝が先行する。幅は1.6～0.8mを測る。上側を1号池状施設に削平されており、深さ20cm程度が残る。主軸は、北側は正方位を向き、南側は西に傾いており、判然としない。断面は凹レンズ状を呈する。埋土からは、第1型式や第2型式の須恵器などが出土した。

第54図 82号溝・83号溝実測図 ( $S=1/120$ )第55図 82号溝出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

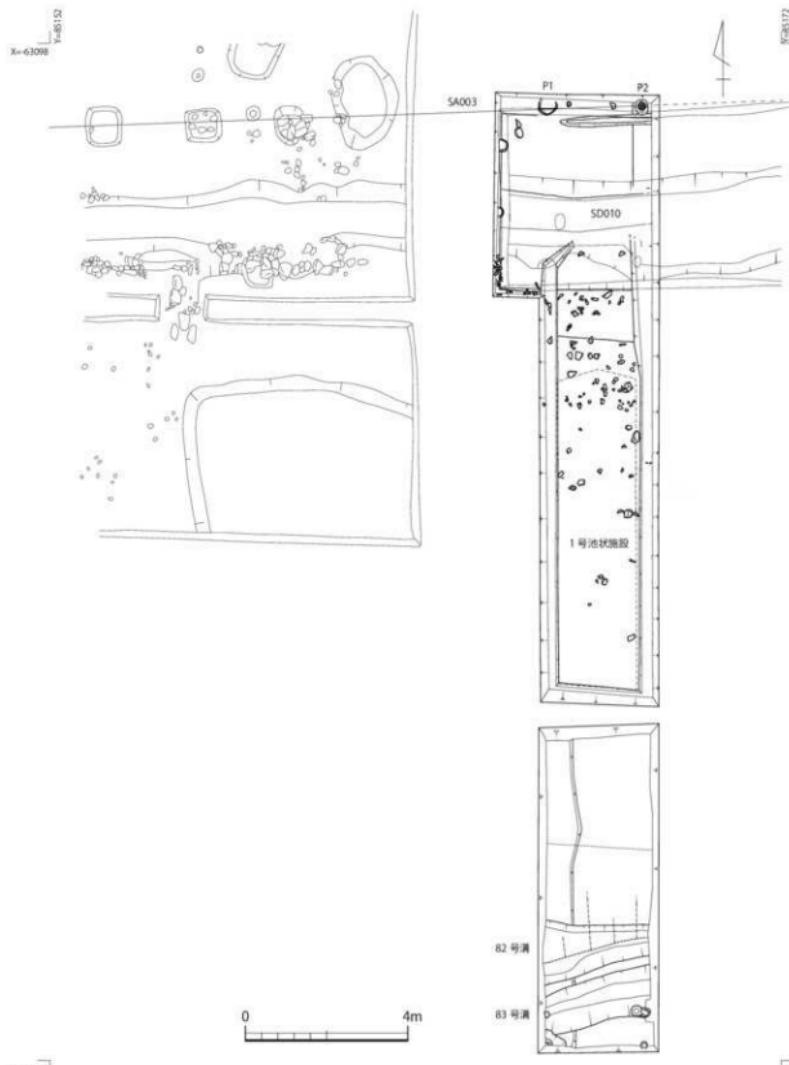
## 83号溝（第54図、第56図）

T58北区の南側で検出した溝跡である。83号溝の南側に位置する。1号池状施設と重複しており、先後関係は83号溝が先行する。幅は1m前後を測る。上側を1号池状施設に削平されており、深さ40cm程度が残る。主軸は、北側は西に傾き、南側はほぼ正方位を向いており、判然としない。断面は凹レンズ状を呈する。埋土からは、第1型式や第2型式の須恵器などが出土した。

第56図 83号溝出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

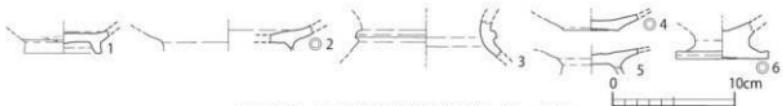
## SD010(第57図、第58図)

T68の北側で検出した東西に延びる溝で、主軸は正方位を向く。第1期調査で検出されており、東西140m以上で、1.2~2.8m、深さ0.3mの溝である。T68で検出した部分の大半は再検出で、西端のみ新たに検出した。



第57図 SD010、SA003、1号池状施設実測図 (S= 1/120)

埋土は上層（第23図T68西壁セクション16層）と下層（同図18層）に分かれる。これまでの調査では第1～5型式の須恵器・土師器、白磁皿II類などが出土している。今回の調査では下層からは時期が特定できる遺物は出土しなかったが、上層からは白磁II類の広東系の碗など（58-1～6）が出土しており、同じ位置で修繕しながら12世紀代まで存続したと考えられる。



第58図 SD010出土遺物実測図 (S= 1/4)

### SA003（第57図、第59図）

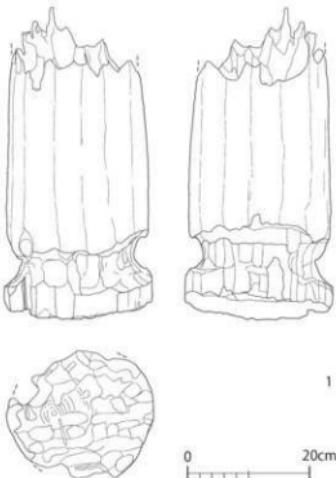
T68北端で検出した東西に並ぶ2基のピットで、主軸は正方位を向き、SD010に平行して並ぶ。第1期調査で検出されたSA003の東側の延長線上に並ぶことからSA003を構成する柱穴と判断した。SA003はSD010の北側を1.4～2.0mで平行して並び、検出された柱穴は19基で、長さは48m以上、柱間は2.4m（8尺）である。第2期調査の第52トレンチで再発掘されている。P1からは内面に漆の付着した甌（27-14）が出土した。またP2では柱根（59-1）が出土した。柱根は直径24cmで、下方に深さ12cm前後のエグリが加工してある。樹種同定ではヒノキ属と同定され、AMS年代測定では421～541年の年代が示され、酸素同位体年輪年代測定では534年という年代が示された（註1）。

### 1号池状施設（第57図、第60図～第63図）

T58北区とT68に位置する。底面で南北14mを測る。主軸は南北両辺とも正方位を向く。82号溝と83号溝と重複し、先後関係は1号池状施設が先行する。北側と南側に土手状の盛土がある。北側の盛土は高さ26cmで、南側の盛土は高さ47cmである。T68では底面に長径10cm程度の石が敷き詰められてた。T58北区では底面に石は散在していたが、敷き詰められた状況は確認できなかつた。底面から20cmの厚さで水性堆積の粘質土（第23図T68西壁セクション13～15層）が堆積する。その上には人為的に埋められた黒色土（同図11層）や黒褐色土（同図5層）が広がる。

遺物は、池状施設の堆積土と黒色土から多量に出土した。1号池状施設の築造時の遺物としては南側の土手状盛土内から第4型式の須恵器（60-31）が出土した。内面に漆が付着しており、パレットとして使用されたものと考えられる。1号池状施設内の堆積土では、下層（同図15層）から出雲4期～第5型式の須恵器、第6型式の土師器、縁釉陶器が出土し、上層（同図14層）からは第3～9型式の土師器や須恵器や縁釉陶器が出土した。

黒色土からは水性堆積土よりも多量の遺物が出土しており、T58北区のみでも底部を集計して

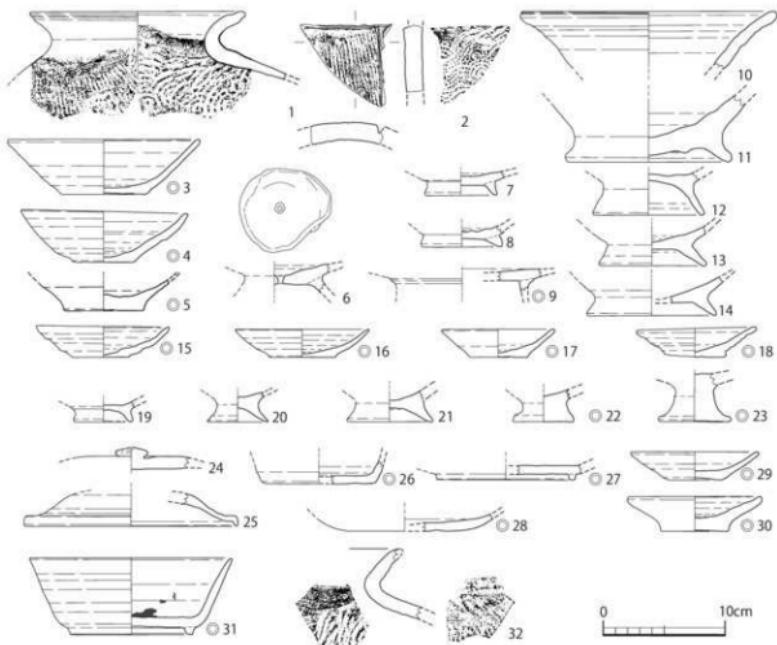


第59図 SA003出土柱根実測図 (S= 1/8)

の復元推定で 1000 個体以上の土器が出土した。出土品は第 8 ~ 9 型式の土師器の環・皿類が大半を占める。

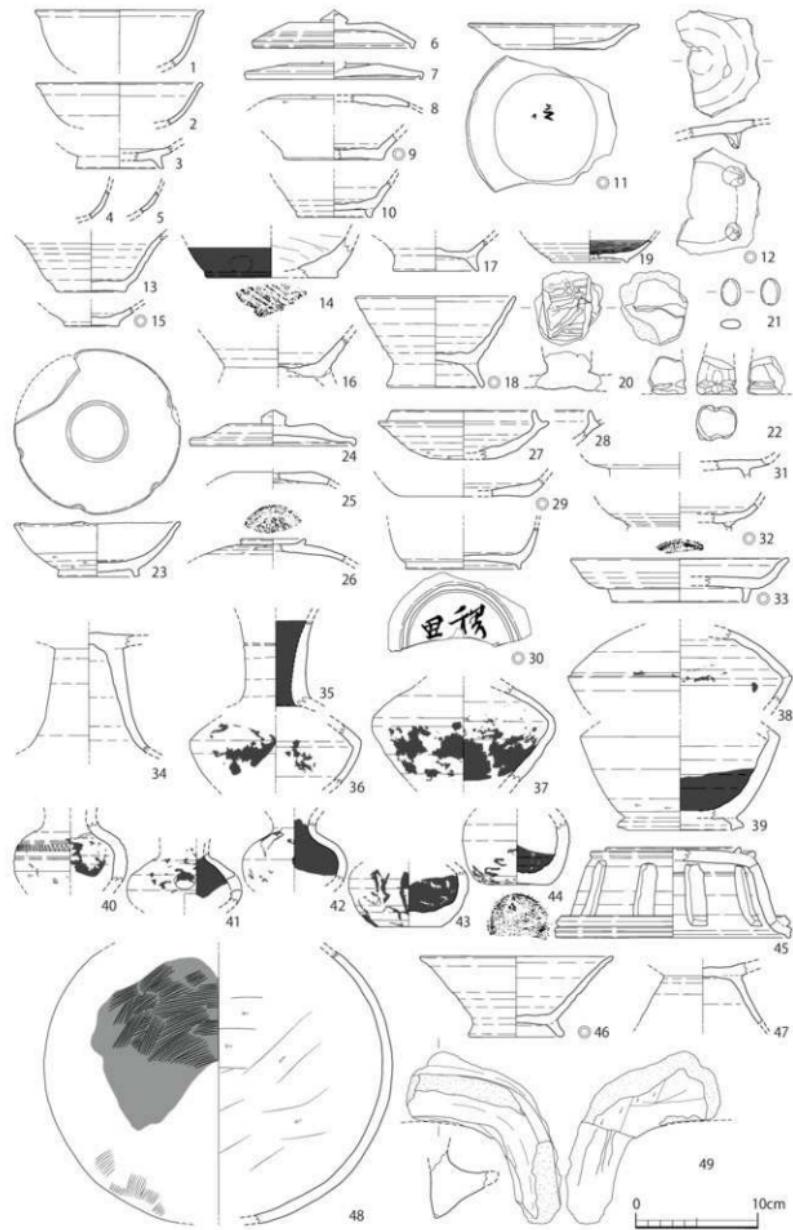
黒色土から採取した炭化物を AMS 年代測定したところ、904 ~ 1023 年という年代が示された。また、花粉分析では下層（第 23 図 T68 東壁セクション 15 層）ではヨシが多く分布し、上層（同図 14 層）ではガマ類が繁茂していたと復元がされた。

以上のことから、1 号池状施設は 8 世紀第 2 四半期には築造され、10 世紀前半には下層が形成されヨシが繁茂し、11 世紀後半までには上層が形成されガマ類が繁茂し、11 世紀後半には黒色土で埋め立てられたと考えられる。また、西側で正方位の土坑が第 1 期調査で検出されているが、北辺が 1 号池状施設の北辺の延長線上にあることから、1 号池状施設の西北隅である可能性も考えられる。



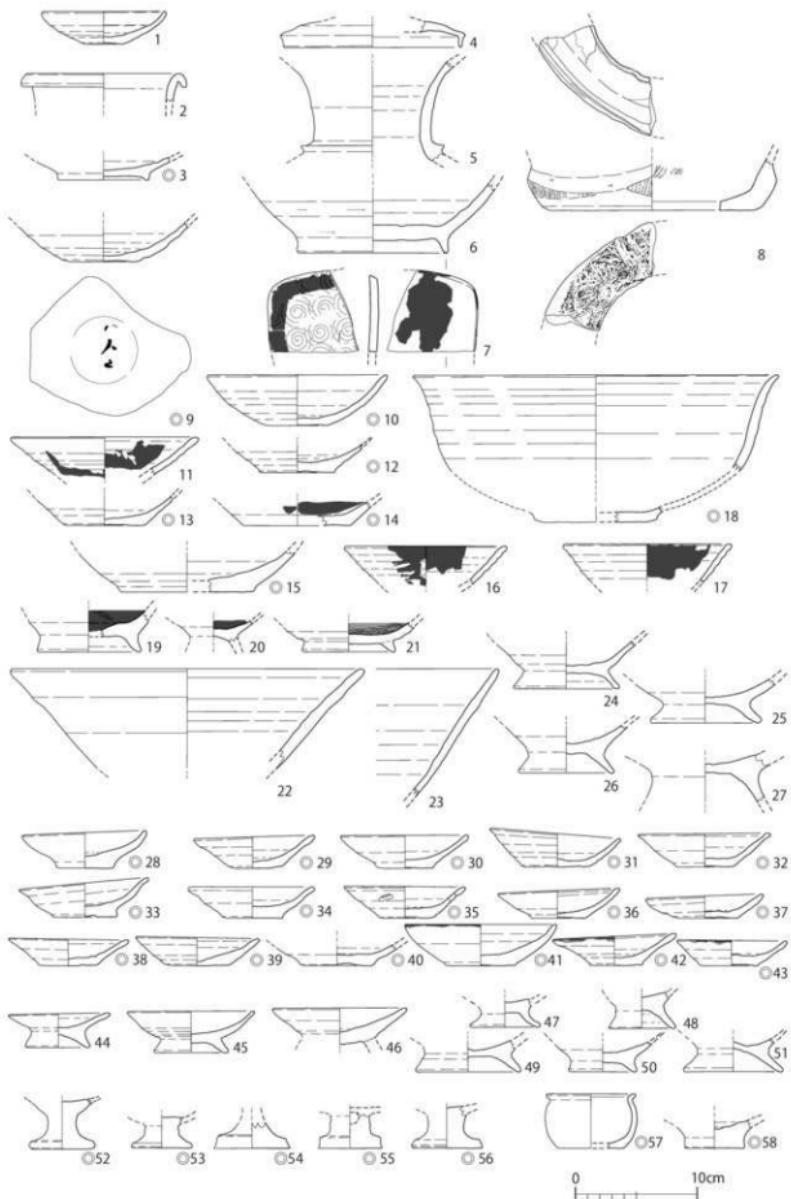
1 ~ 23 は西壁 14 層、24 ~ 30 は西壁 15 層、31 は西壁 23 層、32 は西壁 28 層出土。

第 60 図 1 号池状施設 (T68) 出土遺物実測図 (S= 1/4)

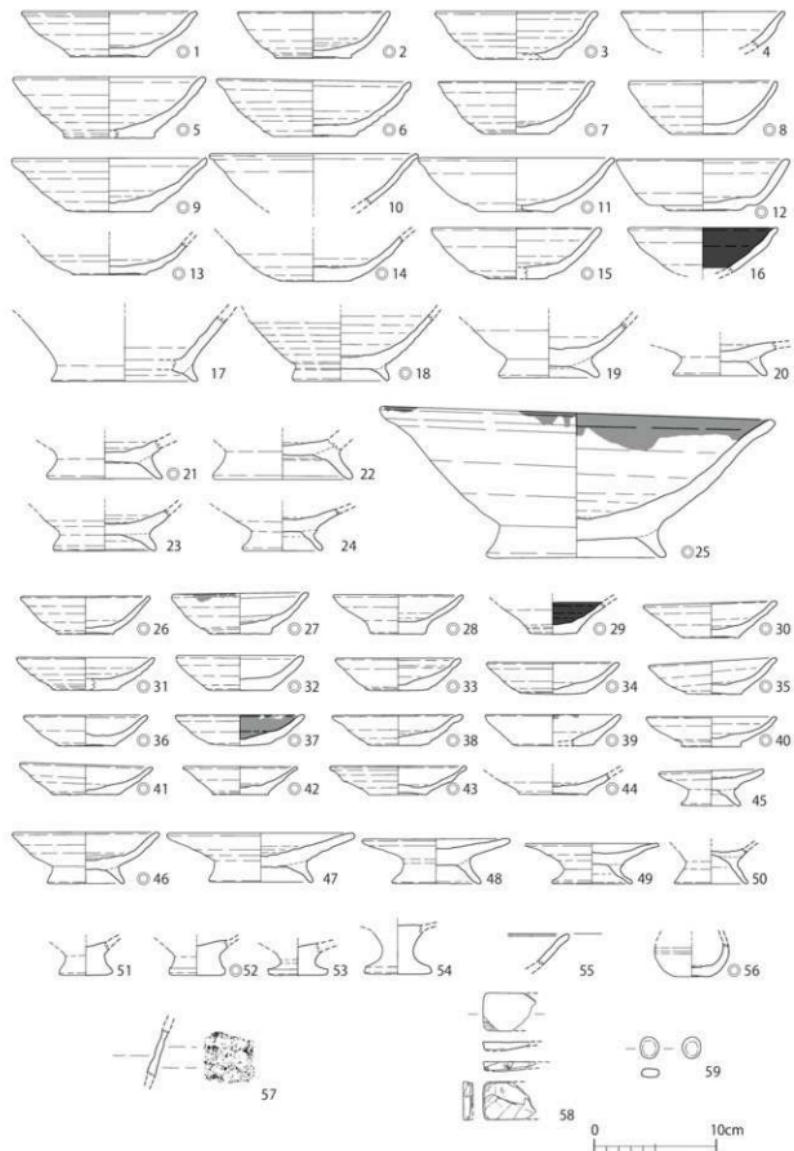


1~22は9層、13~49は10層出土。

第61図 1号池状施設(T58北区)出土遺物実測図 (S=1/4)



第62図 黒色土(T68)出土遺物実測図 (S= 1/4)



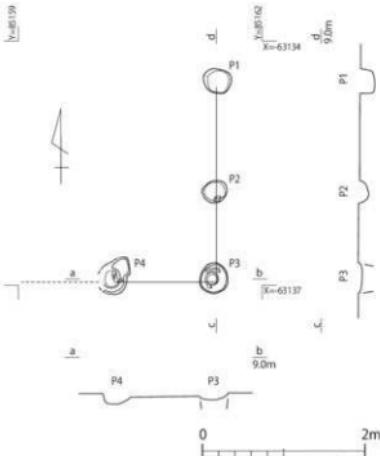
第63図 黒色土(T58北区)出土遺物実測図 (S=1/4)

## 8号柵列(第64図)

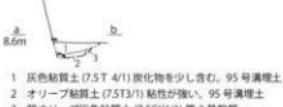
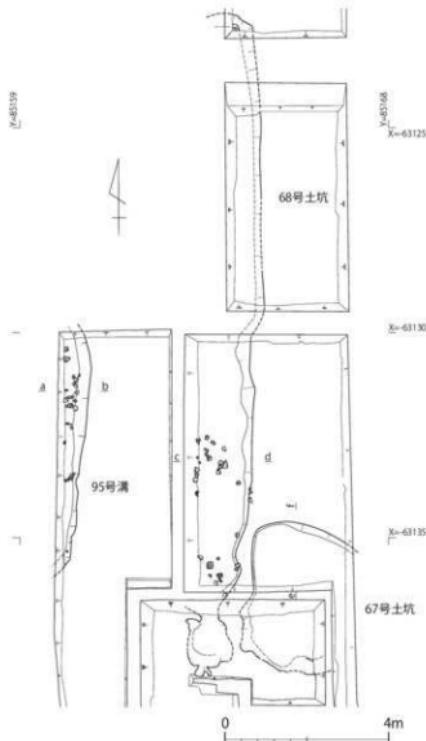
T67北区の南側で検出した直角に曲がる柵列である。主軸は正方位を向く。95号溝と礫層と重複し、先後関係は95号溝より新しく、礫層より古い。柱間は1.2m(4尺)である。P3では柱の根巻きに使用した補修期の出雲国分寺式丸瓦(104.5.6)を使用している。

## 67号土坑(第65図、第66図)

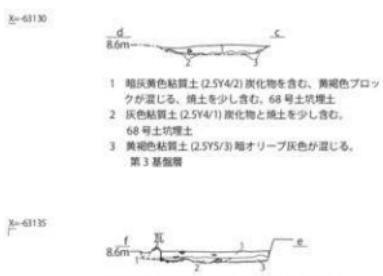
T66北区で検出した土坑である。第2期調査のT47で南側が確認されていた。平面形は歪な隅丸方形で南北3.7m、東西2.64m以上、深さ0.2mである。礫や瓦が多数出土した。26号建物跡と重複し、先



第64図 8号柵列実測図(S=1/60)



1. 灰色粘質土(7.5YR3/1)炭化物を少し含む。95号溝土
2. オリーブ粘質土(7.5T3/1)粘性が強い。95号溝土
3. 暗オリーブ灰色粘質土(7.5GY4/1)第3基盤層



1. 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)炭化物を含む、黄褐色プロックが混じる。68号土坑埋土
2. 灰色粘質土(2.5Y4/1)炭化物と鐵土を少し含む。68号土坑埋土
3. 黄褐色粘質土(2.5Y5/3)暗オリーブ灰色が混じる。第3基盤層



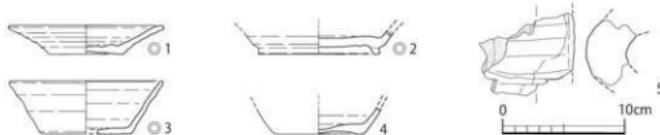
1. 黄褐色土(10YR3/1)炭化物と鐵土を少し含む。黄色プロックが混じる。67号土坑埋土
2. 黄褐色粘質土(2.5Y4/1)炭化物と鐵土を少し含む。68号土坑埋土
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)暗オリーブ灰色が混じる。第3基盤層

第65図 67号土坑・68号土坑・95号溝実測図(平面図はS=1/120、土層図はS=1/60)

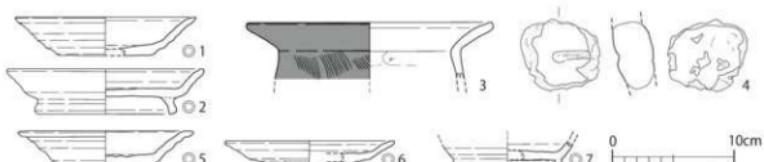
後関係は67号土坑が新しい。遺物は瓦(97-9、101-12、102-2~6、103-6、104-11、105-1~3、106-7)、第5~7型式の須恵器や土師器、羽口が出土した。

#### 68号土坑(第65図、第67図)

T66北区、T58南区、T58北区で検出した溝跡で、主軸は正方位を向く。溝跡であるが『総括報告書』で68号土坑と整理されているため、混乱を避けるために本書でも68号土坑と呼称する。第2期調査のT47では南側が確認されていた。西側がT66北区とT67北区の境界にあるセクションベルトと重複したため、西側の上端は検出できていない。幅1.4m以上、長さ16.5m、深さは疊層の下面から10~30cmで、底面の標高は8.2~8.4mである。断面は凹レンズ状を呈する。27号建物跡、80号溝と重複しており、先後関係は68号土坑が最も新しい。T58の箇所については、発掘調査時には溝と認識していなかったが、整理作業を行う中で再検討し、95号溝がT58北区の南端まで延びていると判断した。遺物は第6~7型式の須恵器や瓦(96-3.2.4.25、97-8.18、98-5、100-4.6~8、101-10、103-4)などが出土した。



第66図 67号土坑出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )



第67図 68号土坑出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

#### 95号溝(第65図、第68図)

T67北区の西側で検出した溝跡で、主軸は正方位を向く。北側と西側の上端は調査区外にある。幅0.6m以上、長さ7m以上、深さは疊層下面から0.25mで、底面は標高8.3mである。28号建物跡と重複し、先後関係は95号溝が先行する。68号土坑の西側の上端が不明なため、正確な数値は不明であるが、95号溝の東側の上端と68号の西側の距離は2.1m(7尺)である。遺物は第5型式の須恵器や第6~7型式の土師器や瓦(96-20.21、100-1、104-8、106-6)が出土した。

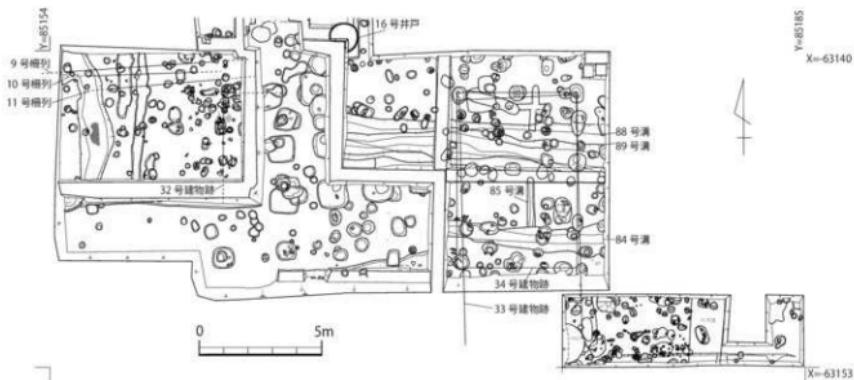


第68図 95号溝出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

註1 対馬あかね、李貞、中塙武、仁木聰 2019「島根県出土材の酸素同位体比年輪年代法による年代決定」『古代文化研究』第27号 島根県古代文化センター

## 第6節 第1遺構面に伴う遺構と遺物

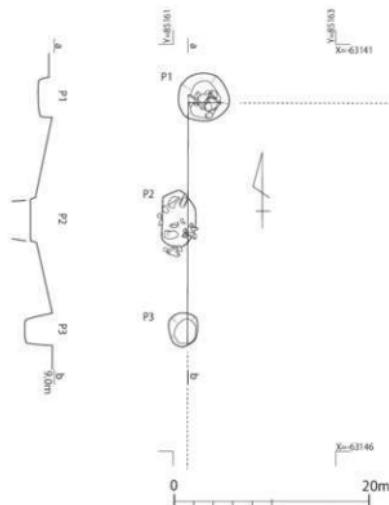
第1遺構面では、建物跡3棟、柵列跡2列を検出した。これらの遺構は9世紀中葉以降(T67中央区では12世紀後半以降)の遺構と考えられる。他に同時期の遺構として護岸施設1箇所、石組遺構1箇所を検出した。



第69図 T66・T67 第1遺構面検出遺構平面図 (S= 1/200)

### 32号建物跡（第70図）

T67中央区の東端で検出した、1間以上×2間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は南北3.0m以上(10尺)で、柱間は1.5m(5尺)である。遺物は出土していない。



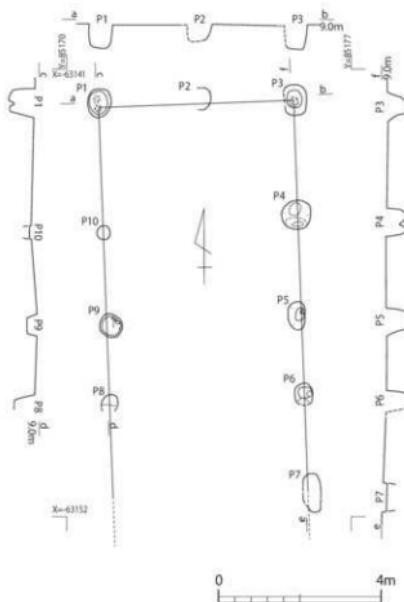
第70図 32号建物跡実測図 (S= 1/60)

## 33号建物跡（第71図）

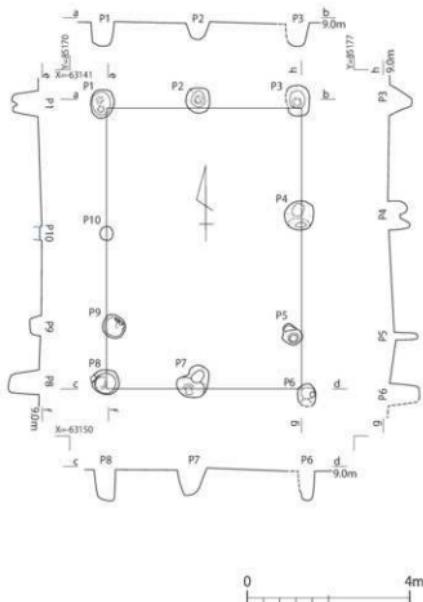
T56の西側とT66東区の東側で検出した、4間以上、2間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は9.6m以上(32尺)×4.8m(16尺)で、柱間は桁行は北側の2間は2.7m(9尺)で、南側の2間は2.1m(7尺)である。梁行は2.4m(8尺)である。84号溝、88号溝、34号建物跡と重複する。先後関係は84号溝、88号溝より新しく、33号建物跡が古い。P5、P6から柱根が出土した。樹種同定ではP5の木材はクリで、P6はヒノキ属と同定された。また、これらの柱根はAMS年代測定では16世紀～17世紀前半の年代が示された。

## 34号建物跡（第72図）

T66東区の東側で検出した、3間以上、2間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は9.6m以上(32尺)×4.8m(16尺)で、柱間は桁行は北側の2間は2.7m(9尺)で、南側の1間は1.5m(5尺)である。梁行は2.4m(8尺)である。84号溝、88号溝、34号建物跡と重複する。先後関係は34号建物跡が最も新しい。P5から柱根が出土している。樹種同定では木材はクリと同定された。また、AMS年代測定では16世紀～17世紀前半の年代が示された。



第71図 33号建物跡実測図 (S= 1/120)

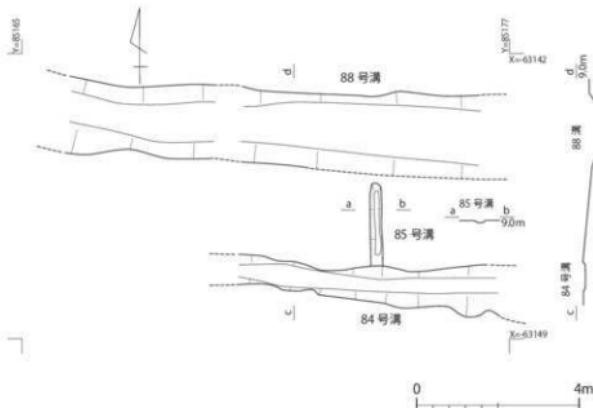


第72図 34号建物跡実測図 (S= 1/120)

## 84号溝(第73図、第74図)

T66東区の南側で検出した東西に延びる溝跡で正方位を向く。幅は0.6~1.3m、長さは6.4m以上、第1遺構面からの深さは26cmで、底面の標高は8.65mとなる。第1遺構面で検出した遺構では35号建物跡と36号建物跡と重複し、先後関係は84号溝が先行する。

遺物は6層から第6~7型式の須恵器と土師器が出土した。同じ場所で4層からも掘削しており、10世紀後半以降にも存在したと考えられる。

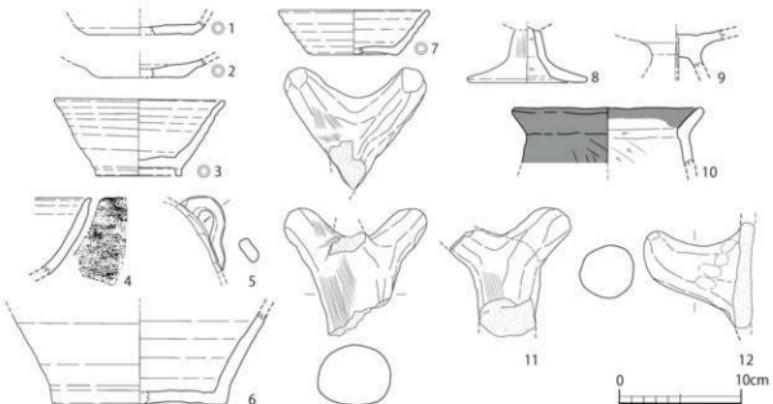
第73図 84号溝・85号溝・88号溝実測図 ( $S=1/120$ )第74図 84号溝出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

## 85号溝(第73図)

T66東区の南側で検出した84号溝と88号溝の中間に位置する南北に延びる溝跡で、正方位を向く。幅は0.3m、長さは2m、第1遺構面からの深さは0.28mで、底面の標高は8.66mとなる。第1遺構面で検出した遺構とは重複していない。遺物は出土していないが、84号溝と接続していることから、同時期の遺構と判断した。

## 88号溝(第73図、第75図)

T66東区の北側で検出した東西に延びる溝跡で、主軸はほぼ正方位を向く。幅0.7m~1.3mで、長さ10.6m以上、深さは第1遺構面から0.35m前後で、底面は標高8.55m前後である。T67中央区では88号溝の続きは検出できない。また、T66西区の南壁の土層でも確認できない。T66西区の範囲内で終わるか、南北の両側か片側へ屈曲すると考えられる。遺物は第6型式の須恵器や土師器の环や、煮炊具などが出土した。

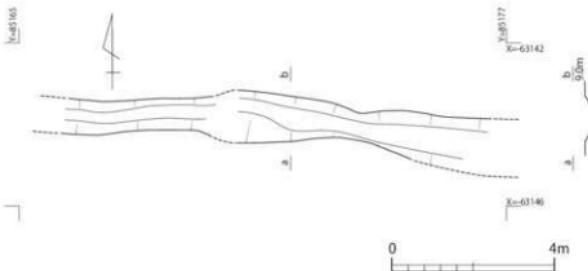


第75図 88号溝出土遺物実測図 (S= 1/4)

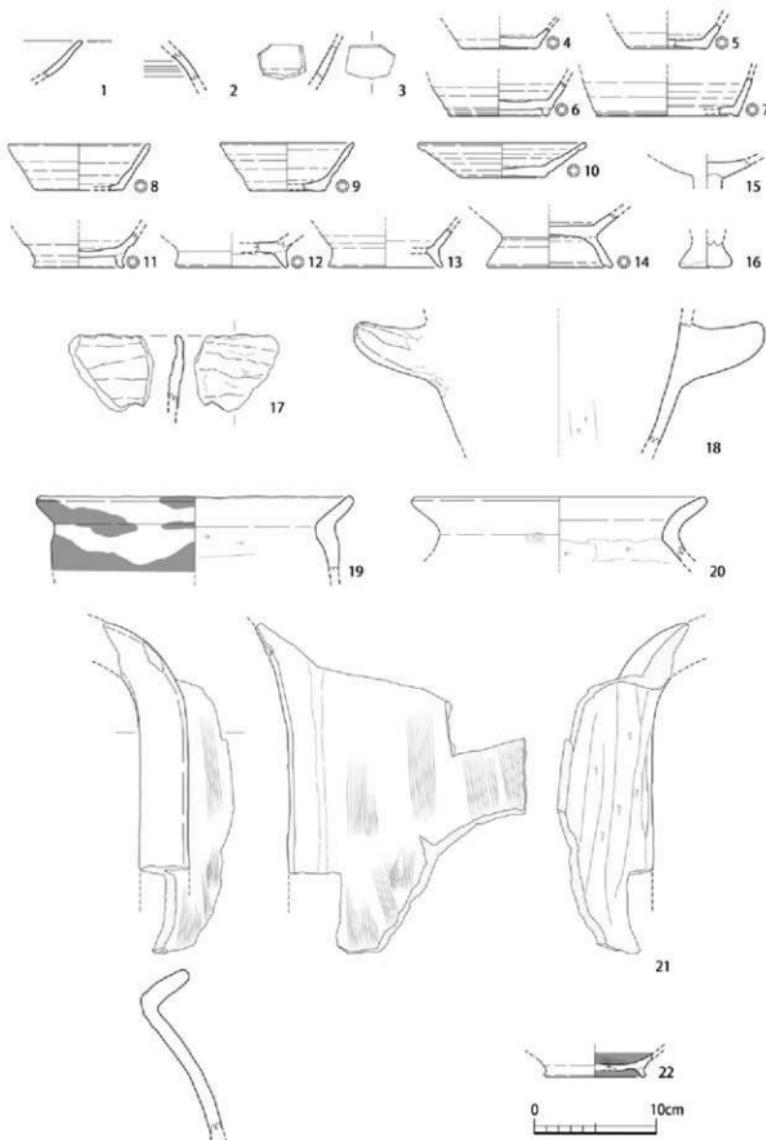
## 89号溝（第76図、第77図）

T66東区の北側で検出した東西に延びる溝跡で、主軸はほぼ正方位を向く。幅1.8mで、長さ10.6m以上、深さは第1遺構面から0.3m前後で、底面の標高は8.6m前後となる。89号溝、35号建物跡、36号建物跡と重複し、先後関係は89号溝より新しく、35号建物や36号建物より古い。89号溝をほぼ同じ位置に掘り直した溝で、89号溝と同じく、T67中央区やT66西区の壁面では確認できないことから、T66西区の範囲内で終わるか、南側か北側の両側か片側へ屈曲すると考えられる。

遺物は第6～7型式の須恵器や土師器の坏類の他、黒色土器、煮炊具、製塙土器などが出土した。



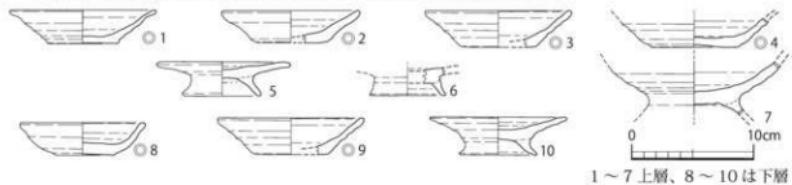
第76図 89号溝実測図 (S= 1/120)



第77図 89号溝出土遺物実測図 (S=1/4)

## 15号井戸（第10図、第78図）

T57の東側で検査した。長径1.23m、短径1.17mを測る。第1遺構面より1.0mまで掘削したが、水が湧き掘削を中断した。第8型式前後の土師器が大量に出土した。

第78図 15号井戸出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

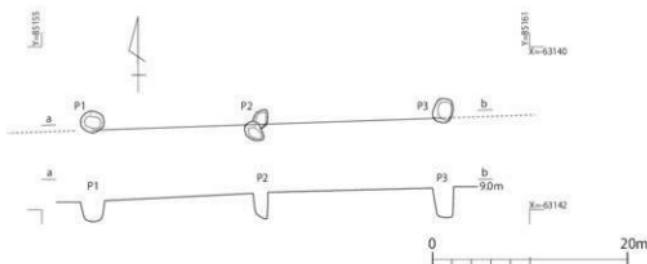
## 16号井戸（第79図）

T66北区の南端で検出した。長径1.08m、短径0.93mを測る。15号井戸と形状や埋土が類似することから、井戸と判断した。段下げの際、第6～8型式の土師器が出土した。

第79図 16号井戸出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

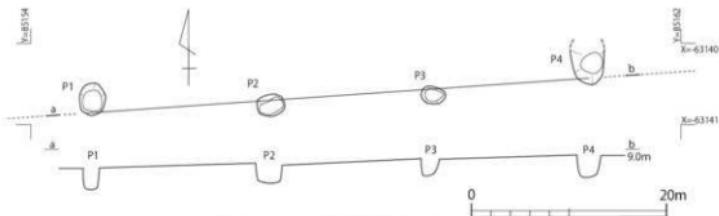
## 9号柵列（第80図）

T67中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸はほぼ正方位を向く。規模は4.2m以上(14尺)で、柱間は2.1m(7尺)である。

第80図 9号柵列実測図 ( $S=1/60$ )

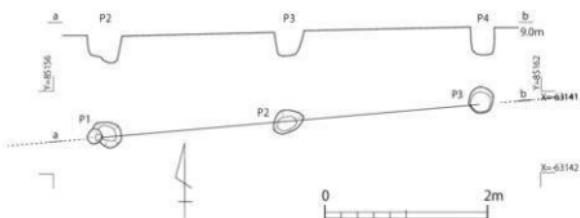
## 10号柵列（第81図）

T67中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸は西に傾く。9号柵列の南側に位置する。規模は6.3m以上(21尺)で、柱間は2.1m(7尺)である。

第81図 10号柵列実測図 ( $S=1/60$ )

### 11号柵列(第82図)

T67中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸は西に傾く。10号柵列の南側に位置する。規模は4.8m以上(16尺)で、柱間は2.4m(8尺)である。



第82図 11号柵列実測図(S=1/60)

### 2号護岸状施設(第15図、第16図)

T61で検出した遺構である。法面の所々に木杭を立て、人頭大の円礫を積んでいる。意宇川左岸を補強した施設と考えられる。木杭2点の年代測定を実施したところ、1415～1445年と、1458～1632年という年代が示された。このことから、遺構は15世紀中葉～17世紀前葉に築造されたと考えられる。木杭の他には、遺構の表面で10世紀～12世紀の土器を探集したほか、意宇川の堆積土から弥生時代前期の土器(16-1)や、古墳時代の須恵器(16-2)、耳環(16-3)が出土した。

### 1号石組遺構(第19図、第20図)

T63、T64、T65で検出した木材と岩石で構築した東西に延びる遺構である。幅4.6m、長さ23m以上、10層上面から遺構上面まで70cmを測る。T63では10層まで掘削し、T64とT65では遺構上面まで掘削した。中央に東西方向の木材を1本設置し、各所に14本の木杭が打ち込まれ、その後に南北4.6mの範囲内に一辺が40～70cmの凝灰岩を積み込んでいる。石組北側の法面には木材を鋸歯状に設置し、その外側の下部には木材を東西方向に設置している。南側の法面では同様の木組みは検出できなかった。遺構上面には意宇川の堆積層のみで、遺構の上部は流失している。遺構本来の高さは不明であるが、法面に組まれた鋸歯状の木組みは、X字状であったと考えられる。

遺構の中央に立てられた木杭1点と、北側法面に鋸歯状に設置された木材1点をAMS年代測定で分析したところ、立てられた木杭は1444～1616年、鋸歯状に設置された木材は1451～1625年という年代が示された。15世紀中葉～17世紀前葉に築造されたと考えられる。遺構の表面では12～13世紀の磁器(20-1.2)が出土したが、これらは流れ込みと考えられる。

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 出雲国府跡 T68 調査で検出された1号池状施設に関する自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

#### はじめに

出雲国府跡は島根県東部の松江市大草町中島に位置し、意宇川の成す扇状地上に立地する。本報は、出雲国府跡T68調査で検出された1号池状施設の用途、遺構内外の古植生などを明らかにする目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した軟X線写真観察、花粉分析、珪藻分析、AMS年代測定について、再編したものである。

#### 分析試料について

試料採取地点を第83図に、試料採取位置を第84図に示した。

これらの図面は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに、作成したものである。

第84図中に、軟X線写真観察試料の採取位置を■で示した。軟X線写真観察後、試料を分割して、花粉分析、珪藻分析試料とした。また、10層から別途年代測定試料を採取した。

#### 分析方法

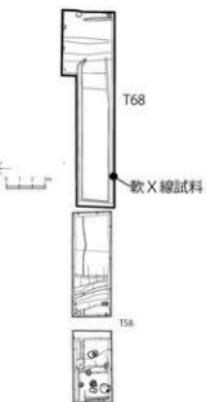
##### 1) 軟X線写真観察方法

試験室内にて、25cm×10cm×1cmの透明アクリルケースに入るように、試料調整を行う。

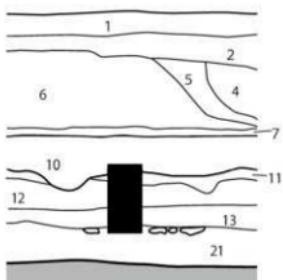
軟X線写真撮影では撮影用ケースに入れた印画紙に、40kVp・30mAの電流をかけた軟X線を照射し感光させる。撮影された写真はネガであり、軟X線の透過しやすい粘土・植物片は黒く、透過しにくい砂粒、二次的な酸化鉄や酸化マンガンは白く表現されている。

撮影写真を基にスケッチを行うとともに、「土壤記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修、1989）」に準じて記載を行う。

L=9.00m



第83図 試料採取地点



1. 暗褐色土 (10YR3/3) : 表土。
2. 真砂土 : 公園造成土。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) : 埋め戻した耕作土。
5. 真砂土 : 公園造成土。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) : 旧耕作土 (田圃)。
7. 碱層 : 細灰色土 (10YR4/1) に10cm以下の円礫が混じる。
10. 黒色土 (N2) : 土師器を非常に多く含む。炭を多く含む。20cm以下の円礫をやや多く含む。
11. 黒色粘質土 (N2) :
12. 褐灰色粘質土 (10YR4/1) : 池状施設上層。5cm以下の円礫を少し含む。
13. 褐灰色粘質土 (10YR5/1) : 池状施設下層。
21. 底黄褐色砂質土 (10YR6/2) : 土手状盛土。やや粗い砂層。やや粘性。

第84図 試料採取位置 (T 68 東壁土層図)

## 2) 微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉(胞子)、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を5段階で示した。

## 3) 花粉分析方法

渡辺(2010a)に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村(1974)に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科(40ミクロン以上)と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科(40ミクロン未満)に細分した。

## 4) 硅藻分析方法

渡辺(2010b)に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で400～1000倍を用いて実施した。同定・計数は、原則的に計数個体が200以上になるまで行った。

## 5) AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。<sup>14</sup>C濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。曆年代較正にはOxCal ver. 4.3(Bronk Ramsey, 2009)を用い、INTCAL13(Reymer et al., 2013)を利用した。

## 分析結果

### 1) 軟X線写真観察結果

T68東壁において採取した試料の実視写真、軟X線写真、解析結果を第86図に示す。以下では、層ごとに下位から記載を行っていく。

#### ① 21層

灰黄褐色(10YR6/2)を呈す。礫混じり粘土質粗粒砂。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するベドフューチャーが顕著である。極細粒で中～強度に発達した亜角塊状～軟粒状ベッド(粗砂？)、極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ベッドがモザイク状に分布する。

#### ② 13層

酸化鉄の染みだしが顕著で、褐灰色(10YR5/1)を呈す。礫混じり粘土質粗～極粗粒砂。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するベドフューチャーが顕著である。極細粒で中～強度に発達した亜角塊状～軟粒状ベッド(粗砂？)、が顕著で、極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ベッドが二次ベッドを成している。

#### ③ 12層

褐灰色(10YR4/1)を呈す。中粒砂混じり粘土。ラミナなど、堆積構造は認められなかった。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するベドフューチャーが顕著である。極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ベッドが、中～粗粒で中度に発達した二次ベッドを成している。

#### ④ 11層

黒色(N2/)を呈す。粗～極粗粒砂混じり粘土。ミナなど、堆積構造は認められなかった。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するベドフューチャーが顕著である。中～粗粒で中～強度に発達したベッドが認められる。



第85図 軟X線写真観察結果

## ⑤ 10層

黒色(N2/)を呈す。有機質粘土。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。試料整形時の崩壊部(根跡?: 試料右側)で、細～中粒で強度に発達した小粒状ペッドが認められる。

## 2) 微化石概査結果

微化石概査結果を第2表に示す。

いずれの試料でも、花粉化石、珪藻化石が多量に検出されたほか、植物珪酸体、植物片、微粒炭、火山ガラスの検出量も多かった。

## 3) 花粉分析結果

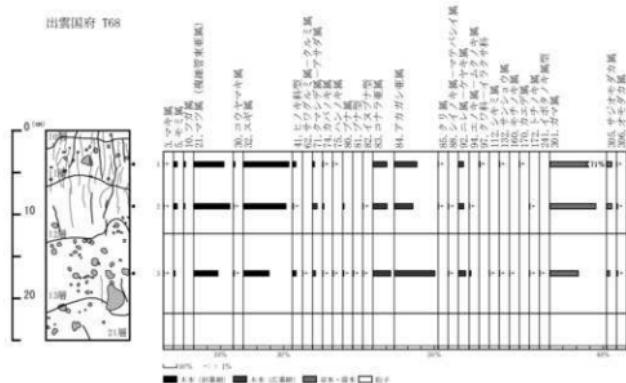
分析結果を花粉ダイアグラム(第86図)と花粉組成表(第3表)に示す。花粉ダイアグラムでは、分類群ごとの百分率(百分率の算出には、木本花粉総数を基準にしている。)を、スペクトルで表している(木本(針葉樹)は黒、木本(広葉樹)は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した)。[総合]では「木本(針葉樹)」、「木本(広葉樹)」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した。[粒数]では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子(全ての合計)」ごとに含有量(湿潤試料1g中の粒数)の変化を示している。

第2表 微化石概査結果

試料No	花 粉	微粒炭	植物片	珪 藻	植物珪酸体	火山ガラス
1	◎	△	○	◎	○	○
2	◎	△	△	◎	○	○
3	◎	◎	○	◎	◎	○

凡例 ◎: 十分な数量が検出できる ○: 少ないが検出できる △: 非常に少ない  
△×: 極めてまれに検出できる ×: 検出できない

出雲国府 T68



第86図 花粉

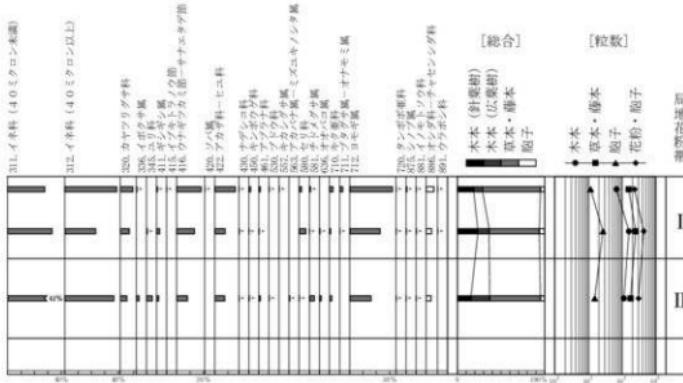
第3表 花粉化石組成表

## 4) 珪藻分析

分析結果を珪藻ダイアグラム(第87図)及び珪藻総合ダイアグラム(第88図)、珪藻組成表(第4表)に示す。珪藻ダイアグラムでは、分類群ごとに検出数を基數とした百分率を算出し、千葉・澤井(2014)に従った環境指標種群ごとにハッチを変えたスペクトルで示している。さらに、環境指標種群ごとの[累積グラフ]、[含有量: 1g当たりの換算含有量を算出]、[完形率]を付けている。珪藻総合ダイアグラムのうち、左端の「生息域別グラフ」は同定したすべての種類を対象にそれぞれの要因(生息域)ごとに累積百分率で示している。そのほかの4つのグラフは、淡水種について要因ごとに累積百分率として示している。

試料No 3では淡水・底生種の *Pinnularia* spp. が38%と高率を

試料No.	1	2	3			
3 マツ藻	Podocarpus	1 0%	1 0%	1 0%		
5 もく藻	Alies	11 3%	8 0%	4 1%		
10 ツガ藻	Tsuga	6 1%	3 1%			
21 マツ藻・裸子植物藻	Pinus (Dioecious)	82 23%	79 23%	82 18%		
22 クスコモキ藻	Schizothecium	8 2%	5 2%	2 1%		
23 フジモモ藻	Coryneum	129 39%	93 28%	66 15%		
41 ハマリ科	Corallinales	11 3%	2 1%	10 3%		
62 サザンカ属-クルル属	Proterocladus-Judas	6 1%	10 3%	8 2%		
71 クマノミ属-アサダ属	Ceratomea-Ostrea	2 0%	3 1%	1 0%		
74 ハマモ属	Rosea	1 0%				
75 ハマモ属	Fucus		3 1%	3 1%		
81 ナラ属	Fagopyrum cornutum-type			2 1%		
82 イヌクサ科	Fucus insigne-type		1 0%	1 0%		
83 クサモモ属	Quercus	43 11%	31 11%	40 13%		
84 クサモモ属	Crinoides	69 17%	41 14%	104 30%		
85 クリ属	Ceratium	1 0%	1 0%			
86 シマツノ属-マテバレイ属	Ceratomea-Patens		1 0%	1 0%		
92 ニシマツ-ケヤキ属	Ulmus-Zelkova	16 4%	12 4%	19 6%		
94 エビヅル-ムクニキ属	Celtis-Aphananthe		1 0%	5 1%		
95 ハマモ-イクラ科	Morpha-Urticaceae	3 1%				
112 ハマモ属	Blank			1 0%		
122 サザンカ属	Zanthoxylum	1 0%		1 0%		
180 キモチ属	Rex			1 0%		
181 ハマモ属	Acer	1 0%				
187 ハマモ属	Artemia-fusa		1 0%	1 0%		
201 ハマモ属	Littorina-type			1 0%		
301 ハマモ	Tetra	268 71%	101 25%	74 22%		
303 ハマモ属	Alaria	16 4%	12 3%	8 2%		
317 マツモ属-403ワタシ属(藻)	Saxatilia	1 0%	2 1%	3 1%		
318 マツモ属-403ワタシ属(藻)	Gommerina-(40)	113 29%	99 23%	129 41%		
320 カリツブワタシ	Ocytomea	159 39%	88 23%	128 33%		
328 キモチ属	Coprinaceae	29 10%	20 7%	17 5%		
346 ジムカ	Anemone	2 0%		7 2%		
411 ハマモ属	Ranunculus	3 1%	7 2%	5 2%		
416 ウカツモ属	Balanus	1 0%				
418 ウカツモ属-クサナユタデ属	Ectocarpus-Perticaria	75 18%	39 13%	28 8%		
420 ハマモ	Phaeophytum					
422 ハマモ-ヒユ科	Chlorophyceae-Anthophysaceae	63 15%	23 8%	26 8%		
428 ハマモ-ヒユ科	Caryophylaceae	1 0%	1 0%	0 0%		
430 ハマモ-ヒユ科	Ruppellaceae	6 1%	2 1%	2 1%		
441 ハマリ科	Coccolithaceae	5 1%	1 0%	4 1%		
536 ハマモ	Vitaceae	1 0%		1 0%		
537 キモチ属	Rotala	1 0%				
561 ハマモ-ヒユ-ミズヒキソウ属	Ectocarpus-Lukkia			2 1%		
581 ハマモ属	Hednotia	8 2%	15 5%	1 0%		
583 ハマモ属	Hednotia	4 1%	5 1%	13 4%		
636 オオバコ属	Plantae		2 1%	5 1%		
710 キモチ属	Ceratomea	11 2%	3 1%	8 2%		
711 キモチ属-オナモ属	Amorphia-Xanthium	10 2%	1 0%			
720 キモチ属	Artemia	121 32%	67 23%	55 16%		
729 キモチ属	Coccolithaceae	1 0%	1 0%	2 1%		
873 シマツノ属	Diatoma	3 1%	1 0%	1 0%		
881 オイシモ-ヒユ科	Phaeophytum	1 0%	1 0%	1 0%		
882 オイシモ-ヒューセンヒューム	Aspid.-Apt.	24 6%	12 4%	13 4%		
883 オイシモ-ヒューム	Asplenium	7 2%	2 1%			
886 モクシモ属	MICROLETA-TYPE-SPORE	14 3%	10 3%	17 5%		
889 モクシモ属	TRIULATE-TYPE-SPORE	25 6%	18 6%	14 4%		
本体花粉数	405	29%	292	28%	343	31%
草本花粉数	940	66%	464	58%	404	38%
底生花粉数	40	3%	40	3%	40	3%
总计花粉数	1417		739		787	
生残花粉数	2232		4329		3021	



ダイアグラム

示すが、この外高率を示す分類群はなかった。生息域で見ると、*Cymbella tunida*などの止水・底生種が低率であるが検出される。

試料No. 2, 1では淡水・底生種の *Achnanthes lanceolata*、*Pinnularia viridis*、*Pinnularia* spp. などが高率になる。生息域で見ると、止水種がなくなり、流水種の *Achnanthes lanceolata*、*Navicula eligensis* が低率であるが検出される。

### 5) AMS 年代測定

年代測定結果を第 89 図及び第 5 表に示す。第 89 図には、OxCal ver. 4.3 (Ramsey, 2009) による試料の暦年較正図を示した。第 5 表には、試料の詳細、前処理方法、δ<sup>13</sup>C 値と測定年代など 4 種類の年代を示している。

### 花粉分帶

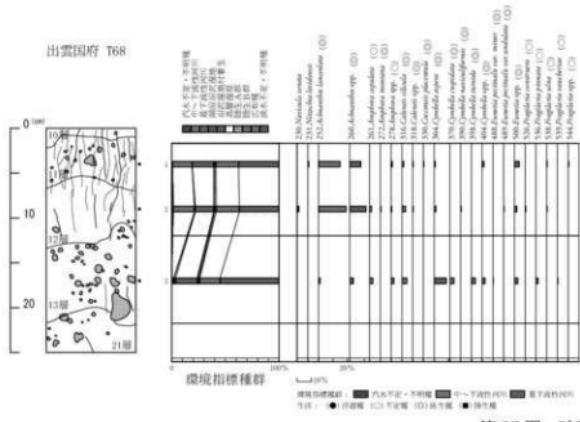
花粉分析結果を基に、花粉分帶を行った。以下に、各（局地）花粉帯の特徴を記載する。また、時間的な推移が明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

#### 1) II 帶（試料No.3）

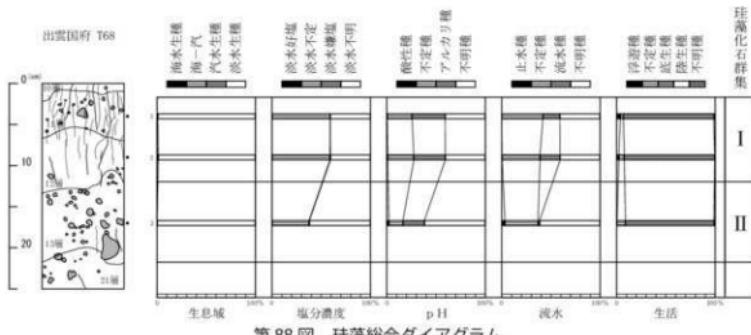
アカガシ亜属が他の種類に比べ高率を示すほか、スギ属、マツ属

第 4 表 珪藻化石組成表

種名	学名	分布	年齢		
			算定年齢(年)	算定年齢(年)	算定年齢(年)
220. Navicula	varia	内水	1	75	2
231. Microcoleus	leptothrix	内水	1	75	2
232. Microcoleus	leptothrix	内水	1	75	2
240. Achmanthes	lanceolata	底生	1	75	2
251. Achnanthes	constricta	底生	1	75	2
252. Achnanthes	lanceolata	底生	1	75	2
253. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
254. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
255. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
256. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
257. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
258. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
259. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
260. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
261. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
262. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
263. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
264. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
265. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
266. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
267. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
268. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
269. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
270. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
271. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
272. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
273. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
274. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
275. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
276. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
277. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
278. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
279. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
280. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
281. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
282. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
283. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
284. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
285. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
286. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
287. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
288. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
289. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
290. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
291. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
292. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
293. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
294. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
295. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
296. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
297. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
298. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
299. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
300. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
301. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
302. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
303. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
304. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
305. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
306. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
307. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
308. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
309. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
310. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
311. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
312. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
313. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
314. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
315. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
316. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
317. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
318. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
319. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
320. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
321. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
322. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
323. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
324. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
325. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
326. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
327. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
328. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
329. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
330. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
331. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
332. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
333. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
334. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
335. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
336. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
337. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
338. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
339. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
340. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
341. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
342. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
343. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
344. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
345. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
346. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
347. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
348. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
349. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
350. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
351. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
352. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
353. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
354. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
355. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
356. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
357. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
358. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
359. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
360. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
361. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
362. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
363. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
364. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
365. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
366. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
367. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
368. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
369. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
370. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
371. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
372. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
373. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
374. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
375. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
376. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
377. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
378. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
379. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
380. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
381. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
382. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
383. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
384. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
385. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
386. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
387. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
388. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
389. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
390. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
391. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
392. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
393. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
394. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
395. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
396. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
397. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
398. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
399. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
400. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
401. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
402. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
403. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
404. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
405. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
406. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
407. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
408. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
409. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
410. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
411. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
412. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
413. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
414. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
415. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
416. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
417. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
418. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
419. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
420. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
421. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
422. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
423. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
424. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
425. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
426. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
427. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
428. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
429. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
430. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
431. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
432. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
433. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
434. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
435. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
436. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
437. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
438. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
439. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
440. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
441. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
442. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
443. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
444. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
445. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
446. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
447. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
448. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
449. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
450. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
451. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
452. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
453. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
454. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
455. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
456. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
457. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
458. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
459. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
460. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
461. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
462. Achnanthes	viridis	底生	1	75	2
463. Achnanthes	viridis	底生	1	75	



第87図 珪藻



第88図 珪藻総合ダイアグラム

(複維管束亞属)、コナラ亞属もやや高い出現率を示す。草本・藤本花粉ではイネ科(40 シロ未満)、イネ科(40 ミクロン以上)のほか、ガマ属、ヨモギ属が高率を示す。

2) I 帶 (試料No. 2、1)

試料№2、1ではスギ属が最も高率で出現するほか、マツ属（複維管束亞属）、アカガシ亞属、コナラ亞属と続く。草本・藤本花粉ではガマ属が高率を示し、イネ科（40ミロン未満）が30%程度、イネ科（40ミロン以上）、ヨモギ属が続く。

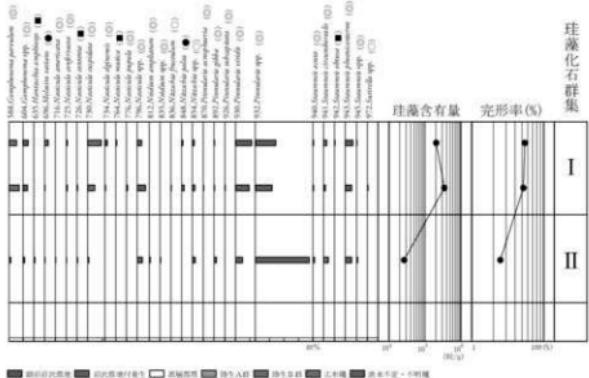
珪藻化石群集の設定

珪藻分析結果を基に、珪藻化石群集の設定を行った。

以下に、珪藻化石群集の特徴を記載する。また、時間的な推移が明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

### 1) II 帶 (試料No.3)

淡水・底生種がほとんどを占める。また、止水種が低率であるが検出される。また、淡水・底生種の *Pinnularia* spp. が高率を示す。



## ダイアグラム

## 2) I 帯 (試料No 2、1)

淡水・底生種がほとんどを占めるが、淡水・浮遊種が若干検出される。また、止水種がなくなり、流水種がやや増加する。

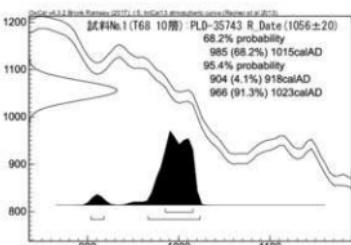
## 1号池状施設の性質について

分析を行った、11～13層が、1号池状施設を埋めている。軟X線写真観察では、いずれも直線的な上下方向に伸びるチャンネルが発達しており、ベッドもやや発達していることから、根による生物擾乱の影響を強く受けていると考えられる。

1号池状施設内の植生を示すと考えられる、草本花粉では湿性植物のガマ属が多量に検出され、上位に向かい増加している。また、イネ科雑草由来する可能性が高いイネ科（40ミリ未満）も高率で検出される。このほか、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、セリ科などの湿性植物由来の花粉が検出される。

珪藻分析結果では底生種が高率で、浮遊種、陸生種はごく僅かであった。また、下位の試料No.3では止水種が検出され、流水種がごく僅かであったが、上位の試料No.2、1では止水種が検出されず、流水種が増加する。

これらのことから、1号池状施設は水深の浅い池であったと考えられ、池内にはガマ類、サジオモダカ、オモダカ、ヨシ、イボクサ、セリなどが生育していた。これらは抽水植物で、



第89 図曆年較正図

第5表 AMS 年代測定結果

試料番号	地質	測定値	標準偏差	測定結果			
				前処理	$\Delta^{14}\text{C}$	測定年 (cal AD)	修正年 (cal AD)
I 10層(黒色土層) 20170921	昭和村 S-1729	-24.30±1.18	1000±20	-2000±20	983-1013 cal AD 986-1003 cal AD	986-1011 cal AD 986-1002 cal AD	2015±20

水面に葉や茎を伸ばしている。水面はこれらに覆われ、閉鎖的であった可能性がある。また含有量の変化から、初期（13層）にはヨシが多く分布していたが、徐々（12、11層）にガマ類が分布域を広げた可能性が示唆される。

### 古植生（森林植生）

花粉分析結果を基に、遺跡周辺地域での古植生について考察する。

出雲国府跡内では、遺構内堆積物を対象として花粉分析が実施されている（渡辺、2003など）。

第7トレンチ4号溝での花粉分析結果（渡辺、2003）では、花粉化石群集を上下に2分し、上位をI帯a亜帯、下位をI帯b亜帯としている。下位のI帯b亜帯はスギ属が高率で、マツ属（複雑管束亜属）を伴い、アカガシ亜属が低率になるなど、今回のI帯a亜帯と類似する。今回のI帯a亜帯では、ややマツ属（複雑管束亜属）が高率で、アカガシ亜属がやや低率を示すこと、第7トレンチ4号溝でのI帯a亜帯ではマツ属（複雑管束亜属）が増加していることから、第7トレンチ4号溝でのI帯b亜帯よりやや新しく、a亜帯よりやや古い時期の植生を表している可能性が指摘できる。これらのことから、今回のI帯b亜帯は第7トレンチ4号溝でのI帯b亜帯より古い時期の植生を表している可能性が指摘できる。

花粉分析結果から、国府周辺の丘陵にはカシ類を主要要素とする照葉樹林で覆われ、ているが、平野近くにはアカマツやナラ類を要素とする薪炭林（里山）となっていたと考えられる。また、徐々に開発が進み、照葉樹林が縮小し薪炭林（里山）が拡大していったと考えられる。また、意宇川流域の低地や支谷流域にはスギ林が分布していたと考えられる。

### まとめ

出雲国府跡T68で検出された1号池状施設埋土の花粉、珪藻分析結果、及びAMS年代測定結果から、以下の事柄を推定した。

- 1) 花粉分析結果を基にI、II帯の局地花粉帯を、珪藻分析結果を基にI II帯の珪藻化石群集を設定した。また、花粉分析結果を第7トレンチ4号溝での花粉分析結果と比較した。
- 2) 1号池状施設内は、ガマ類、ヨシ、サジオモダカ、オモダカ、イボクサやセリなどが生育し、水面は閉鎖的であったと考えられる。また、初期にはガマが少なくヨシが多く、徐々にガマが多くなっていったと考えられる。
- 3) 花粉分析結果を基に、出雲国府周辺の森林植生を推定した。

### 【引用文献】

- 中村 純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として、第四紀研究, 13,187-197.
- 千葉 崇・澤井祐紀（2014）環境指標種群の再検討と更新、Diatom, 30, 17-30.
- 渡辺正巳（2003）出雲国府における花粉および植物遺体分析、史跡出雲国風土記1、風土記の丘 地内遺跡発掘調査報告書、14, 209-216、島根県教育委員会。
- 渡辺正巳（2010a）花粉分析法、必携 考古資料の自然科学調査法、174-177、ニュー・サイエンス社。
- 渡辺正巳（2010b）珪藻分析法、必携 考古資料の自然科学調査法、174-177、ニュー・サイエンス社。
- Bronk Ramsey C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

## 第2節 出雲国府跡発掘調査に伴う AMS 年代測定及び樹種同定

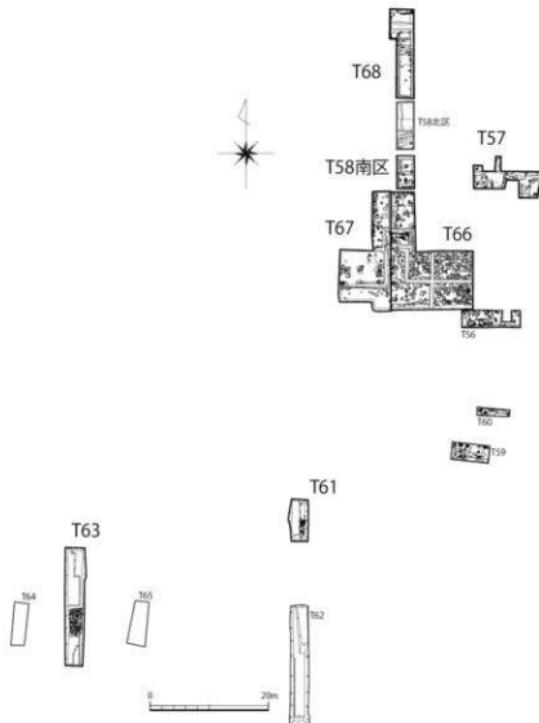
渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

## はじめに

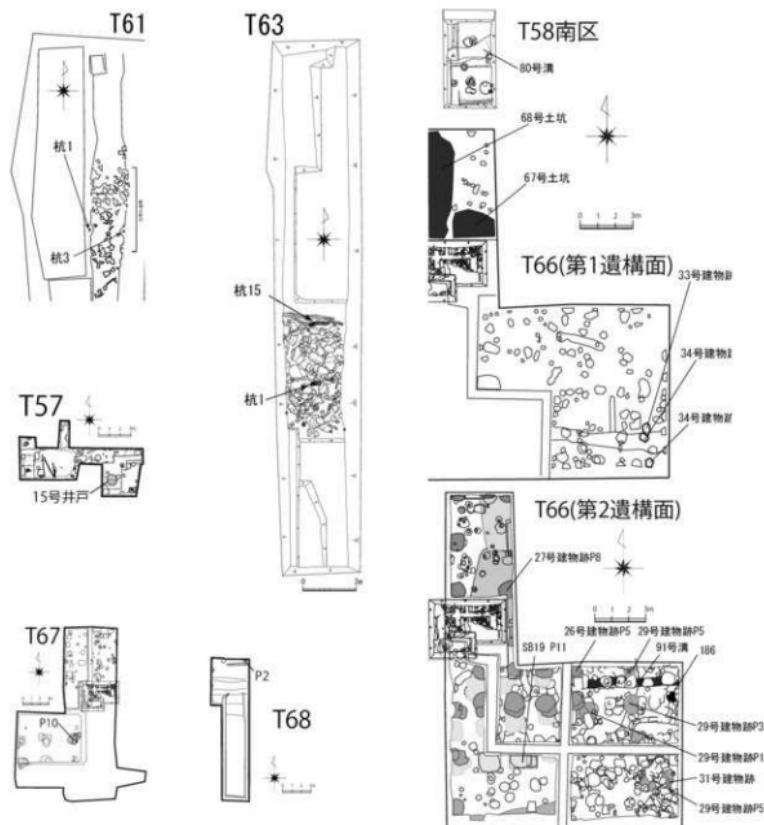
出雲国府跡は島根県東部の松江市大草町中島に位置し、意宇川の成す扇状地上に立地する。本報は、出雲国府跡発掘調査で検出された遺構の年代確認、及び柱材の樹種確認の目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した AMS 年代測定及び樹種同定について、再編したものである。

## 分析試料について

第 90 図に示した各トレンチから採取・保管中の試料から、分析試料の御提供を受けた。また、詳細な試料採取位置を、第 91 図に示した。これらの図面は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに、作成したものである。



第 90 図 試料採取地点



第91図 試料採取位置（調査区平面図）

## 分析方法

### 1) AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。 $^{14}\text{C}$  濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.3 (Bronk Ramsey, 2009) を用い、INTCAL13 (Reymer et al., 2013) を利用した。

### 2) 樹種同定方法

顕微鏡観察用永久プレラートは、渡辺 (2010) に従い作成した。作成した永久プレラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で 4 倍～600 倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか (1985) の用語に基本的に従い、記載を行った。

第6表 試料一覧(分析結果)

試料名	試料番号	採取場所	採取年	前処理方法	測定値	放射性炭素年代			測定年代	測定年代誤差
						$\Delta^{14}\text{C}$	標準偏差	相対誤差		
T61	W17020503	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1880±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T62	W17020501	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T67	W18020501	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1881±16	100±1%	100±1%	1755±10	±50
T68	SA003	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1881±16	100±1%	100±1%	1755±10	±50
T69	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T70	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T71	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T72	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T73	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T74	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T75	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T76	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T77	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T78	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T79	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T80	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T81	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T82	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T83	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T84	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T85	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T86	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T87	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T88	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T89	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T90	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T91	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T92	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
T93	SB020B P10	柱根	2007	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50
	P10	柱根	2008	骨粉状	-36.7±0.1	1875±14	100±1%	100±1%	1750±10	±50

## 分析結果

## 1) AMS 年代測定結果

年代測定結果を第6表及び第92、93図に示す。第92、93図には、OxCal ver. 4.2 (Ramsey, 2009) 以降による試料の曆年較正図を示した。第6表には、試料の詳細、前処理方法、 $\delta^{13}\text{C}$  値と測定年代など 4 種類の年代を示している。

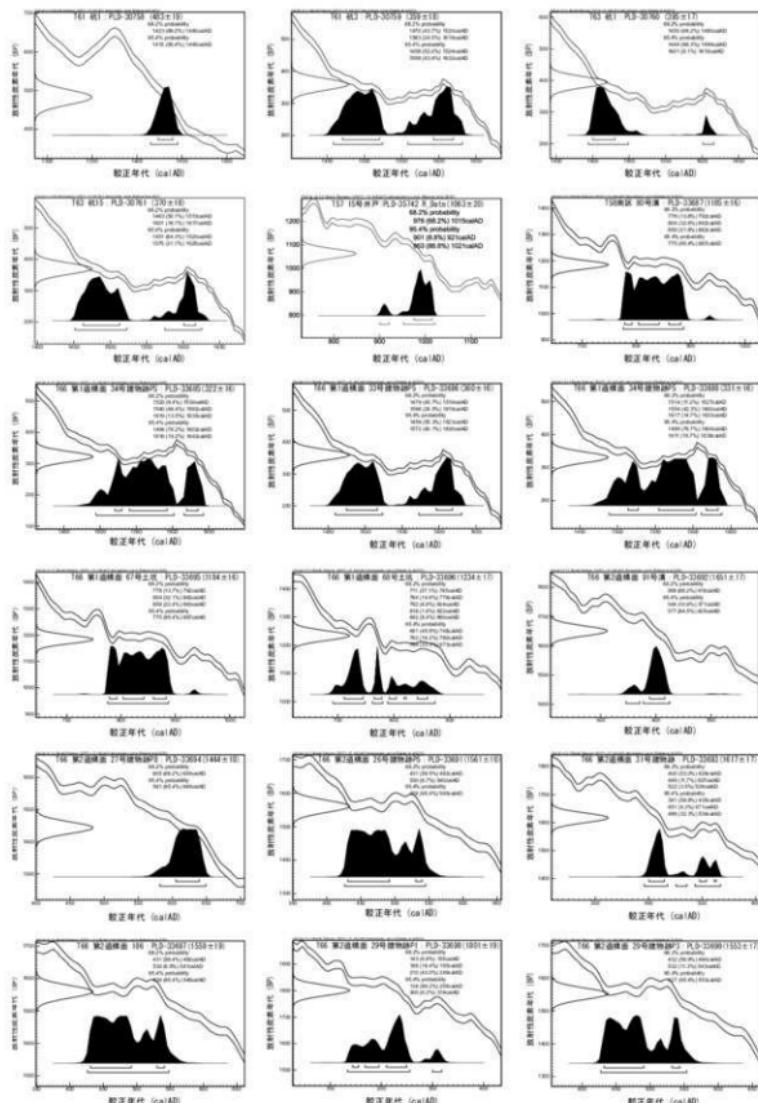
## 2) 樹種同定結果

分類ごとに特徴的な試料(下線試料)の記載を行った。また、第2表に同定結果を示し、下線試料について顕微鏡写真を節末に掲載した。

(1) ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp.

試料No : T66\_34 号建物跡 P6 (W17020503)、T67 SB020B P10 柱根 (W18020501)、T68 SA003 P2 柱根 (W18020502)

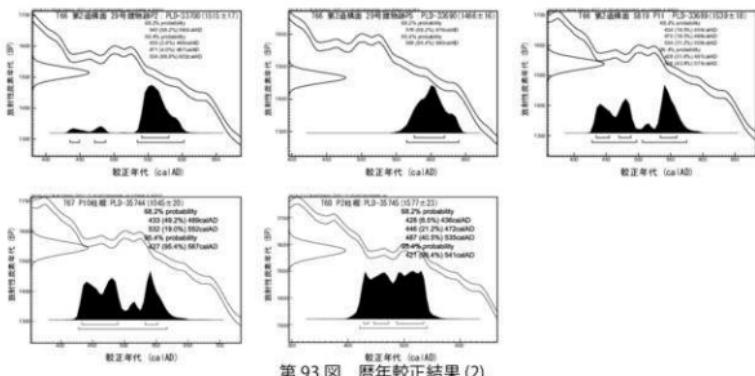
記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はやや急で、晩材の幅はやや広い。分野壁孔は明瞭なヒノキ型で 2-3 個存在する。以上の組織上の特徴から、ヒノキ属と同定した。



第92図 曆年較正結果(1)

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

試料名 : T58 南区 80 号溝 (W17020501)、T66 34 号建物跡 P5 (W17020502)、T66 33 号建物跡 P5 (W17020504)



第93図 曆年較正結果(2)

記載：環孔材で大きい円形ないし梢円形の道管が単独で2-3列に配列する。孔圈外の道管は単独で小さく、放射状に配列する。道管せん孔は单せん孔である。また、道管にはチロースが顕著に認められる。孔圈道管の周りには周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は単接線状に配列するのが認められる。放射組織は平伏細胞からなる単列同性型である。以上の組織上の特徴からクリと同定した。推定時期と年代測定値

年代測定を実施した23試料の内、下記の13試料について、出土遺物から推定された遺構の時期について、測定結果（較正年代）から裏付けることが目的であった。第94図に推定時期と較正年代の関係を示し、解説を加えた。

#### (1) T58 南区 80号溝

T58 南区 80号溝は奈良時代頃の遺構と推定されていた。これに対し、775-887 cal AD ( $2\sigma$ ) の年代値が得られており、ほぼ一致する結果となった。したがって、80号溝は、出雲国府と関わりのある遺構と考えられる。

#### (2) T66 第1遺構面

67号土坑、68号土坑が該当し、9～13世紀の遺構と推定されていた。これに対し、775-887 cal AD、691-873 cal AD (いずれも  $2\sigma$ ) の年代値が得られており、ほぼ一致する結果となった。したがって、第1遺構面は、推定通りの時期の遺構面である可能性が高い。

#### (3) T66 第2遺構面

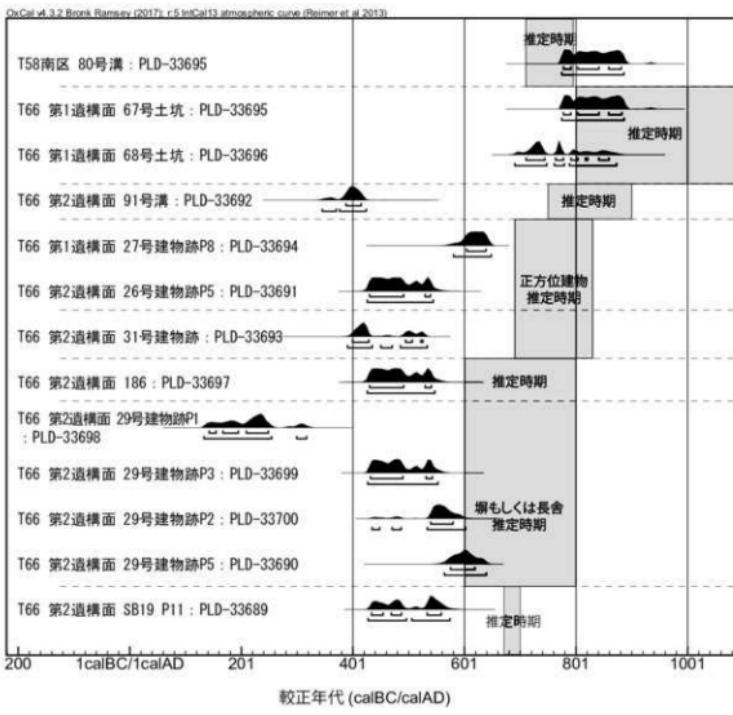
67号土坑、68号土坑を除く10試料が該当する。出土遺物や切り合いから、5つの時期に分かれていると考えられている。

##### ① 91号溝

奈良時代～平安時代（8世紀後半～9世紀？）にかけての遺構と考えられている。346-425 cal AD ( $2\sigma$ ) が得られ、推定年代より300年ほど古い年代値が得られた。樹木年輪の内外層の差によるとするには、大きな差がある。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。

##### ② 正方位建物：27号建物跡P8、26号建物跡P5、31号建物跡

7世紀末葉～9世紀前葉の遺構と考えられている。27号建物跡P8は581-649 cal AD ( $2\sigma$ )



第94図 推定時期と較正年代

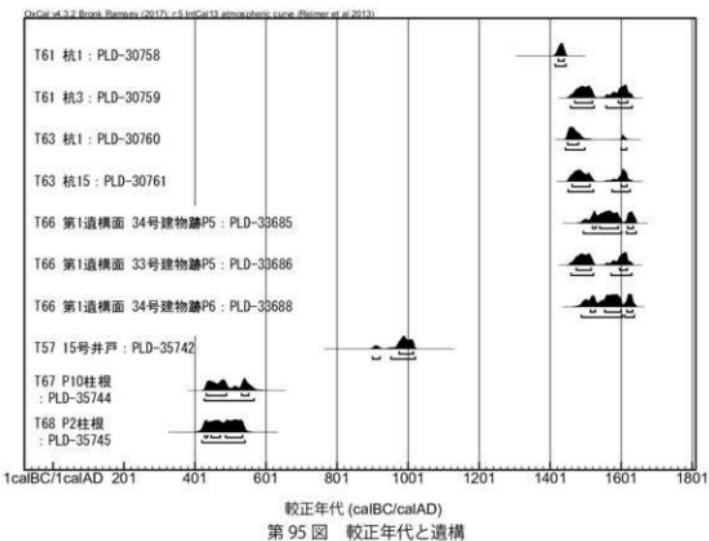
と50-150年古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、やや古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没した可能性も考える必要がある。26号建物跡P5は426-545 cal ADと150-250年、29号建物跡は391-534 cal AD（いずれも $2\sigma$ ）と150-300年ほど古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。

### ③ 186

7世紀～8世紀頃の遺構と考えられている。426-548 cal AD ( $2\sigma$ )と、50年程度古い年代が得られている。樹木年輪の内外層の差を考慮すると、一致するとも捉えられるが、試料が炭化材であることから二次的に埋没した可能性も考えられる。

### ④ 塚もしくは長舎：29号建物跡P1、P2、P3、P5

7世紀～8世紀頃の遺構と考えられている。29号建物跡P5は565-640 cal AD ( $2\sigma$ )と推定時期と一致する。29号建物跡P2は435-602 cal AD ( $2\sigma$ )とやや古い年代を示すが、樹木年輪の内外層の差を考慮すると、一致する年代値と捉えられる。一方、29号建物跡P3は-553 cal ADと、50-150年古い年代値であった。他の試料との関係から、試料が二次的に埋没したものと考えられる。更に29号建物跡P1は134-318 cal ADと、300年ほど古い値を示す。やはり他の試料との関係、試料が塙方から出土したこと、炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。



##### ⑤ SB19 P11

7世紀後葉の遺構と考えられている。428-575 cal AD ( $2\sigma$ ) と50-100年古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、やや古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没した可能性も考える必要がある。

##### 較正年代と遺構

年代測定を実施した23試料の内、下記の10試料については、年代測定結果（較正年代）から遺構の時期を推定することが目的であった。第88図に較正年代と遺構の関係を示し、解説を加えた。

##### (1) T61 桁1、T61 桁3、T63 桁1、T63 桁13

T61 桁1のみ、若干古い15世紀前半 ( $2\sigma$ ) の値が得られたが、他の3試料は15世紀中頃から17世紀前半 ( $2\sigma$ ) の値を示した。また、これら3試料が示す値は、大きく前半（15世紀中頃から16世紀前半）と後半（16世紀後半から17世紀前半）に分れた（第95図）。

両トレンチで検出された遺構を一連の遺構と捉えると、試料No.1との関連から、前半（15世紀中頃から16世紀前半）の可能性が強いと考えられる。

一方、両トレンチで検出された遺構を別の時期の遺構と捉えると、T61の「2号護岸状施設」は、試料No.1との関連から前半（15世紀中頃から16世紀前半）の可能性が強いように考えられる。一方、T63の「1号石組遺構」の年代を絞ることはできず、15世紀中頃から17世紀前半と広く捉えることが妥当である。

##### (2) 柱跡 : T66 34号建物跡P5、33号建物跡P5、34号建物跡P6

3試料とも、16世紀から17世紀前半 ( $1\sigma$ ) の年代が得られた。樹木では、年輪形成時の年代が測定年代として得られることから、得られた年代が伐採（使用）推定時期より古くなる傾向にある。既に、同時期には出雲國府の機能が失われていたと考えられることから、今回の柱跡が出雲國

府に関連した遺構であるとは考えにくい。

(3) T57 15号井戸

平安時代中頃を示す 901-1021cal AD (2 σ) の年代が得られた。同時期は出雲国府が続いている時期と重なり、15号井戸は出雲国府に関連する遺構と考えられる。

(4) 杆跡：SB020B P10 柱根、T67 SA003 P 2 柱根

2 試料とも、古墳時代後期を示す 5 世紀前半から 6 世紀中頃 (2 σ) の年代値が得られた。出雲国府の施設に伴うとすれば、100 年ほど古い値である。一方、測定試料はいずれも柱の外側の年輪部分から採取していた。また、両試料の年輪幅は 0.2 ~ 3mm と狭く、1mm の幅に 4 年輪程度存在する。この年輪幅が続くとすると、25mm 幅に 100 年輪が含まれることになる。製材された厚さを考慮すると、これらの柱の伐採年代が奈良時代まで新しくなる可能性は十分にある。したがって初期の国府に用いられた柱である可能性が指摘できる。またいずれの樹種もヒノキ属であった。これまでに出雲国府内で樹種同定が行われた柱 42 本のうち 9 本を占めており、クリの 14 本に次いでいた（渡辺・中川, 2013）。ヒノキは香材であり、平城京でも多用されていることからも、この柱が国府に関連していた可能性は高い。

#### 出雲国府跡より得られた柱材について

今回樹種同定を行った 6 試料の内、5 試料が柱（柱根）であり、ヒノキ属が 3 試料、クリが 2 試料の内訳であった。また、ヒノキ属の内 1 試料とクリから、16 世紀から 17 世紀前半の年代値が、ヒノキ属 2 試料から 5 世紀前半から 6 世紀中頃の年代値が得られた。また、渡辺・中川(2013)のデータベースによれば、島根県下では 248 試料の「柱」の記載があり、そのうちおよそ半数の 115 試料がクリ、19 試料がヒノキ属であった。

今までに記載されたヒノキ属の柱のうち、およそ半数の 9 本が出雲国府跡から出土したものであり、出雲国府での用材の特徴と言える。

一方、年代測定値の 16 世紀から 17 世紀前半に近い「室町時代から江戸時代」に限ると 76 試料の内、52 試料とおよそ 2/3 をクリが占め、最も用いられた樹種であった。一方、この時期に、ヒノキ属は検出されず、今回の試料が初出となる。

#### まとめ

出雲国府跡での AMS 年代測定結果及び樹種同定結果から、以下の事柄が明らかになった。

- 1) 推定年代の裏付けのために年代測定を実施した試料では、推定時期より 50 年から 300 年古い年代が多く得られた。一般的に年輪内外の差から、年代測定値は伐採年より古くなる傾向にあるが、説明しにくいほどの差も認められた。試料のほとんどが炭化材であったこともあり、試料が二次的に埋没した可能性が示唆される。また、木材の転用なども考える必要がある。
- 2) T61、T63 で検出された 2 号護岸状施設と 1 号石組遺構は、15 世紀中頃から 17 世紀前半頃の遺構であり、出雲国府とは無関係であった。
- 3) T58 8 0 号溝出土木片からは、8 世紀後半から 9 世紀後半 (1 σ) の年代が得られ、出雲国府と関わりがあった可能性が高い。
- 4) T66 3 3 号建物跡と 3 4 号建物跡の柱根からは、16 世紀から 17 世紀前半 (1 σ) の年代値が得られ、出雲国府に関連した遺構とは考えにくい。ただし、第 1 遺構面で検出された遺構には、7 世紀末から⑥世紀後半の年代値が得られたものもあった。第 1 遺構面が生活面として機能した時

期が長期に渡った可能性が示唆される。

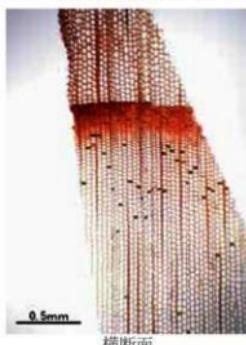
5) 柱材は2試料がクリ、3試料がヒノキ属であった。クリは室町から江戸時代にかけての柱として、最も一般的な用材である、一方ヒノキ属の柱は、從町から江戸時代にかけての時期では初出であった。またヒノキ属の柱について、島根県下では出雲国府跡での報告例が特に多く、出雲国府での用材の特徴と言える。

#### 【引用文献】

- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造. 276p., 文永堂, 東京.
- 渡辺正巳（2010）木質遺物（埋没樹木）樹種同定. 必携 考古資料の自然科学調査法, 194-198. ニュー・サイエンス社, 東京.
- 渡辺正巳・中川 寧（2013）山陰の木製品の樹種と植生について. 木製品から見た古代のくらし, 37-48. 島根県古代文化センター.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

樹種同定顕微鏡写真

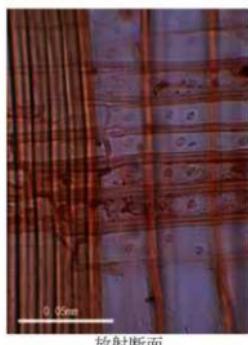
ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. : T66 34号建物跡P6 (W17020503)



横断面



接線断面



放射断面

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. : T66 34号建物跡P5 (W17020502)



横断面



接線断面



放射断面

## 第5章 総括

### 第1節 出土遺物

#### 1. 瓦類

今回の発掘調査で出土した瓦類は宮の後地区（調査面積 57m<sup>2</sup>）で約 55kg、六所脇地区（同 271m<sup>2</sup>）で約 195kg である。1 m<sup>2</sup>あたりの出土量に換算すると宮の後地区で 720g、六所脇地区で 960g となる。これまでの六所脇地区的出土量は 1 m<sup>2</sup>あたり 328 g であり、今回の調査区が地区内でも瓦類が多いといえる（第7表）。

軒瓦（第96～97図）は六所脇地区では軒丸瓦の瓦当部 21 点、丸瓦部 16 点が出土した。軒平瓦は 1 点も出土していない。軒丸瓦は山代郷南新造院（四王寺）I 類が 1 点あり、それ以外はすべて出雲国分寺 2 型式・3 型式（註1）と同范である（96-3～7、96-15～25）。創建期の I 型式は出土していない。96-1 は山代郷南新造院（四王寺）I 類の瓦当部である（註2）。中房とその上部の内外区を欠失する。内区は単独にのぞき間弁を配する。内区と外区のあいだは細い圈線で画し、外区内縁に珠文を置く。外縁はわずかしか残っていないが、わずかに面違い鋸歯文が確認できる。丸瓦部の先端には刻みが施されている。このほかの丸瓦部（97-1～9）はいずれも焼きが甘く、先端に刻みを施したものは 97-1 の 1 点のみである。

宮の後地区では、軒丸瓦の瓦当部 12 点（96-8～14）、丸瓦部 4 点が出土している。軒丸瓦は出雲国分寺 3 型式である。六所脇地区と同様に軒平瓦は 1 点も出土していない。このほか六所脇地区の南側 T62 からも軒丸瓦 2 型式の瓦当部 1 点が出土している（96-2）。

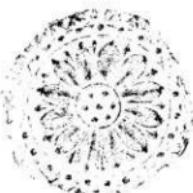
平瓦（第98～102図）は、両地区とも桶巻作りは 1 点も出土しておらず、すべて 1 枚作りであった。平瓦の凸面成形は繩タタキ（98-1～2）、格子タタキ（98-3～101-8）、平行タタキ（101-9・10）、ケズリ・ナデ、不明（102-1～9）がある。これまで格子タタキは 1～21 種まで分類していたが、今回あらたに 2 種のタタキが確認できた。格子タタキ 22（86-2）は出雲国分寺 34、格子タタキ 23（86-5）は出雲国分寺格子 25 に相当すると思われる（第12表）（註3）。

丸瓦（第102～104図）は、平瓦と同様に『史跡出雲国府跡6』に従い分類した。103-1～3 が有段式、4～7 は無段式である。それ以外は狭端部が残っておらず、有段式か無段式か不明である。

道具瓦は 38 点出土した。このうち熨斗瓦（106-1～8）は六所脇地区で 31 点、宮の後地区で 4 点確認された。狭端部から広端部まで残っているものはなくすべて破片である。いずれも平瓦に切り込みを入れて割られた切削熨斗である。切り込みは 106-1 が深さ 1.3cm、106-2～8 は 0.5cm 前後である。最大幅は 7.6～14.6cm までみられる。

隅切平瓦（106-9・10）は、六所脇地区 2 点出土している。いずれも焼成前に広端部を切り落としている。106-9・10 とも焼きが良く、10 は須恵質をしている。

鬼瓦（第107図）は六所脇地区から 1 点出土した。鬼面文鬼瓦の正面左上の破片である。表面の大半は風化剥落しているが、范型を用いて製作されたものと考えられる。中央の半球状突起から



参考 山代郷南新造院（四王寺）I 類 (S=1/4)  
註2 の第13図より転載

鼻、眉と右瞼を表現した凸線の一部が確認できる。出雲国分寺跡出土の鬼瓦と比較すると、同範ではないが同じ図柄である。ただし、外縁に珠文が無く一回り小さい。同様の鬼瓦は出雲国分尼寺や中竹矢遺跡で出土しており、今回出土した鬼瓦に近似するが、同じ部位が残存しておらず同範かは不明である（註4）。



参考 出雲国分寺出土鬼瓦復元図 (S=1/4) 註3の15 第151図を一部改変して転載)

以下、屋根景観の復元（第8表・第9表・第10表）を検討する。ただし、六所脇地区について検討し、宮の後地区は調査範囲が狭いことから分析対象としない。

丸瓦と平瓦の比率は隅数計測法に基づくと1:1.3となる。既往の調査分も含めると国分寺創建期で1:1.8、補修期で1:1.7となる（第10表）。また、もうひとつの分析方法である重量計測法では創建期が1:3.2、補修期1:2.7である（第10表）。この分析から得られた数値は瓦葺建物に使われていた瓦が廃棄されたことを示している（註5）。出土状況からも二次的移動によるものではなく、当地区で使用されたものと考える。

軒瓦は既往の調査分と合わせて軒丸瓦2型式1点、3型式26点が出土している。「総括報告書」でも指摘したように、当地区の軒瓦は他地区にくらべて非常に多い。軒瓦はほぼ軒丸瓦で（軒平瓦は補修期の瓦が1点のみ）、出雲国府跡では軒平瓦を使用しなかった可能性が考えられる。

また熨斗瓦も既往の調査分と合わせて破片数60、隅数22、重量16.8kgが出土している。大倉原地区では1点も出土しておらず、宮の後地区（1968～1970（昭和43～45）年度調査）でも破片数16、隅数7、重量4.28kgが出土しているのみである。宮の後地区とは重量比で約4倍となる。調査面積も考慮すると、六所脇地区的出土量は他地区に対し突出した数字といえる。熨斗瓦は国分寺、補修期の2時期とも使用されている。

軒瓦は軒丸瓦しかなく熨斗瓦が多く出土しているものの、丸瓦・平瓦の比率は熨斗棟・甍棟とは開きがみられる（註6）。

こうした瓦の比率とあわせて、出土量についてもひきつづき検討を加え、屋根景観の復元に取り組む必要がある（註7）。

第7表 出土瓦類集計表

種別	分類	六所脇 総数			宮の後地区 総数		
		破片数	個数	重量(グラム)	破片数	個数	重量(グラム)
軒丸瓦	南新造院 1型	1	0	740	0	0	0
	出雲国分寺 1型式	0	0	0	0	0	0
	2型式	0	0	0	0	0	0
	3型式	20	0	2,740	7	0	930
	不明	1	0	100	5	0	240
	丸瓦部	16	0	2,560	4	0	680
小計		38	0	6,140	16	0	1,850
平瓦	桶巻き 桶タタキ・平行タタキ	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
	1枚作り 桶タタキ1(硬質)	29	1	5,170	11	0	2,140
	桶タタキ1(軟質)	16	4	2,990	8	0	1,830
	桶タタキ2	2	0	170	0	0	0
	小計	47	5	8,330	19	0	3,970
	1枚作り 格子1	20	8	8,390	6	0	1,610
	格子2	53	5	12,140	41	2	5,990
	格子3	5	0	1,660	1	0	200
	格子4	1	0	480	0	0	0
1枚作り	格子5	6	1	1,280	2	0	640
	格子6	1	0	160	0	0	0
	格子7	12	0	2,460	1	0	340
	格子8	2	0	170	0	0	0
	格子9	1	0	100	0	0	0
	格子10	1	0	20	0	0	0
	格子11	0	0	0	0	0	0
	格子12	3	1	800	1	0	250
	格子13	0	0	0	0	0	0
	格子14	0	0	0	0	0	0
1枚作り	格子15	4	1	700	0	0	0
	格子16	2	1	680	1	1	220
	格子17	3	0	630	0	0	0
	格子18	3	0	1,150	0	0	0
	格子19	1	0	140	0	0	0
	格子20	3	1	950	0	0	0
	格子21	3	0	510	0	0	0
	格子22	5	1	2,080	2	0	400
	格子23	9	1	2,460	11	0	4,700
	不明(硬質)	45	6	9,810	4	0	350
1枚作り	不明(軟質)	142	18	26,600	24	0	2,980
	小計	325	44	73,370	94	3	17,750
	平行	10	1	3,340	4	0	680
	小計	10	1	3,340	4	0	680
1枚作り	ナデ	4	0	410	6	0	410
	小計	4	0	410	6	0	410
	タタキ(不明)	198	9	28,950	49	3	5,050
1枚作り	小計	198	9	28,950	49	3	5,050
	総計	584	59	114,400	172	6	27,860
丸瓦	有段式 A	60	16	4,910	6	0	320
	B	0	0	0	0	0	0
	小計	60	16	4,910	6	0	320
	無段式 硬質	10	4	2,120	1	0	200
	軟質	18	16	5,660	18	9	3,060
	小計	28	20	7,870	19	9	3,260
	不明 焼成硬質	91	1	12,950	30	1	2,940
	焼成軟質	386	7	39,040	178	2	16,310
	小計	477	8	51,990	208	3	19,250
	総計	565	44	64,770	233	12	22,830
道具瓦	楕斗瓦	31	5	6,990	4	2	820
	磚	0	0	0	0	0	0
	シビ	0	0	0	0	0	0
	隅切平瓦	2	1	1,360	0	0	0
	隅落丸瓦	0	0	0	0	0	0
	曳瓦	0	0	0	1	0	1,290
	不明	0	0	0	0	0	0
	総計	34	6	8,860	5	2	2,110
不明		267	0	7,860	68	0	1,920
国府6	創建期 平瓦	131	17	32,460	29	0	5,960
	創建期 丸瓦	60	16	4,910	6	0	320
	補修期 平瓦	255	33	52,990	94	3	16,780
	補修期 丸瓦	28	20	7,870	19	9	3,260

第8表 六所脇地区・宮の後地区的丸瓦・平瓦の比率

地区名	平瓦			丸瓦		
	破片数(点)	個数(点)	重量(グラム)	破片数(点)	個数(点)	重量(グラム)
六所脇	584	59	114,400	565	44	64,770
宮の後	172	6	27,860	233	12	22,830

個体数(個数÷4)

地区名	個体数(枚)		比率	
	丸	平	丸	平
六所脇	11	14.75	1	1.3
宮の後	3	1.5	1	0.5

第9表 地区別の瓦変遷

六所脇地区

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ			破片数	個数	重量
		丸瓦	有段式(A・硬質)	平瓦			
国分寺創建期	軒丸瓦1類	丸瓦	有段式(A・硬質)		60	16	4,910
	軒平瓦1類	平瓦	格子タタキ(1・3・5・6・7・10・不明硬質) 繩タタキ1(硬質) 繩タタキ2 平行タタキ		131	17	32,460
国分寺補修期	軒丸瓦2~3類	丸瓦	有段式(B・軟質) 無段式		28	20	7,870
	軒平瓦2~3類	平瓦	格子タタキ(2・4・8・9・11~23・不明軟質) 繩タタキ1(軟質)・ナデ		255	33	52,990

宮の後地区

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ			破片数	個数	重量
		丸瓦	有段式(A・硬質)	平瓦			
国分寺創建期	軒丸瓦1類	丸瓦	有段式(A・硬質)		6	0	320
	軒平瓦1類	平瓦	格子タタキ(1・3・5・6・7・10・不明硬質) 繩タタキ1(硬質) 平行タタキ		29	0	5,960
国分寺補修期	軒丸瓦2~3類	丸瓦	有段式(B・軟質) 無段式		19	9	3,260
	軒平瓦2~3類	平瓦	格子タタキ(2・4・8・9・11~23・不明軟質) 繩タタキ1(軟質)・ナデ		94	3	16,780

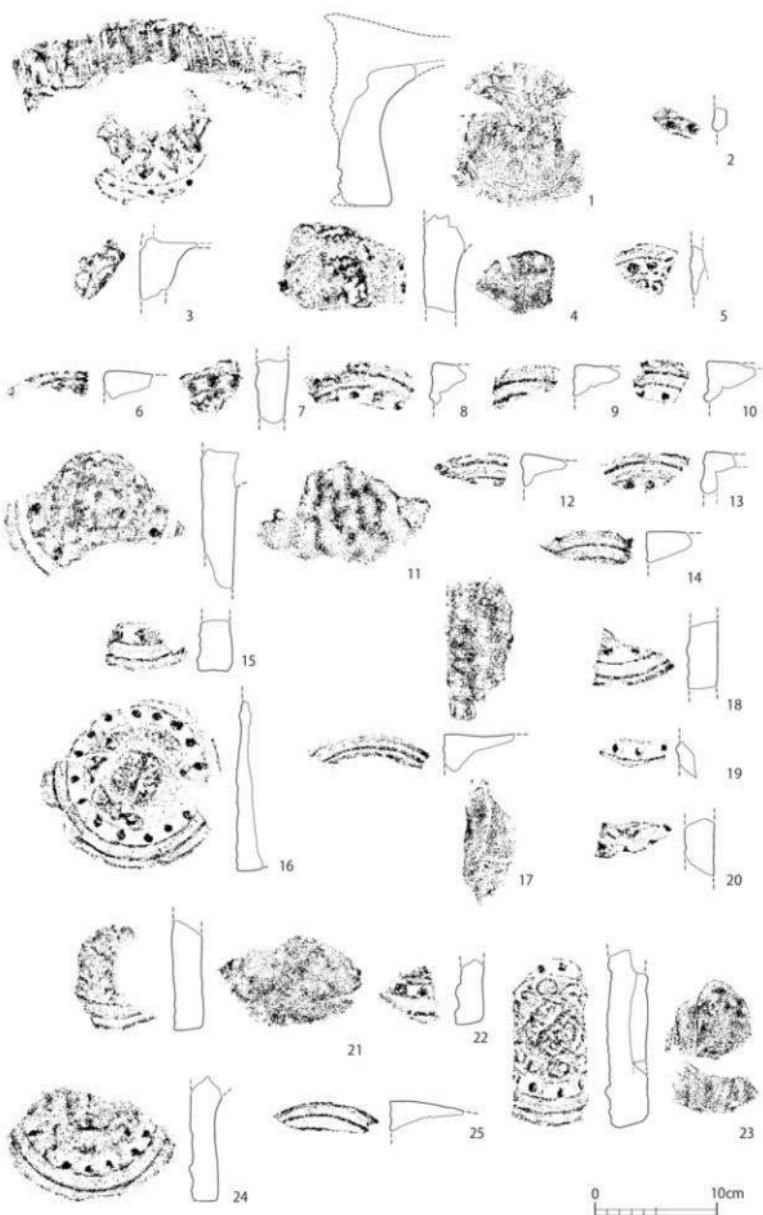
第10表 六所脇地区的瓦変遷(既往の調査分含む)

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ			破片数	個数	(重量の根拠)	枚数	比率	隅数計測法
		破片数	個数	重量(g)						
国分寺創建期	軒平瓦1型式	平瓦	格子タタキ(1・3・5・6・7・10・不明硬質) 繩タタキ1(硬質) 繩タタキ2 平行タタキ	182	35	45,960	4,000	3-7-4-1	11.5	3.2
	軒丸瓦1型式	丸瓦	有段式(A・硬質)	88	20	9,800	2,700	1-7-3-12-13 の平均値	3.6	1.0
国分寺補修期	軒平瓦2~3型式	平瓦	格子タタキ(2・4・8・9・11~23・不明軟質) 繩タタキ1(軟質)・ナデ	379	58	80,960	3,200	中竹矢9.4-3.83- 3.84の平均値	25.3	2.7
	軒丸瓦2~3型式	丸瓦	有段式(B・軟質) 無段式	43	34	22,220	2,400	1-38-15-6- 56-3の平均値	9.3	1.0

\* 1枚あたりの重量は、出雲町新幹出土瓦から設定したが、補修期平瓦のみ中竹矢瓦実跡資料(鳥取県教育委員会 1992 「一般国道9号松江道路建設予定地内埋文化財発掘調査報告書X(中竹矢瓦跡)」)を使用した。数字の先頭が報告書シリーズ番号、枝番号が細則番号である。

個体数(個数÷4)

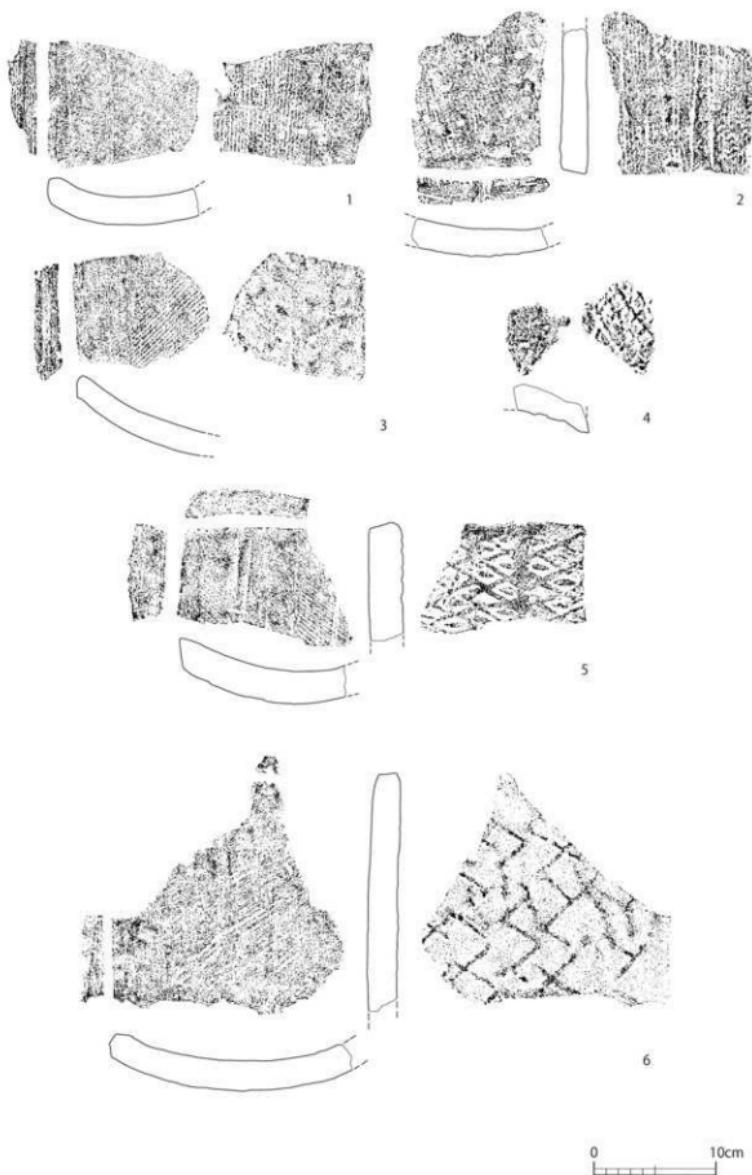
地区名	個体数(枚)		比率	
	丸	平	丸	平
国分寺創建期	5	8.75	1	1.8
国分寺補修期	8.5	14.5	1	1.7

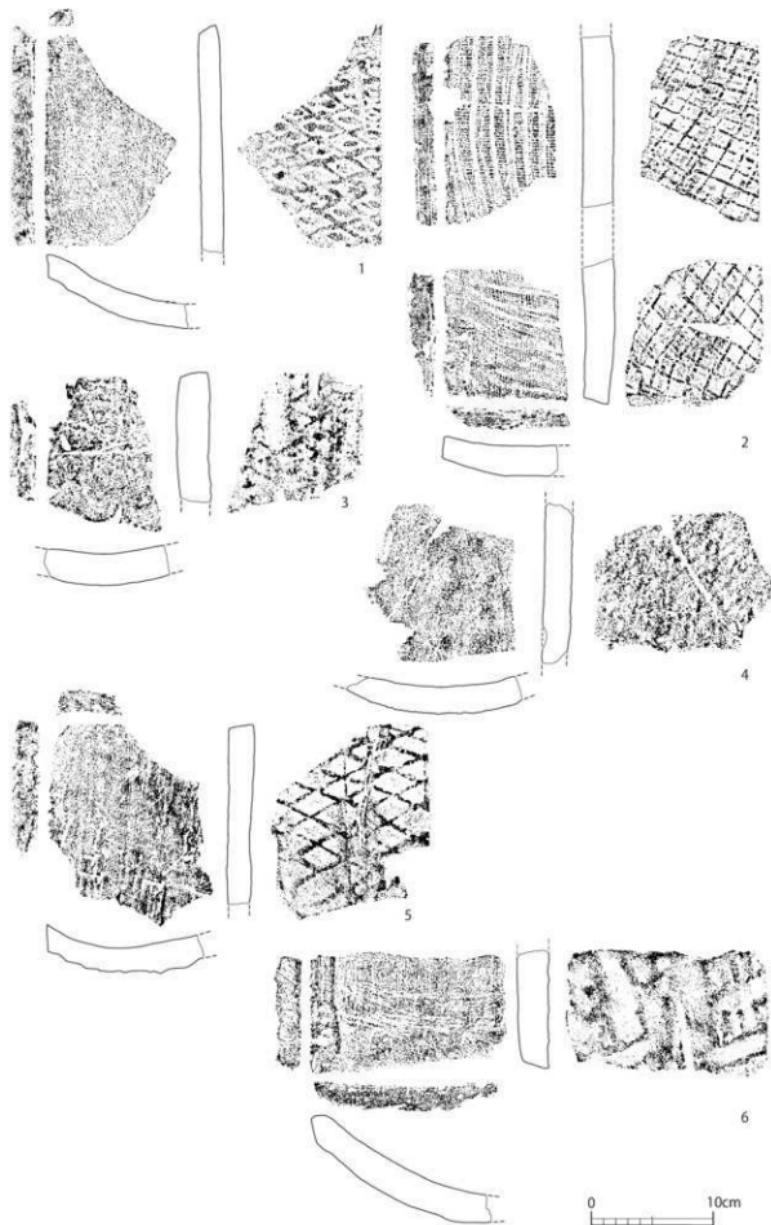


第96図 軒丸瓦実測図① (S= 1/4)

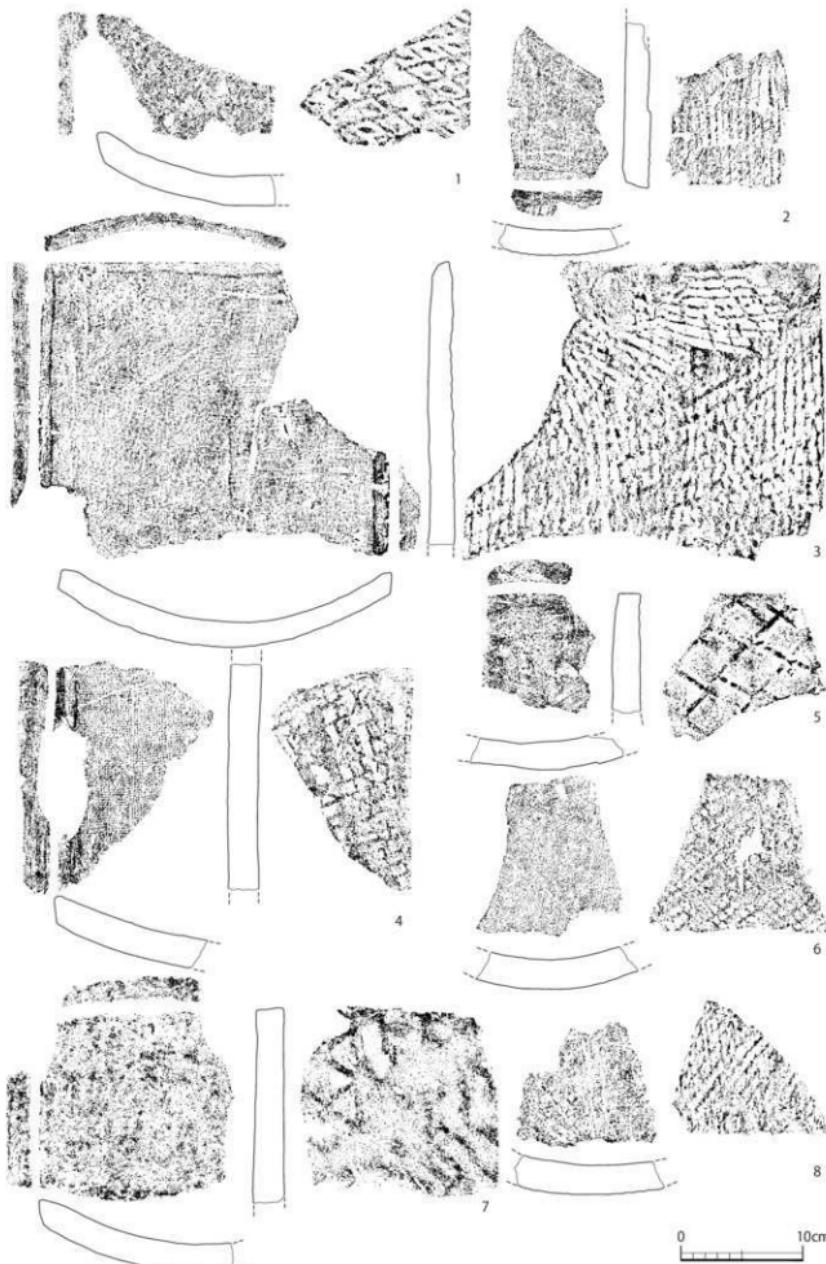


第97図 軒丸瓦実測図② ( $S = 1/4$ )

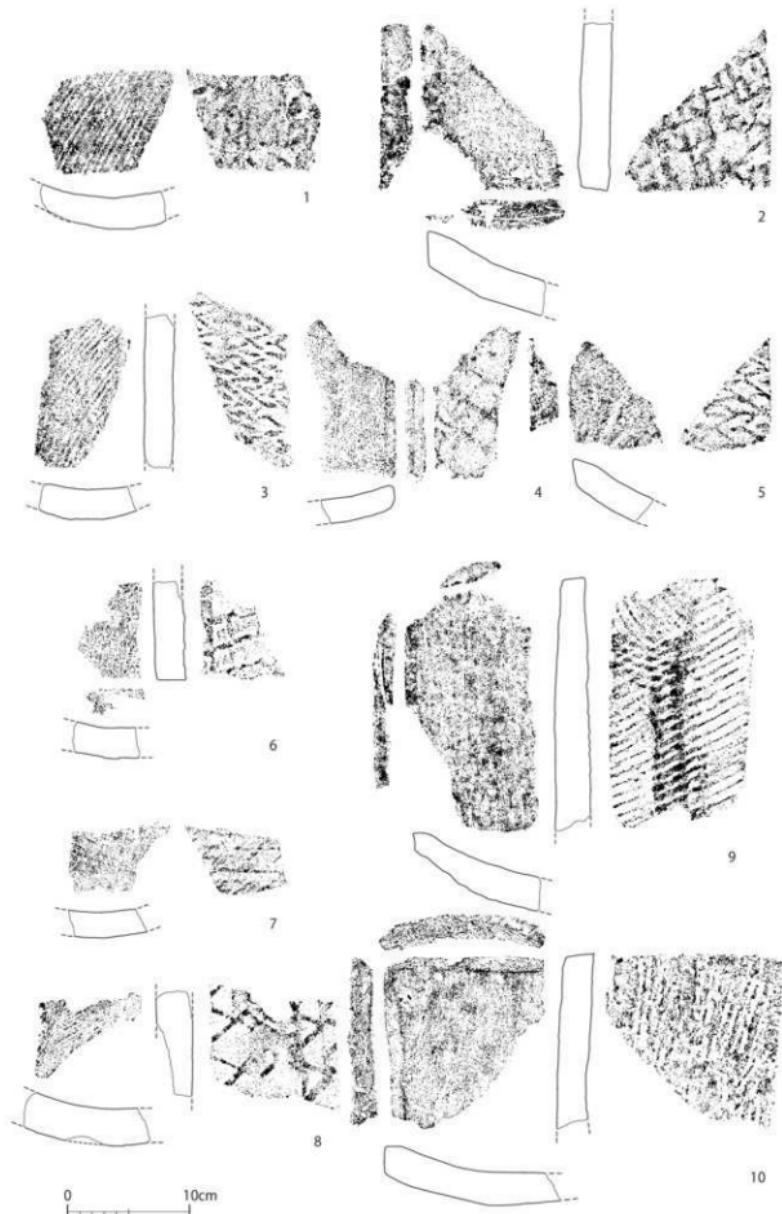
第98図 平瓦実測図① ( $S=1/4$ )



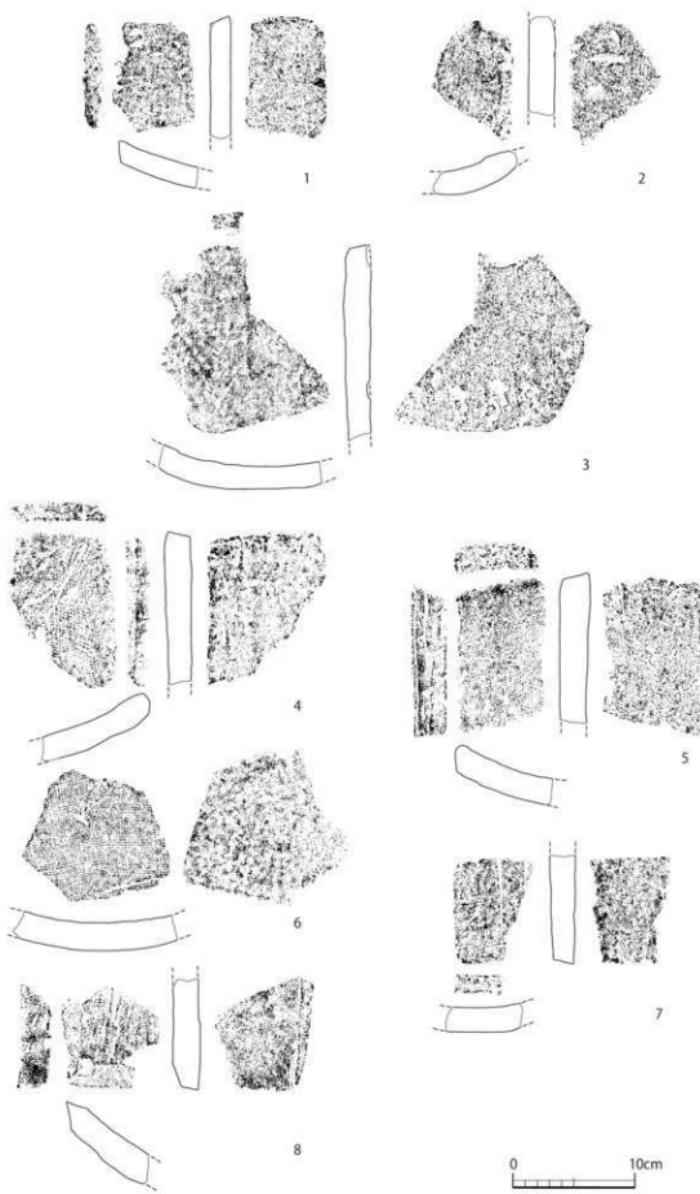
第99図 平瓦実測図② (S= 1/4)



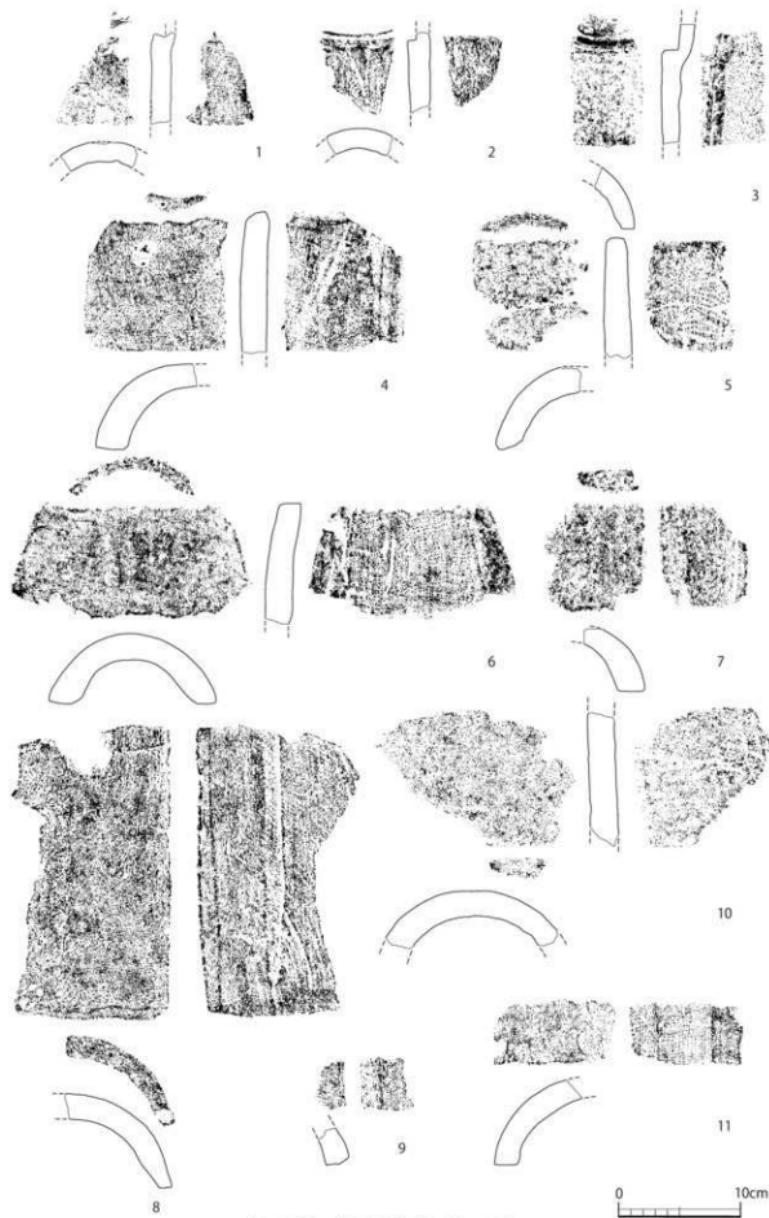
第100図 平瓦実測図③ (S= 1/4)



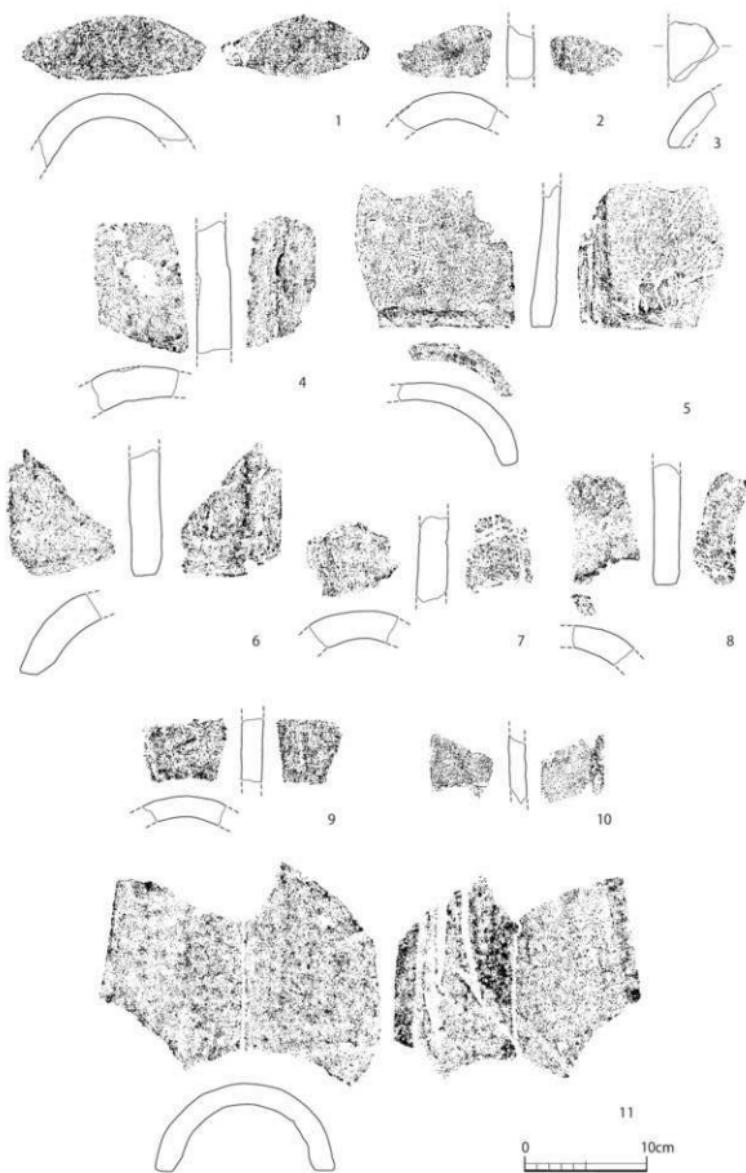
第101図 平瓦実測図④ ( $S=1/4$ )

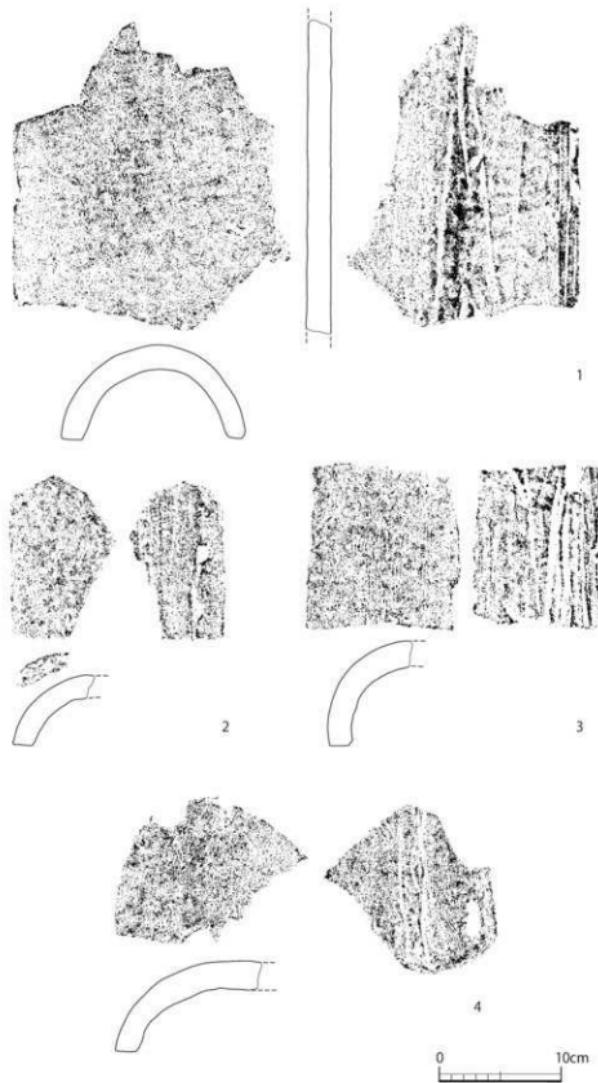


第102図 平瓦実測図⑤ (S=1/4)

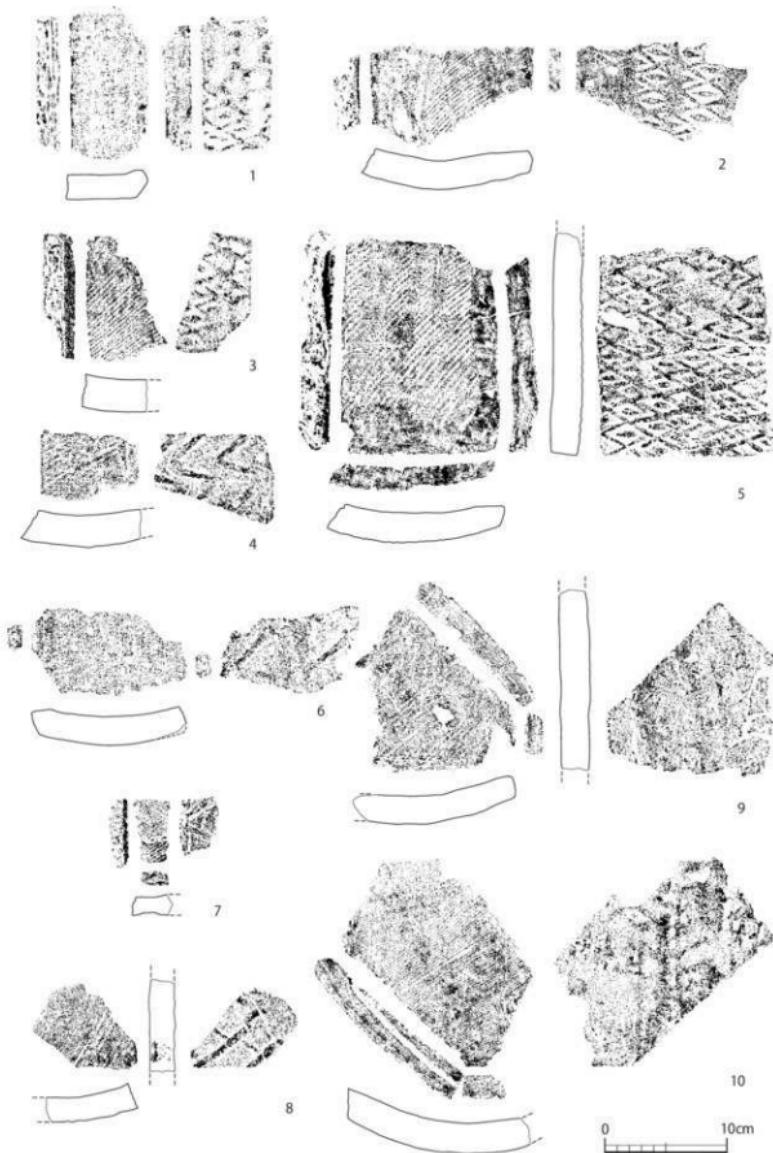


第103図 丸瓦実測図① ( $S=1/4$ )

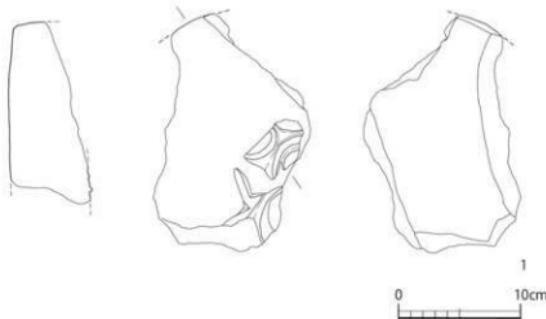
第104図 丸瓦実測図② ( $S = 1/4$ )



第105図 丸瓦実測図③ ( $S=1/4$ )



第106図 道具瓦実測図 (S= 1/4)



第107図 鬼瓦実測図 (S=1/4)

第11表 瓦の区分指標

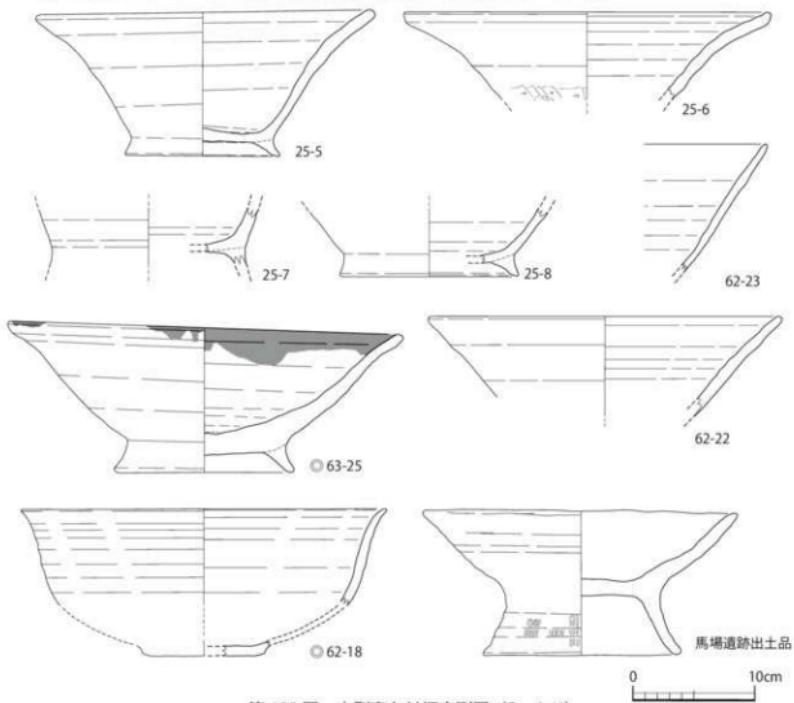
贈年代	8世紀中頃以降		8世紀後葉以降	
	出雲国分寺創建期	出雲国分寺補修期	出雲国分寺創建期	出雲国分寺補修期
軒先瓦	軒丸瓦1類	軒平瓦1類	軒丸瓦2・3類	軒平瓦2・3類
組み合わせ	有段式丸瓦A類(硬質)	平瓦 格子タタキ(1・3・5・6・7・10・不明硬質)、圓タタキ(硬質)	有段式丸瓦B類(軟質) 無段式丸瓦	平瓦 格子タタキ(2・4・8・9・11～23・不明軟質)、 圓タタキ(軟質)、ナデ(軟質)

第12表 平瓦のタタキ分類表

時期	分類	形態	色調	焼成	砂礫の量	離れ砂	出雲国分寺分類
創建期	格子タタキ1	斜格子。格子細かい。	灰～灰白色	硬質	少量	×	1
	格子タタキ3	菱形格子。一辺0.5～1.0cm程度	灰～灰褐色	硬質	少量	×	2
	格子タタキ5	方形格子。一辺0.5cm程度	灰色	硬質	少量	×	5
	格子タタキ6	角形格子。長辺1.5cm×短辺0.2cm程度の横長	灰色	硬質	少量	×	6
	格子タタキ7	横方向の平行線と要形格子の組み合わせ。平行線の間隔が狭い	灰～浅黄褐色	硬質	少量	○	7
	格子タタキ10	長方形格子。長辺2.0cm×短辺0.3cm程度の横長	灰色	硬質	少量	×	10
	鵠タタキ2	細かいタタキ(4)。交差する	褐～赤褐色	硬質	少量	×	鵠タタキ
	平行タタキ		灰色	硬質	少量	×	平行印合
	格子タタキ11	菱形格子。格子内部が突出する。一辺2.5cm程度	灰色	軟質	多量	○	2
補修期	格子タタキ4	方形格子。一辺3cm程度	浅黄褐色	軟質	少量	×	4
	格子タタキ8	楕方向の平行線と要形格子の組み合わせ。平行線の間隔が広い	灰白～浅黄褐色	軟質	少量	×	8
	格子タタキ9	菱形格子。「工」もしくは「H」形	灰白色	軟質	少量	×	9
	格子タタキ11	方形格子。長辺2.0cm×短辺0.1cm程度の横長	灰白色	硬質	多量	×	11
	格子タタキ12	菱形格子。格子に横方向の細かい平行線が入る	淡黄色	軟質	多量	○	12
	格子タタキ13	方形格子。一辺2.5cm程度。横線が1.2cmと太い	灰白～浅黄褐色	軟質	多量	×	13
	格子タタキ14	方形格子。長辺3～4cm×短辺1～2cm程度の横長	浅黄褐色	軟質	多量	×	14
	格子タタキ15	菱形格子。一辺1.5～2.5cm程度	淡黄色	軟質	多量	×	15
	格子タタキ16	方形格子。長辺2.5cm×短辺0.5cm程度の横長	灰白色	軟質	多量	×	16
	格子タタキ17	菱形格子。長辺3.5cm×短辺2.5cm程度	灰～浅黄褐色	軟質	多量	○	17
	格子タタキ18	斜格子。長辺2.5×短辺1.5cm程度	灰色	硬質	多量	×	18
	格子タタキ19	菱形格子。山形状。頂点が突出する	浅黄褐色	軟質	少量	○	19
	格子タタキ20	菱形格子。格子内部が突出する。一辺4cm程度	灰～船灰色	軟質(いぶし瓦風)	少量	×	20
	格子タタキ21	長方形格子。長辺2.0～3.5cm×短辺0.5cm程度。細長い	灰白色	軟質	少量	×	21
	格子タタキ22	斜格子。一辺1cm程度。	灰白色	軟質	少量	×	34
	格子タタキ23	斜格子。一辺3cm程度。	浅黄褐色～淡灰褐色	軟質	多量	×	25
	鵠タタキ1	鵠印に太、細。タタキに深、淺あり	灰白～浅黄褐色	軟質	少量	×	鵠印き
	ナデなど	楕方向のナデ、ケズリ	灰白色	軟質	少量	×	

## 大型高台付坏（第108図）

大型高台付坏は既往の調査では出土しておらず、今回の調査で7点出土した。共伴遺物から第8型式～第10型式に属すると考えられる。63-25は口縁部のほぼ全周に煤が付着しており、灯明用の器として使用されたと考えられる。63-25以外の出土品に煤は付着していないことから、62-25は灯明用の器に転用されたと考えられる。大型の坏類としては、この他に県内では馬場遺跡（雲南市）で10世紀後半から11世紀初頭の墓から1点出土している（註6）。この墓からは「黒田」とヘラ書きされた足高高台付坏も出土している。また、62-18は無高台であるが大きさは類似する。これらの大型の土器は類例が少なく不明な点が多いが、出雲国府跡でも国庁域と考えられる六所脇地区で出土していることから、重要な施設で使用される土器と考えられる。



第108図 大型高台付坏実測図 (S= 1/4)

## 墨書土器（第13表、第109図）

墨書土器は、既往の調査では、宮の後地区105点、大倉原地区99点、その他2点の合計206点が出土している。今回の調査では六所脇地区で6点、宮の後地区で5点、合計11点が出土した。種別は須恵器が10点で、土師器が1点である。器種は高台付坏2点、無高台皿4点、無高台坏2点、無高台坏か皿2点、蓋1点である。墨書箇所は外面が8点、内面が3点である。

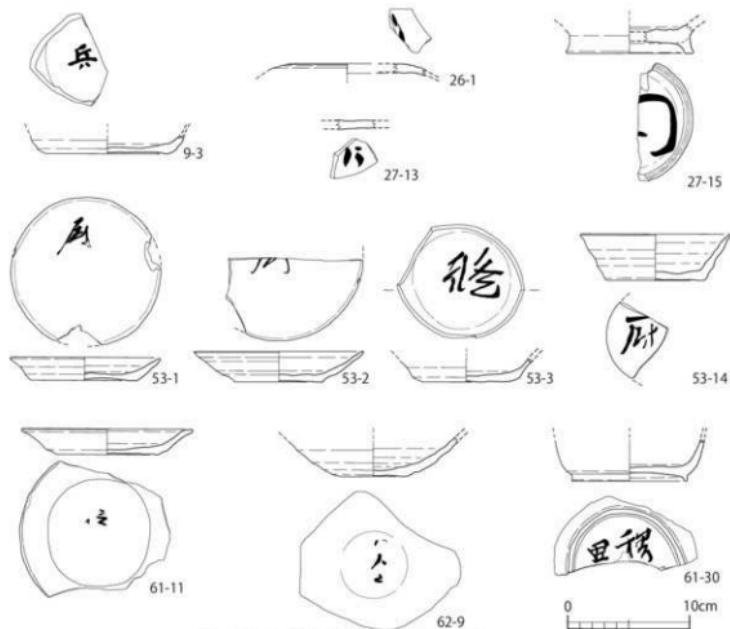
文字は「厨」が最も多く3点あり（53-1、2、14）、全てが80号溝から出土している。『総括報告書』では「厨」2点、「厨カ」1点、「出厨」1点、「国厨」1点、「国厨カ」2点、「厨○（記号）」

1点が報告されている。また、「兵」(9-3)、「分」(27-13)、「修」(53-3)、「福」(61-11)は出雲国府跡ではこれまで出土例はない。

文字や型式について80号溝と宮の後地区では違いがある。六所脇地区の80号溝の出土品は第5～10型式で、書かれた文字は「厨」が4点、「修」1点である。宮の後地区の出土品は第3～6型式で、「厨」の墨書きがない。既往の調査では宮の後地区でも「厨」に類する文字が書かれた墨書き土器は4点あり、六所脇地区のみが「厨」に関連する訳ではないが、第5型式以降の時期には、六所脇地区周辺に「厨」の墨書き土器を使用する施設が存在した可能性が高い。

第13表 出土墨書き土器一覧

排囲番号	文字	地区	調査区	遺構名	層位	種別	器種	型式	箇所
9-3	兵	六所脇地区	T56		19層	須恵器	無高台环か皿		底部外面
26-1	不明	六所脇地区	T67 中央区		南区北壁 3層	須恵器	蓋	出雲3～4期	天井部外面
53-1	厨	六所脇地区	T58 南区	80号溝	22層	須恵器	無高台皿	第5型式	内面
53-2	厨	六所脇地区	T58 南区	80号溝	22層	須恵器	無高台皿	第5型式	内面
53-3	修	六所脇地区	T58 南区	80号溝	22層	須恵器	無高台环か皿	第6型式	内面
53-14	厨	六所脇地区	T58 南区	80号溝	26層	須恵器	無高台皿	第10型式	外面
61-30	異?福?	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	須恵器	高台付环	第3～4型式	底部外面
61-11	福	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層	須恵器	無高台皿	第5～6型式	底部外面
27-15	門構えか、内	宮の後地区	T68		埋灰土	須恵器	高台付环	第4型式	底部外面
27-13	分	宮の後地区	T68		西壁 24層上面	須恵器	無高台环		底部外面
62-9	「●人●」	宮の後地区	T68		西壁 11層 (黒色土)	土師器	無高台环		底部外面



第109図 墨書き土器実測図 (S= 1/4)

## 硯（第14表）

硯は既往の調査では定形硯116点、転用硯220点、石硯4点、合計340点の硯が出土している。今回の調査では定形硯2点、転用硯38点、合計40点が出土した。定形硯は風字硯1点(61-12)と円面硯1点(61-45)である。このうち62-27は蓋の転用硯と考えられるが、内面にはスタンプによる渦文があり、外面と内面の縁に漆を塗布した特殊な品である。これらの遺物は1号池状施設から出土した。

第14表 出土硯一覧（挿図番号が「\*」は表のみ掲載）

番号	挿図番号	器種	地区	調査区	遺構	土層	型式	硯面
1	9-7	無高台皿	六所駄地区	T56		19層	第4～5型式	底部外面
2	*	皿	六所駄地区	T56		9層	第5型式	内面
3	*	环	六所駄地区	T56	79号溝			内面
4	*	蓋	六所駄地区	T57		北壁8層(縹層)	第4型式	内面
5	11-21	蓋	六所駄地区	T57		北壁10層		内面
6	11-27	蓋	六所駄地区	T57		北壁10層		内面
7	*	不明	六所駄地区	T57		北壁10層		内面
8	*	蓋	六所駄地区	T57		北壁14層		内面
9	67-2	高台付皿	六所駄地区	T58 南区	68号土坑	13層	第4型式	内面
10	53-16	無高台皿	六所駄地区	T58 南区	80号溝	26層	第5型式	内面
11	53-18	無高台皿	六所駄地区	T58 南区	80号溝	26層	第4～5型式	内面
12	*	蓋	六所駄地区	T58 南区	80号溝	28層		内面
13	*	不明	六所駄地区	T58 南区	80号溝	28層		内面
14	25-3	蓋	六所駄地区	T66 東区		東壁4層(耕作土)	第5型式	内面
15	*	甕	六所駄地区	T66 東区		東壁4層(耕作土)		内面
16	*	皿か环	六所駄地区	T66 東区		東壁4層(耕作土)		内面
17	*	蓋	六所駄地区	T66 東区		東壁4層(耕作土)	第4型式	内面
18	48-2	高台付环	六所駄地区	T66 北区	27号建物跡	P5	第2～3型式	内面
19	*	高台付环	六所駄地区	T67 北区		西壁5層(縹層)	第4～5型式	底部外面
20	61-7	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層	第3～4型式	内面
21	61-6	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層	第3～4型式	内面
22	61-12	風字硯	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層		
23	*	环	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層	第5型式	外面
24	*	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	9層	第5型式	内面
25	61-24	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	第3～4型式	内面
26	61-31	高台付环	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	第2型式	内面
27	61-32	高台付环	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	第4型式	内外面
28	61-33	高台付皿	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	第4型式	内外面
29	61-39	平瓶	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		内面
30	61-45	円面硯	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		
31	*	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層	第4型式	内面
32	*	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		内面
33	*	不明	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		内面
34	*	蓋	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		内面
35	*	环	宮の後地区	T58 北区	1号池状施設	10層		内面
36	56-1	蓋	宮の後地区	T58 北区	83号溝		第2型式	
37	62-24	蓋	宮の後地区	T68	1号池状施設	10層	第3～4型式	内面
38	*	皿か环	宮の後地区	T68	1号池状施設	10層	第2～5型式	内面
39	60-27	蓋	宮の後地区	T68		西壁11層		内面
40	*	蓋	—	T62		11層上面		内面

出土地区を見ると六所脇地区で19点、宮の後地区で20点、T62で1点出土した。既往の調査では、六所脇地区で3点、宮の後地区で136点、大倉原地区で174点、日岸田地区で22点、樋ノ口地区で3点、その他で2点出土しており、宮の後地区と大倉原地区が圧倒的に多く、六所脇地区は少ない。今回の調査では、宮の後地区の調査範囲が狭いためか、六所脇地区と宮の後地区的出土数はほぼ同数となった。出土地点では1号池状施設が最も多く、18点出土し、次いで80号溝から4点出土した。転用硯の種類は、蓋からの転用品が最も多く18点出土し、次いで壺・皿類からの転用品が15点出土した。型式は第2型式が2点、第2～3型式が1点、第3～4型式が4点、第4型式が6点、第2～5型式が1点、第4～5型式が3点、第5型式が5点であった。第2～3型式では蓋の転用硯が多く、第4～5型式では高台付壺の転用硯が多い。出土地区的傾向を見ると六所脇地区では第4～5型式が多く、宮の後地区では第3～4型式が多い。六所脇地区では新しい型式の出土が多く、宮の後地区では古い型式の出土が多い傾向がある。周辺施設の変化に関連する可能性も考えられる。

#### 漆付土器（第15表）

漆付土器は既往の調査では、須恵器158点、土師器16点が確認されている。今回の調査では小片も含めると、六所脇地区で須恵器5点と土師器2点が出土し、宮の後地区で須恵器22点と土師器42点が出土し、合計71点が出土した。出土遺構や土層ではT58北区とT68の黒色土からの出土が最も多く35点出土し、次いで1号池状施設からの出土が多く20点出土した。黒色土出土品の内訳は、須恵器の蓋1点、土師器の壺・皿類22点、不明12点で、1号池状施設出土品の内訳は、須恵器の長頸壺9点、甕4点、平瓶1点、甕か壺1点、高台付壺1点、高环1点、不明1点、土師器の壺類1点、不明1点である。黒色土からの出土品は土師器が多く、1号池状施設からの出土品は須恵器が多い。黒色土から出土した土師器の壺類と須恵器の蓋はパレット等の漆関係の道具ではなく、漆を塗った土器である。

『総括報告書』では漆が付着した土器類について、須恵器の長頸壺を運搬具、須恵器の壺・甕と土師器の壺を貯蔵具、土師器の甕をクロメ用の煮沸具、それ以外の器種をパレットと想定した。この分類を今回の出土品のうち漆塗り土器を除いた出土品に適用すると、六所脇地区では運搬具1点(3%)、パレット4点(11%)、不明2点(6%)、宮の後地区では運搬具10点(28%)、貯蔵具8点(22%)、パレット8点(22%)、不明3点(8%)となる。『総括報告書』では宮の後地区ではパレットの割合が高いとされたが、今回の調査地点では貯蔵具と同じ割合となった。出土地点と出土品の関係を見ると、1号池状施設埋土では運搬具9点、貯蔵具6点、壺類3点、不明2点が出土し、運搬具と貯蔵具が多い。黒色土では漆塗りの蓋1点、漆塗りの壺・皿類が22点、不明12点が出土しており、供膳具である壺・皿類が多い。1号池状施設を埋め立てて前と後で周辺の施設に変化があったと考えられる。

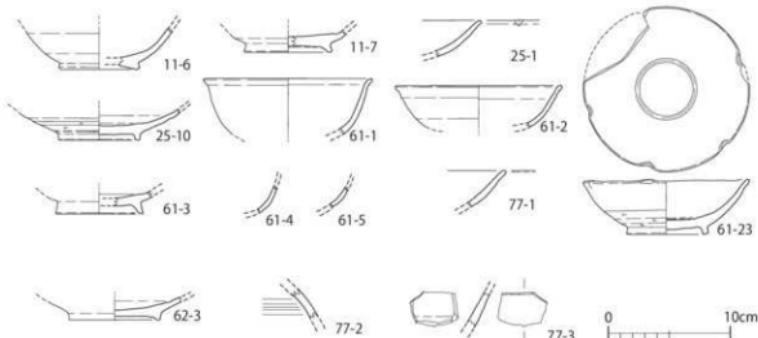
#### 緑釉陶器・灰釉陶器（第110図、第16表）

緑釉陶器は既往の調査で180点が確認されている。今回の調査では六所脇地区から9点、宮の後地区から10点、合計19点が出土した。六所脇地区では耕作土や89号溝から出土し、宮の後地区では1号池状施設の堆積土、黒色土及び礫層から出土している。『総括報告書』では、六所脇地区的性格がSBO20廃絶後に変化した可能性を指摘している。今回の調査からは、第1遺構面の施設と、第2遺構面の施設で性格が異なる可能性を指摘できる。

第15表 出土漆付土器一覧（挿図番号が「\*」は表のみ掲載）

番号	挿図番号	種別	器種	地区	調査区	遺構	土層	型式	備考
1	9-2	須恵器	長頸壺	六所脇地区	T56		9層		
2	*	須恵器	壺	六所脇地区	T56		9層		1点
3	*	土師器	高台付壺	六所脇地区	T56				1点
4	*	土師器	高足高台付皿	六所脇地区	T57		北壁 6層（耕作土）		1点
5	*	須恵器	無高台壺	六所脇地区	T57		北壁 8層（礫層）		1点
6	*	須恵器		六所脇地区	T57		北壁 11層		1点
7	40-7	須恵器	高壺	六所脇地区	T66	26号建物跡			
8	*	土師器		宮の後地区	T58（北区）		3層（耕作土）		1点
9	*	土師器		宮の後地区	T58（北区）		4層（礫層）		1点
10	63-9	土師器	無高台壺か皿	宮の後地区	T58（北区）		7層（黒色土）		
11	63-16	土師器	無高台壺	宮の後地区	T58（北区）		7層（黒色土）		
12	*	土師器	無高台壺	宮の後地区	T58（北区）		7層（黒色土）		7点
13	*	土師器		宮の後地区	T58（北区）		7層（黒色土）		7点
14	61-14	土師器	無高台壺か皿	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	9層		
15	61-34	須恵器	高壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層	第3型式	
16	61-35	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		
17	61-37	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		
18	61-38	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層	第3型式	
19	*	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		6点
20	61-39	須恵器	平瓶	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		
21	61-41	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層	第4型式	
22	61-43	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		
23	61-44	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層	第3型式	
24	*	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		1点
25	*	須恵器	甕か壺	宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		1点
26	*	土師器		宮の後地区	T58（北区）	1号池状施設	10層		1点
27	55-3	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	82号溝			
28	55-4	須恵器	壺	宮の後地区	T58（北区）	82号溝			
29	27-4	土師器	無高台壺	宮の後地区	T68		西壁 4層（礫層）		
30	*	土師器	壺・皿類	宮の後地区	T68		西壁 4層（礫層）		4点
31	62-27	須恵器	蓋	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
32	62-11	土師器	無高台壺	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
33	62-14	土師器	無高台壺	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
34	62-16	土師器	無高台壺	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
35	62-17	土師器	無高台壺	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
36	62-20	土師器	高台付壺	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		
37	*	土師器	壺・皿類	宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		8点
38	*	土師器		宮の後地区	T68		西壁 11層（黒色土）		5点
39	60-31	須恵器	高台付壺	宮の後地区	T68	1号池状施設	土手状盛土		
40	*	須恵器		宮の後地区	T68	1号池状施設	西壁 11層		1点
41	27-14	須恵器	甕	宮の後地区	T68		SA003-P1		

灰釉陶器は既往の調査では六所脇地区2点、宮の後地区24点、大倉原地区37点、日岸田地区37点、その他4点の合計104点が確認されている。今回の調査では六所脇地区で2点、宮の後地区で5点の合計7点が出土した。出土層は六所脇地区では89号溝から出土し、宮の後地区では黒色土と礫層から出土した。ほぼ縁釉陶器と同様の出土の状況であり、灰釉陶器からも第1遺構面の施設と、第2遺構面の施設で性格が異なる可能性を指摘できる。



第110図 緑釉陶器・灰釉陶器実測図 (S= 1/4)

第16表 出土緑釉陶器・灰釉陶器一覧 (挿図番号が「\*」は表のみ掲載)

番号	挿図番号	種別	器種	地区	調査区	遺構	土層	時期	備考
1	*	緑釉陶器		六所脇地区	T56		8層		近江
2	*	緑釉陶器		六所脇地区	T56		9層		硬質
3	*	緑釉陶器		六所脇地区	T56		9層		硬質
4	*	緑釉陶器		六所脇地区	T57		北壁 6層(耕作土)		硬質
5	11-6	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T57		北壁 10層	9c後半～末	京都系
6	11-7	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T57		北壁 10層		
7	25-1	緑釉陶器	輪花皿	六所脇地区	T66(西区)		第1期調査埋戻土		
8	25-10	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T66(東区)		東壁 18層上面		京都系
9	77-1	緑釉陶器	皿	六所脇地区	T66(東区)	88号溝			
10	*	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		4層(礫削)		硬質
11	*	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7層(黒色土)		硬質
12	61-1	緑釉陶器	碗	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		防長?
13	61-2	緑釉陶器	碗	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		近江
14	61-3	緑釉陶器	碗?	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		近江か美濃
15	61-4	緑釉陶器	碗?	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		近江
16	61-5	緑釉陶器	碗?	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		近江
17	61-23	緑釉陶器	輪花碗	宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	10層	9世紀後半	京都系
18	*	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)	1号池状施設	9層		硬質
19	*	緑釉陶器		宮の後地区	T68		第1期調査埋戻土		京都系
20	*	灰釉陶器		宮の後地区	T56		9層		京都?
21	77-2	灰釉陶器	壺か?	六所脇地区	T66(東区)	88号溝			
22	77-3	灰釉陶器	壺か?	六所脇地区	T66(東区)	88号溝			
23	*	灰釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7層(黒色土)		
24	*	灰釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7層(黒色土)		
25	*	灰釉陶器?		宮の後地区	T68		西壁 4層(礫削)		
26	62-3	灰釉陶器	壺	宮の後地区	T68		西壁 11層(黒色土)		

註1 分類は松江市教育委員会 2015『史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書・総括編』による。

註2 島根県教育委員会 1985『履土記の丘地内遺跡発掘調査報告IV』

註3 松江市教育委員会 2015『史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書・総括編』

註4 前島己基 1975『古代寺院跡二出雲国分寺跡』『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会

註5 花谷浩 2003『出土瓦の量的検討』『吉備池廬寺発掘調査報告』奈良文化財研究所

註6 大田市中祖遺跡は、丸瓦と平瓦の比率が重量で1:7、個数で1:8と算出されている。軒瓦を含まないことから廻斗棟に復元されている。(島根県教育委員会 2008『第3章中祖遺跡の調査』『中祖遺跡・ナメラ遺跡』)。

註7 各地区における100mlあたりの瓦出土量は14~16kgと近似している(『総括報告書』第16表)。

註8 島根県教育委員会 2001『馬場遺跡』中国横断自動車道尾道松江建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 14

## 第2節 遺構の変遷

六所脇地区とその周辺で検出した遺構について、各遺構の時期を推定し、変遷を検討する。時期は『総括報告書』で示された区分に従った。この時期区分では7世紀後葉～12世紀後半を出雲国府I期～VI期の6時期に区分し、出雲国府II期とIII期には各々小期を設けている（第17表）。「総括報告書」では、これに古墳時代と13世紀以降の状況を加えて論考した。この時期区分は、時期認定や測量誤差の問題がない大倉原地区と日岸田地区の遺構変遷を基準として設定した。「総括報告書」で指摘するように、本来は今回調査を行った国府域である六所脇地区的成果を基に時期区分を再設定すべきだが、現在も六所脇地区的調査を継続中であり、拙速な時期区分の再設定は混乱を来す恐れがあるため、本報告書では『総括報告書』の時期区分に従う。六所脇地区的発掘調査が完了して、再度の総括報告書作成の際に時期区分の再設定を行いたい。

今回の調査で検出した遺構は、検出遺構面、遺構出土遺物、遺構の重複関係、遺構の主軸を考慮して各時期を推定した。検出遺構面は基本的には第1遺構面、第2遺構面、第3遺構面の3面に区分できる。第1遺構面の基盤層である第1基盤層からは、T66東区周辺では第6型式までの遺物が出土し、T67中央区では第9～10型式までの遺物が出土している。このことから、第1遺構面で検出した遺構はT66東区周辺では9世紀中葉以降に築造され、T67中央区では12世紀後半以降に築造されたと考えられる。また、遺構が第1基盤層に覆われている場合は、T66東区周辺では9世紀前葉までには廃絶し、T67中央区では12世紀後半までには廃絶したと考えられる。遺構面の基盤層である第2基盤層からは第1型式までの遺物が出土しているが、出雲4期から6b,c期までの須恵器が多く、第1型式の須恵器はない。このことから、第2遺構面は第1型式が成立して間もなく造成されたと考えられ、第2遺構面で検出した遺構は7世紀後葉以降に築造されたと考えられる。また、遺構が第2基盤層に覆われている場合は、7世紀後葉までには廃絶したと考えられる。第3遺構面の基盤層である第3基盤層はサブトレンチなど部分的な発掘しかしていないため確実な造成時期は不明だが、第3遺構面には古墳時代中期の遺構が築造されていることから、それ以前に成立したと考えられる。

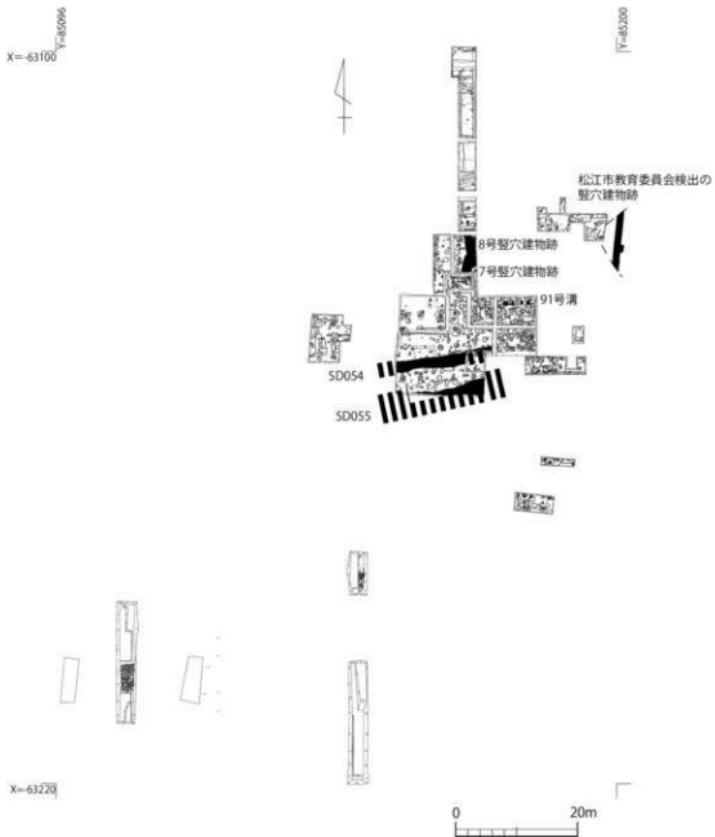
第17表 出雲国府跡変遷一覧表（『総括報告書』第28表を一部改変して転載）

年代	土器型式	出雲国府	六所脇地区	宮の後地区	大倉原地区	日岸田地区
7世紀後葉	第1型式	I期	SBO18, SBO19, 29号建物跡	前身官街	—	—
	第2型式	II-1期	26号建物跡	青司	文書、工房、祭祀 (擬立柱建物、区画溝、木簡、瓦窯)	漆生塗
8世紀第1四半期	第3型式	II-2期	SBO20A、80号溝	(擬立柱建物、区画溝、木簡、瓦窯)	(擬立柱建物、区画溝、祭祀土坛、瓦窯)	
	第4型式	III-1期	SBO20B、80号溝	1号池状施設 (擬立柱建物、区画溝、木簡、瓦窯)	国の御	
8世紀第4四半期	第5型式	III-2期	SBO20C、27号・28号建物跡、 30号建物跡、80号溝	(擬立柱建物、区画溝、木簡、瓦窯)	(擬立柱建物、区画溝、綠釉陶器)	
	第6型式	IV期	67号土坑、68号土坑、95号溝、 84号溝、85号溝、88号溝	1号池状施設 (擬立柱建物、綠釉、灰釉陶器)	(擬立柱建物、溝、井戸、綠釉、 灰釉陶器)	
9世紀中葉						
9世紀後葉						
10世紀前半	第7型式					
10世紀後半	第8型式	V期		1号池状施設 (井戸、土坑、綠釉陶器)	—	—
11世紀前半			89号溝、15号井戸、16号井戸			
11世紀後半	第9型式	VI期		黑色土 (井戸、種列、溝)		
12世紀前半			—		(擬立柱建物、井戸、 貿易陶器)	
12世紀後半	第10型式					

## 古墳時代（第111図）

今回の調査では、古墳時代前期末～中期前葉のSD054と、古墳時代中期の8号建物跡、6世紀前葉の7号建物跡、7世紀前葉の91号溝を検出した。六所脇地区ではこの他に第1期調査で検出された古墳時代中期中葉のSD055と、2009（平成21）年度に松江市教育委員会が検出した古墳時代後葉～末葉と考えられる竪穴建物跡1棟がある。SD054とSD055は区画溝と考えられている。

『総括報告書』では、古墳時代前期末葉～中期前葉には六所脇地区を中心に集落が展開し、後期前葉～中葉に一旦途絶し、後期後葉～末葉になると六所脇地区周辺に中心域が移ったと推定した。今回の調査では、6世紀前葉の竪穴建物を検出し、これらの遺構を覆う第2基盤層からは6世紀中葉から7世紀後葉までの遺物を採取した。のことから六所脇地区では、官衙として整備されるまで、途絶することなく継続して集落が営まれていた可能性も考えられる。



第111図 遺構変遷図〔古墳時代〕(1/800)

## 出雲国府Ⅰ期（第112図）

7世紀後葉とされる第1型式の時期で、この時期の遺構はSB019（3間×4間の総柱掘立柱東西棟）と29号建物跡（梁間2間の総柱掘立柱南北棟か廻）が該当する。SB019はSB020や26号建物跡に先行し、第2遺構面に築造された遺構では最も古いと考えられることから、この時期とした。29号建物跡の主軸はSB019と同一で、遺構も連結していると考えられることから、この時期の遺構と推測した。この他に六所脇地区では、SB018（梁2間の側柱掘立柱東西棟）が主軸が西に傾くことから同時期と考えられる。SB019の中心の柱列の延長線にはSB018の中心の柱穴が位置し、両施設の配置が計画的なものであると考えられる。



第112図 遺構変遷図〔出雲国府Ⅰ期〕(1/800)

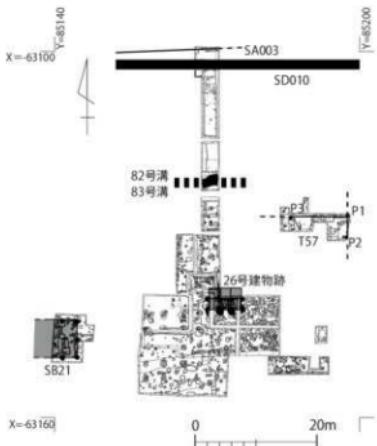
『総括報告書』では出雲国府Ⅰ期をⅡ期へ続く官衙的な要素が備わった時期と位置づけた。SB019と29号建物跡が築造された第2基盤層には9世紀前葉までSB020をはじめ様々な施設が築造される。第2基盤層は古墳時代と一線を画した古代官衙の整備を行った際の造成土と考えられ、『総括報告書』で指摘するように出雲国府Ⅰ期は出雲国府の基礎となる整備が行われた時期と位置づけることができる。

## 出雲国府Ⅱ期

7世紀末～8世紀中葉とされる第2型式から第4型式の成立直後にあたる時期である。この時期は、大倉原地区と日岸田地区での方形区画の出現をもって、Ⅱ-1期とⅡ-2期に分かれ。概ね、Ⅱ-1期が第2型式、Ⅱ-2期が第3型式にあたる。

## 出雲国府Ⅱ-1期（第113図）

Ⅱ-1期の遺構には26号建物跡（3間×4間の総柱掘立柱東西棟）、82号溝、83号溝がある。26号建物跡は重複するSB019と異なり主軸が正方位を向くが、構造は同じ3間×2間の総柱の掘立柱建物であることから、SB019の建て替えと判断し、SB019の直後にあたるⅡ-1期に位置づけた。また、SB020の廂の東側の柱列から1.6mしか離れていないことから、SB020とは同時併存はしていないと判断した。82号溝と83号溝は1号池状施設に先行することと、第2型式の須恵器が出土したことからこの時期に位置づけた。また、SD010、SA003、T57のピット3基も正方位に並ぶことから、この時期



第113図 遺構変遷図〔出雲国府Ⅱ-1期〕(1/800)

の施設の可能性が考えられる。他に第1期調査で検出されたSB021（梁2間の側柱掘立柱東西棟）も、主軸が正方位の側柱の掘立柱建物跡であること、柱穴埋土が灰色系であることから、ほぼ同じ場所にあるSB018の建て替えと判断し、この時期の遺構と推測した。

#### 出雲国府II-2期（第114図）

II-2期の遺構にはSB020A（掘立柱四面廂付建物跡）と80号溝がある。SB020AはSB019と重複しSB020Aが新しく、II-1期に位置づけた26号建物跡と併存しないと考え、II-2期に位置づけた。80号溝は中層（30層）から第3型式の須恵器が出土したことからII-2期には存在したと推測した。80号溝は、68号土坑に先行すること、上層（22層、26層、28層）から第6型式の遺物が出土したことから、9世紀前葉までは機能していたと考えられる。他にSD010、SA003、T57のピットもこの時期に機能していた可能性も考えられる。

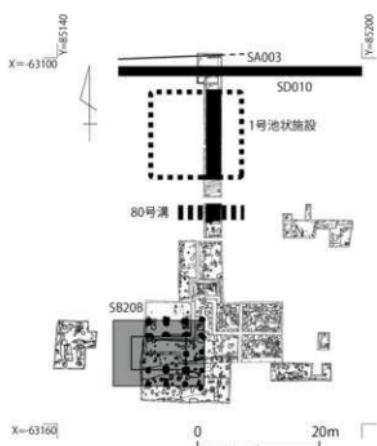
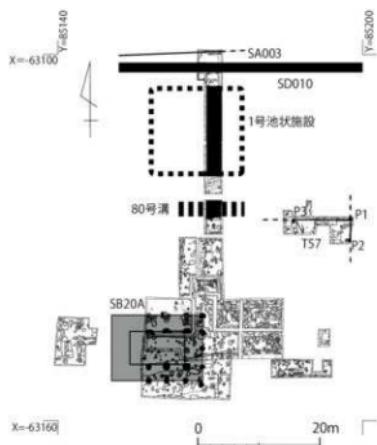
II期については『総括報告書』では国レベルで行政機能を持つ官衙遺跡として本格的に造営が開始された時期と位置づけた。今回の調査でもII期に諸施設が主軸が正方位を向くよう築造されている状況を確認し、『総括報告書』で指摘するように、国府機能を遂行する体制が整備された時期と位置づけられる。

#### 出雲国府III期

8世紀末第3四半期から9世紀前葉とされる第4型式から第5型式にあたる時期である。この時期は、大倉原地区と日岸田地区での区画溝の再設置と建物の礎石化の現象をもって、III-1期とIII-2期に区分されている。概ね、III-1期が第4型式、III-2期が第5型式に該当する。

#### 出雲国府III-1期（第115図）

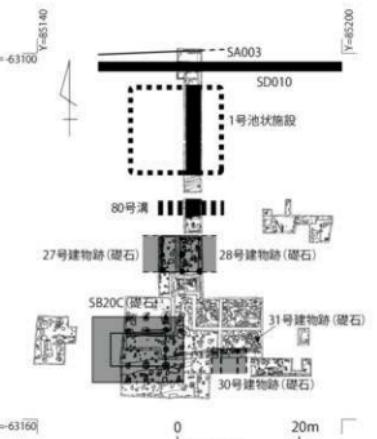
III-1期に該当する遺構はSB020B（掘立柱四面廂付建物跡）と1号池状施設がある。SB020BはSB020Aの建て替えであることから、III-1期に位置づけた。1号池状施設は土手状盛土内から第4型式の須恵器が出土していることからIII-2期に築造されたと考えられ、10世紀後半～12世紀後半に黒色土で埋め立てられるまで存在したと考えられる。この他に、SD010、SA003、80号溝が同時期に存在したと考えられる。



第114図 遺構変遷図(出雲国府II-2期)(1/800)

## 出雲国府III - 2期（第116図）

III - 2期の遺構はSB020C（礎石四面廂付建物）、27号建物跡（梁間2間の礎石東西棟）、28号建物跡（梁間2間の礎石東西棟）、30号建物跡（梁間3間の礎石南北棟）、31号建物跡（礎石建物）がある。これらの遺構は主軸が正方位を向く礎石建物という点で共通している（31号建物跡は不明）。SB020CはSB020Bの建て替えであることからIII - 2期に位置づけた。また、SB020CはT67中央区の第1基盤層に覆われていることから、12世紀後半までには廃絶したと考えられる。27号建物跡からは出雲国分寺3型式の軒丸瓦が出土し、且つ67号土坑や68号土坑より先行することからこの時期とした。28号 第116図 遺構変遷図〔出雲国府III - 2期〕(1/800) 建物跡は95号溝に先行すること、30号建物跡と31号建物はT66東区の第1基盤層に覆われていることから、9世紀前葉以前の遺構と考え、且つ正殿であるSB020Cより先に礎石建物が存在する可能性は低いと考え、SB020Cと同じIII - 2期と推測した。また、SB020Cの廂の東側柱列と27号建物の西側柱列は同一線上にあること、SB20Cの妻側の中軸と30号建物跡の北側柱列は同一線上にあることから、これらの遺構はSB20Cを中心として配置されたと考えられる。この他に、SD010、SA003、80号溝、1号池状施設が同時期に存在したと考えられる。

X=63100 Y=85140 X=63160 Y=85200  
20m  
第116図 遺構変遷図〔出雲国府III - 2期〕(1/800)

III期については『総括報告書』ではII期の地割をベースとしながらも内容が大きく変更・整備され、出雲国府が最も整備された時期と位置づけた。今回の調査でもII期に築造されたSB020がIII - 2期に礎石建物に建て替えられ、周辺にも礎石建物が

築造され、II期の施設を基礎に大きく発展した時期と言える。特にIII - 2期は大倉原地区でも国司館が礎石建物に建て替えられており、より整備が進んだ時期と考えられる。

## 出雲国府IV期（第117図）

9世紀中葉～10世紀前半とされる第6型式から第7型式にあたる時期である。この時期の遺構には、67号土坑、68号土坑、84号溝、85号溝、89号溝、95号溝がある。これらの遺構の時期は出土品から推測した。この他にSD010と1号池状施設が同時期に存在している。また、SB020Cが存在した可能性も考えられる。

IV期について『総括報告書』では、新たな地割の下で施設設備が再構成され、これまでの景

X=63160 Y=85140 X=63100 Y=85200  
20m  
第117図 遺構変遷図〔出雲国府IV期〕(1/800)

観が一変した時期と位置づけた。六所脇地区の北側では、27号建物跡、28号建物跡、80号溝が無くなり、67号土坑と、平行して南北に延びる68号土坑と95号溝が造られる。東側では30号建物跡と31号建物跡が無くなり、平行して東西に延びる84号溝と88号溝が造られる。これらの溝から环類や煮炊具が出土する点も注目される。1号池状施設ではヨシが繁茂し、「総括報告書」で指摘された景観が一変した状況と一致する。

#### 出雲国府V期（第118図）

10世紀後半～11世紀前半とされる第8型式の時期である。この時期の遺構には、89号溝、15号井戸、16号井戸がある。これらの遺構は出土品からこの時期と判断した。84号溝も土層から存在したと考えられる。この他にSD010と1号池状施設も同時期に存在している。1号池状施設はガマ類が繁茂する状況であったと推定されている。この他にSB020Cが存在した可能性も考えられる。

V期について『総括報告書』では、出雲国府が広域分散型の機能配置から、宮の後地区周辺へ諸機能を集約させた時期と位置づけた。六所脇地区では井戸が造られ、出雲国府としての機能はしていないと考えられ、『総括報告書』の指摘と一致する。

#### 出雲国府VI期（第119図）

11世紀後半～12世紀後半とされる第9型式から第10型式の時期である。この時期の遺構にはSD010がある。この他にSB020Cが存在した可能性がある。また、1号池状施設を埋め立てた黒色土は、第8～9型式の土器が大量に出土しており、この時期に造成されたと考えられる。

VI期について『総括報告書』では、中世府中の一角をなす時期と位置づけ、古代とは異なる地割りが行われて宮の後地区と日岸田地区が中心地になったと推定した。II・II-2期から存在した1号池状施設の埋め立てと整地は、古代とは異なる地割りが行われたとする指摘と合致する。また、黒色土から大量の遺物が出土する状況は、宮の後地区に中心地があったとする推定と合致し、大量の環・皿類や白磁や縁釉陶器などの輸入品が黒色土から出土する状況は、近辺で饗宴を行ったためと考えられる。



第118図 遺構変遷図〔出雲国府V期〕(1/800)

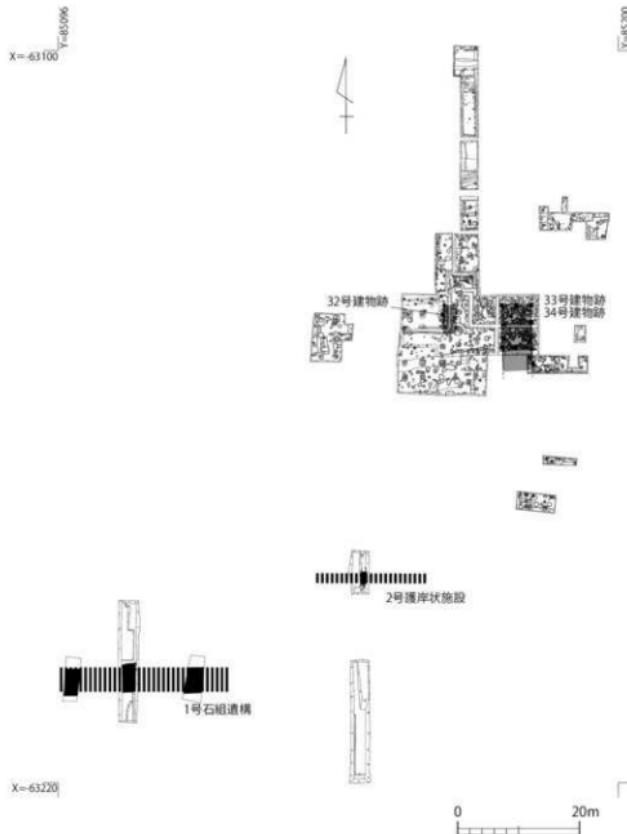


第119図 遺構変遷図〔出雲VI期〕(1/800)

## 13世紀以降の出雲国府（第120図）

13世紀以降で時期が推定できた遺構は、2号護岸状施設、1号石組遺構、33号建物跡（梁間2間の掘立柱南北棟）、34号建物跡（2間×4間の掘立柱南北棟）がある。出土した木材のAMS年代測定で、2号護岸状施設は15世紀中葉～17世紀前半、1号石組遺構は15世紀中葉～17世紀前葉、33号建物跡は16世紀～17世紀前半と推定できた。34号建物跡は33号建物跡の建て替えと考えられる。両施設は隣接する六所神社の施設と考えられる（註1）。この他に32号建物跡や9号～11号柵列も13世紀以降の遺構であるが、確実な時期は不明である。

既往の調査では13世紀代の礫層より上面では近現代の遺構しか確認できていなかったが、今回の調査では六所脇地区は洪水の被害を受けておらず中近世の遺構が残ることを確認できた。また、六所脇地区の南側では護岸に関連する中近世の遺構を確認できた。このことは既に『総括報告書』が指摘したように、出雲国府跡が意宇川の洪水で一気に壊滅したわけでないことを示している。



第120図 遺構変遷図 [13世紀以降] (1/800)

### 第3節 今後の課題

今回の調査では、国庁正殿と推定されるSB020で礎石建物の痕跡を検出し、SB020が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認した。更に、SB020の周辺で掘立柱建物跡や礎石建物跡を検出し、不明な点が多くあった六所脇地区について、ある程度の景観復元と変遷を示すことができた。一方で、SB020を含む大半の遺構では時期を特定できる遺物を伴わなかったため、時期が確実だと考えられる出雲Ⅰ期とⅣ期の遺構を定点として、各遺構の重複関係、主軸、種類から先後関係を推定し、『総括報告書』の時期区分に当てはめて時期を推定した。しかし、『総括報告書』の時期区分は大舎原地区と日岸田地区的遺構変遷を基準としているため、今回検出した六所脇地区的遺構変遷については実年代等が必ずしも一致していない可能性がある。六所脇地区南側の調査が完了し、地区全体の調査成果が報告された後に、六所脇地区的遺構変遷を基に出雲国府全体の時期区分を再検討する必要があると考えられる。

また、今回の調査では国庁の区画施設の検出が目的の一つであったが、残念ながら明確な遺構を検出することができなかった。区画施設跡の候補には、掘立柱塀の可能性が考えられるT57のP1～3と、区画塀の雨落ち溝の可能性が考えられる80号溝がある。しかし、T57のP1～3は掘立柱建物の可能性があり、80号溝はT57までは延びず規模や形状が不明で、どちらも確実な区画施設の遺構とは言い難い。これらの遺構の周辺の調査を行い全体像を把握することと、築地塀などの確実な区画施設の検出が必要と考えられる。

更に、今回の調査では、これまであまり調査がされず不明な点が多かった宮の後地区的南側で1号池状施設を検出し貴重な資料を得ることができた。1号池状施設は苑池か、六所脇地区や宮の後地区に巡らされた水路からの排水を集める施設かは不明であるが、六所脇地区と宮の後地区との間に南北14mの1号池状施設が配置されたことは、両地区を区分するものとして注目される。また、1号池状施設を埋め立てた黒色土からは10世紀後半から12世紀後半の壺や皿などが大量に出土しており、周辺で饗宴を行ったことを示唆する。国庁の隣接地から大量の土器が出土する状況は、出雲国府から中世府中への変遷を検討するうえで注目され、より具体的な景観復元を行うためには1号池状施設及びその周辺の調査が必要と考えられる。

註1 1919（大正14）年に六所神社の県社昇格申請の添付資料として提出された建物配置図では、33号・34号建物跡が位置する場所には「神殿」と記載された南北棟の建物が記載されており、藏舎が建てられていたと考えられる。六所神社宮司の吉岡弘行氏の御教示による。

第18表 土層観察表

## T56 南堀セクション

No.	土層剖面
1	黒褐色土：腐植土。
2	黒褐色土（2.5Y3/2）：ピット層。
3	砂岩：公園成土。3mm以下の砂石。
4	砂岩：公園成土。2mm以下の砂石。
5	白褐色土：2.5Y3/2。
6	黒褐色土（2.5Y3/2）：ピット層。10mm以下の礫を含んでいる。
7	黒褐色土（2.5Y3/2）：土壤器皿をとても多く含む。
8	暗褐色土（2.5Y4/2）。
9	にい・黄褐色土（10YR5/3）：黒褐色土が混じる。炭化物を少し含む。土を食む。
10	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。
11	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。にい・黄褐色土が約16%に混じる。炭化物と砂土を少し含む。
12	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。にい・黄褐色土がロック状に混じる。炭化物と砂土を少し含む。
13	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。炭化物と砂土を少し含む。
14	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。炭化物と砂土を少し含む。
15	黒褐色土（10YR5/2）：土層上。にい・黄褐色土を多く含む。炭化物と砂土を少し含む。3mm以下の礫を含む。
16	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。にい・黄褐色土を含む。炭化物と砂土を少し含む。
17	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。炭化物と砂土を少し含む。
18	黒褐色土（10YR5/2）：ピット層。炭化物と砂土を含む。
19	灰黃褐色粘土（10YR4/2）：第3基盤層。
20	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。
21	黒褐色土（10YR3/2）：7号基盤土。にい・黄褐色土が混じる。炭化物をわずかに含む。
22	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。炭化物と砂土をわずかに含む。
23	灰褐色粘土（10YR4/1）：ピット層。あまりしまってない。炭化物をわずかに含む。
24	灰褐色粘土（10YR4/1）：第2基盤層。
25	灰黃褐色粘土（10YR4/2）：第2基盤層。炭化物土が混じる。炭を含む。

## T57 北堀セクション

No.	土層剖面
1	黒褐色土（10YR3/2）：腐植土層。
2	砂岩：公園成土。径 5mm以下の砂石。
3	黒褐色土（2.5Y3/2）：公園成土。径 20mm以下の砂石。
4	黒褐色土（10YR3/2）。
5	白褐色土：2.5Y3/2。
6	黒褐色土（10YR3/2）：旧耕作土（山廻）。土壌形成片をとても多く含む。
7	黒褐色粘土（10YR4/1）：近代の所産。
8	礫層：海成土（10YR4/1）に 10mm以下の礫が多く混じる。
9	黒褐色土（10YR2/2）：ピット層。
10	黒褐色土（10YR2/2）：ピット層。砂土を少し含む。
11	灰褐色土（2.5Y5/2）：少々粘性。
12	灰褐色粘土（10YR4/2）：3mm以下の炭化物と砂土を多く含む。
13	灰褐色土（10YR4/2）：3mm以下の炭化物と砂土を多く含む。
14	黒褐色土（10YR3/2）：1mm以下炭化物と砂土を多く含む。
15	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：明褐色土（7.5YR5/6）が混じる。
16	黒褐色土（7.5Y4/4）：P1科及び理土。
17	黒褐色土（7.5Y4/4）：P1科及び理土。
18	灰褐色粘土（10YR4/2）：炭化物を少し含む。
19	灰褐色粘土（10YR4/4）：マングンをロック状に多く含む。
20	にい・黄褐色粘土（10YR5/3）：第3基盤層。マングンをブロック状に多く含む。

## T58 南堀セクション

No.	土層剖面
1	黒褐色土（10YR2/1）：炭化物と砂土を少し含む。
2	灰褐色土（2.5Y5/2）：少々粘性。
3	灰褐色土（10YR2/2）：3mm以下の炭化物と砂土を多く含む。
4	黒褐色土（10YR3/2）：1mm以下炭化物と砂土を多く含む。
5	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：明褐色土（7.5YR5/6）が混じる。
6	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：明褐色土（7.5YR5/6）が混じる。
7	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：明褐色土（7.5YR5/6）が混じる。
8	黒褐色土（7.5Y4/4）：P1科及び理土。
9	細粒黃褐色土（2.5Y4/4）：P1科及び理土。
10	灰褐色粘土（10YR4/2）：P1科及び理土。
11	灰褐色粘土（10YR4/2）：P1科及び理土。海成土（2.5Y4/1）を少し含む。
12	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：P1科及び理土。
13	細粒黃褐色土（2.5Y4/2）：P1科及び理土。
14	細粒黃褐色土（2.5Y5/2）：P1科及び理土。
15	細粒黃褐色土（2.5Y4/2）：P1科及び理土。炭化物と砂土を少し含む。
16	灰褐色粘土（10YR4/4）：黄褐色土（2.5Y4/1）が混じる。
17	灰褐色粘土（10YR4/4）：マングンをブロック状に多く含む。
18	にい・黄褐色粘土（10YR5/3）：第3基盤層。マングンをブロック状に多く含む。

## T67(中央区) 西堀セクション

No.	土層剖面
1	黒褐色土：山廻底土。
2	灰褐色土（2.5Y5/2）：山廻成土。径 20mm以下の砂石。
3	白褐色土：2.5Y3/2。
4	黒褐色土（2.5Y3/2）：耕作土（廻）。土壌形成土をとても多く含む。
5	灰褐色土（10YR4/2）：にい・黄褐色土（10YR4/3）プロックを含む。
6	灰褐色土（10YR4/2）：ピット層。にい・黄褐色土（10YR4/3）プロックをやや多く含む。
7	灰褐色土（10YR4/2）：にい・黄褐色土（10YR4/3）プロックを多く含む。
8	灰褐色粘土（10YR4/1）：第2基盤層。

## T67(中央区) 北堀セクション

No.	土層剖面
1	黒褐色土（2.5Y3/2）：公園成土。径 20mm以下の砂石。
2	白褐色土：2.5Y3/2。
3	灰褐色土（2.5Y3/2）：耕作土（廻）。土壌形成土をとても多く含む。
4	灰褐色土（10YR4/2）：にい・黄褐色土（10YR4/3）プロックを含む。
5	灰褐色土（10YR4/2）。
6	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。土壌形成土を多く含む。
7	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。土壌形成土を多く含む。
8	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。土壌形成土を多く含む。5mm以下の内礫を少し含む。
9	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。炭を少し含む。
10	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。炭を少し含む。
11	黒褐色土（10YR3/2）：ピット層。土壌形成土を多く含む。
12	灰褐色粘土（10YR4/2）：ピット層。

13	黒胡麻色粘土 (10YR4/2) : ビット埋め。
14	黒胡麻色粘土 (10YR4/2) : ビット埋め。炭を少し含む。
15	にい・黒胡麻色土 (10YR4/2) 黑胡麻色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。第1基盤側。
16	黒胡麻色粘土 (10YR4/2) : 第2基盤側。

#### T67(北区)・西壁セクション

%	土層説明
1	砂石: 黑胡麻土。径 5mm以下の砂石。
2	黒胡色土 (2.5Y3/2) : 公園造作土。径 20mm以下の砂石。
3	真砂土: 公園造作土。
4	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分をとても多く含む。
5	黒色土 (10YR2/1) : 土酸化鉄粒子と炭を含む。
6	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 10mm以下が砂礫で充て。土壌部分を含む。
7	黒胡色土 (2.5Y3/1) : ピット埋め。炭を含む。
8	黒胡色土 (2.5Y3/1) : ピット埋め。底に砂利ブロックを含む。
9	黒胡色土 (2.5Y3/1) : ピット埋め。底に砂利ブロックを少し含む。
10	黒胡色土 (10YR2/2) :
11	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分をとても多く含む。
12	調査: 黒胡色土 (10YR2/1) : 10mm以下が砂が多く混じる。
13	黒胡色土 (2.5Y3/1) : ピット埋め。炭を少し含む。
14	黒胡色土 (10YR4/1) : ビット埋め。炭を少し含む。
15	黒胡色粘土 (10YR4/1) : ビット埋め。炭を少し含む。
16	黒胡色粘土 (10YR4/1) : 0.9%引張。炭を少し含む。
17	オリーブ色胡麻色土 (7.5Y3/1) : 土酸化鉄粒子と粘土が混じる。
18	黒胡色粘土 (10YR5/3) : ピット埋め。底に黒胡色粘土 (2.5G4/1) を多く含む。炭と砂利ブロックを少し含む。
19	黒胡色粘土 (10YR5/3) : 黑胡色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。
20	明オリーブ色胡麻色土 (5G4/1) : 第2基盤側。

#### T66(北区)・T67(北区) 北壁セクション

%	土層説明
1	砂石: 黑胡麻土。径 5mm以下の砂石。
2	黒胡色土 (2.5Y3/2) : 公園造作土。径 20mm以下の砂石。
3	真砂土: 公園造作土。
4	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分をとても多く含む。
5	調査: 黒胡色土 (10YR4/1) : 10mm以下の砂が多く混じる。
6	灰色粘土 (7.5Y4/1) : 95%潤滑土。粘性が高い。
7	黒胡色粘土 (10YR5/1) : 95%潤滑土。粘性が高い。
8	粗粒胡麻色粘土 (2.5Y3/2) : 細砂を含む。底に砂利を含む。底に砂利を少し含む。底に砂利ブロックが混じる。
9	黒胡色土 (10YR2/1) : ピット埋め。炭を少し含む。
10	胡麻色粘土 (2.5Y3/1) : 27.7%潤滑土 P3理限。底に砂利ブロックが混じる。15mm以下の砂を含む。
11	黒胡色土 (10YR2/1) : ピット埋め。
12	胡麻色粘土 (10YR4/1) : 28.8%潤滑土 P1理限。崩落リープ胡麻色粘土 (2.5G4/1) を多く含む。底に砂利ブロックを少し含む。
13	胡麻色粘土 (2.5Y3/2) : ピット埋め。底と砂利を少し含む。やや砂利。
14	灰胡色土 (2.5Y5/1) : ピット埋め。
15	オリーブ色胡麻色土 (3Y3/1) : 相和と互相が土壤化したもの。
16	灰胡色粘土 (2.5Y4/1) : 27.7%潤滑土 P3理限。底に砂利を少し含む。20mm以下の砂を含む。
17	暗オリーブ色胡麻色土 (5G4/1) : 第2基盤側。
18	にい・胡麻色粘土 (10YR4/3) : 8.9%引張。建物地盤上。固くしまっている。
19	にい・胡麻色土 (10YR5/3) : 第3基盤側。固くしまっている。

#### T67(南区)・北壁セクション

%	土層説明
1	真砂土: 公園造作土。
2	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分をとても多く含む。
3	黒色土 (10YR2/1) : 土酸化鉄粒子と炭を含む。
4	黒胡色土 (10YR2/2) : ピット埋め。炭を少し含む。
5	にい・黒胡色粘土 (10YR4/3) : 中世基盤層。灰胡麻色土 (10YR4/2) が少し混じる。
6	黒胡色土 (10YR3/1) : ピット埋め。胡麻色土 (10YR4/4) ブロックを多く含む。
7	胡麻色粘土 (10YR4/2) : 5cm以下の砂を少し含む。やや砂利。
8	灰胡色土 (2.5Y5/1) : ピット埋め。
9	黒胡色粘土 (10YR5/2) : SBR200A のP1理限と10YR4/3のP1理限上に、灰胡麻色土 (10YR4/3) を多く含む。
10	粗粒胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A のP1理限とSBR200AからSBR200Bまでの斜面の隙間に、底に砂利を少し含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを含む。
11	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A のP1理限と10YR4/3が混じる。7mm以下の砂礫を少し含む。あまりしまっていない。
12	胡麻色粘土 (10YR2/2) : SBR200A のP1理限と斜面を含む。
13	胡麻色粘土 (2.5Y5/1) : SBR200B のP1理限と斜面を含む。
14	胡麻色土 (2.5Y5/1) : SBR200B のP1理限と斜面を含む。
15	胡麻色粘土 (2.5Y6/2) : SBR200B のP1理限と斜面を含む。
16	胡麻色粘土 (10YR4/1) : SBR200A のP1理限厚。やや砂利。底に砂利を少し含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを少し含む。
17	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A のP1理限厚。底に砂利を少し含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを含む。
18	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。15cm以下の砂を含む。やや砂利。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを含む。あまりしまっていない。
19	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。底に砂利を少し含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを含む。あまりしまっていない。
20	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。マングンブロックが少し混じる。SR200埋り方。
21	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。
22	胡麻色粘土 (10YR4/1) : SBR200A のP1理限と斜面を含む。底に砂利を少し含む。底に砂利をわずかに含む。
23	にい・胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A のP1理限と斜面を含む。底に砂利を少し含む。2mm以下トドリの砂を少し含む。
24	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを少し含む。底をわずかに含む。あまりしまっていない。
25	胡麻色粘土 (10YR4/2) : SBR200A からBのP1理限と斜面を含む。にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを含む。底を少し含む。やや砂利。
26	胡麻色粘土 (10YR5/2) : 底を少し含む。
27	灰胡麻色土 (10YR4/2) : にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックを多く含む。
28	灰胡麻色土 (10YR4/2) : にい・胡麻色土 (10YR4/3) ブロックをやや多く含む。10cm以下の砂を少し含む。
29	胡麻色粘土 (10YR4/1) : 第2基盤側。
30	にい・胡麻色粘土 (10YR5/3) : 第3基盤側。底を少し含む。

#### T66(西区)・西壁セクション

%	土層説明
1	真砂土: 公園造作土。
2	黒胡色土 (2.5Y3/1) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分をとても多く含む。
3	黒色土 (10YR2/1) : 土酸化鉄粒子と炭を含む。
4	黒胡色土 (10YR2/2) : 旧耕作土 (腐)。土壌部分を少し含む。
5	調査: 黒胡色土 (10YR4/1) : 10mm以下の砂が混じる。
6	粗粒胡麻色粘土 (2.5Y4/1) : 95%潤滑土。粘性が高い。
7	胡麻色粘土 (10YR4/2) : 4mm以下の砂を含む。底に砂利を少し含む。
8	胡麻色土 (10YR4/2) : ピット埋め。土壌部分を含む。
9	黒胡色土 (10YR3/2) : 4mm以下の砂を含む。
10	胡麻色粘土 (10YR4/2) : ピット埋め。やや砂利。にい・胡麻色土 (10YR3/4) を少し含む。5cm以下の砂を底と炭を少し含む。
11	胡麻色粘土 (10YR4/2) : ピット埋め。やや砂利。5mm以下の砂を底と炭を少し含む。
12	胡麻色粘土 (10YR4/1) : ピット埋め。にい・胡麻色土 (10YR4/3) が混じる。
13	胡麻色粘土 (10YR4/1) : ピット埋め。底を少し含む。
14	黒胡色土 (10YR3/2) : ピット埋め。3mm以下の砂を底と炭を含む。土壌部分を含む。

15	黄褐色土 (10YR4/7) : ビート理土、中砂粒。
16	黄褐色土 (2.5Y4/2) : 10cm以下の礫を含む。土壌基盤を含む。
17	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : 粘土と積み土ブロックを少し含む。
18	黄褐色土 (10YR5/9) : 黄褐色土。
19	にふる黄褐色土 (10YR4/9) : 中砂粒基盤層。黄褐色土 (10YR4/2) が少し混じる。
20	黄褐色土 (10YR4/2) : ビート理土。にふる黄褐色土ブロックをやや多く含む。
21	黄褐色土 (10YR4/2) : 中砂粒基盤層。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
22	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : ビート理土、中砂粒。
23	黄褐色土 (10YR4/2) : ビート理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/2) を少し含む。
24	黄褐色土 (10YR4/1) : ビート理土。炭を少し含む。
25	黄褐色土 (10YR5/2) : ビート理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/2) を含む。
26	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : 黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。
27	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : 黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。炭を含む。
28	褐色土粘土 (10YR4/1) : SB0020aからBの位置の土の塊が残り土理土か。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を含む。
29	黄褐色土 (10YR4/2) : 粘土層。炭を含む。
30	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が少し混じる。
31	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が少し混じる。
32	褐色土粘土 (10YR4/1) : SB0020aからBのP1の強風理土の理土か。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
33	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土理土か。褐色土 (10YR4/1) が少し混じる。
34	褐色土粘土 (10YR4/1) : SB0020aからBのP1の強風理土の理土か。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) をわずかに含む。
35	黄褐色土粘土 (10YR4/2) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
36	黄褐色土粘土 (10YR4/2) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
37	褐色土 (10YR4/1) : SB0020aからBのP1の強風理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
38	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
39	灰褐色の粘土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土の理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
40	褐色の粘土 (10YR4/2) : SB0020aからBのP1の強風理土の理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
41	褐色の粘土 (10YR4/2) : SB0020aからBのP1の強風理土の理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
42	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
43	褐色色粘土 (10YR4/2) : SB0020aからBのP1の強風理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
44	にふる黄褐色土 (10YR5/9) : SB0020aからBのP1の強風理土。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
45	灰褐色の粘土 (10YR4/2) : ビート理土。やや粗粒。褐色土 (10YR4/1) が混じる。
46	褐色色粘土 (10YR4/2) : ビート理土。にふる黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
47	褐色の粘土 (10YR4/1) : ビート理土。
48	灰褐色色粘土 (10YR4/2) : ビート理土。
49	褐色の粘土 (10YR4/2) : 第3基礎層。
50	褐色の粘土 (10YR4/2) : 第3基礎層。褐色土ブロックを少し含む。
51	にふる黄褐色粘土 (10YR5/3) : 第3基礎層。灰褐色粘土 (10YR4/2) が混じる。

#### T661 北区) 西壁セクション

%	土層別
1	砂: 公園造成土。径 5mm以下の砂む。
2	褐色粘土 (2.5Y4/2) : 10mm強度。径 20mm以下の砂む。
3	真砂: 10mm強度。
4	褐色粘土 (10YR3/3) : 10mm強度。土壁 (山岡)。土壌細片多少含む。
5	礫: 和歌山土 (10YR4/1) : 10mm以下の礫がよく混じる。
6	褐色色粘土 (2.5Y4/2) : 68号手理土。炭化物を含む。褐色土少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
7	灰褐色の粘土 (2.5Y4/2) : 27号手理土。炭化物を含む。褐色土少し含む。
8	褐色色粘土 (2.5Y4/2) : 27号手理土。炭化物を含む。褐色土ブロックが混じる。10mm以下の礫を含む。
9	褐色色粘土 (2.5Y4/2) : ビート理土。炭を少し含む。褐色土ブロックが混じる。10mm以下の礫を含む。
10	褐色色粘土 (2.5Y4/2) : 27号手理土。炭化物を含む。褐色土ブロックが混じる。20mm以下の礫を含む。
11	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 27号手理土。P2理土。黄褐色土ブロックが混じる。10mm以下の礫を含む。
12	地ナリーブ地盤粘土 (2GY4/1) : 第2基礎層。

#### T581 南区) 西壁セクション

%	土層別
1	褐色色土層 (10YR4/1) : 公園造成土。
2	砂: 公園造成土。径 5mm以下の砂む。
3	灰褐色の粘土 (10YR4/2) : 公園造成土。
4	真砂: 10mm強度。
5	褐色粘土 (10YR3/3) : 10mm強度。土壁 (山岡)。
6	褐色粘土 (10YR4/2) : 公園造成土。
7	褐色粘土 (2.5Y4/2) : 10mm強度。径 20mm以下の砂む。
8	砂: 公園造成土。
9	真砂: 10mm強度。
10	褐色粘土 (10YR3/2) : 10mm強度。土壁 (山岡)。土壌細片をとても多く含む。
11	礫: 和歌山土 (10YR4/1) : 10mm以下の礫がが多く混じる。
12	褐色色土 (2.0Y4/1) : ビート理土。
13	褐色色粘土 (2.5Y4/2) : 68号手理土。炭化物を含む。褐色土少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
14	褐色粘土 (5Y4/1) : 68号手理土。炭化物を含む。褐色土少し含む。
15	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
16	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
17	砂: 10 (3Y4/1) : 80号手理土。
18	灰褐色 (2.5Y4/1) : 80号手理土。褐色土ブロック長い土塊。
19	褐色粘土 (2.5Y4/2) : 80号手理土。礫を少し含む。
20	褐色色土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
21	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
22	褐色粘土 (5Y4/1) : 80号手理土。
23	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
24	オリーブ地盤粘土 (6GY4/1) : 80号手理土。
25	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。木質の遺物を含む。
26	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。炭化物を含む。
27	褐色粘土 (2.5Y4/1) : 80号手理土。
28	褐色粘土 (2.5Y4/2) : 80号手理土。
29	褐色粘土 (5Y4/1) : 80号手理土。
30	褐色粘土 (5Y4/1) : 80号手理土。
31	褐色粘土 (7.5Y4/1) : 80号手理土。
32	褐色粘土 (5Y4/1) : 80号手理土。
33	地ナリーブ地盤粘土 (5GY4/1) : 第2基礎層。
34	褐色粘土 (5GY4/1) : 第3基礎層。炭化物を含む。
35	にふる黄褐色粘土 (10YR5/3) : 第3基礎層。
36	オリーブ地盤粘土 (6GY5/1) : 第3基礎層。

#### T581 北区) 西壁セクション

%	土層別
1	細砂: 土 (10YR3/2) : 砂土。
2	真砂: 10mm強度。
3	褐色粘土 (10YR3/2) : 10mm以下 (山岡)。
4	褐色粘土 (10YR4/1) : 10cm以下の礫が混じる。
5	褐色粘土 (2.5Y4/2) : 68号手理土。炭化物を含む。褐色土少し含む。
6	褐色粘土 (10YR4/2) : 68号手理土。褐色土少し含む。

7	黒色土(2Y3/1)：土盤を多く含む。炭を多く含む。20cm以下で内縫をやや多く含む。
8	褐色砂質土(2Y4/1)：土盤を多く含む。
9	褐灰色地質土(10YR4/1)：地盤表面粗粒。5cm以下の内縫を少し含む。
10	褐灰色地質土(10YR5/1)：地盤表面粗粒。
11	褐灰色地質土(2.5Y6/1)：
12	褐灰色地質土(2.5Y4/1)：地盤を少し含む。5cm以下の内縫をやや多く含む。
13	褐灰色地質土(2.5Y4/2)：83%地質土。やや砂質。炭化物を少し含む。
14	褐灰色地質土(2.5Y5/2)：83%地質土。炭化物を少し含む。
15	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：約1%地質土。
16	褐灰色砂質土(2.5Y5/1)：83%地質土。
17	褐色砂質土(2.5Y5/2)：83%地質土。やや砂質。炭化物を少し含む。
18	褐色粘土(7.5Y4/4)：82%地質土。炭化物と7cm以下の内縫を少し含む。
19	褐灰色地質土(2.5Y4/1)：地盤を多く含む。
20	褐色砂質土(10Y4/1)：約3%地質土。やや細い砂質。炭化物を少し含む。
21	褐灰色地質土(2.5Y4/1)：第3基盤層。

#### T68 西壁セクション

1	褐灰色土(10Y3/3/3)：表土。
2	真砂土：公園道路土。
3	黑褐色土(10Y3/2)：耕作土(田園地)。
4	礫層：褐灰色土(10YR4/1)：10cm以下の内縫が混じる。
5	黑褐色土(10YR3/1)：地盤表面と炭を多く含む。
6	褐色砂質土(2.5Y2/2)：ビット理土。炭と土盤部分を多く含む。
7	褐色砂質土(2.5Y4/1)：ビット理土。炭と土盤部分を多く含む。
8	褐色砂質土(2.5Y4/1)：ビット理土。炭と土盤部分を多く含む。
9	黑褐色地質土(2.5Y5/2)：ビット理土。炭と土盤部分を多く含む。
10	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：地盤を少し含む。炭化物を少し含む。
11	黒色土(2N2)：土盤を多く含む。炭を多く含む。20cm以下で内縫をやや多く含む。
12	褐灰色砂質土(10Y4/1)：半砂粗粒。
13	黑色黏土(2N2)：
14	褐灰色地質土(10YR4/1)：地盤表面粗粒。5cm以下の内縫を少し含む。
15	褐灰色地質土(10YR5/1)：地盤表面粗粒。
16	褐灰色地質土(10YR5/2)：SD100理土。やや砂質。土盤細粒と炭を少し含む。
17	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：SD100理土。炭を少し含む。
18	褐灰色地質土(10YR5/2)：SD100理土。炭を多く含む。炭化物を少し含む。
19	褐灰色地質土(10YR5/2)：SD100理土。炭を多く含む。炭化物を少し含む。
20	褐灰色地質土(10YR5/1)：土盤を多く含む。炭を少し含む。
21	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
22	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
23	褐灰色地質土(2N4/1)：土盤を多く含む。
24	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。
25	褐灰色地質土(10YR4/1)：
26	褐灰色地質土(10YR5/2)：
27	褐色粘土(7.5Y4/1)：第3基盤層。炭化物を少し含む。
28	褐灰色地質土(10YR6/2)：第3基盤層。やや細い砂質や粘性。

#### T68 北壁セクション

1	褐灰色土(10Y3/3/3)：表土。
2	真砂土：公園道路土。
3	黑褐色土(10Y3/2)：耕作土(田園地)。
4	礫層：褐灰色土(10YR4/1)：10cm以下の内縫が混じる。
5	黑褐色土(10YR3/1)：土盤部分と炭を多く含む。
6	褐色砂質土(2.5Y2/2)：ビット理土。土盤細粒と炭を多く含む。
7	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：SD100理土。炭を少し含む。
8	褐灰色地質土(2.5Y5/2)：SD100理土。炭を多く含む。
9	褐灰色地質土(10YR5/1)：土盤を多く含む。炭化物を少し含む。
10	褐灰色地質土(10YR5/2)：土盤を多く含む。炭化物を少し含む。
11	褐灰色地質土(10YR5/1)：土盤を多く含む。炭を多く含む。
12	褐灰色地質土(10YR5/2)：土盤を多く含む。炭を多く含む。
13	褐灰色地質土(10YR5/1)：地盤表面粗粒。
14	褐灰色砂質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。
15	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。炭を少し含む。
16	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。炭を少し含む。
17	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
18	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
19	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
20	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
21	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
22	褐灰色地質土(10YR6/2)：第3基盤層。褐黄色ブロック(10YR5/6)を少し含む。

#### T68 東壁セクション

1	褐灰色土(10Y3/3/3)：表土。
2	真砂土：公園道路土。
3	黑褐色土(10Y3/2)：耕作土(田園地)。
4	礫層：褐灰色土(10YR4/1)：10cm以下の内縫が混じる。
5	黑褐色土(10YR3/1)：土盤部分と炭を多く含む。
6	褐灰色地質土(2.5Y2/2)：ビット理土。土盤細粒と炭を多く含む。
7	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：SD100理土。土盤細粒と炭を多く含む。
8	褐灰色地質土(2.5Y5/2)：SD100理土。土盤細粒と炭を多く含む。
9	褐灰色地質土(10YR5/1)：土盤を多く含む。炭化物を少し含む。
10	褐灰色地質土(10YR5/2)：土盤を多く含む。炭化物を少し含む。
11	褐灰色地質土(10YR5/1)：土盤を多く含む。炭を多く含む。
12	褐灰色地質土(10YR5/2)：土盤を多く含む。炭を多く含む。
13	褐灰色地質土(10YR5/1)：地盤表面粗粒。
14	褐灰色砂質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。
15	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。炭を少し含む。
16	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：土盤を多く含む。炭を少し含む。
17	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
18	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
19	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
20	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
21	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤を多く含む。炭と砂を少し含む。
22	褐灰色地質土(10YR6/2)：第3基盤層。褐黄色ブロック(10YR5/6)を少し含む。

#### T66(北区) 東壁セクション

1	砂岩：土壤造地土。径5mm以下の砂粒。
2	黑褐色土(2.5Y3/2)：松根造地土。径20mm以下の砂岩。
3	真砂土：公園道路土。
4	黑褐色土(10Y3/2)：耕作土(田園地)。
5	黑褐色土(2.5Y3/1)：旧耕作土(土盤)。土盤細粒を多く含む。
6	黑褐色土(2.5Y3/1)：土盤粗粒土と多く含む。
7	黑褐色土(2.5Y3/2)：土盤粗粒土と多く含む。
8	礫層：褐灰色土(10YR4/1)：10cm以下の内縫が混じる。
9	黑褐色土(10YR3/1)：土盤粗粒土と炭を多く含む。10cm以下の内縫が混じる。
10	黑褐色地質土(2.5Y3/1)：土盤粗粒土と炭を多く含む。5cm以下の内縫を含む。
11	黑色土(2N2)：土盤を多く含む。炭を多く含む。20cm以下で内縫をやや多く含む。
12	褐灰色地質土(10Y4/1)：地盤表面粗粒。5cm以下の内縫を少し含む。
13	褐灰色地質土(10Y5/1)：地盤表面粗粒。
14	褐灰色地質土(2.5Y5/1)：土盤粗粒土、やや砂質。炭と土盤を含む。
15	褐灰色地質土(10Y5/1)：土盤粗粒土。炭と砂を含む。
16	褐灰色地質土(10Y5/2)：土盤粗粒土。炭と砂を含む。
17	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤粗粒土。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
18	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤粗粒土。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)が混じる。
19	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤粗粒土。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)をやや多く含む。
20	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤粗粒土。炭と砂を少し含む。褐黄色ブロック(10YR5/6)を少し含む。
21	褐灰色地質土(10YR6/2)：土盤粗粒土。炭と砂を少し含む。
22	褐灰色地質土(10YR6/2)：第3基盤層。褐黄色ブロック(10YR5/6)を少し含む。

#### T66(北区) 東壁セクション

1	砂岩：土壤造地土。径5mm以下の砂粒。
2	黑褐色土(2.5Y3/2)：松根造地土。径20mm以下の砂岩。
3	真砂土：公園道路土。
4	黑褐色土(10Y3/2)：耕作土(田園地)。
5	黑褐色土(2.5Y3/1)：旧耕作土(土盤)。土盤細粒をとめて多く含む。
6	黑褐色土(2.5Y3/1)：土盤粗粒土と多く含む。
7	黑褐色土(2.5Y3/2)：土盤粗粒土と多く含む。
8	礫層：褐灰色土(10YR4/1)：10cm以下の内縫が混じる。
9	黑褐色土(10YR3/1)：土盤粗粒土と炭を多く含む。10cm以下の内縫が混じる。
10	黑褐色地質土(2.5Y3/1)：土盤粗粒土と炭を多く含む。5cm以下の内縫を含む。
11	黑色土(2N2)：土盤を多く含む。炭を多く含む。20cm以下で内縫をやや多く含む。
12	褐灰色地質土(2.5Y4/2)：ビット理土。炭と土盤細粒を少し含む。
13	褐灰色地質土(2.5Y4/1)：ビット理土。炭と土盤細粒を少し含む。
14	褐灰色地質土(2.5Y4/1)：2.72倍地盤のP8理土。炭を少し含む。35~37cmの縫を含む。
15	褐灰色地質土(10YR4/2)：2.6号地盤のP1科粗粒理土。にぶく、褐黄色土ブロックが多く混じる。

16	にがく・黄褐色粘土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。ブロック状に固まっている。
17	にがく・黄褐色粘土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。ブロック状に固まっている。
18	黄褐色粘土土 (10YR5/1) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性のマングル付着。
19	にがく・黄褐色土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。ブロック状に固まっている。
20	黄褐色粘土土 (10YR4/1) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
21	黄褐色粘土土 (10YR4/1) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
22	にがく・黄褐色土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。ブロック状に固まっている。
23	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。
24	黄褐色粘土土 (2.5Y5/3) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
25	黄褐色粘土土 (10YR4/1) : 26号建物地のP1 材施用土。示す・黄褐色土ブロックが凝じる。
26	黄褐色粘土土 (2.5Y4/4) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
27	黄褐色粘土土 (2.5Y4/4) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
28	黄褐色粘土土 (2.5Y4/4) : 26号建物地のP1 材施用土。粘性が強い。
29	黄褐色粘土土 (10YR4/4) : ビット押土。固くと硬を含む。あまりしまってない。
30	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/3) : ビット押土。
31	黄褐色粘土土 (10YR4/1) : 第2基盤層。
32	オーフー・黄褐色粘土土 (5GY4/4) : 第3基盤層。
33	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : にがく・黄褐色土ブロックが凝じる。
34	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : 第2基盤層。黄褐色土が凝じる。堅を含む。
35	にがく・黄褐色粘土土 (10YR4/3) : 8号砂の建物地粘土土。固くしまってない。
36	黄褐色粘土土 (10YR5/6) : 7号砂の建物地粘土土。固くしまってない。
37	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : 7号砂の建物地粘土土。固くしまってない。
38	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/3) : 第3基盤層。固くしまってない。
39	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/4) : 第3基盤層。固くしまってない。

#### T66(東) 北壁セクション

No	上層地帯
1	紺白土・公開地底土。種 5mm以下の砂石。
2	黄褐色土 (2.5Y5/2) : 5号砂底土。種 20mm以下の砂石。
3	堅白土 : 延繩成土。
4	黄褐色土 (2.5Y5/1) : 田耕作土 (頬)。土耕作土を多く含む。
5	黄褐色土 (2.5Y5/1) : 地盤沉降土で多く含む。
6	黄褐色土 (2.5Y5/1) : ビット押土。土耕作土を多く含む。堅を多く含む。
7	黄褐色土 (2.5Y5/1) : ビット押土。土耕作土を多く含む。堅を多く含む。
8	黄褐色土 (2.5Y2/1) : ビット押土。土耕作土を多く含む。堅を含む。
9	黄褐色土 (2.5Y2/1) : ビット押土。土耕作土を多く含む。堅を含む。
10	黄褐色土 (2.5Y2/1) : ビット押土。土耕作土を多く含む。堅を含む。
11	黄褐色土 (10YR4/1) : ビット押土。堅を含む。堅を少し含む。
12	黄褐色粘土土 (2.5Y5/2) : ビット押土。土と堅いブロックを少し含む。
13	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : ビット押土。黄褐色土ブロックが凝じる。
14	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : ビット押土。黄褐色土ブロックが凝じる。
15	黄褐色土 (2.5Y5/1) : ビット押土。土と堅を含む。
16	黄褐色粘土土 (2.5Y5/2) : ビット押土。土と堅を含む。
17	黄褐色土 (10YR4/1) : ビット押土。土と地盤沉降土を多く含む。
18	黄褐色砂質土 (10YR4/1) : 第2基盤層。
19	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/4) : 26号建物地のP1 材施用土。
20	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : 26号建物地のP1 材施用土。黄褐色土ブロックが凝じる。
21	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : 26号建物地のP1 材施用土。黄褐色土ブロックを含む。
22	オーフー・黄褐色粘土土 (5GY4/4) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。
23	灰褐色粘土土 (2.5Y5/2) : ビット押土。堅を含む。
24	灰褐色粘土土 (2.5Y5/2) : 26号建物地のP1 材施用土。
25	黄褐色粘土土 (10YR5/1) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。
26	灰褐色粘土土 (2.5Y5/1) : 26号建物地のP1 材施用土。
27	黄褐色粘土土 (2.5Y4/1) : ビット押土。堅を少しあげた。
28	にがく・黄褐色土 (2.5Y5/1) : ビット押土。
29	黄褐色粘土土 (10YR4/1) : ビット押土。堅土と堅をブロックが凝じる。堅を少し含む。
30	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。黄褐色土ブロックが凝じる。
31	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。
32	灰褐色粘土土 (10YR5/2) : ビット押土。堅土と堅を凝じる。堅を少し含む。
33	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : ビット押土。堅を含む。黄褐色土ブロックを含む。
34	灰褐色粘土土 (2.5Y4/1) : ビット押土。堅を含む。黄褐色土ブロックを含む。
35	地盤沉降土 (10YR4/1) : 第2基盤層。
36	地盤沉降土 (10YR4/1) : 第3基盤層。
37	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/4) : 第3基盤層。堅を含む。黄褐色土と灰褐色土が凝じる。
38	地盤沉降土 (10YR3/3) : ビット押土。黄褐色粘土土が凝じる。
39	灰褐色粘土土 (10YR4/2) : 第3基盤層。黄褐色土が凝じる。堅を含む。

#### T66(北) 東壁セクション

No	上層地帯
1	紺白土・公開地底土。種 5mm以下の砂石。
2	黄褐色土 (2.5Y5/2) : 5号砂底土。種 20mm以下の砂石。
3	堅白土 : 延繩成土。
4	黄褐色土 (2.5Y5/1) : 田耕作土 (頬)。土耕作土を多く含む。
5	黄褐色土 (2.5Y5/1) : ビット押土。土と堅を含む。
6	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。
7	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。
8	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。
9	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。土と堅を含む。
10	地盤沉降土 (10YR4/1) : 8号砂土。堅を少し含む。あまりしまっていない。12m以下の角礫を含む。堅を含む。
11	黄褐色土 (10YR5/2) : 第2基盤層。
12	地盤沉降土 (10YR3/3) : 8号砂下層。10m以下の角礫を多く含む。やや砂質。堅を含む。
13	地盤沉降土 (10YR3/3) : 8号砂下層。10m以下の角礫を多く含む。やや砂質。堅を含む。
14	地盤沉降土 (10YR3/3) : 8号砂下層。10m以下の角礫を多く含む。
15	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。土と堅を含む。
16	地盤沉降土 (10YR5/3) : 10m以下の砂を含む。
17	にがく・黄褐色粘土土 (10YR5/3) : 中や砂質。堅を少し含む。
18	にがく・黄褐色粘土土 (10YR4/6) : 坚を少し含む。
19	地盤沉降土 (2.5Y5/1) : 田耕作土 (頬)。土と土耕作土を含む。
20	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。土と土耕作土を含む。
21	地盤沉降土 (2.5Y5/1) : ビット押土。土と地盤沉降土を含む。
22	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。あまりしまっていない。堅を含む。
23	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。あまりしまっていない。堅を含む。
24	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。堅を含む。
25	地盤沉降土 (10YR4/2) : ビット押土。黄褐色土ブロックを含む。20mm以下の角礫を多く含む。
26	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。5mm以下の礫を多く含む。
27	地盤沉降土 (10YR4/1) : ビット押土。堅を含む。
28	地盤沉降土 (10YR3/1) : ビット押土。堅を含む。
29	地盤沉降土 (10YR4/2) : ビット押土。堅を含む。黄褐色土ブロックを含む。
30	地盤沉降土 (10YR4/2) : ビット押土。堅を少し含む。黄褐色土ブロックが凝じる。

31	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を少し含む。
32	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
33	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : 第 2 段階層。
34	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 第 2 段階層。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
35	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : ビット押土。しまっている。前輪側土ブロックを多く含む。
36	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。前輪側土ブロックを含む。
37	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
38	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを多く含む。
39	69 暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを多く含む。
40	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
41	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 第 3 段階層。前輪側土が混じる。底を含む。

#### T664 北区) 南壁セクション

36	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。種 5mm以下の砂粒子。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2) : 公開造土。底 20mm以下の砂粒子。
3	暗赤色土 (2.5Y3/2) : 公開造土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1) : 前輪側土 (側)。上輪駆動片をとても多く含む。
5	黒褐色土 (2.5Y2/1) : ビット押土。底 10mm以下の砂粒子を多く含む。20mm以下の角礫を多く含む。
6	黒褐色土 (10YR3/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を底に多く含む。
7	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : ビット押土。20mm以下の角礫を多く含む。前輪側土ブロックを含む。
8	黒褐色粘土質土 (10YR3/2) : ビット押土。底を少し含む。
9	黒褐色粘土質土 (10YR3/2) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
10	暗赤色粘土質土 (10YR4/4) : 84号混じり土。あまりまとまっていない。12mm以下の角礫を含む。底を含む。
11	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 第 1 段階層。底を含む。
12	暗赤色粘土質土 (10YR3/1) : 84号混じり土。10mm以下の砂礫を多く含む。やや細粒。底を含む。
13	にごり暗赤色粘土 (10YR5/2) : ビット押土。やや細粒。前輪側土ブロックを多く含む。
14	黒褐色土 (10YR4/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
15	暗赤色粘土 (10YR4/1) : 10mm以下の砂粒子を少し含む。
16	にごり暗赤色粘土 (10YR5/2) : ビット押土。底を少し含む。
17	にごり暗赤色粘土質土 (10YR4/6) : 底を少し含む。
18	黒褐色土 (2.5Y3/1) : 前輪駆動片をとても多く含む。
19	黒褐色土 (10YR2/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
20	黒褐色土 (10YR3/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
21	黒褐色土 (2.5Y3/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
22	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。あまりまとまらない。底を含む。
23	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
24	黒褐色土 (10YR3/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
25	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。前輪側土ブロックを含む。20mm以下の角礫を多く含む。
26	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : ビット押土。5mm以下の砂を多く含む。
27	黒褐色土 (10YR3/1) : ビット押土。底を含む。
28	黒褐色土 (10YR3/1) : ビット押土。底と上輪駆動片を含む。
29	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
30	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックが混じる。
31	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。
32	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
33	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を含む。
34	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を含む。前輪側土ブロックを含む。
35	暗赤色粘土質土 (2.5Y3/1) : 前輪駆動片をとても多く含む。底を含む。
36	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
37	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
38	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを多く含む。
39	69 暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを多く含む。
40	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを含む。
41	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 第 3 段階層。前輪側土が混じる。底を含む。

#### T664 西区) 南壁セクション

36	土崩説明
2	黒褐色土 (2.5Y3/1) : 第 1 段階層の土。上輪駆動片をとても多く含む。
3	黒褐色土 (2.5Y3/1) : 前輪駆動片をとても多く含む。
4	黒褐色土 (10YR3/2) : ビット押土。
5	黒褐色土 (2.5Y3/1) : ビット押土。
6	黒褐色土 (10YR3/2) : ビット押土。
7	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : 底を少し含む。
8	暗赤色粘土質土 (10YR5/3) : ビット押土。
9	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。
10	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 30 号骨材物の P10 押土。褐色土が混じる。10mm以下の礫を多く含む。
11	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : 第 2 段階層。
12	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : 第 2 段階層。底を含む。
13	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : 第 2 段階層。底を含む。
14	暗赤色粘土質土 (10YR4/1) : SD034 砂土。
15	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 第 2 段階層。黄褐色土が混じる。底を含む。
16	にごり暗赤色粘土質土 (10YR5/3) : 第 3 段階層。前輪側土が混じる。

#### T664 西区) 東壁セクション①

1	土崩説明
2	黒褐色土 (2.5Y3/1) :
3	黒褐色土 (2.5Y3/2) : 底と上輪駆動片をとても多く含む。底は少しある。
4	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 底を少し含む。褐色土が混じる。やや砂粒。
5	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 10mm以下の砂粒子を多く含む。上輪駆動片と底を含む。
6	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 20mm以下の砂粒子を多く含む。前輪側土ブロックを含む。
7	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。前輪側土ブロックを少し含む。
8	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : 88号混じり土。底を少し含む。20mm以下の砂粒子を多く含む。前輪側土ブロックを含む。
9	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/1) : 89号混じり土。底を少し含む。15mm以下の礫を含む。前輪側土ブロックを含む。
10	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。
11	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : ビット押土。底を少し含む。褐色土が混じる。
12	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 第 1 段階層。底を含む。
13	オーリー-暗赤色粘土質土 (2.5Y4/3) : 26 号骨材の P10 押土を取り扱う。褐色土とブロックを含む。
14	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : 26 号骨材物の P2 押土を取り扱う。褐色土とブロックを含む。
15	にごり暗赤色粘土質土 (10YR4/3) : 29 号骨材物の P2 押土を取り扱う。暗赤色粘土が混じる。
16	暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 29 号骨材物の P2 押土を取り扱う。暗赤色粘土が混じる。
17	にごり暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 30 号骨材物の P10 押土を取り扱う。底を含む。
18	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 20 号骨材物の P2 押土。前輪側土ブロックを少し含む。
19	にごり暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 20 号骨材物の P2 押土。底を含む。
20	暗赤色粘土質土 (10YR5/2) : 20 号骨材物の P2 押土。前輪側土ブロックを少し含む。
21	にごり暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : 26 号骨材物の P2 押土。底を含む。
22	にごり暗赤色粘土質土 (10YR4/2) : SBO19 の P1 押土取り扱う。底を少し含む。前輪側土ブロックを少し含む。褐色土が混じる。
23	暗赤色粘土質土 (2.5Y4/2) : SBO19 の P5 押土取り扱う。底を少し含む。前輪側土ブロックを少し含む。褐色土が混じる。

24	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP3.5層付帯を少し含む。黒面色土ブロックを少し含む。
25	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3.5層付帯を多く含む。
26	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3.5層付帯を多く含む。
27	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : 黒面色土を少し含む。
28	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
29	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
30	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
31	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3層付帯土。炭を少し含む。
32	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3層付帯土。炭を少し含む。
33	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
34	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
35	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
36	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。
37	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
38	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP3層付帯土。炭を少し含む。
39	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。黒面色土を少し含む。炭を少し含む。
40	49 黒面色粘土 (10YR4/1) : ピット埋土。黒面色土ブロックを含む。
41	黒面色粘土 (10YR4/1) : 第2基盤部。
42	にふる英明色粘土 (10YR5/3) : 第3基盤部。黒面色土 (10YR4/2) が混じる。

#### T66(西区) 北壁セクション

No	土種別
1	黒面色土 (2.5Y3/2) :
2	黒面色土 (2.5Y3/2) : ピット埋土。炭と土壌腐殖を含む。
3	黒面色土 (2.5Y3/2) : ピット埋土。炭と土壌腐殖を含む。
4	オーバーフィルタイト (2.5Y3/2) : ピット埋土。黒面色土が混じる。炭を少し含む。
5	黒面色土 (2.5Y3/2) : 土耕作土。
6	黒面色土 (2.5Y3/2) : あまりしまってない。炭を少し含む。
7	黒面色砂質土 (10YR4/1)。
8	黒面土 (10YR4/2) : ピット埋土。
9	黒面色粘土 (10YR5/2) : 第1基盤部。
10	黒面色粘土 (10YR4/2) : 砂色土が少し混じる。
11	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : 黒面土が混じる。
12	オーバーフィルタイト (2.5Y3/2) : 砂色土が混じる。炭を少し含む。
13	黒面色粘土 (10YR4/2) : ピット埋土。黒面色土ブロックを含む。
14	黒面色粘土 (10YR4/2) : ピット埋土。炭を含む。
15	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : ピット埋土。炭を少し含む。黒面土が混じる。5cm以下の礫を含む。
16	黒面色粘土 (10YR5/1) : S8019のP3層付帯土。
17	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP3層付帯土。黒面色土ブロックを含む。
18	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。
19	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP3層付帯土。
20	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP3層付帯土。
21	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。黒面色土ブロックをとても多く含む。
22	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.1斜面取り埋土。炭を少し含む。
23	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
24	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
25	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。大きな黄斑色土ブロック。
26	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.1斜面取り埋土。炭を少し含む。炭と土壌腐殖を含む。
27	にふる英明色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.1斜面取り埋土。大きな黒面色土ブロック。
28	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。炭を多く含む。
29	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。黒面色土ブロックを多く含む。
30	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
31	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
32	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
33	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
34	黒面色粘土 (2.5Y3/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
35	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
36	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.1斜面取り埋土。
37	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
38	にふる英明色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
39	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
40	にふる英明色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
41	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
42	にふる英明色粘土 (10YR5/4) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
43	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
44	黒面色粘土 (10YR5/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
45	黒面色粘土 (10YR4/1) : 第2基盤部。
46	黒面色粘土 (10YR4/2) : ピット埋土。炭を少し含む。黒面土が混じる。
47	黒面色粘土 (10YR5/2) : ピット埋土。
48	にふる英明色粘土 (10YR5/3) : 第3基盤部。黒面色土 (10YR4/2) が混じる。

#### T66(西区) 右壁セクション②

No	土種別
1	黒面色土 (2.5Y3/2) : 土耕作土。
2	黒面色土 (10YR3/2) : 84号埋土。
3	黒面色土 (10YR3/2) : ピット埋土。
4	黒面色土 (2.5Y3/1) :
5	黒面土 (10YR4/2) : ピット埋土。
6	オーバーフィルタイト (2.5Y3/3) : 84号埋土。
7	黒面色粘土 (10YR4/2) : 84号埋土。
8	黒面色粘土 (10YR4/2) : 土耕作土。
9	黒面色粘土 (10YR5/2) : 2.1基盤部。
10	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
11	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
12	にふる英明色粘土 (10YR5/4) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
13	黒面色粘土 (10YR4/2) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
14	にふる英明色粘土 (10YR4/4) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
15	黒面色粘土 (10YR4/1) : S8019のP1.2斜面取り埋土。
16	黒面色粘土 (10YR4/1) : 第2基盤部。
17	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : SD004 売土。
18	黒面色粘土 (10YR4/1) : SD004 売土。
19	にふる英明色粘土 (10YR5/3) : 第3基盤部。黒面色土 (10YR4/2) が混じる。

#### S8019・26号建物跡 P7 セクション

No	土種別
1	黒面色粘土 (10YR5/2) : 26号建物跡のP7斜面取り埋土。黒面色土ブロックをや多く含む。
2	黒面色粘土 (10YR3/2) : 26号建物跡のP7斜面取り埋土。炭を少し含む。
3	黒面色粘土 (10YR5/1) : 26号建物跡のP7斜面。黒面色 (10YR4/2) を含む。
4	にふる英明色粘土 (10YR4/3) : 26号建物跡のP7斜面埋土。黒面色土を少し含む。
5	黒面色粘土 (10YR5/1) : 26号建物跡のP7斜面埋土。黒面色土ブロックを少し含む。

6 関東色鉛具 (10YR3/1) : 26号運物紙のP7 極厚土、薄黄色土ブロックを多く含む。  
7 関東色鉛具 (10YR3/1) : 26号運物紙のP7 極厚土、薄黄色土  
8 関東色鉛具 (10YR3/1) : 26号運物紙のP7 極厚土、薄黄色土  
9 に記述。関東色鉛具 (10YR3/1) : 26号運物紙のP7 極厚土。  
10 関東色鉛具 (10YR3/1) : 26号運物紙のP7 極厚土。  
11 関東色鉛具 (10YR3/1) : SB019のP12 極厚土を多く含む、薄黄色土ブロックをやや多く含む。  
12 関東色鉛具 (10YR3/1) : SB019のP12 極厚土、薄黄色土ブロックを少し含む。  
13 関東色鉛具 (10YR3/1) : SB019のP12 極厚土土、薄黄色土ブロックを多く含む。  
14 黒鶴色鉛具 (10YR3/1) : SB019のP13 極厚土を多く含む、薄黄色土を少し含む。  
15 関東色鉛具 (10YR3/1) : SB019のP13 極厚土を多く含む、薄黄色土を少し含む。

SBO19・26号建物跡 P8 セクション

1 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。  
2 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。表面少し含む。  
3 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックをやや多く含む。  
4 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/3) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。やや砂質物。  
5 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。  
6 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを多く含む。  
7 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックをとても多く含む。  
8 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを含む。  
9 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックをやや多く含む。  
10 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを多く含む。  
11 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを少し含む。  
12 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。にこに前駒灰駒白粘土を少し含む。  
13 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。  
14 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/3) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。やや砂質物。  
15 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを含む。  
16 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/2) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを少し含む。  
17 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。駒灰土を少し含む。  
18 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを含む。  
19 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土白粘土 (JOYR5/3) - 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/1)。前面色土ブロックを少し含む。  
20 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを少し含む。  
21 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土ブロックを少し含む。  
22 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。前面色土白粘土 (JOYR5/3) - 前駒灰駒白粘土 (JOYR5/1)。前面色土を少し含む。  
23 黄駒灰駒白粘土 (JOYR5/2) - 26 建物物のPB柱抜き取り理工。  
24 駒灰駒白粘土 (JOYR4/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
25 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
26 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
27 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
28 ふくらはぎ白粘土 (JOYR5/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
29 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
30 ふくらはぎ白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
31 ふくらはぎ白粘土 (JOYR5/2) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色が少し混じる。  
32 駒灰駒白粘土 (JOYR4/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
33 ふくらはぎ白粘土 (JOYR5/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
34 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を含む。  
35 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
36 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。黄駒灰土ブロックを少し含む。  
37 駒灰駒白粘土 (JOYR4/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
38 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色が少し混じる。  
39 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
40 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
41 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
42 駒灰駒白粘土 (JOYR5/6) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
43 駒灰駒白粘土 (JOYR5/6) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
44 駒灰駒白粘土 (JOYR5/6) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
45 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
46 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
47 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。  
48 ふくらはぎ白粘土 (JOYR4/3) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。駒灰土色を少し含む。  
49 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。黄駒灰土ブロックを少し含む。  
50 駒灰駒白粘土 (JOYR5/1) - SB019 の PB 柱抜き取り理工。黄駒灰土ブロックを多く含む。  
51 ふくらはぎ白粘土 (JOYR5/3) - 第 3 番駒駒

SB020 PI セクション

No.	主題歌詞
1	帆船歌子 (10YRS/3) / 岩波を落とし込んだ六の理子。やや弱音。
2	疾風芭蕉子 (10YRS/2) / SB208の岩波歌子(けいぱ)に、古い前芭蕉土ブロック (10YRS/4) を多く含む。
3	疾風芭蕉子 (10YRS/4) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)に、古い前芭蕉土 (10YRS/5) が混じる。10m以下(?)の磯で貰得。あまりしまってない。
4	疾風芭蕉子 (10YRS/5) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)に、古い前芭蕉土 (10YRS/3) が混じる。10m以下(?)の磯で貰得。あまりしまってない。
5	疾風芭蕉子 (10YRS/5) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)に、古い前芭蕉土 (10YRS/3) が混じる。
6	疾風芭蕉子 (10YRS/1) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)の歌。
7	疾風芭蕉子 (10YRS/5) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)の歌。
8	疾風芭蕉子 (10YRS/1) / SB208の川内芭蕉歌子(かわうちばあき)の歌。

SB020 PI 0 ケクション

1 疣状黒色土(10YR4/2) : SB020CのP10の側面土付ける土。やや砂質。  
2 疣状黒色土(10YR4/2) : SB020BのP10側面を取る土。施肥土上ブロックを含む。  
3 疣状黒色土(10YR4/2) : SB020BのP10側面を取る土。ぶら下垂葉土ブロックを少し含む。  
4 疣状黒色土(10YR4/2) : SB020BのP10側面を取る土。施肥土上ブロックが異常。  
5 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10側面を取る土。やや砂質。  
6 亂形葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
7 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
8 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
9 ねじ白土(10YR7/2) : SB020BのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
10 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
11 亂形葉開拓土(10YR4/1) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
12 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
13 疣状黒色土(10YR4/2) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを少し含む。  
14 亂形葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
15 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
16 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020BのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
17 ねじ白土(10YR5/2) : SB020AのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを含む。  
18 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020AのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを多く含む。  
19 にふく葉開拓土(10YR4/2) : SB020AのP10の側面土付ける土。施肥土上ブロックを少しある。

第19表 出雲國府跡出土十器觀察表















第 20 表 出雲國府跡出土石製品觀察表

編號	類別	種類	區	出土遺物名	土層名	高 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石材	色調	編號	型式・期別		
9-11	52 石製品	研磨石	T56	CB 品	II 層	79.4	66.1	3.6	149.3	QJ?	灰黑色~褐色	KU-2 SYH/2			
11-2	53 石製品	手工作磨石	T57	三井層	II.8 層	2.0 × 2.3		0.8	4.6	研毛	褐色	KU-2 SYH/1			
11-4	53 石製品	手工作磨石	T57	三井層	2.3 × 2.3			0.6	3.7	研毛	褐色	KU-2 SYH/1			
11-5	53 石製品	石器	T57	三井層	4.0 × 3.7			0.7	15.1	海灰青褐色	浅灰 2 SYH/3				
11-20	35 石製品	研磨石	T57	三井層	II.8 層	2.4	1.6	2.4	25.9	褐色灰白色	KU-2 SYH/1	工具 H.18 ~ 7mm			
11-29	33 石製品	石器	T57	耕土	8.0	4.8	1.6	67.2	研毛?	褐灰色~灰白	KU-2 SYH/1	工具 H.18 ~ 7mm			
20.7	55 石製品	研磨石	T67(中央)	5 層	II.8 層 (II.6)	内径 : 4.8	2.2	30.4	7.0	研石	褐色	KU-2 SYH/1	工具 H.18 ~ 7mm		
33-24	39 石製品	研磨石	T58(右)	80 号層	2.6 層	5.3	4.6	0.7	22.4	研磨毛?	褐色	KU-2 SYH/1 ~ オリーブ灰			
03-58	65 石製品	敲打石?	T58(R)	80 号層	聚合 II 層	4.3 × 3.1			0.8	10.0	研石	褐色	KU-1 NKI-1 ~ 褐色		
03-59	65 石製品	手工作?	T58(R)	80 号層	聚合 II 层	1.8 × 1.5			0.7	2.8	研毛	褐色	KU-1 NKI-1		
03-21	81 石製品	手工作?	T58(R)	II.8 层	II.8 层	2.2	1.6	0.7	3.7	研毛	褐色	KU-2 SYH/1			
03-22	41 石製品	敲打石?	T58(R)	II.8 层	II.8 层	高 : 3.1	3.2	3.0	34.8	敲打石?	褐色	KU-2 SYH/1			

第 21 表 出雲國府跡出土金屬器類觀察表

編號	類別	種類	區	出土遺物名	土層名	高 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	施土	焼成	色調	編號
9-13	51 金銀器類	鍍金銀器	T56	II.8 層	II.8 層	11.9		0.8	22.5				
9-14	51 金銀器類	鍍金銀器	T56	II.8 層	II.8 層	6.3	5.5	1.0	24.1				
9-25	31 銀	銀?	T56	II.8 層	II.8 層	7.8			78.5	燒毛 (1.1 ~ 2mm の細胞多 量 H.7.2)	手造	銀	KU-2 SYH/1 ~ 皮燒毛 7.5 SYH/3
9-36	51 銀	銀?	T56	II.8 層	II.8 層 (II.6)	内径 : 7.0			86.9	燒毛 (1.1 ~ 2mm の細胞多 量 H.7.2)	手造	銀	KU-2 SYH/1 ~ 皮燒毛 10 SYH/3
9-17	51 銀	銀?	T56	II.8 層	II.8 層	新太刀 : 10.4	圓高 : 4.2		130.2				外面 : 銀白 250K/1 ~ 手造毛 10 SYH/1 内面 : 250K/1
9-18	51 銀	鍍金銀?	T56	II.8 層	II.8 層	10.0	9.0	4.0	194.2				
9-19	51 銀	鍍金銀?	T56	II.8 層	II.8 層	6.7	9.0	5.0	195				
9-20	51 銀	鍍金銀?	T56	II.8 層	II.8 層	8.6	8.9	3.0	120.8				
9-21	51 銀	鍍金銀?	T56	II.8 層	II.8 層	5.4	7.4	2.0	75.5				
11-12	52 銀	銀?	T57	II.8 層	II.8 層 10 層	3.1 × 3.9			1.8	30.5			
16-3	54 金銀器類	鍍金銀?	T53		II.8 層	1.9 × 2.3			0.4	3.4			
26-8	55 銀	圓銀?	T57	II.8 層	II.8 層 2 層 (II.1 残留)	12.6	12.3	6.4	860.1				銀芯
26-12	55 銀	圓銀?	T57	II.8 層	II.8 層 2 层 (II.1 残留)	5.8	5.3	3.7	151.1				
26-13	55 銀	圓銀?	T57	II.8 層	II.8 層 2 层 (II.1 残留)	11.6	9.2	4.2	408.2				
31-6	37 銀	銀?	T56	II.8 層	II.8 層	8.1	6.7	2.2	339.1				
51-7	37 銀	銀?	T56	II.8 層	II.8 層	内径 : 2.0			51.5	燒毛 (1.1 ~ 2mm の細胞多 量 H.7.2)	手造	銀	KU-2 SYH/1 ~ H.7.5 SYH/2
53-30	58 銀	圓銀?	T56	II.8 層	II.8 層	地盤 : 12.0	内径 : 12.0		142	燒毛 (1.1 ~ 2mm の細胞多 量 H.7.2)	手造	銀	H.7.5 SYH/2 ~ H.7.5 SYH/3
53-10	58 銀	圓銀?	T58(R)	80 号層	II.8 層	8.3	10.0	4.1	233.6				
53-22	58 銀	圓銀?	T58(R)	80 号層	II.8 層	3.2	4.7	1.9	237				
66-5	65 銀	圓銀?	T66(L)	67 号土坑						144.0	燒毛 (1.1 ~ 2mm の細胞多 量 H.7.2)	手造	KU-2 SYH/2 ~ H.7.5 SYH/3

第22表 出雲國府跡出土瓦觀察表

登録番号	登録年月	種類	面積	区	高さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	植土	構成	色調	調整・手作の特徴	備考
96-1	08	丘陵	T66 東	耕作上	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	2.5V16R.0~4W.0	丘陵地帯のモザイク 構成。モザイク地帯 は、丘陵地帯のみ。
96-2	08	丘陵	T63	新導入上面	0	3~5mm	約5cm	砂利	樹木(3~5mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-3	08	丘陵	T66 北	68号上園	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘陵地帯のモザイク 構成。モザイク地帯 は、丘陵地帯のみ。
96-4	08	丘陵	T58 南	灌叢	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-5	08	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-6	08	丘陵	T57	耕作上	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-7	08	丘陵	T58 南	灌叢	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-8	08	丘陵	T58 北	灌叢	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-9	08	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-10	08	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-11	08	丘陵	T58 北	灌叢	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-12	08	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-13	08	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-14	08	丘陵	T58 北	灌叢	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-15	08	丘陵	T66 東	灌叢	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-16	08	丘陵	T66 東	西寄せセクション	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-17	08	丘陵	T66 東	西寄せセクション	0	2mm	約5cm	砂利	樹木(2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-18	08	丘陵	T66 東	2丁目建物	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-19	08	丘陵	T66 北	1号池底植物	0	1mm以下の幹の樹木	約5cm	砂利	樹木(1mm以下の幹 の樹木)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-20	08	丘陵	T67 北	65号溝	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-21	08	丘陵	T67 北	95号溝	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-22	08	丘陵	T66 西	初期爬虫尾	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-23	08	丘陵	T58 南	80号溝	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-24	08	丘陵	T66 北	68号上園	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
96-25	08	丘陵	T66 東	68号上園	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	新導入地帯
97-1	09	丘陵	T66 東	西寄せセクション	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-2	09	丘陵	T58 南	西寄せセクション	0	1~4mm	約5cm	砂利	樹木(1~4mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-3	09	丘陵	T66 東	耕作上	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-4	09	丘陵	T66 北	灌叢	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-5	09	丘陵	T66 北	西寄せセクション	0	1~4mm	約5cm	砂利	樹木(1~4mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-6	09	丘陵	T66 北	1号池底植物	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-7	09	丘陵	T66 北	西寄せセクション	0	0.5~2mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-8	09	丘陵	T66 北	68号上園	0	1~4mm	約5cm	砂利	樹木(1~4mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-9	09	丘陵	T66 北	47号上園	0	2~3mm	約5cm	砂利	樹木(2~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-10	09	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-11	09	丘陵	T58 北	1号池底植物	0	1mm以下の幹の樹木	約5cm	砂利	樹木(1mm以下の幹 の樹木)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-12	09	丘陵	T58 北	灌叢	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-13	09	丘陵	T66 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-14	09	丘陵	T66 北	灌叢	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-15	09	丘陵	T66 北	灌叢	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-16	09	丘陵	T66 北	灌叢	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-17	09	丘陵	T66 北	灌叢	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
97-18	09	丘陵	T66 北	68号上園	0	0.5~3mm	約5cm	砂利	樹木(0.5~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-1	10	平野	T56	9園	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-2	10	平野	T56	1号池底植物	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-3	10	平野	T56	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-4	10	平野	T56 南	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-5	10	平野	T58 南	68号上園	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
98-6	10	平野	T58 北	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
99-1	11	丘陵	T66 東	1号池底植物	0	1~3mm	約5cm	砂利	樹木(1~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
99-2	11	丘陵	T66 東	1号池底植物	0	2~3mm	約5cm	砂利	樹木(2~3mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
99-3	11	丘陵	T66 東	1号池底植物	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録
99-4	11	丘陵	T66 東	1号池底植物	0	1~2mm	約5cm	砂利	樹木(1~2mmの幹 と枝葉)	半干	H.5K6.0~H.0Z.2	丘記録



番号	地名 詳細	種別	面積	試験名	測量名	土質名	基点 (m)	高さ (m)	幅 (m)	地主	構成	色調	調査・手法の特徴	備考
106.2	79 丘	開拓丘	T56		9 域		13.5		0.5m ~ 2mm の砂利 を含む	当社	IC(2.5)YR/2	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。 外陸：赤褐色を2.	初期開拓丘	
106.3	79 丘	開拓丘	T58 北	1号南斜面段	10 域				1 ~ 2mm の砂利を 含む	当社	内陸：IC(2.5)YR/2 ~ 浅耕地 T57 北	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。 外陸：浅耕地 IC(2.5)YR/2	初期開拓丘	
106.4	79 丘	開拓丘	T68 東		第1 補強層				1 ~ 2mm の砂利を 含む	当社	IC(2.5)YR/2	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸	初期開拓丘 表面硬化層なし	
106.5	79 丘	開拓丘	T68 東		第1 脊根面		14.6		0.5m ~ 2mm の砂 利を含む(?)	当社	IC(2.5)YR/1	内陸：赤褐色、深2.5 ~ 2mm の凹凸がある。 外陸：赤褐色を2.	初期開拓丘	
106.6	79 丘	開拓丘	T67 北	95 号溝			12.2		1 ~ 2mm の砂利を 含む	当社	内陸：IC(2.5)YR/1	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。	初期開拓丘	
106.7	79 丘	開拓丘	T66 北	67号土塁					1 ~ 2mm の砂利を 含む	当社	内陸：2.5YR/1	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。	初期開拓丘	
106.8	79 丘	開拓丘	T66 東	89 号溝					1mm の砂利を 含む	当社	内陸：10YR0/2	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。	初期開拓丘	
106.9	80 丘	開拓平丘	T67 中央		耕作土				0.5m の砂利を 含む	当社	内陸：10YR0/4 外陸：IC(2.5)YR/2	内陸：赤褐色、深2.5mm の凹凸がある。	初期開拓丘	
106.10	80 丘	開拓平丘	T57	正壁セクション 北壁	18 域				1mm の砂利を 含む	当社	8.5G	内陸：赤褐色、場所により 赤褐色を2.	初期平丘	
107.1	80 丘	鬼丘	T58 北		暗紅色耕質土				0.5 ~ 2mm の砂 利を含む	当社	8.5G'			

# 図版





T56 段下け状況（西から）



T56 南壁（北から）

図版 2



T57 段下げ状況（西から）



T57 東側段下げ状況（西から）



T57 中央拡張部（北から）



T57 西側拡張部（北から）



T57 北壁（南から）

図版 4



T57 東側北壁（南から）



T57 東側東壁（西から）



T57 東側南壁（北から）



T58 南区 完掘状況（北東から）



T58 南区 西壁（東から）

図版 6



T58 碓層検出状況（北から）



T58 北区 黒色土検出状況（北から）



T58 北区 黒色土除去状況（北から）



T58 北区 完掘状況（北から）



T58 北区 82号溝、83号溝掘削状況（北東から）



T58 北区 西壁南側（東から）

図版 8



T61 2号護岸状施設検出状況（南から）



T61 東壁（西から）



T62 完掘状況（北から）



T62 西壁（東から）

図版 10



T63 1号石組遺構（北西から）



T63 1号石組遺構（南西から）



T63 1号石組遺構（南から）



T63 東壁（西から）

図版 12



T64 調査状況（北東から）



T65 調査状況（南から）



T66 東区 第1遺構面 完掘状況（東から）



T66 東区 第1遺構面 完掘状況（北から）

図版 14



T66 東区 第3遺構面 遺構検出状況（東から）



T66 東区 第3遺構面 遺構検出状況（北から）



T66 北区 第2遺構面 検出状況（北から）



T66 北区 第3遺構面 検出状況（北から）

図版 16



T66 東区 北壁（南から）



T66 東区 東壁（西から）



T66 東区 南壁（北から）



T66 西区 東壁北側（西から）



T66 西区 北壁（北から）



T66 西区 東壁南側（西から）



T66 西区 南壁（北から）



T66 北区 西壁（東から）

図版 18



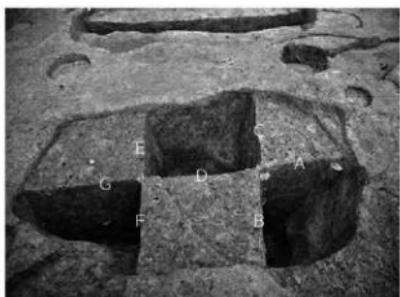
T66 北区 北壁 (南から)



T66 北区 東壁 (西から)



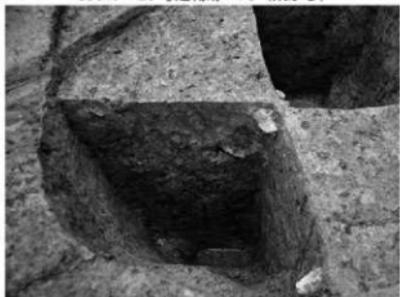
SB019・26 号建物跡 P7・P8 (南から)



SB019・26号建物跡 P8 (東から)



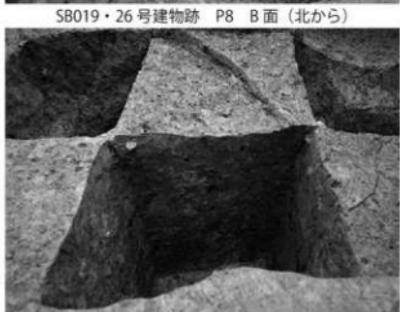
SB019・26号建物跡 P8 A面 (東から)



SB019・26号建物跡 P8 B面 (北から)



SB019・26号建物跡 P8 C面 (南から)



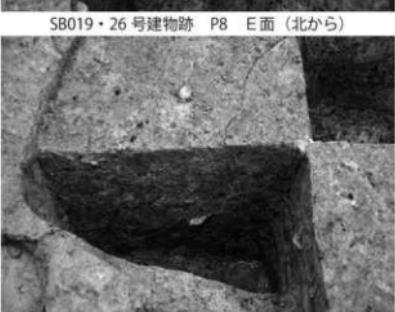
SB019・26号建物跡 P8 D面 (西から)



SB019・26号建物跡 P8 E面 (北から)

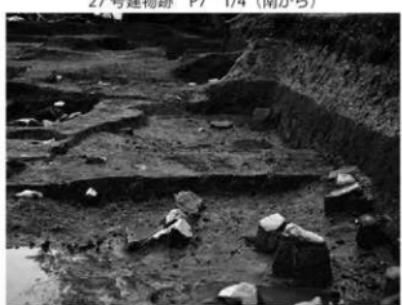
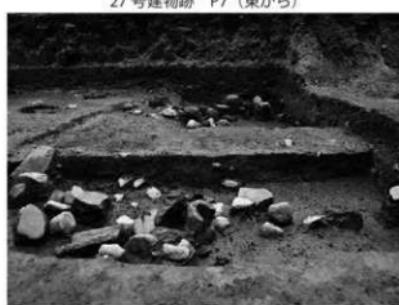


SB019・26号建物跡 P8 F面 (南から)



SB019・26号建物跡 P8 G面 (東から)

図版 20





T67 中央区 第1遺構面 完掘状況（南から）



T67 中央区 第1遺構面 完掘状況（北から）

図版 22



T67 中央区 第2遺構面 検出状況（北から）



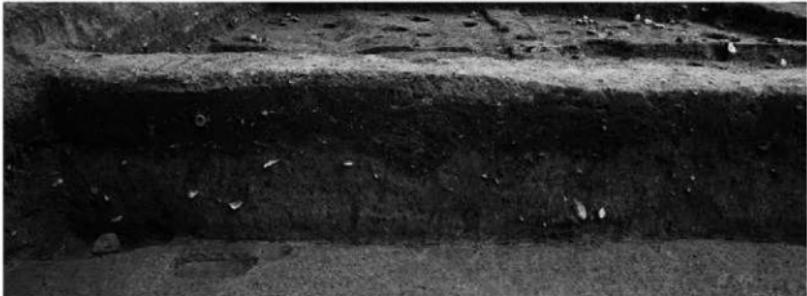
T67 北区 第2遺構面 検出状況（北から）



T67 中央区 西壁（東から）



T67 中央区 北壁（南から）



T67 南西区 北壁西側（南から）



T67 南西区 北壁東側（南から）

図版 24



T66 西区 西壁南側（東から）



T66 西区 西壁北側（東から）



T67 北区 西壁（東から）



T67 北区 北壁（南から）



SB020 P1 検出状況（北から）



SB020 P2 検出状況（北から）



SB020 P3 検出状況（北から）

図版 26



SB020 P1 碓石検出状況（北から）



SB020 P1 東側南北セクション（西から）



SB020 P1 北側東西セクション（北から）



SB020 P1 西側南北セクション（東から）



SB020 P1 南側東西セクション（南から）



SB020 P8 検出状況（南から）



SB020 P9 検出状況（南から）

図版 28



SB020 P10 検出状況（北から）



SB020 P10 1/4 截状況（北から）



SB020 P10 1/4 A面（西から）



SB020 P10 1/4 B面（西から）



SB020 P10 1/4 C面（西から）



SB020 P10 1/4 D面（西から）

図版 30



SB020 P10 柱根検出状況（東から）



SB020 P10 柱根検出状況（南西から）



95号溝 遺物出土状況（北東から）



T68 碓層検出状況（北から）



T68 黒色土検出状況（北から）



T68 1号池状施設検出状況（北から）



T68 1号池状施設検出状況（南から）

図版 32



T68 1号池状施設検出状況（南から）



T68 SD010 完掘状況（北から）



T68 西壁南側（東から）



T68 西壁土手状盛土付近（東から）



T68 西壁 土手状盛土（東から）



T68 東壁 土手状盛土付近（東から）

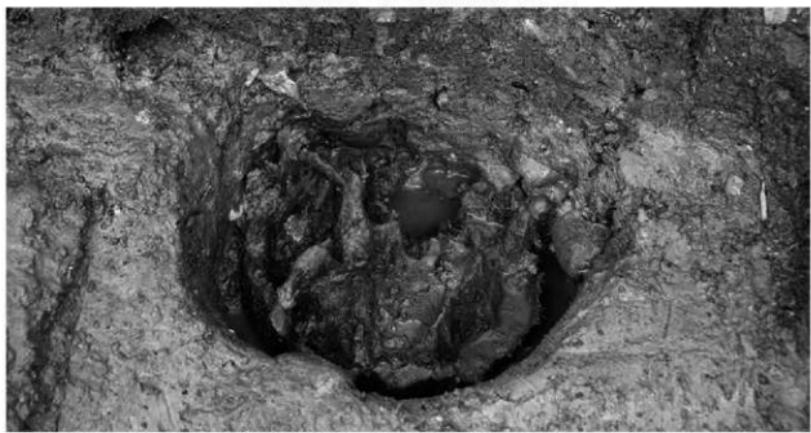
図版 34



T68 西壁 SD010 (東から)



T68 西側拡張部 第2疊層検出状況 (北から)



SA003 P2 柱根検出状況 (南から)

図版 35



図版 36



16-2



20-3



25-2



25-3



25-4



25-5



25-8



25-12



25-16



25-17

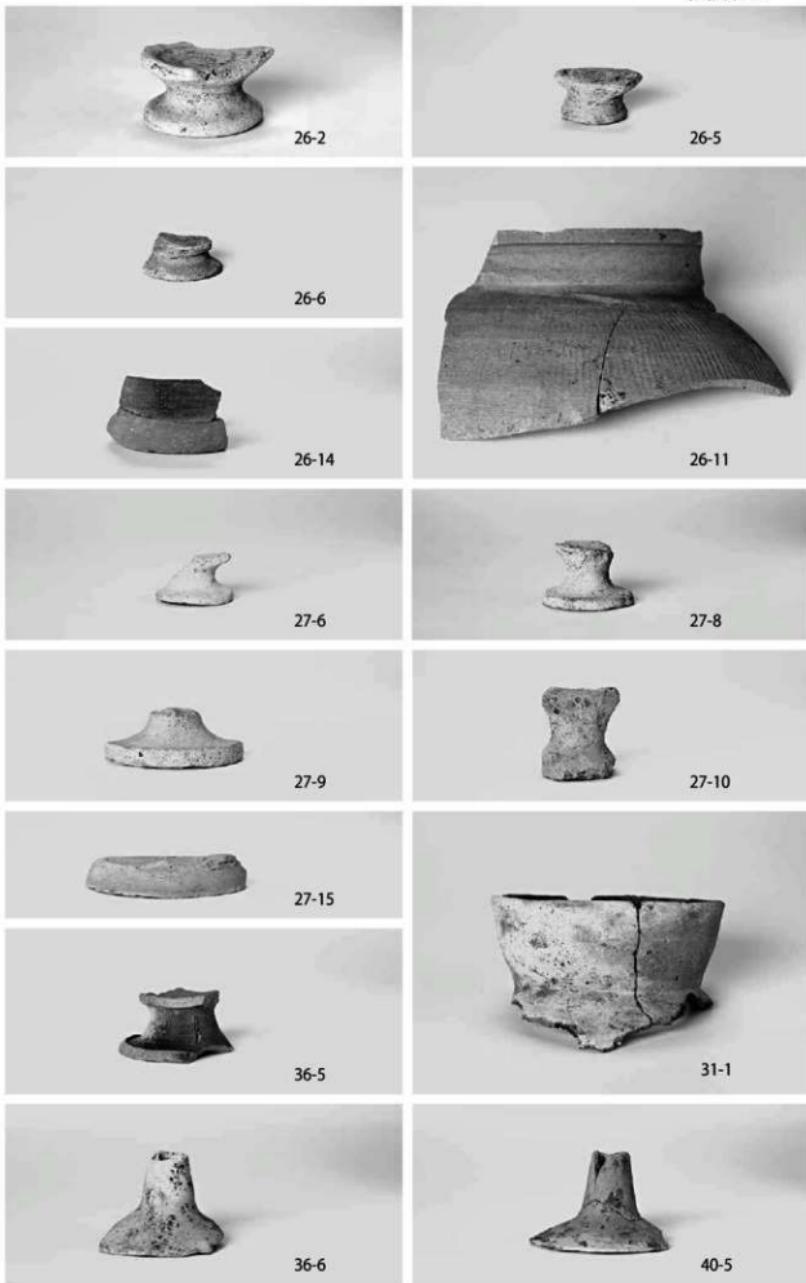


25-18



25-26

図版 37



図版 38



51-2



53-1



53-4



53-5



53-7



53-8



53-12



53-15



53-13



53-19



56-4



55-2



58-1

図版 39



図版 40



60-17



60-18



60-19



60-20



60-21



60-22



60-23



60-24



60-29



60-30



60-31 (外面)



60-31 (内面)



61-10

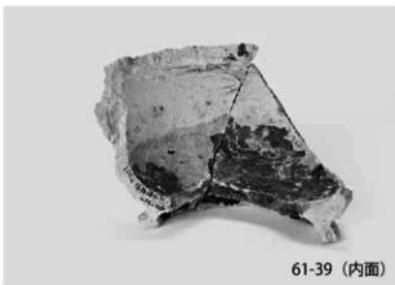


61-11

図版 41



図版 42





図版 44



62-31



62-32



62-33



62-34



62-35



62-36



62-37



62-38



62-39



62-41



62-42



62-43



62-44



62-45



62-46

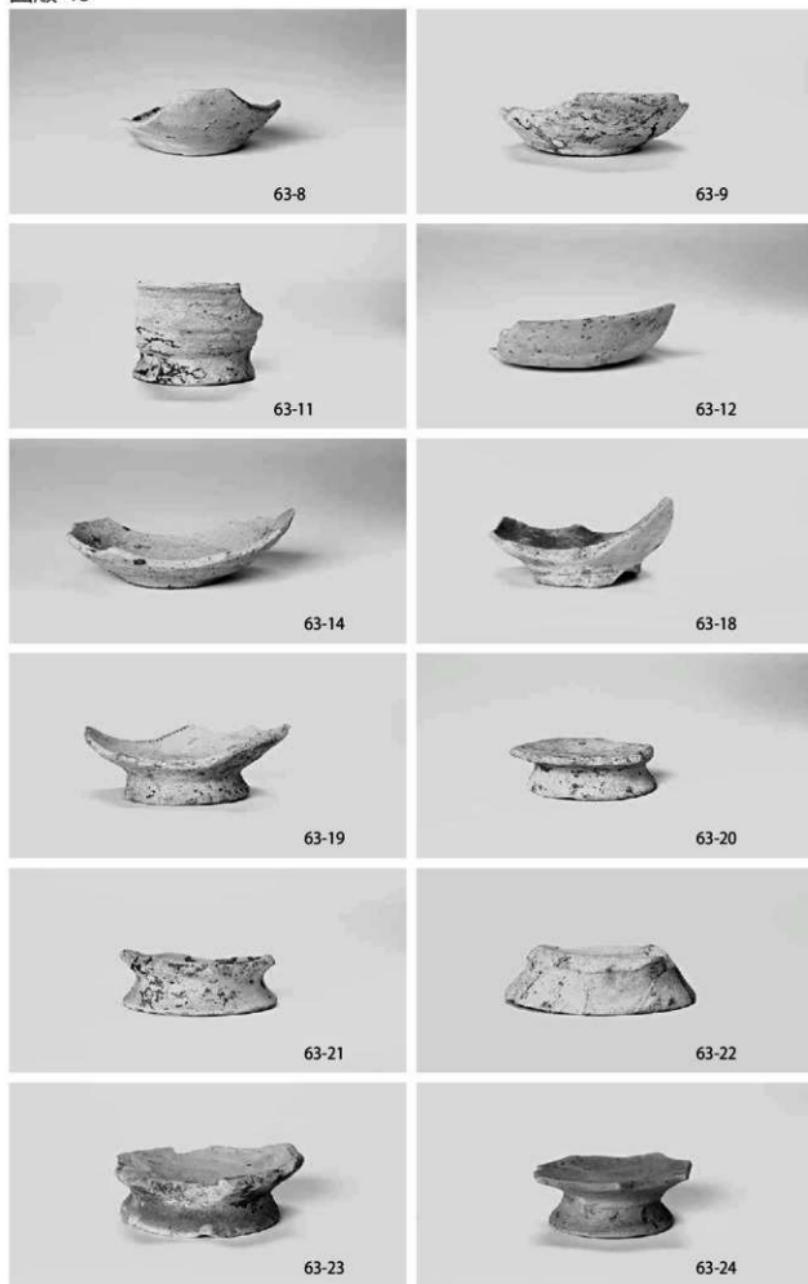


62-47

図版 45



図版 46





図版 48



63-42



63-43



63-44



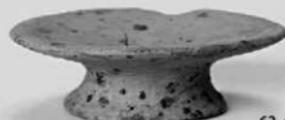
63-45



63-46



63-47



63-48



63-49



63-50



63-51

図版 49



図版 50



75-8



75-9



77-6



77-10



77-11



77-12



77-14



77-16



78-5



78-10

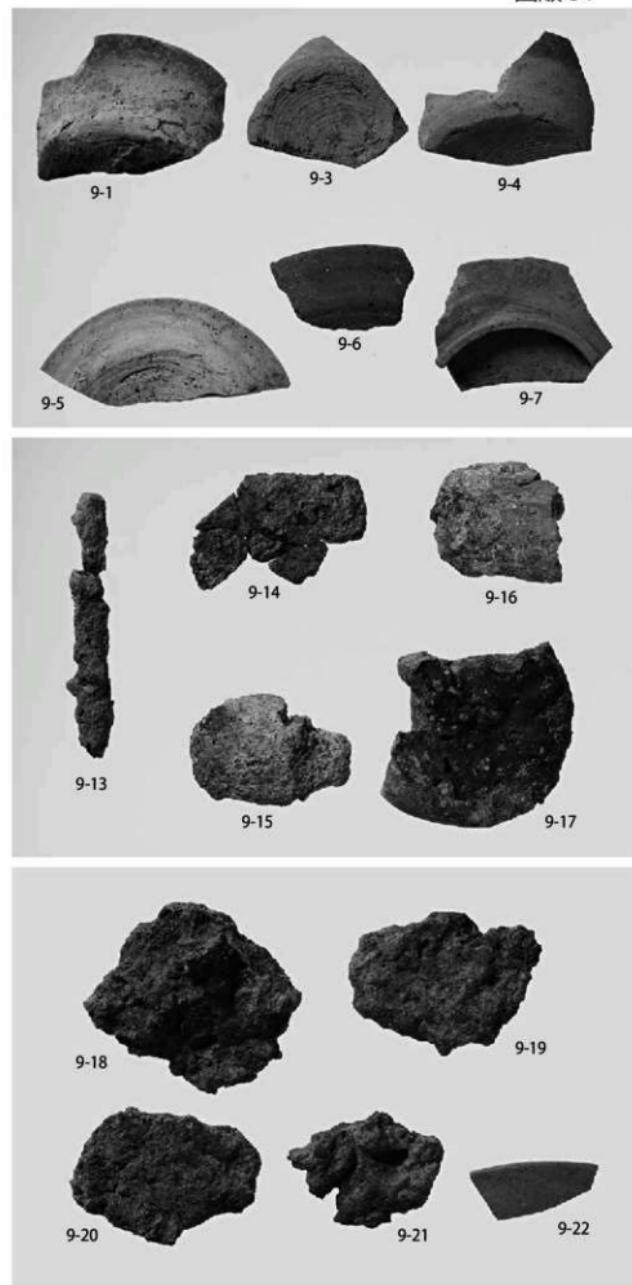


78-7

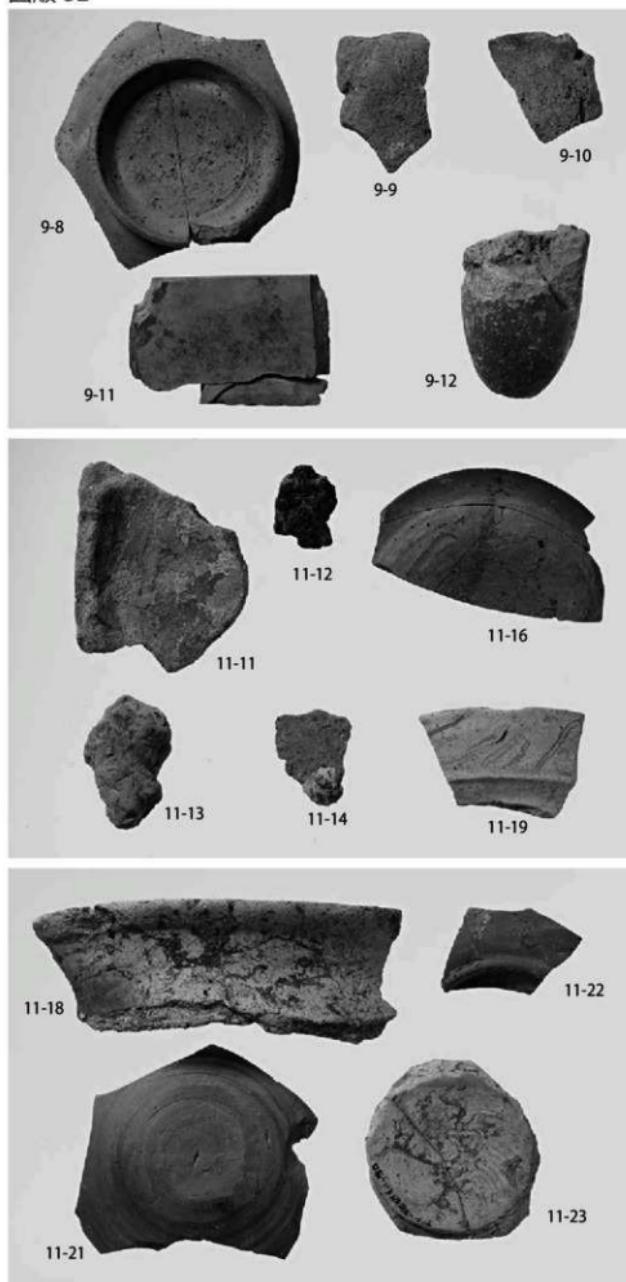


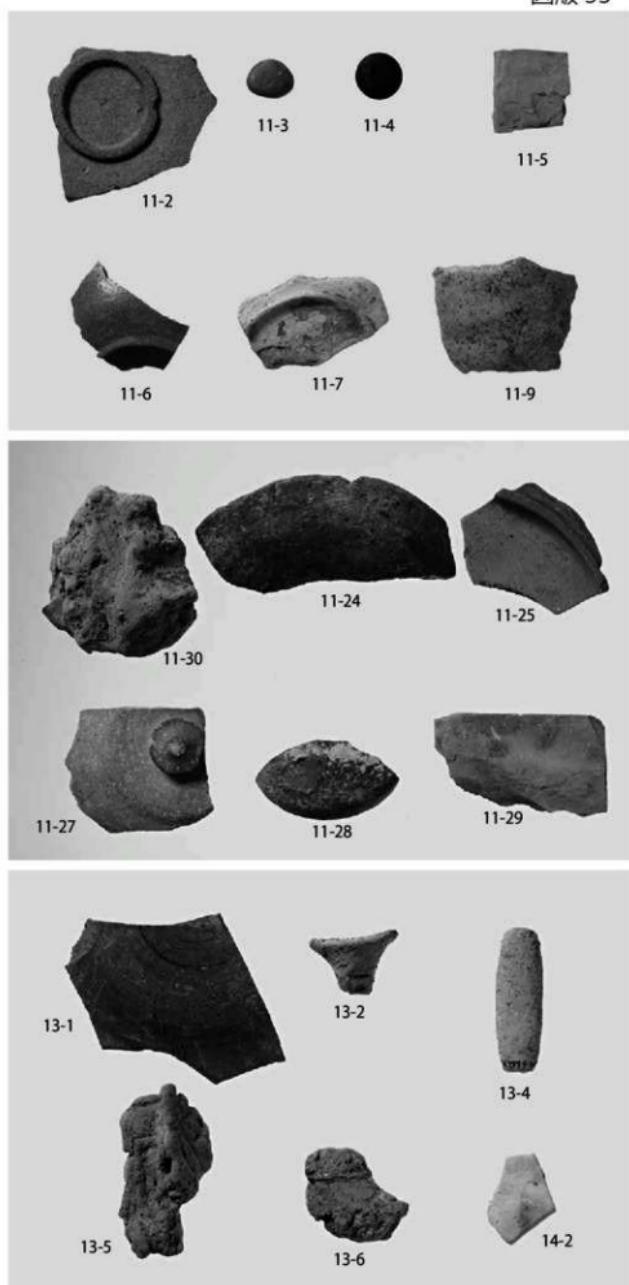
78-8

図版 51

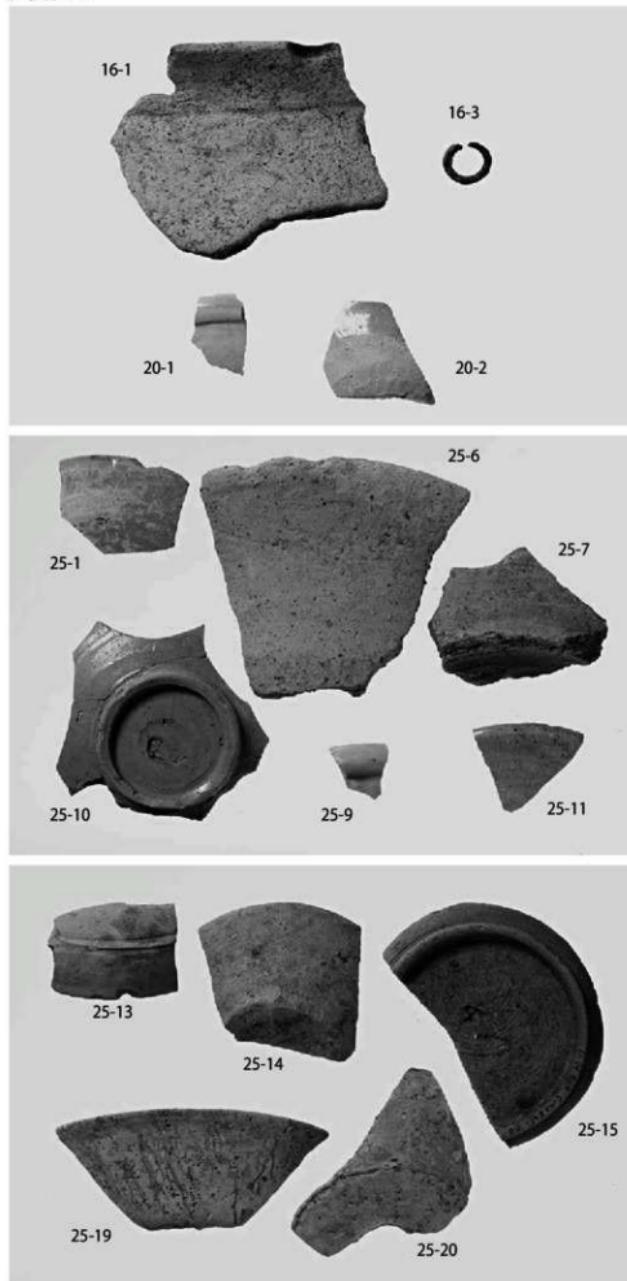


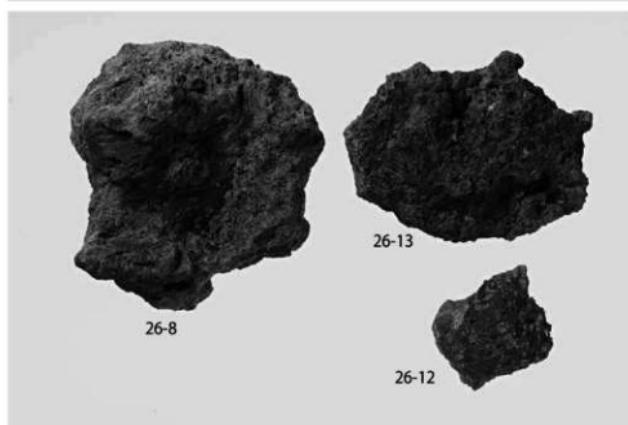
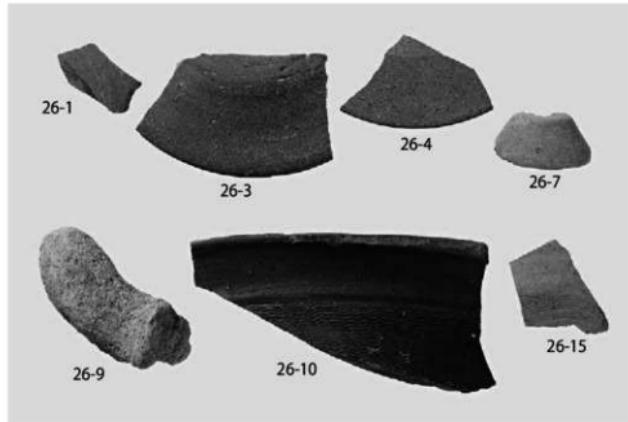
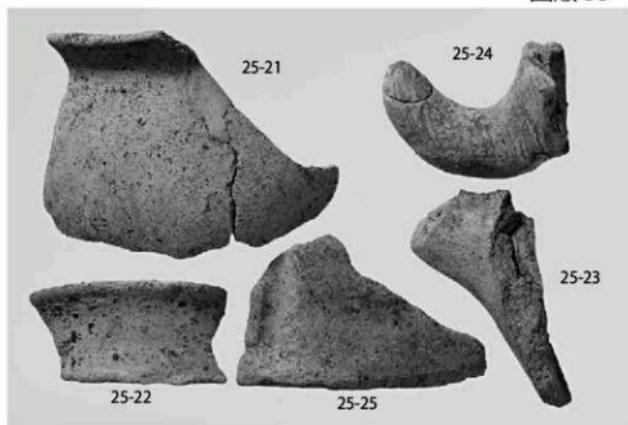
図版 52



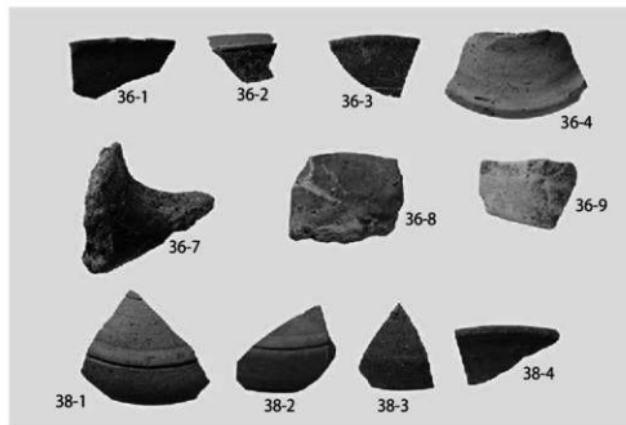
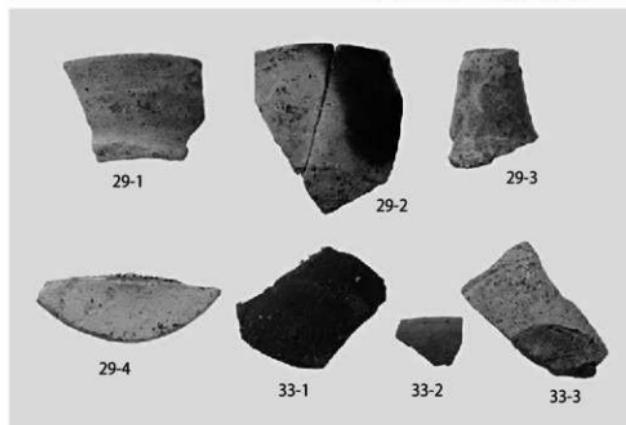
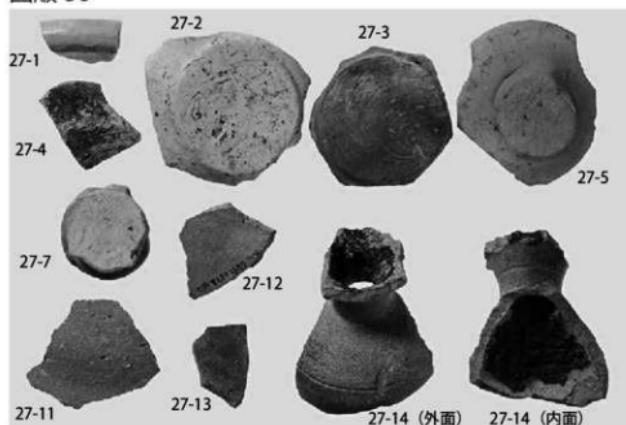


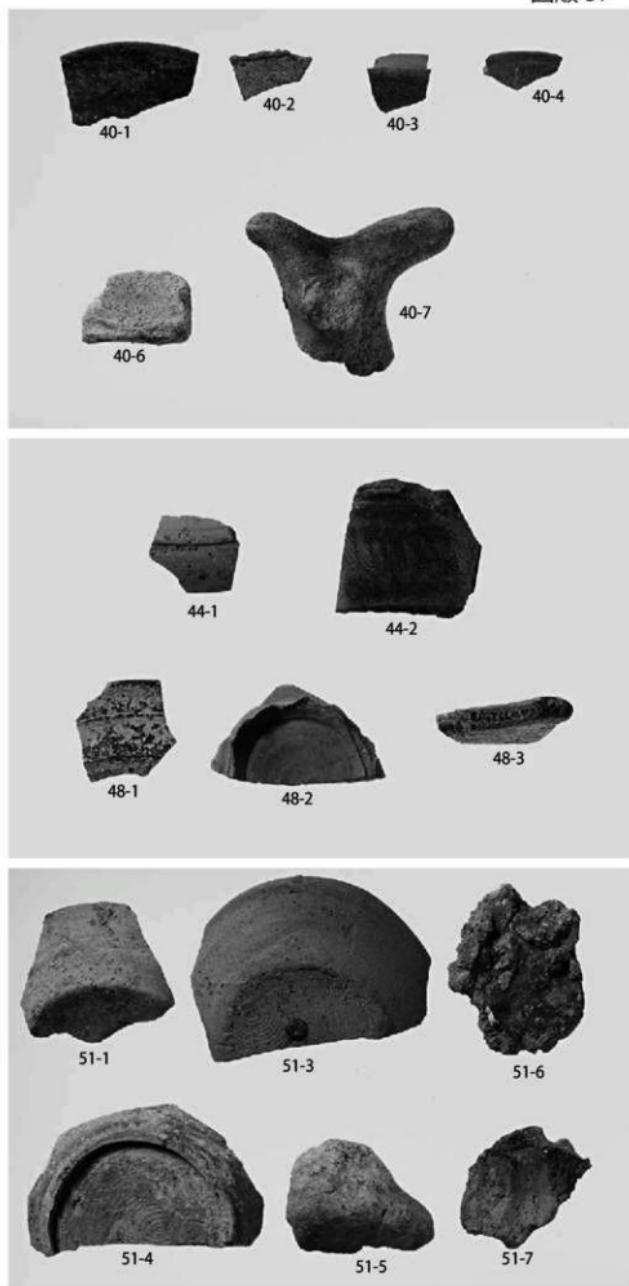
図版 54



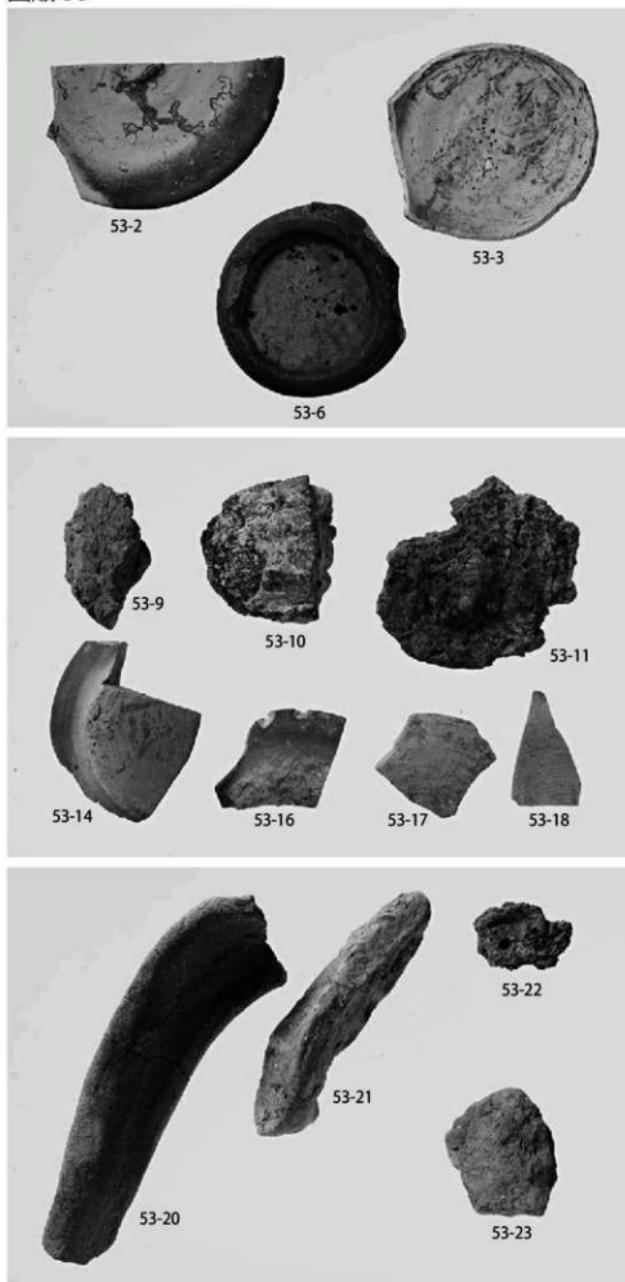


図版 56

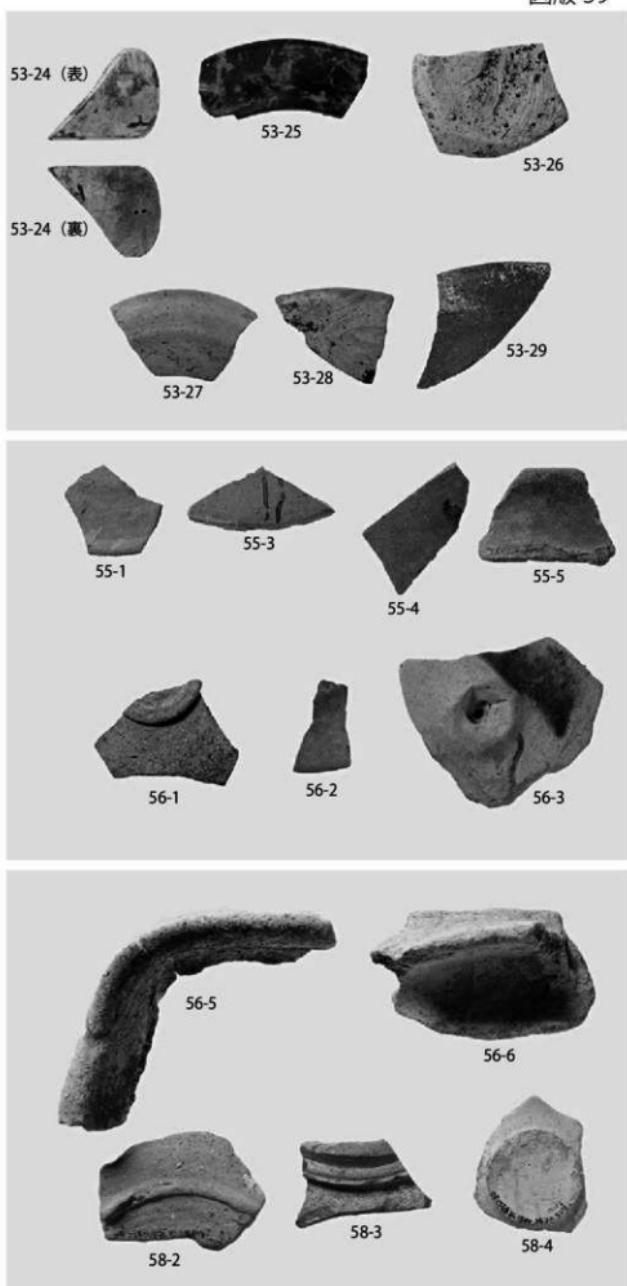




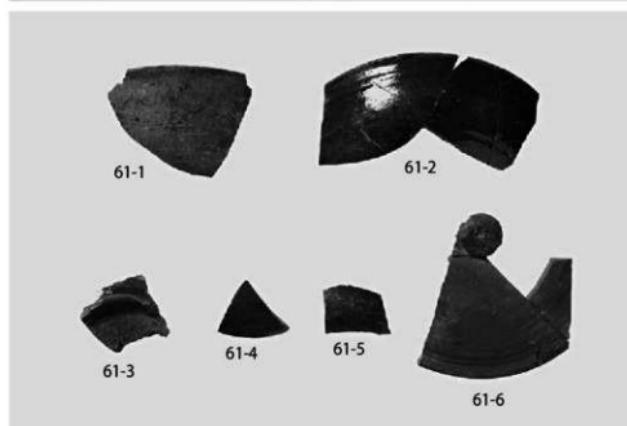
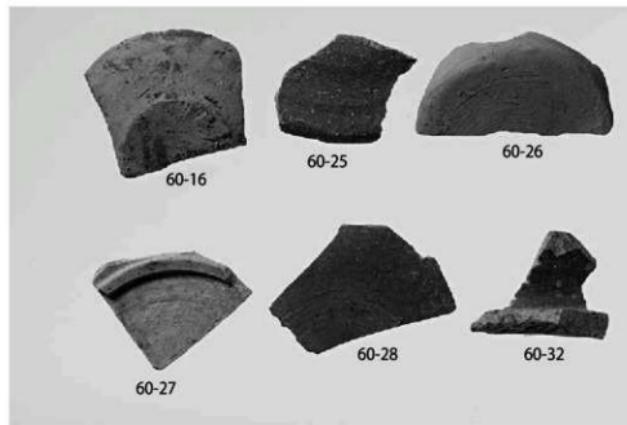
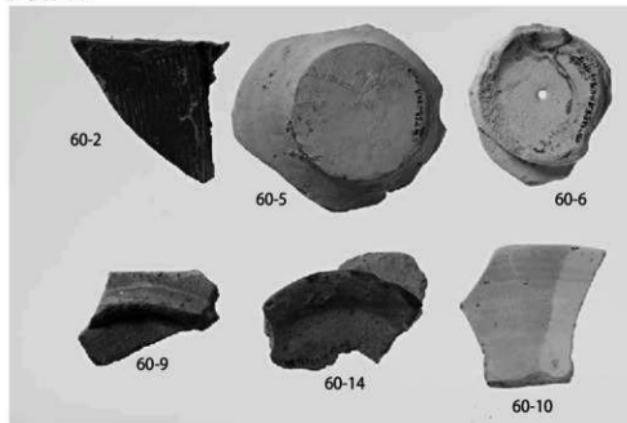
図版 58

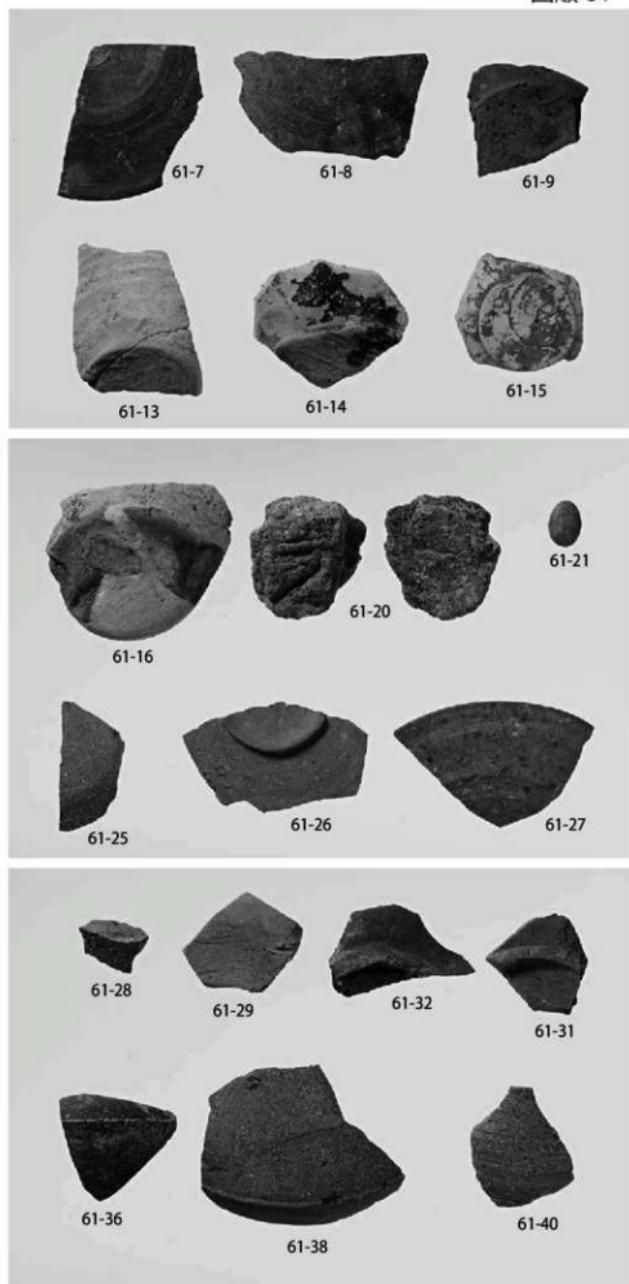


図版 59

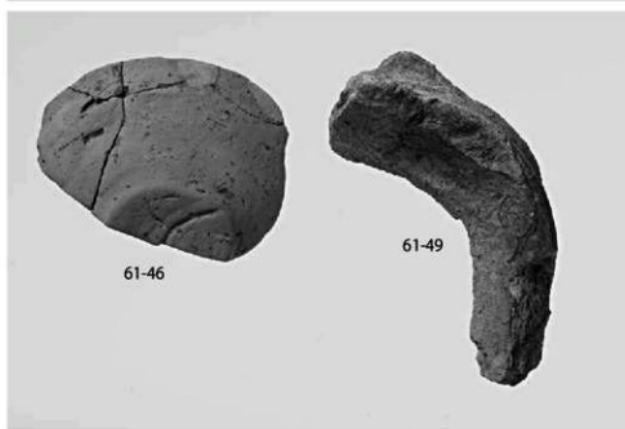
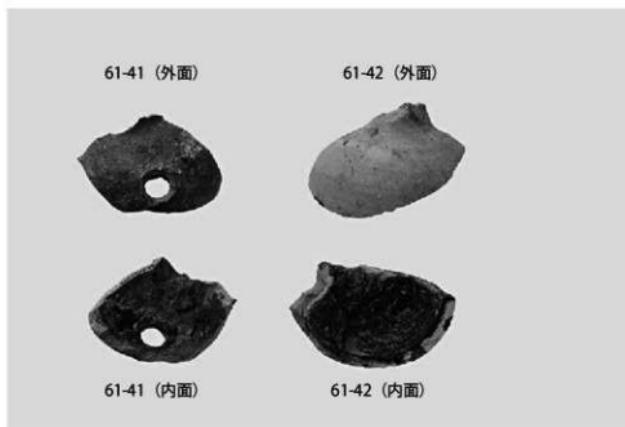
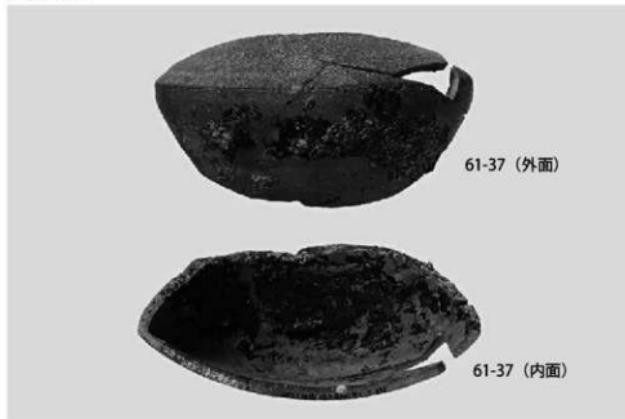


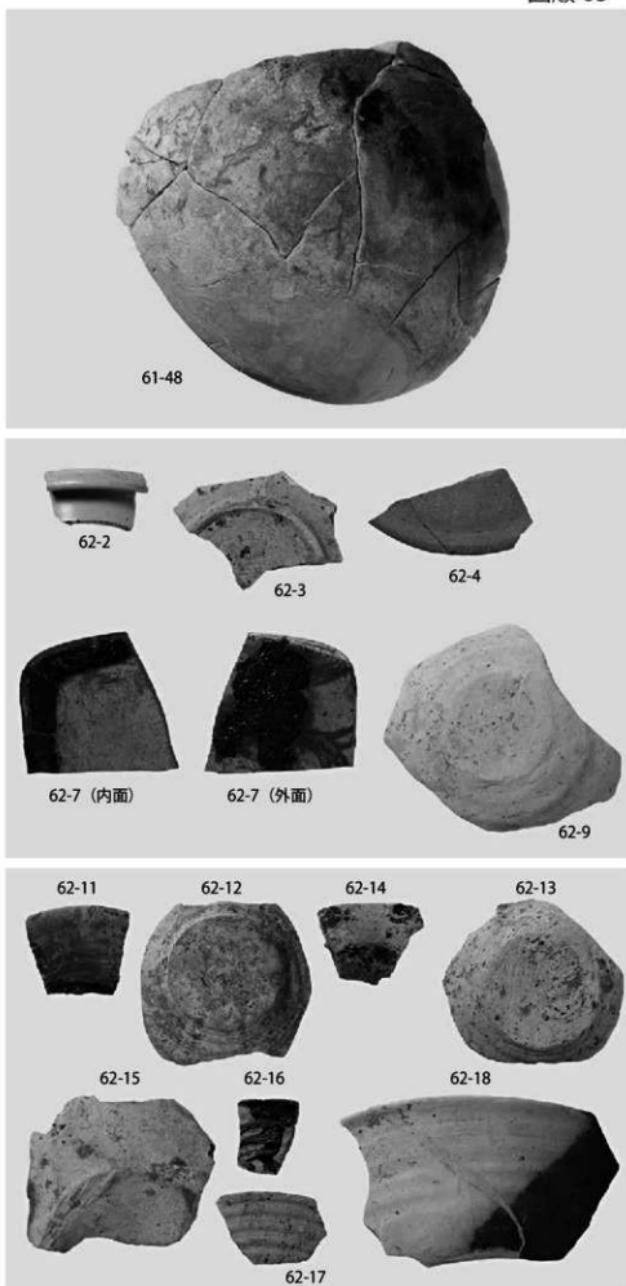
図版 60



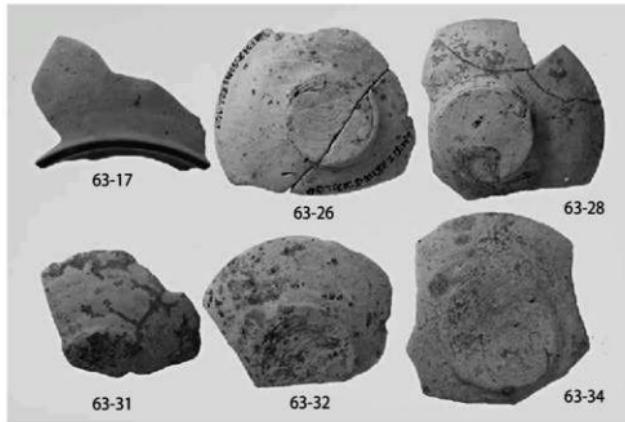
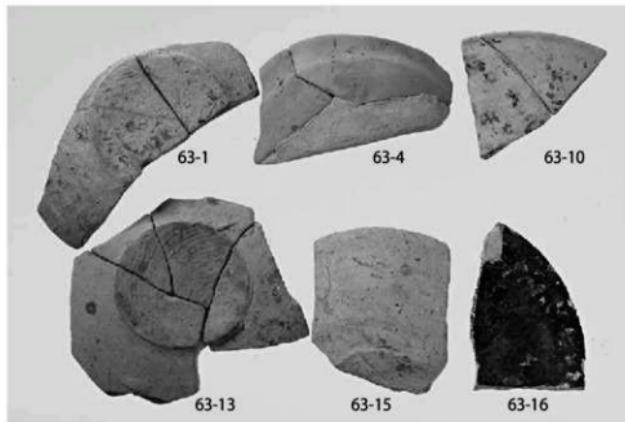
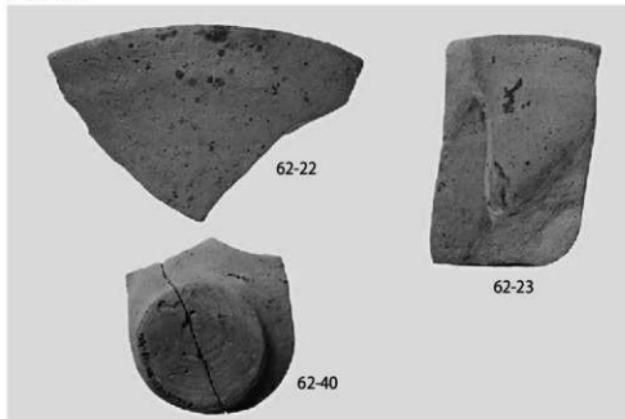


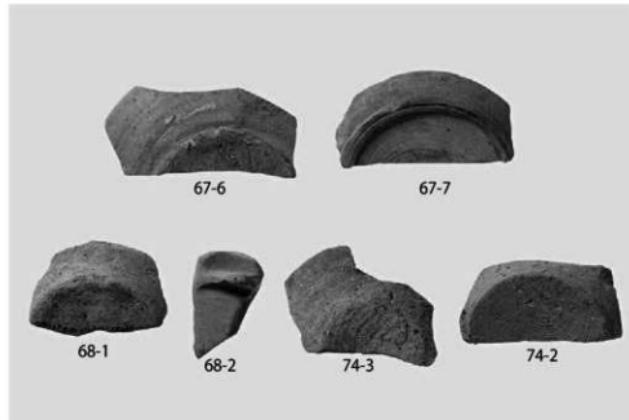
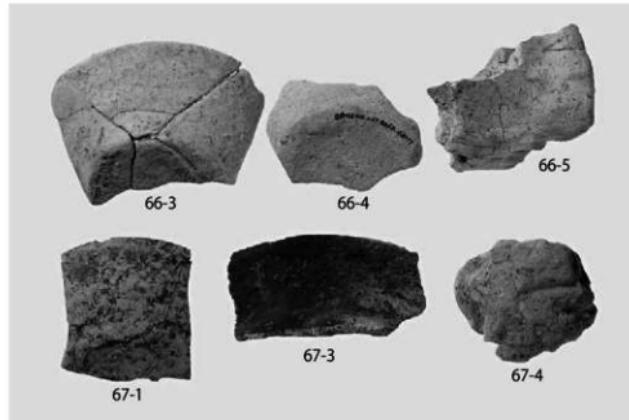
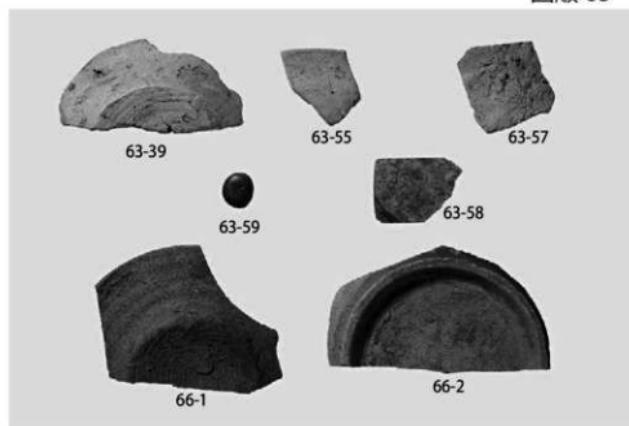
図版 62



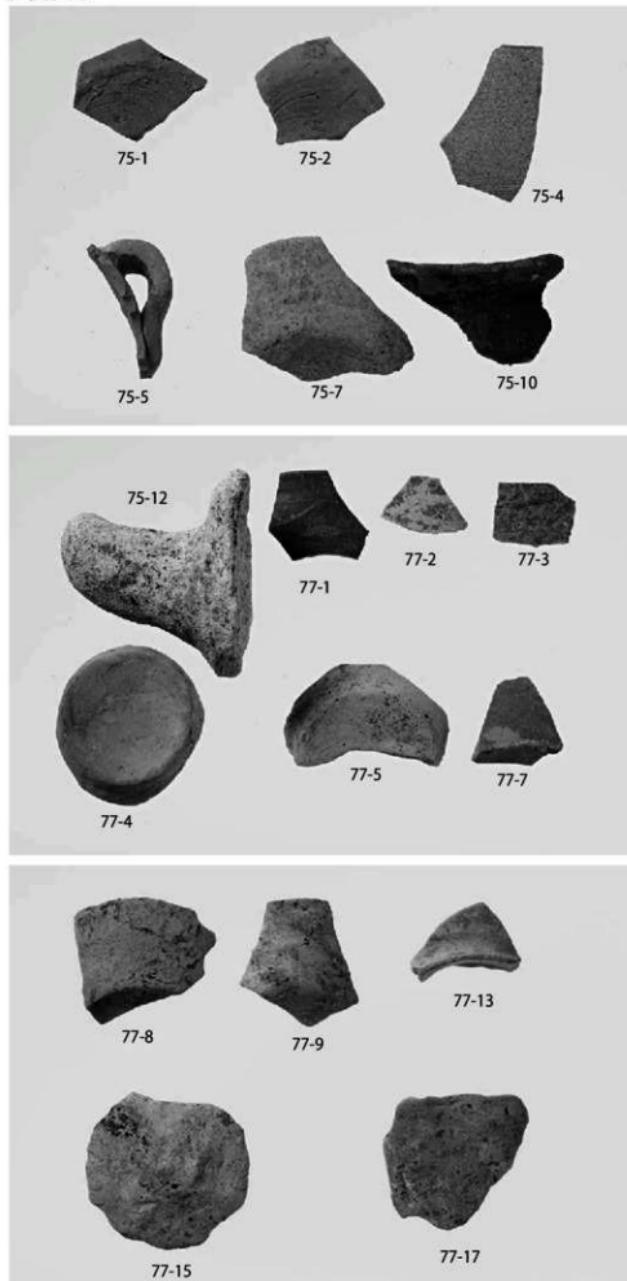


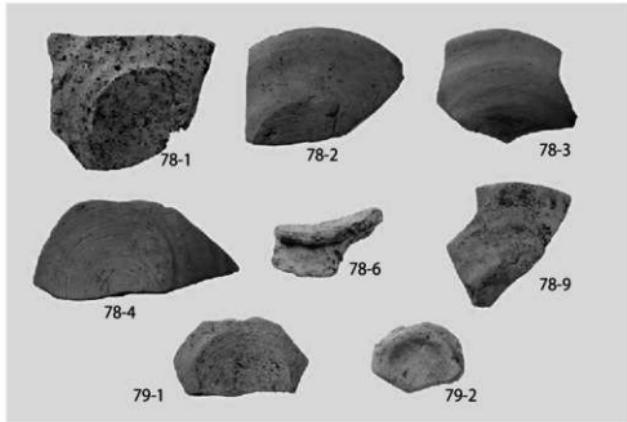
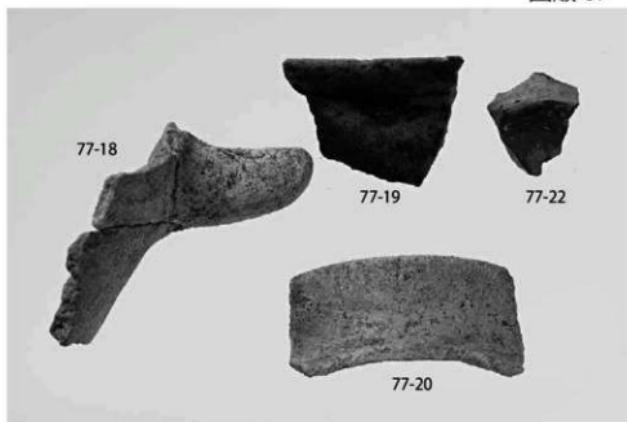
図版 64



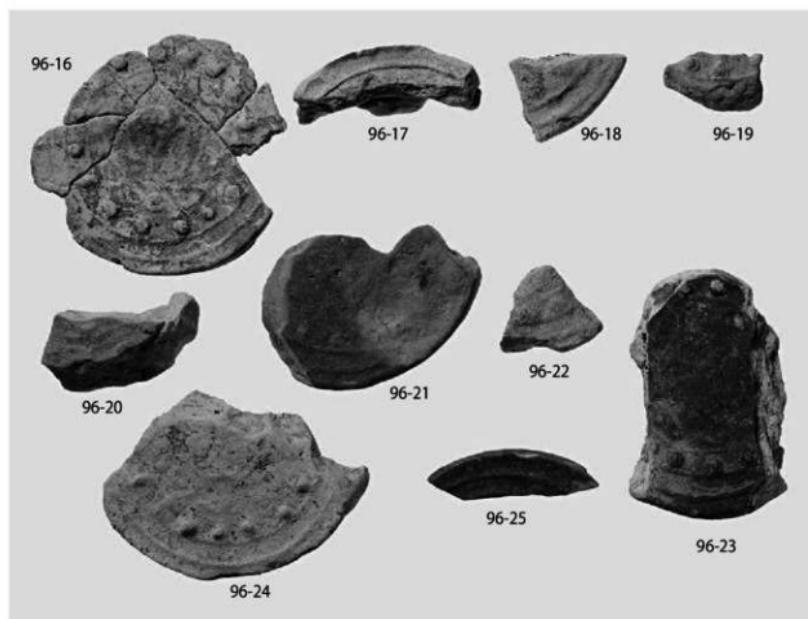
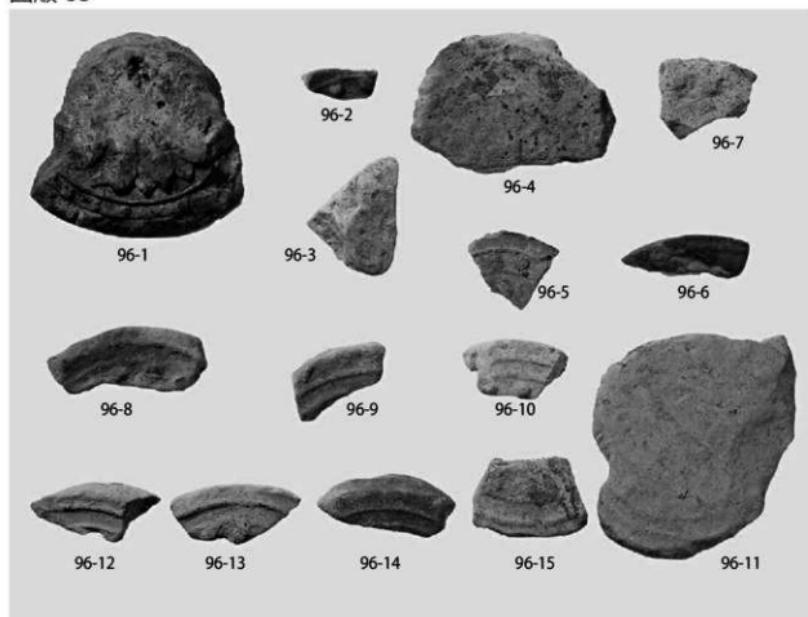


図版 66

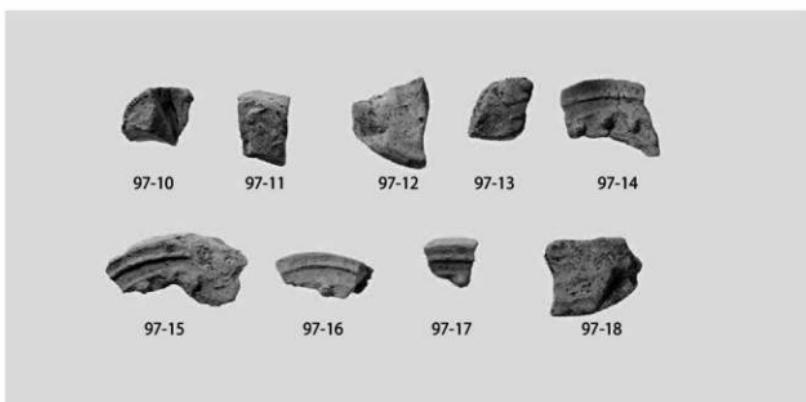
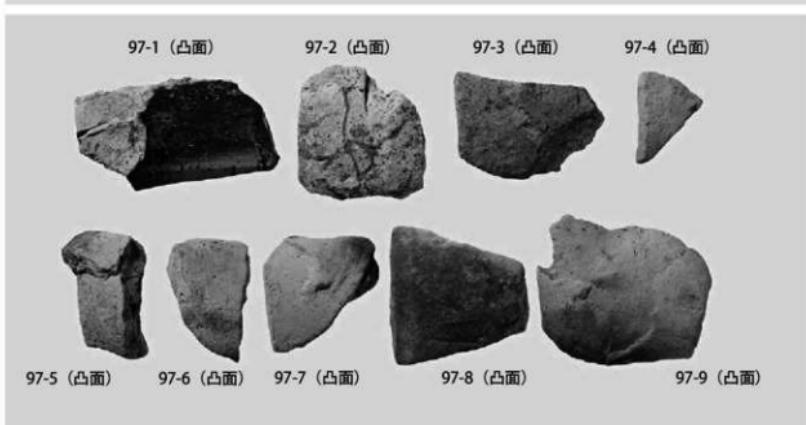
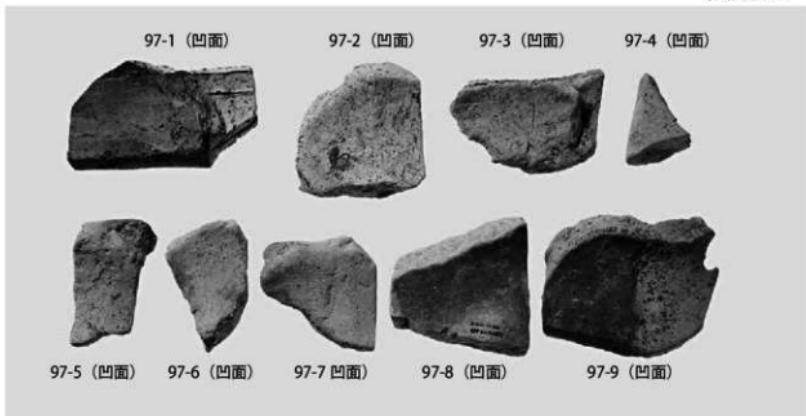




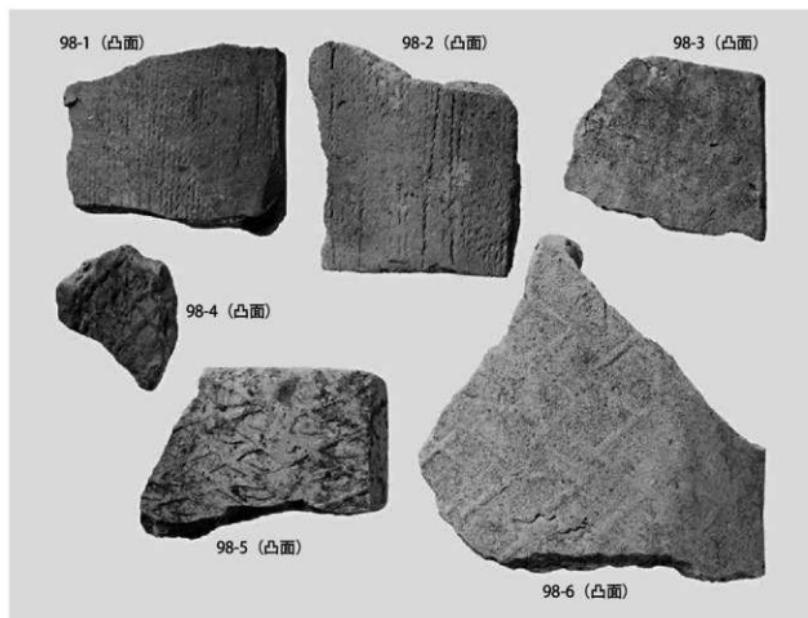
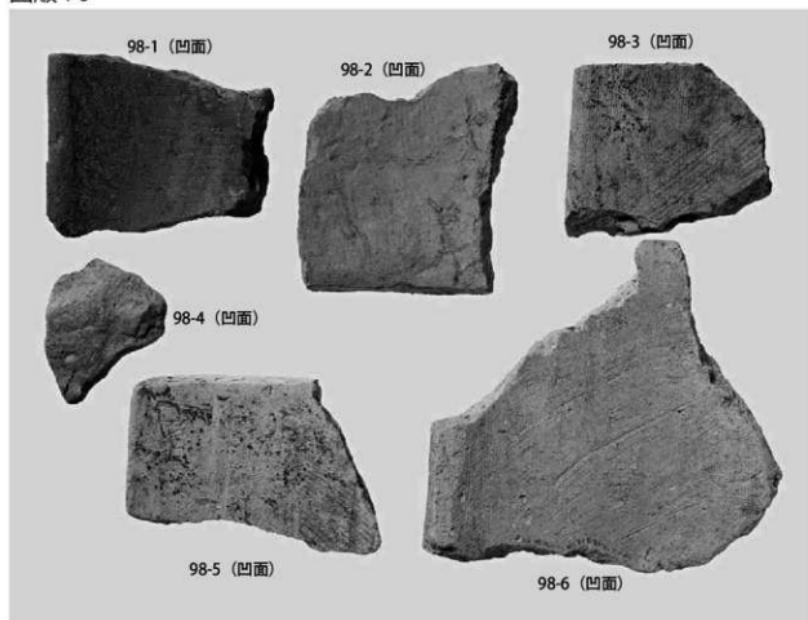
図版 68



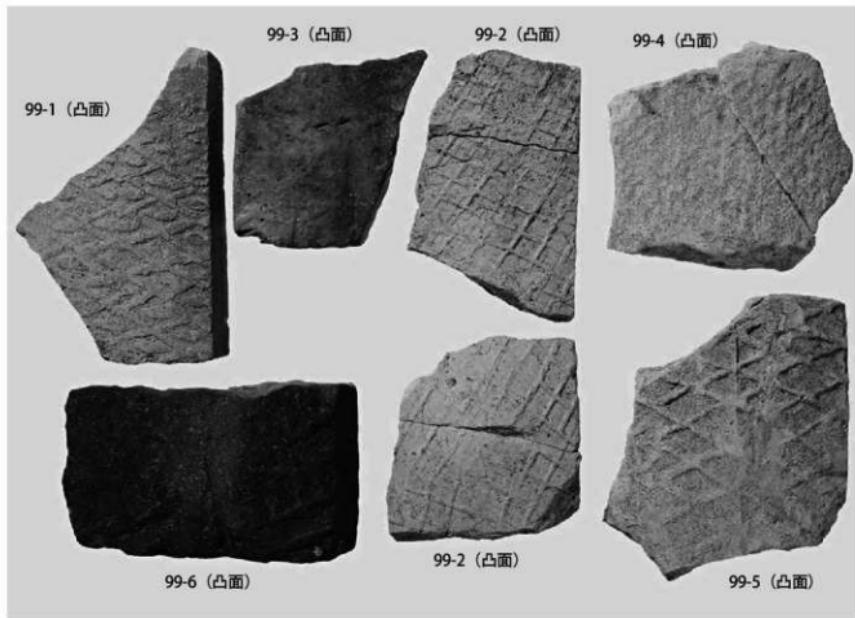
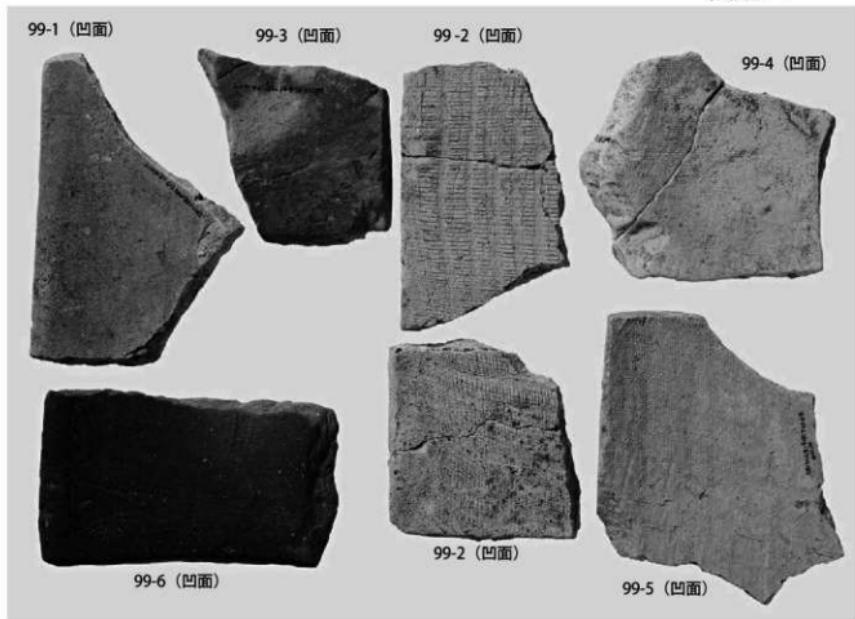
図版 69



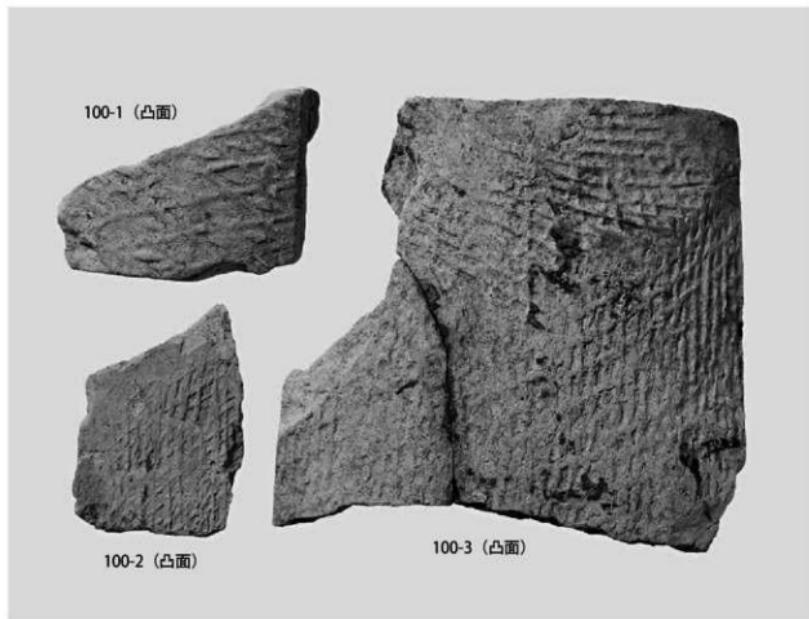
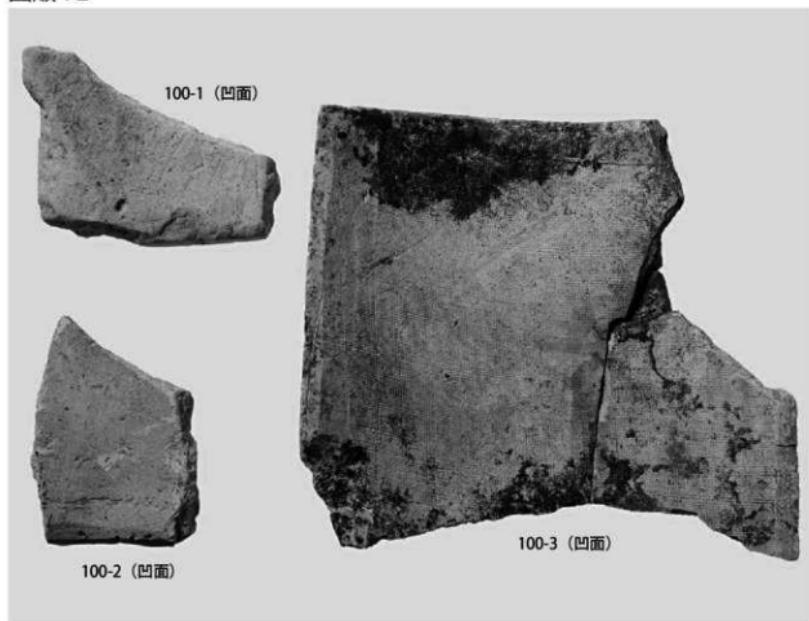
図版 70



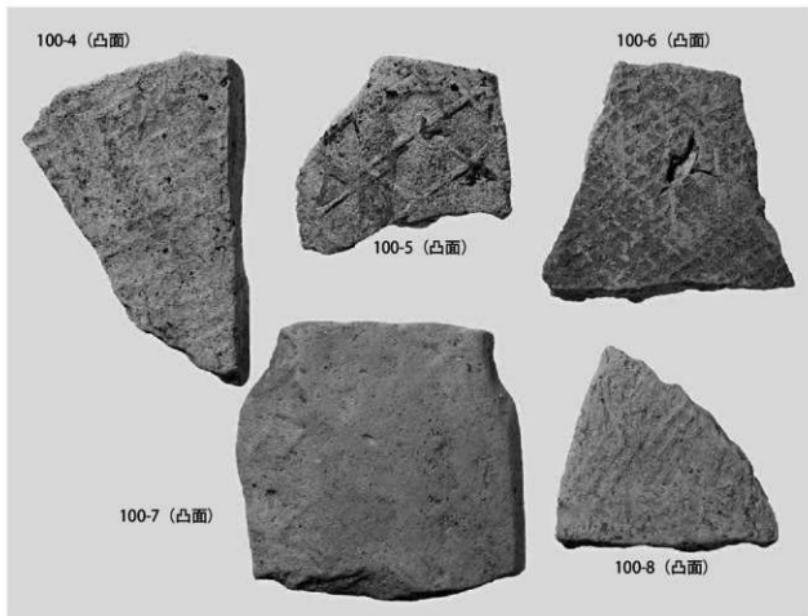
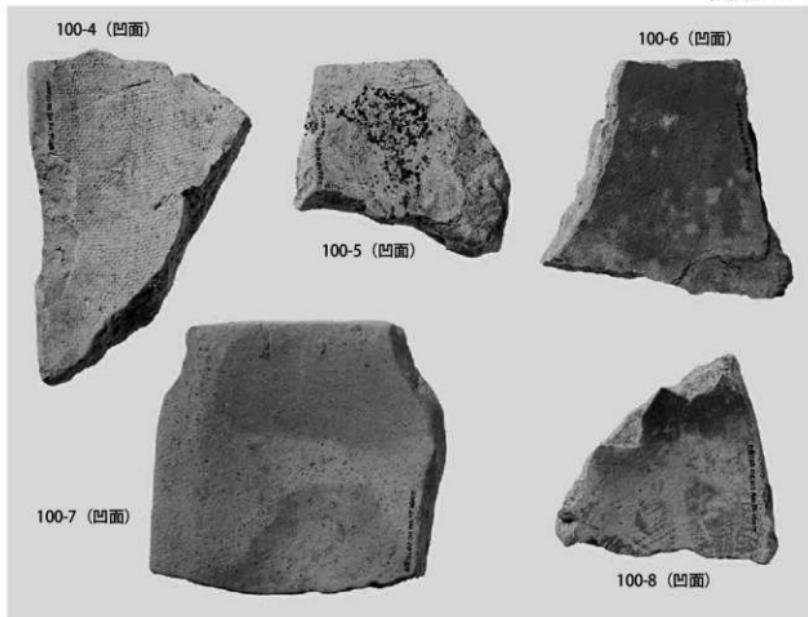
図版 71



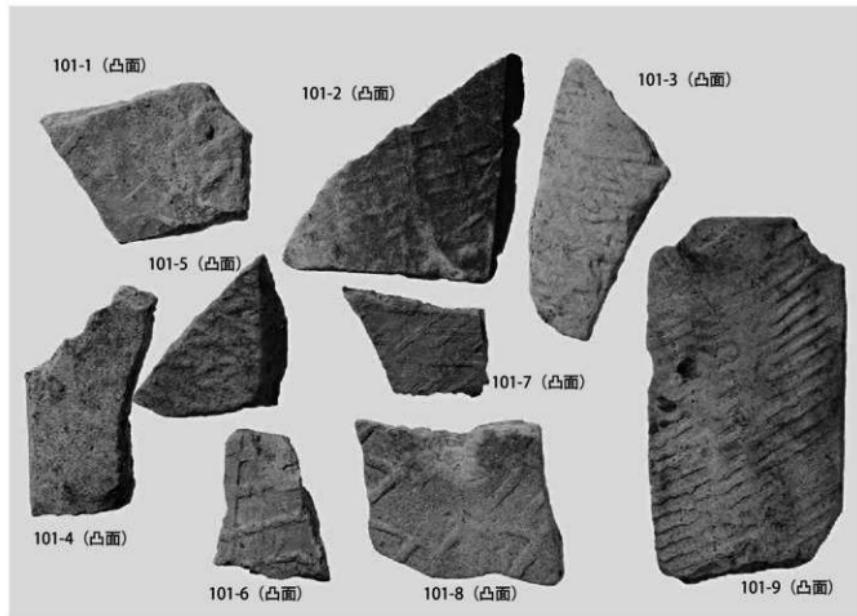
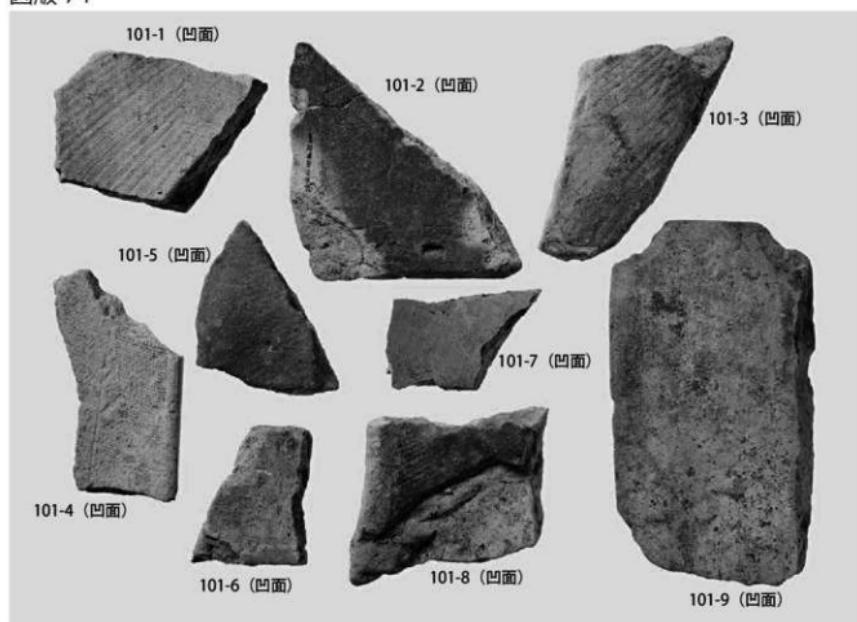
図版 72



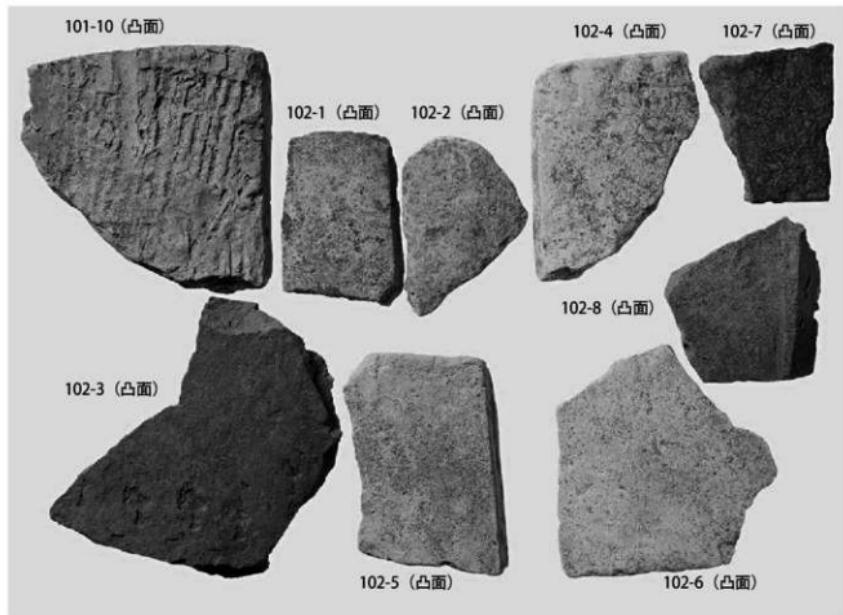
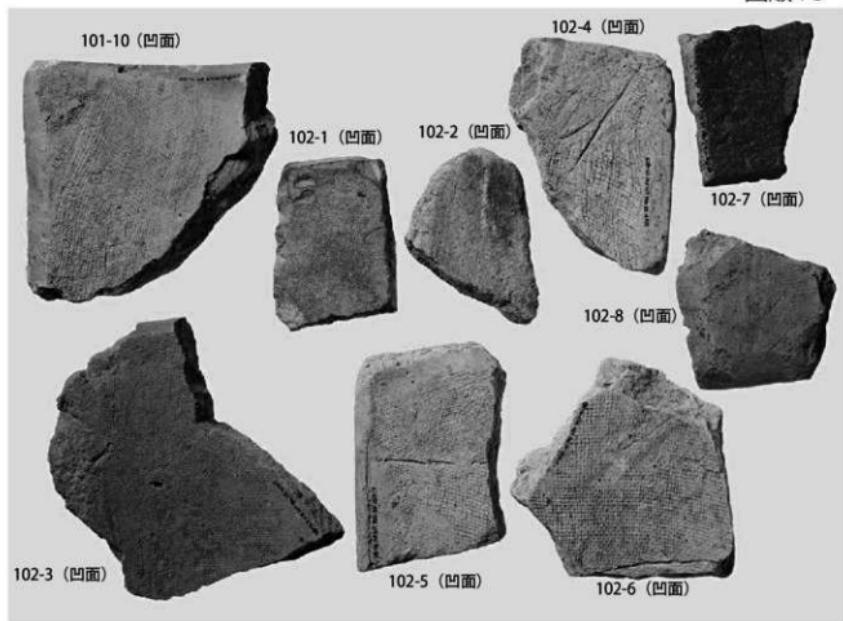
図版 73



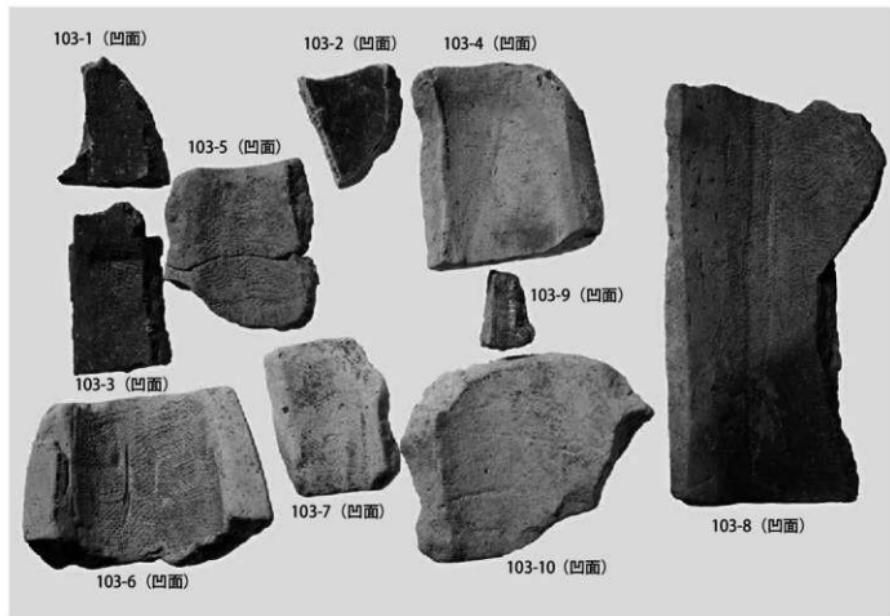
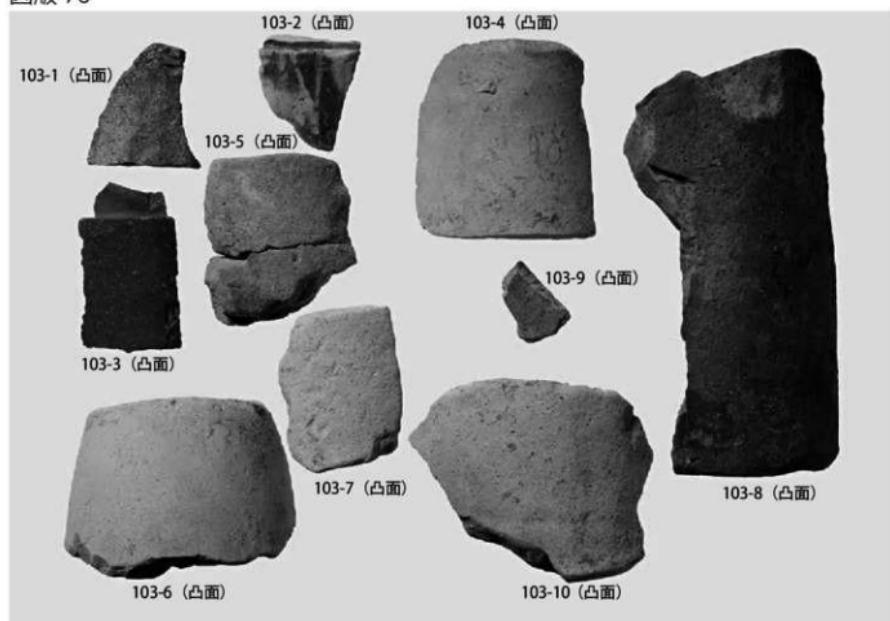
図版 74



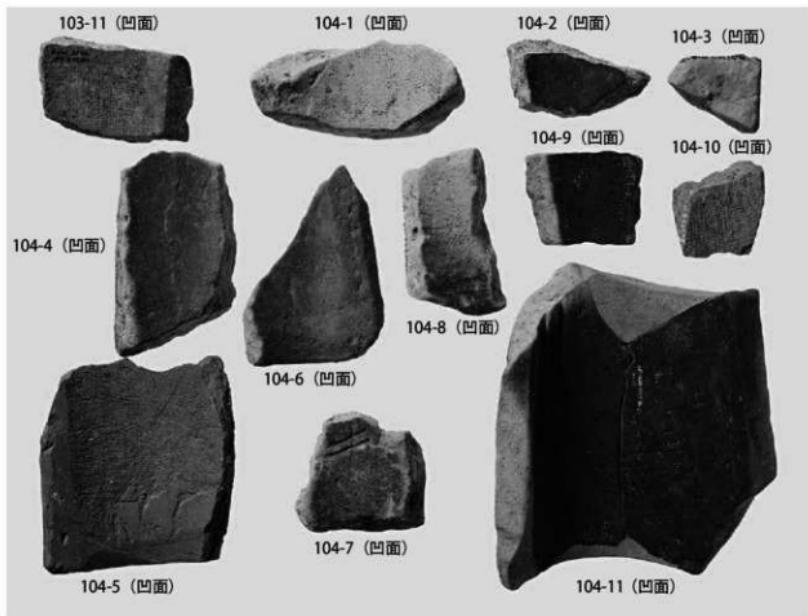
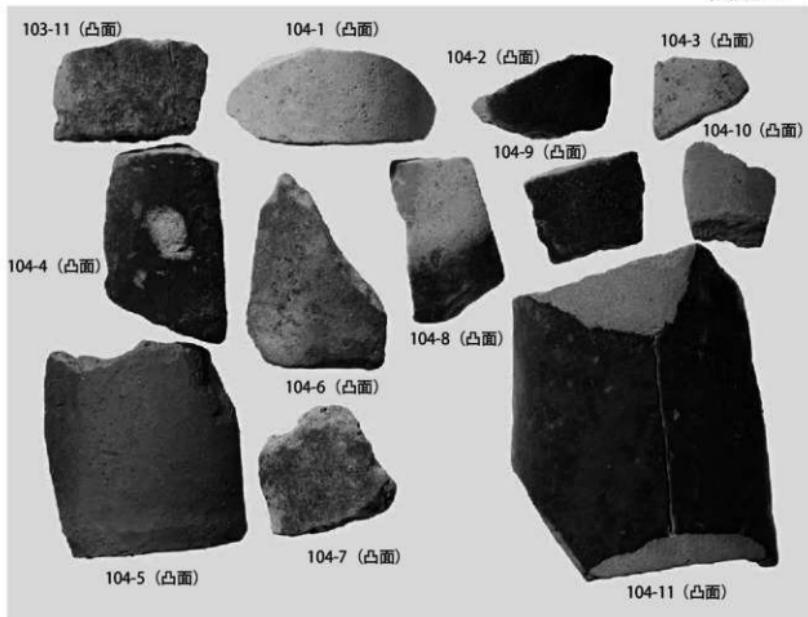
図版 75



図版 76



図版 77



図版 78

105-1 (凸面)



105-2 (凸面)



105-4 (凸面)



105-3 (凸面)



105-1 (凹面)



105-2 (凹面)



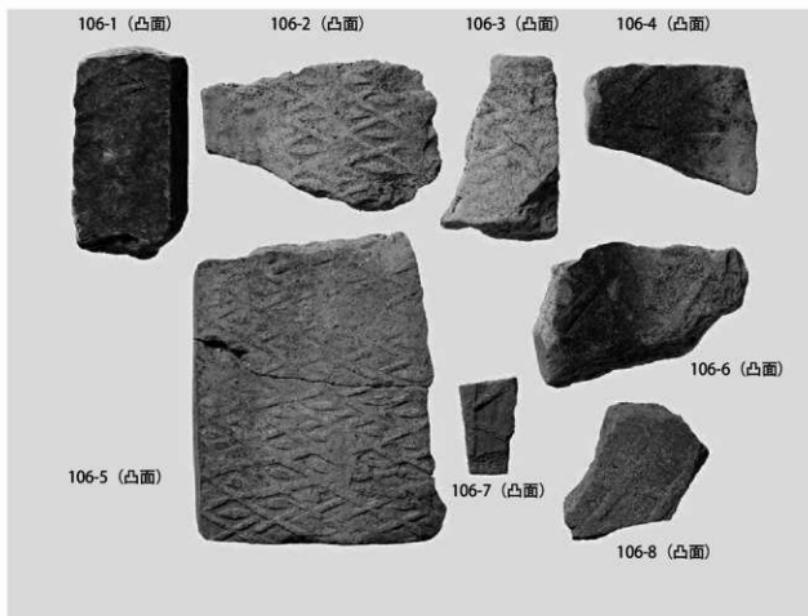
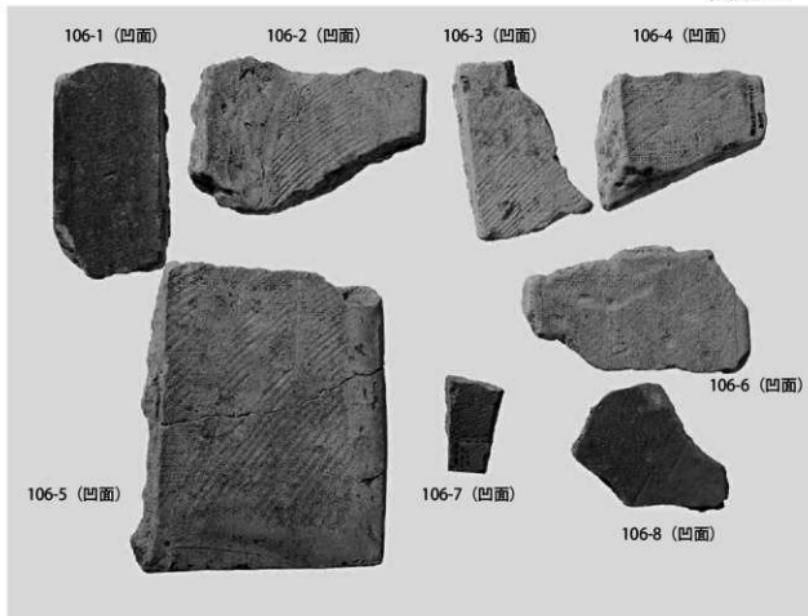
105-4 (凹面)



105-3 (凹面)



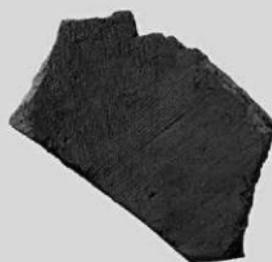
図版 79



図版 80



106-9 (凹面)



106-10 (凹面)



106-9 (凸面)



106-10 (凸面)



107-1 (表面)



107-1 (裏面)

報告書抄録								
シリガナ	セキイズモカフアト							
書名	史跡出雲国府跡 10							
シリーズ名	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	25							
編著者名	是田敦、間野大丞、渡辺正巳							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター <a href="http://www.pref.shimane.jp/maizobunkazai/">http://www.pref.shimane.jp/maizobunkazai/</a>							
所在地	〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地 TEL 0852-36-8608 FAX 0852-36-8025 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp <a href="http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/">http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/</a>							
発行年月日	2019(平成31)年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出雲国府跡	島根県松江市大草町	32201	D285	35° 25' 35"	133° 06' 25"	20150818 ～ 20151216 20160719 ～ 20161222 20170607 ～ 20171204	285m <sup>2</sup> 180m <sup>2</sup> 220m <sup>2</sup>	重要遺跡 内容確認
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
出雲国府跡	官衙跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴建物、掘立柱建物跡、礎石建物跡、溝、池状施設			須恵器、土師器、瓦	政庁周辺で礎石建物跡を初検出	
要約	島根県松江市大草町他に所在する史跡出雲国府跡の発掘調査。本書は2015～2017(平成27～29)年度にかけて実施した発掘調査成果を報告したものである。国府周辺を調査し、国府正殿が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認したほか、正殿より古い建物跡や、正殿と同時期の建物跡を検出し、国府正殿があった当時の周辺の状況と、その後の状況を詳しく検討する資料を得ることができた。また、国府の北側では池状の施設を検出し、国府周辺の土地利用の状況や変遷を検討する上で貴重な資料を得ることができた。							

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 25

## 史跡出雲國府跡

— 10 —

発 行 2019（平成31）年3月  
発行者 島根県教育委員会  
編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター  
〒 690-0131 島根県松江市打出町33番地  
電話 0852-36-8608  
印 刷 武永印刷株式会社